

平成27年度

防災に関する県民意識調査報告書

三重県

目次

第1章	調査の概要	1
1.1	調査目的	1
1.2	調査方法	1
1.3	調査期間	1
1.4	調査票の配布と回収について	1
1.5	集計結果	1
1.6	本報告書における結果数値等の取り扱いについて	2
第2章	調査結果の概要	3
2.1	地震・津波対策について	3
2.1.1	大震災発生後の防災意識の変化	3
2.1.2	夜間の大地震に遭遇した際の避難行動	4
2.1.3	地震被害想定調査結果の認知度	5
2.2	風水害対策について	6
2.2.1	風水害による危険性の認知度	6
2.2.2	局地的な大雨等からの避難	7
2.2.3	台風時等の避難行動	8
2.2.4	「垂直避難」などの避難行動の認知度	9
2.3	防災全般について	10
2.3.1	家庭での防災対策の状況	10
2.3.2	家具固定の不備による危険度	12
2.3.3	防災情報メール配信サービスの認知度	13
2.3.4	避難場所や避難所の認知度	14
2.3.5	避難場所や避難所までの経路についての認知度	15
2.3.6	地域・職場での防災活動への参加経験	16
2.3.7	地域の消防団に期待する活動内容	17
2.3.8	自主防災組織の有無と活動状況	18
2.3.9	学校の防災教育の家庭での認知度	19
2.4	あなたのお住まいの耐震化について	20
2.4.1	耐震化に向けた補助制度の認知度	20
2.4.2	一部分のみの耐震補強工事	21
第3章	調査結果	22
3.1	地震・津波対策について	22
3.1.1	大震災発生後の防災意識の変化	22
3.1.2	夜間の大地震に遭遇した際の避難行動	24
3.1.3	すぐに避難する理由	28
3.1.4	避難を遅らせる理由	29
3.1.5	避難しない理由	30
3.1.6	地震被害想定調査結果の認知度	31
3.1.7	浸水深 30cm到達時間予測図の認知度	32

3.2	風水害対策について	33
3.2.1	防災情報の認知度	33
3.2.2	特別警報の理解度	36
3.2.3	風水害による危険性の認知度	38
3.2.4	風水害の危険性の情報入手先	39
3.2.5	局地的な大雨等からの避難	40
3.2.6	台風時等の避難行動	41
3.2.7	台風時等に避難しない理由	43
3.2.8	「垂直避難などの避難行動」の認知度	45
3.3	防災全般について	47
3.3.1	家庭での防災対策の状況	47
3.3.2	家具固定の不備による危険度	54
3.3.3	家屋からの脱出	57
3.3.4	安全ではないのに家具を固定しない理由	58
3.3.5	防災みえ.jpの認知度	60
3.3.6	防災みえ.jpのどのようなコンテンツを見たことがあるか	61
3.3.7	防災みえ.jpを活用しない理由	62
3.3.8	災害時にインターネットで知りたい情報	63
3.3.9	防災情報メール配信サービスの認知度	65
3.3.10	今後の気象や災害の情報の入手先	67
3.3.11	避難場所や避難所の認知度	73
3.3.12	避難場所や避難所までの経路についての認知度	75
3.3.13	地域・職場での防災活動への参加経験	76
3.3.14	地域の防災活動に参加した内容	80
3.3.15	地域や職場の防災活動に参加したことが役立ったか	83
3.3.16	防災活動に参加しなかった理由	84
3.3.17	今後の地域の防災活動への参加	86
3.3.18	地域・職場で必要と思う防災活動	88
3.3.19	防災活動や防災対策で企業・事業所に期待すること	89
3.3.20	地域の消防団に期待する活動内容	91
3.3.21	自主防災組織の有無と活動状況	93
3.3.22	就学している児童生徒の有無	95
3.3.23	学校の防災教育の家庭での認知度	96
3.3.24	防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの	99
3.3.25	防災に関する啓発活動等の認知度	102
3.3.26	啓発活動は防災意識の向上に役立ったか	104
3.3.27	「公助」による防災・減災の取組	105
3.4	あなたのお住まいの耐震化について	108
3.4.1	住まいの状況	108
3.4.2	耐震化に向けた補助制度の認知度	109

3.4.3	耐震診断の受診の有無と診断結果	111
3.4.4	耐震診断を受けない理由	113
3.4.5	補強工事を行ったか	114
3.4.6	耐震補強工事の補助制度を利用したか	115
3.4.7	どのような補強工事を行ったか	116
3.4.8	耐震補強を行った時の工事費	117
3.4.9	耐震補強をしない理由	118
3.4.10	耐震補強工事費の許容自己負担額（要補強工事）	120
3.4.11	一部分のみの耐震補強工事	121
3.4.12	耐震補強工事費の許容自己負担額（一部分のみ）	122
3.4.13	住まいの耐震化を進める取組	123
3.5	アンケート調査回答者の属性	124
3.5.1	性別	124
3.5.2	年齢	124
3.5.3	住所	125
3.5.4	家族人員	126
資	料	128
	○津波危険地域一覧	129
	○使用した調査票	132

第1章 調査の概要

1.1 調査目的

三重県では、今世紀前半の発生が懸念される南海トラフ地震や例年、各地で大きな被害をもたらす台風、さらには、「これまでに経験のない」と前置きされるような局地的大雨や竜巻など、深刻化する様々な自然災害に対する“備え”を重点的に進めているところです。

このような、今後も起こりうる大規模な災害による被害を最小限に抑えるためには、県民、自主防災組織、消防団、事業者、行政の各主体が各々の「自助」・「共助」・「公助」の責務と役割を理解し、互いに連携して“災害に備える”ために「防災の日常化」を目指すことが大切です。

そのためには、未曾有の大災害となった「東日本大震災」を始めとする地震・津波や近年、全国各地で多発している風水害等を踏まえた防災対策の現状を把握し、今後の防災対策に活かすべきこと、学ぶべきことを検証する必要があることから、県民のみなさまの協力を得て、今年度も本調査を実施しました。

今年度は、増加傾向にある局地的大雨などへの対策として、いわゆる「垂直避難」などの避難行動が注目されていることから、風水害等の避難行動に関する設問について、また、平成 29 年度からの運用を目指す「三重県防災情報プラットフォーム」の構築へ活かすため、防災情報の発信に関する設問について、追加及び変更を行いました。

本調査で明らかになった様々な課題については、今後の三重県の防災対策の検討に活かしていきます。

1.2 調査方法

郵送によるアンケート調査

調査対象は、各市町の選挙人名簿から等間隔無作為抽出法により、5,000 人を抽出
なお、各市町の対象者数は市町別推計人口の比率を参考に割り当てています。

1.3 調査期間

平成 27 年 10 月 9 日から平成 27 年 10 月 23 日

1.4 調査票の配布と回収について

調査票の配布数と回収数は以下の通りです。

	配布数	回収数	有効回収率
一般地域	3,366	2,035	60.5%
津波危険地域	1,634	979	59.9%
合計（全県分）	5,000	3,014	60.3%

注 有効回答率は、回収した調査票の中から白紙回答を無効として算出しています。

1.5 集計結果

調査結果の集計は、全県分と一般地域分、津波危険地域分（伊勢市以北、鳥羽市以南）の 4 通りについて行っています。（一部の設問を除く）

なお、過去の調査における同じ設問または同趣旨の設問については、全県（一部設問では地域別）の経年変化を可能な範囲で掲示しています。

また、その他属性等による集計や設問間のクロス集計も行っています。

1.6 本報告書における結果数値等の取り扱いについて

- (1) アンケートの回答には、単数回答（1つだけ選択する回答）と複数回答（該当するもの全てを選択する回答）があり、複数回答の場合は、その質問項目に関して、最初に提示する全体結果を示す図表に「(複数回答)」と表記しています。
- (2) 調査結果の数値は、回答数をもとに、原則、パーセント（%）値で表記しています。（% 値の母数は、その質問項目の該当標本数（有効回答数））
- (3) %値は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記しています。
したがって、合計が必ずしも 100%とにならない場合（99.9%または 100.1%など）があります。
同様に、複数の選択肢をあわせた場合や小計などでは、内訳の%値を単純加算した数値とは異なる場合があります。
また、第 2 章調査結果の概要での約〇割は、1 割より小さい端数を四捨五入した値で表しています。
- (4) 図中の「n」は、単数回答（1つだけ選択する回答）では有効回答数、複数回答（該当するもの全てを選択する回答）では回答者数を表しています。
図中の「N」は、複数回答（該当するもの全てを選択する回答）の総回答数を表しています。
- (5) 全県と地域別等の表中では、地域別等の無回答者数は地域別等の集計から除外するため、地域別等の合計と全県の数字が合わない場合があります。
全県回答数と地域別等回答数の合計値との差が、地域別等の設問について、回答をいただけなかった方の数となります。

第2章 調査結果の概要

調査結果の詳細は、第3章のとおりですが、この章では特に注目した調査結果を抽出し、その主な概要と特徴を記載しています。

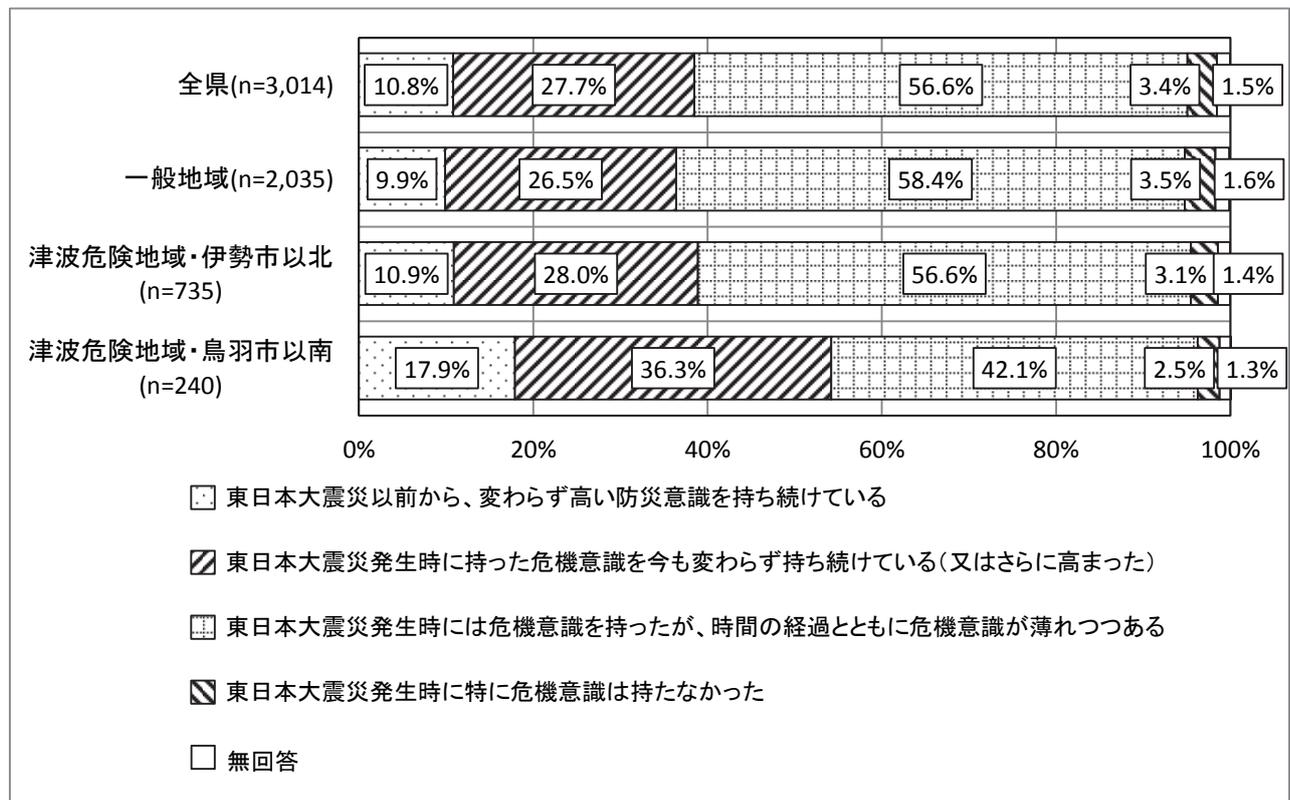
2.1 地震・津波対策について

2.1.1 大震災発生後の防災意識の変化

東日本大震災の発生から4年半あまりが経過しました。発生時と比べてあなたの防災意識に変化はありますか。(一つだけ○) ※問1

1. 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている
2. 東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている(又はさらに高まった)
3. 東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 東日本大震災発生時に特に危機意識は持たなかった

図 2.1.1 大震災発生後の防災意識の変化 -全県及び地域別-



- 大震災発生後の防災意識の変化について、「東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」が全ての地域で最も多くなっており、全県では56.6%となっています。
- 津波危険地域（鳥羽市以南）においては、「防災意識・危機意識を持ち続けている」が54.2%と過半数を超えていますが、一般地域および津波危険地域（伊勢市以北）では4割を下回っています。
- 東日本大震災発生後に芽生えた危機意識の低下に歯止めがかからず、昨年度に引き続き厳しい結果となりました。防災・減災対策の根幹となる「自助」、「共助」の取組を継続・推進させるためにも、粘り強く危機意識を風化させない対策を講じ続けることが大切です。

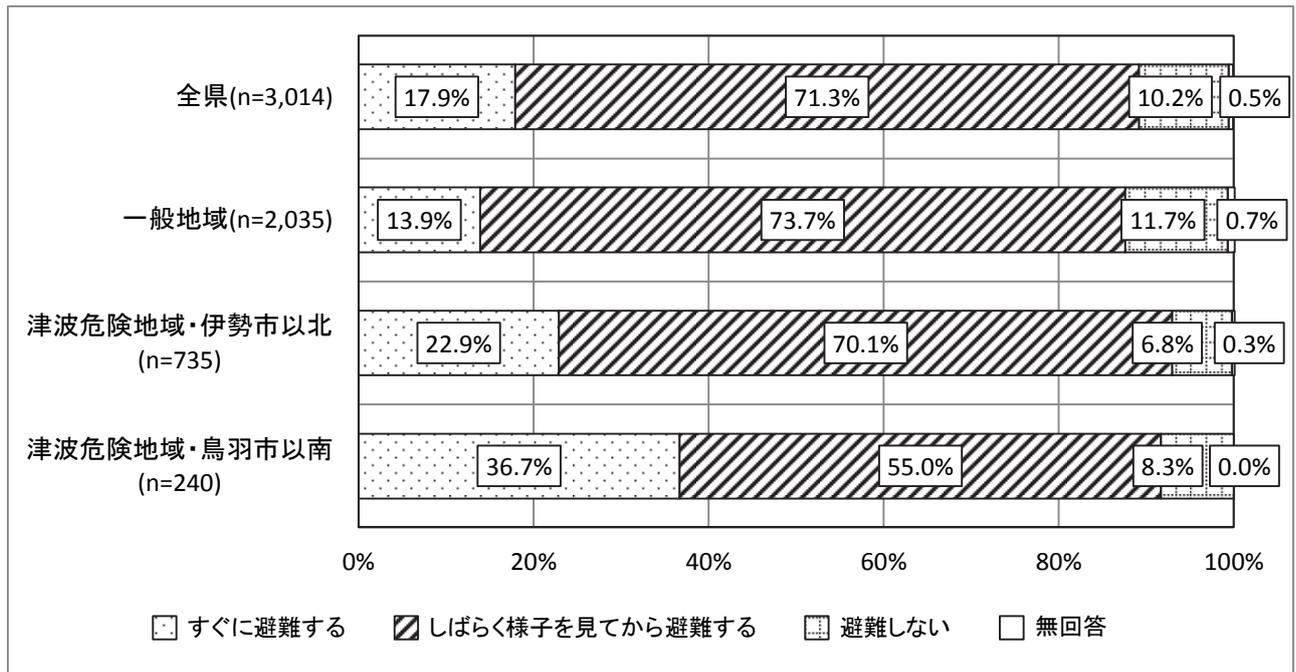
2.1.2 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動

夜遅くあなたがご自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上続き、停電もしています。揺れが収まった後、あなたは避難しますか。

(一つだけ○) ※問2

- | | |
|--------------------|--------|
| 1. すぐに避難する | →問2-1へ |
| 2. しばらく様子を見てから避難する | →問2-2へ |
| 3. 避難しない | →問2-3へ |

図 2.1.2 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動 -全県及び地域別-



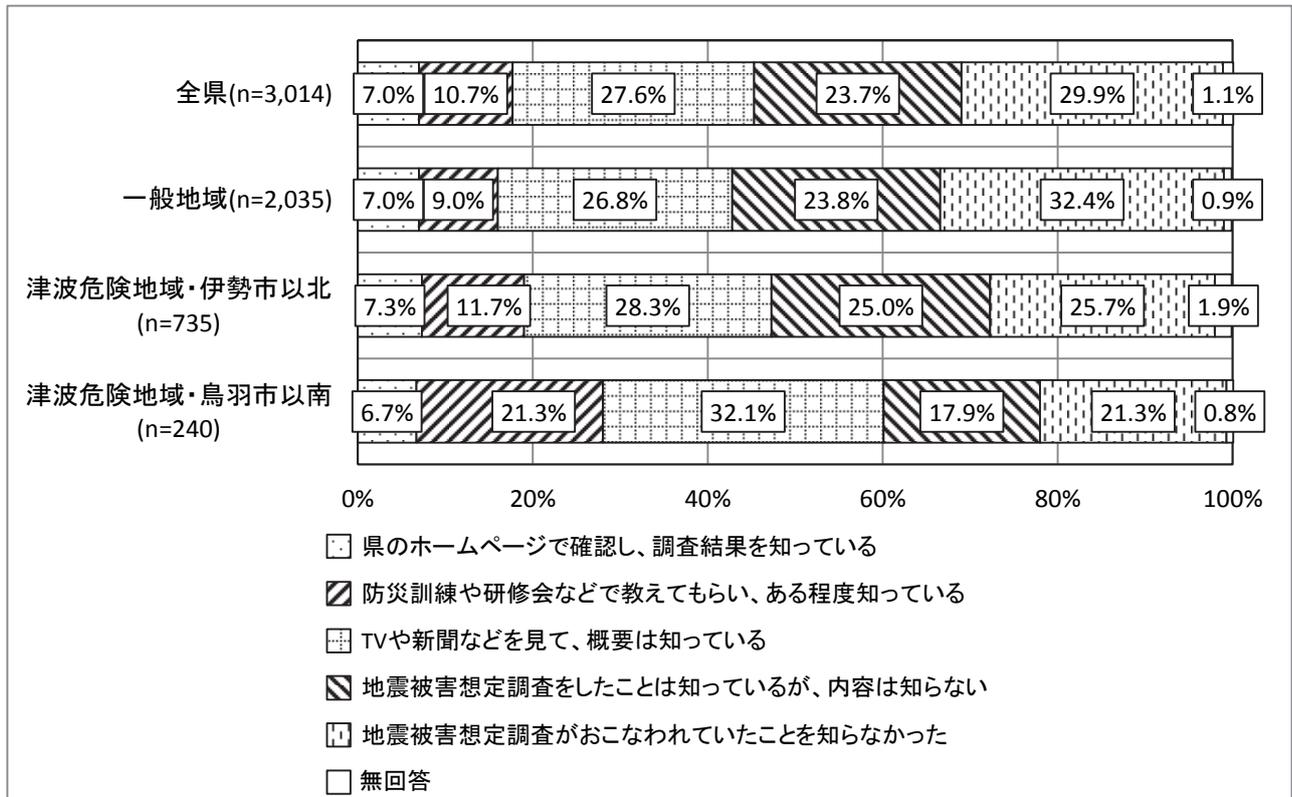
- 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動について、全県では「しばらく様子を見てから避難する」が71.3%と最も多くなり、地域別にみても、一般地域が73.7%、津波危険地域（伊勢市以北）が70.1%、津波危険地域（鳥羽市以南）が55.0%となっています。
- 地震発生後、短時間での津波の到達が予想される県南部沿岸地域では「すぐに避難する」と回答した方は36.7%にとどまっていますが、まず「早く」、そして「遠く」「高く」へ逃げるのが津波から命を守るための唯一の手段です。特に津波の危険性が高い地域では、早い段階から命を守る行動を取る必要があります。

2.1.3 地震被害想定調査結果の認知度

三重県では、平成26年3月に三重県地震被害想定調査結果として、各地の震度予測や津波浸水予測などを公表しました。あなたは、この調査結果をご存知ですか。(一つだけ○) ※問3

1. 県のホームページで確認し、調査結果を知っている
2. 防災訓練や研修会などで教えてもらい、ある程度知っている
3. TVや新聞などを見て、概要は知っている
4. 地震被害想定調査をしたことは知っているが、内容は知らない
5. 地震被害想定調査がおこなわれていたことを知らなかった

図 2.1.3 地震被害想定調査結果の認知度 -全県及び地域別-



- 地震被害想定調査結果の認知度について、「県のホームページで確認し、調査結果を知っている」、「防災訓練や研修会などで教えてもらい、ある程度知っている」、「TVや新聞などを見て、概要は知っている」と回答した方が45.3%いる一方、「地震被害想定調査がおこなわれていたことを知らなかった」人が29.9%に上りました。
- 現在、市町において作成されている、この調査結果を踏まえたハザードマップを含め、各市町と連携し、地震による揺れや地域の危険性を知ってもらうための啓発に取り組む必要があります。

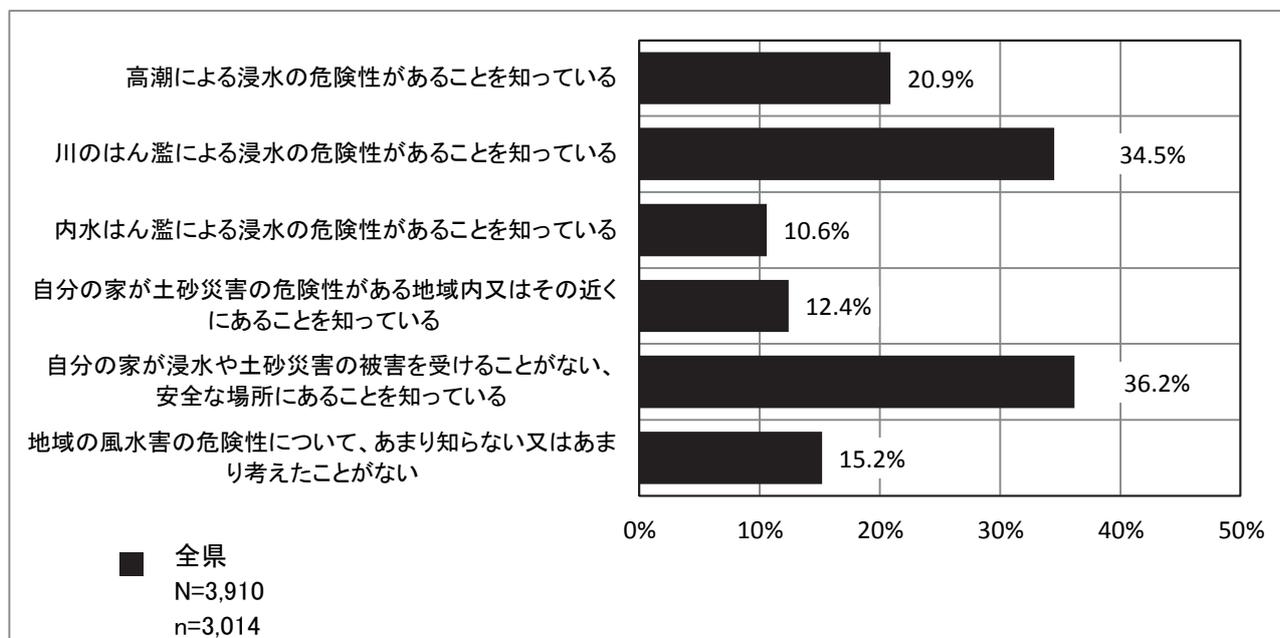
2.2 風水害対策について

2.2.1 風水害による危険性の認知度

あなたがお住まいの地域の風水害（高潮や川のはん濫、土石流、がけ崩れ、地すべりなど）の危険性について、どの程度ご存知ですか。（いくつでも○）※問6

1. 高潮による浸水の危険性があることを知っている →問6-1ハ
2. 川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている →問6-1ハ
3. 内水はん濫による浸水の危険性があることを知っている →問6-1ハ
4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内又はその近くにあることを知っている →問6-1ハ
5. 自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあることを知っている →問7ハ
6. 地域の風水害の危険性について、あまり知らない又はあまり考えたことがない →問7ハ

図 2.2.1 風水害による危険性の認知度 -全県-（複数回答）



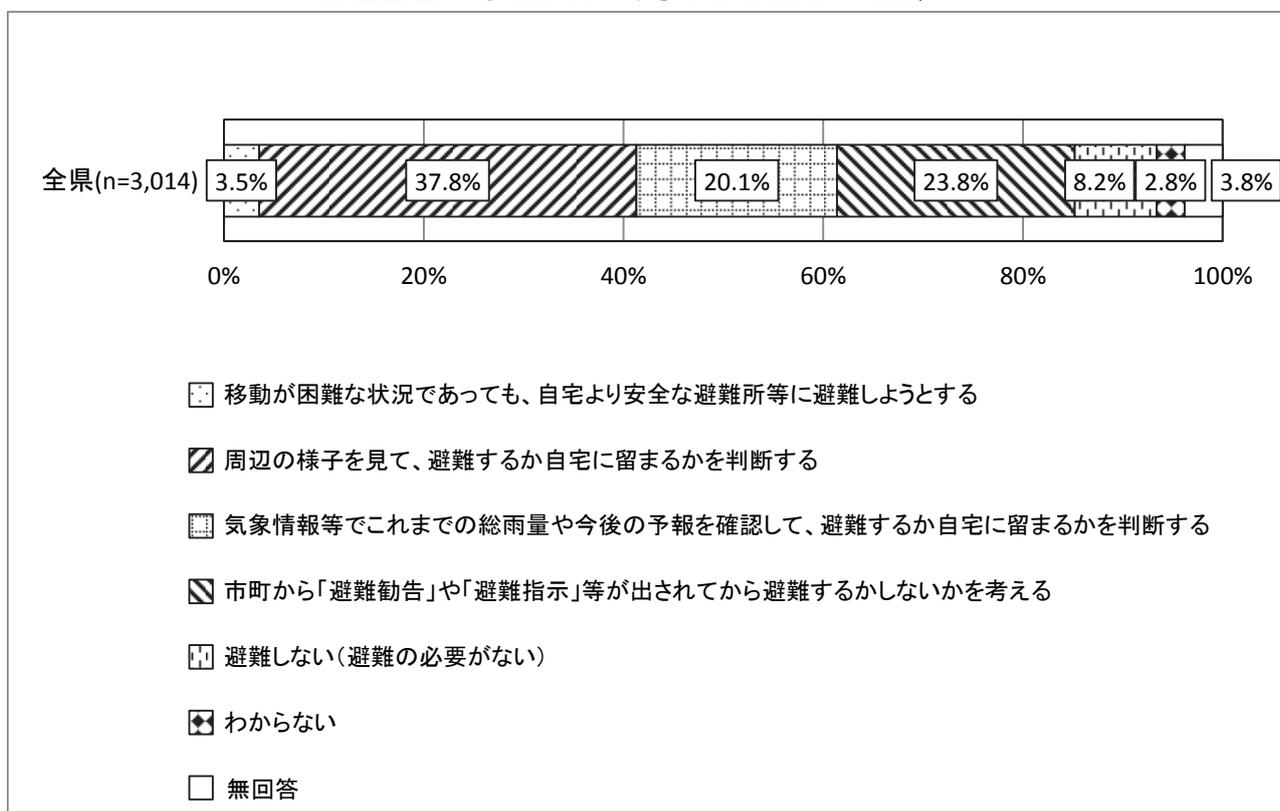
- お住まいの地域の風水害による危険性の認知度について、「川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」が34.5%、「自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあることを知っている」が36.2%などとなっています。
- 一方で、15.2%の方が「地域の風水害の危険性について、あまり知らない又はあまり考えたことがない」と回答しています。
- 風水害対策において、地域の風水害のリスクを把握しておくことは、最も基本的な要件であり、全ての県民がお住まいの地域の危険性を理解し、正しい避難行動がとれるようにしていくため、市町と連携してさらなる周知を図っていく必要があります。

2.2.2 局地的な大雨等からの避難

近年、国内では局地的な大雨が頻発し、甚大な浸水被害や土砂災害が発生しています。あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降り出し、降り続いたとします。あなたは、このような状況において、どのような避難行動を取りますか。（一つだけ○）※問7

1. 移動が困難な状況であっても、自宅より安全な避難所等に避難しようとする
2. 周辺の様子を見て、避難するか自宅に留まるかを判断する
3. 気象情報等でこれまでの総雨量や今後の予報を確認して、避難するか自宅に留まるかを判断する
4. 市町から「避難勧告」や「避難指示」等が出されてから避難するかしないかを考える
5. 避難しない（避難の必要がない）
6. わからない

図 2.2.2 局地的な大雨等からの避難 -全県-



- 局地的な大雨等からの避難について、37.8%の方が「周辺の様子を見て、避難するか自宅に留まるかを判断する」と回答しています。
- 局地的大雨による風水害の危険性は多種多様であり、避難については、状況に応じた的確な判断が求められます。全ての県民がお住まいの地域の危険性を理解し、どのような避難行動が適切なのかを普段から考えておくことが重要です。

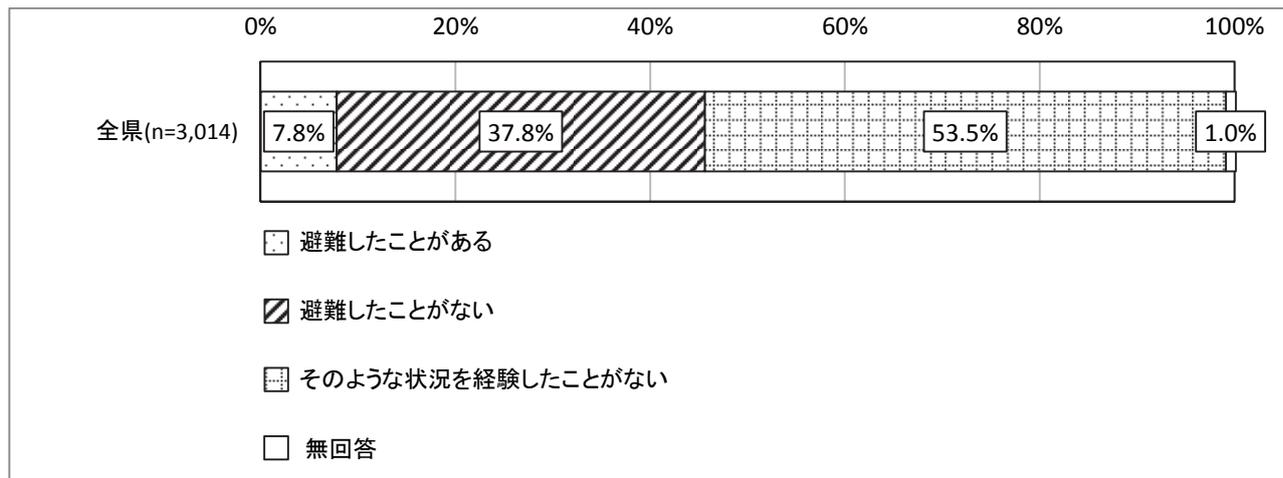
2.2.3 台風時等の避難行動

あなたは、台風や大雨などによる避難勧告等がお住まいの地域に発表されるなど身の回りに危険が近づいている状況で、自宅から離れた安全な場所に避難した経験がありますか。(一つだけ○)

※問 8

- | | |
|----------------------|----------|
| 1. 避難したことがある | →問 9 へ |
| 2. 避難したことがない | →問 8-1 へ |
| 3. そのような状況を経験したことがない | →問 9 へ |

図 2.2.3 台風時等の避難行動 -全県-



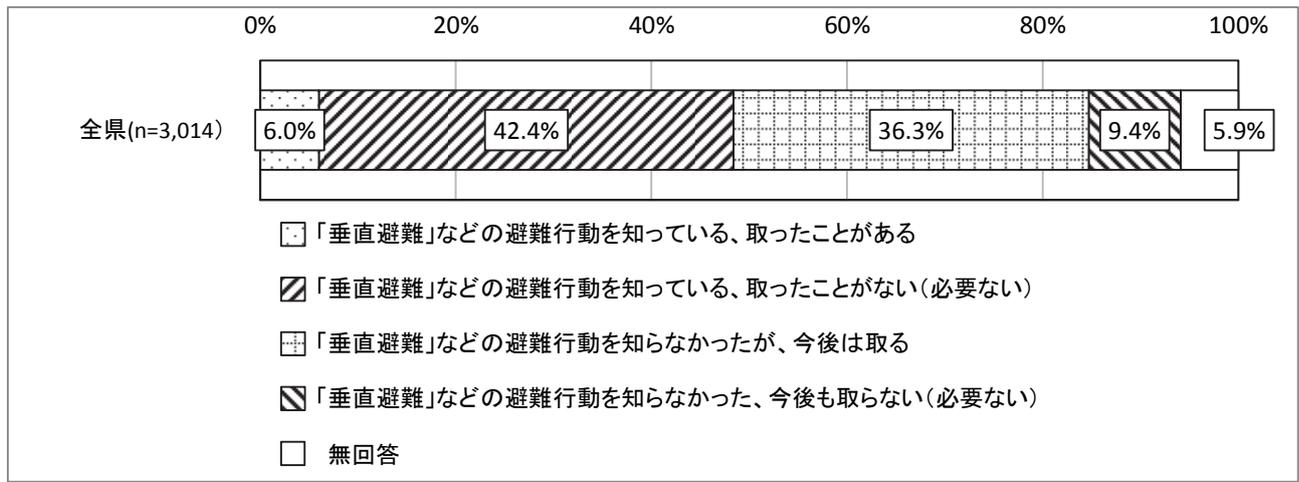
- 避難勧告等の時の避難行動について、「避難したことがある」人の割合は 7.8%となっています。一方で、「避難したことがない」が 37.8%、「そのような状況を経験したことがない」人が 53.5%と、勧告等が出された場合でもほとんどの人は「避難したことがない」こととなります。
- 気象予測技術の向上により、台風の進路や到達予測時間、降水予測などが年々、正確になってきています。気象情報や防災情報に注意を払い、より安全な避難を心がけることが重要です。

2.2.4 「垂直避難」などの避難行動の認知度

局地的な大雨など、避難場所や避難所への移動がかえって危険を伴う場合、「垂直避難」などの行動を取ることが望まれますが、このような避難行動についてあなたの経験や考えにもっとも近いのは次のうちどれですか。（一つだけ〇） ※問9<新規>

1. 「垂直避難」などの避難行動を知っている、取ったことがある
2. 「垂直避難」などの避難行動を知っている、取ったことがない（必要ない）
3. 「垂直避難」などの避難行動を知らなかったが、今後は取る
4. 「垂直避難」などの避難行動を知らなかった、今後も取らない（必要ない）

図 2.2.4 「垂直避難」などの避難行動の認知度 -全県-



- 「垂直避難」などの避難行動の認知度について、「「垂直避難」などの避難行動を知っている」人の割合は 48.4%、「「垂直避難」などの避難行動を知らない」が 45.7%となっています。
- 局地的な大雨など時間的余裕がない場合に「垂直避難」などの避難行動は有効な選択肢の一つと言えます。身の周りの状況に応じて、適切な避難行動をとるように心がける必要があります。

2.3 防災全般について

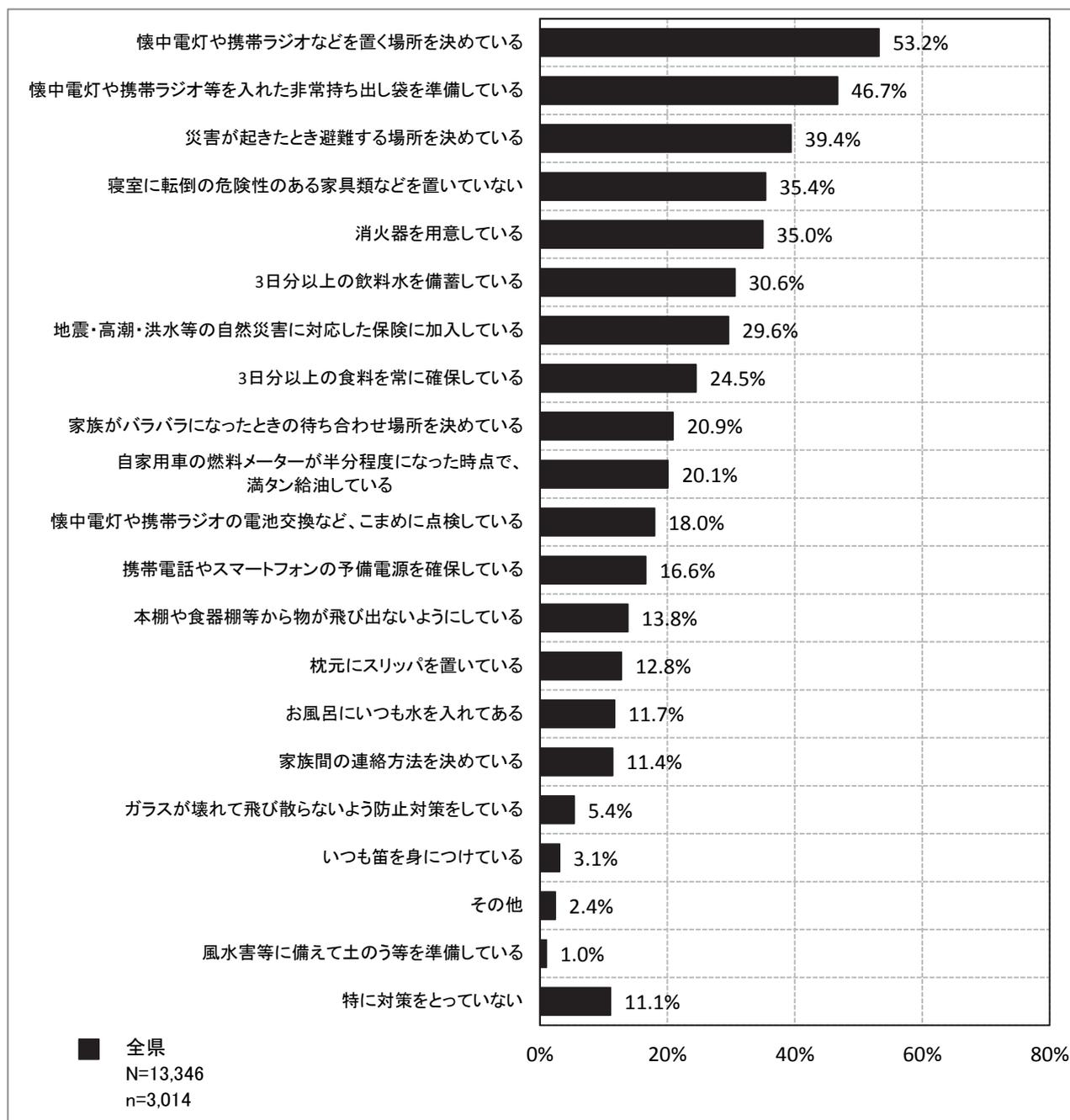
2.3.1 家庭での防災対策の状況

あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。

(いくつでも○) ※問 10

1. 3日分以上の飲料水を備蓄している（ご家族ひとり一日あたり3リットルとして計算してください）
2. 3日分以上の食料を常に確保している
3. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
4. 災害が起きたとき避難する場所を決めている
5. 災害用伝言ダイヤル（171）や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用など、家族間の連絡方法を決めている
6. 家族がバラバラになったときの待ち合わせ場所を決めている
7. 携帯電話やスマートフォンの予備電源を確保している
8. 自家用車の燃料メーターが半分程度になった時点で、満タン給油している
9. お風呂にいつも水を入れてある
10. ガラスが壊れて飛び散らないよう防止対策をしている
11. 消火器を用意している
12. 懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている
13. 懐中電灯や携帯ラジオの電池交換など、こまめに点検している
14. 枕元にスリッパを置いている
15. いつも笛を身につけている
16. 本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
17. 寝室に転倒の危険性のある家具類などを置いていない
18. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
19. 風水害等に備えて土のう等を準備している
20. その他 具体的に：
21. 特に対策をとっていない

図 2.3.1 家庭での防災対策の状況 -全県- (複数回答) (回答の多い順)



- 3日以上以上の飲料水の備蓄をしている家庭は 30.6%、3日以上以上の食料の備蓄をしている家庭は 24.5%となりました。
- 「特に対策をとっていない」と回答された方は 11.1%となりました。
- 基本的な「自助」の防災活動である、家庭での飲料水や食料などの備蓄が進んでいない状況です。南海トラフ地震など広域災害発生直後は、国や県、お住まいの市町からの支援をすぐに受けることは難しくなります。日常的に非常食を食べて、食べたらいち早く買い足すという行為を繰り返し、常に新しい非常食の備蓄ができる「ローリングストック法」も活用するなど、各家庭が災害に備えるための対策を講じる必要があります。

2.3.2 家具固定の不備による危険度

ご自宅では、家具類や冷蔵庫、テレビなどが転倒しないよう固定をしていますか。(一つだけ)

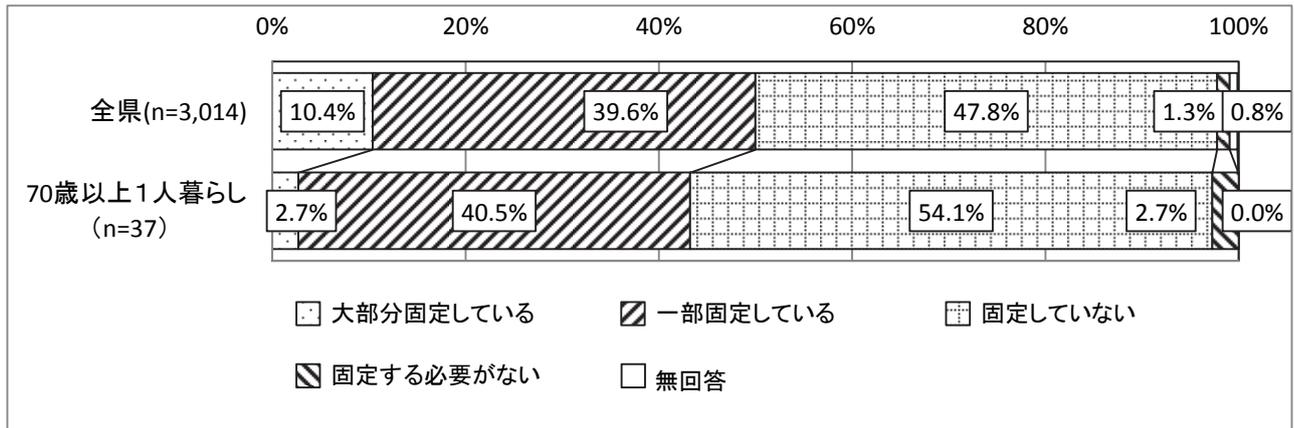
※問 11

1. 大部分固定している
2. 一部固定している
3. 固定していない
4. 固定する必要がない

→問 12 へ

→問 11-1 へ

図 2.3.2 家具固定の不備による危険度 -全県-



- 家具類の固定状況について、固定をしている方は、全体で50.0%である一方、70歳以上一人暮らしの家庭では43.2%でした。
- 70歳以上の1人暮らしの方の54.1%が「固定していない」と答えています。家具の転倒による死傷の危険はもちろんのこと、出口がふさがれ逃げ遅れたり、下敷きになり身動きがとれなくなった場合も、命の危険にかかわります。
家具固定は自宅の防災対策に必須であり、さらなる啓発を図る必要があります。

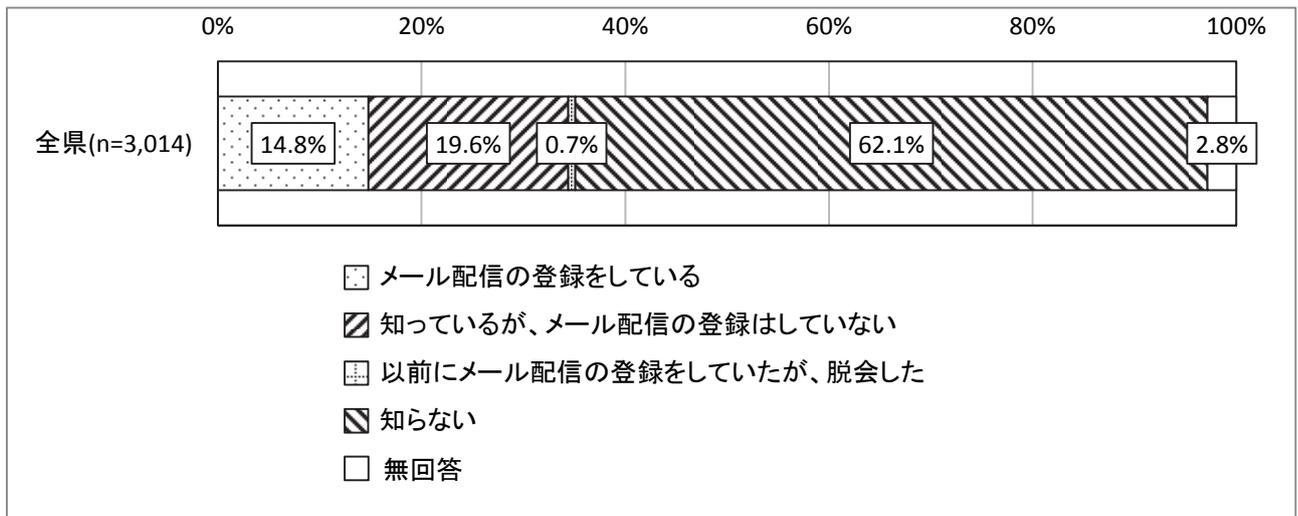
2.3.3 防災情報メール配信サービスの認知度

県では、大雨や洪水に関する注意報や警報発令などの気象情報や全国の地震情報などの防災情報を、「防災みえ.jp」のメール配信サービスで登録者にお知らせしています。

あなたは、このことをご存じですか。(一つだけ○) ※問 15

1. メール配信の登録をしている
2. 知っているが、メール配信の登録はしていない
3. 以前にメール配信の登録をしていたが、脱会した
4. 知らない

図 2.3.3 防災情報メール配信サービスの認知度 -全県-



- 防災情報メール配信サービスの認知度について、「知らない」が 62.1%で最も多く、「メール配信の登録をしている」と回答した方は全体の 14.8%となっています。
- 災害情報の確実かつ迅速な収集はとても大切です。気象情報や地震情報などをインターネットとメールで配信する三重県の防災情報のポータルサイト「防災みえ.jp」のPRを進める必要があります。

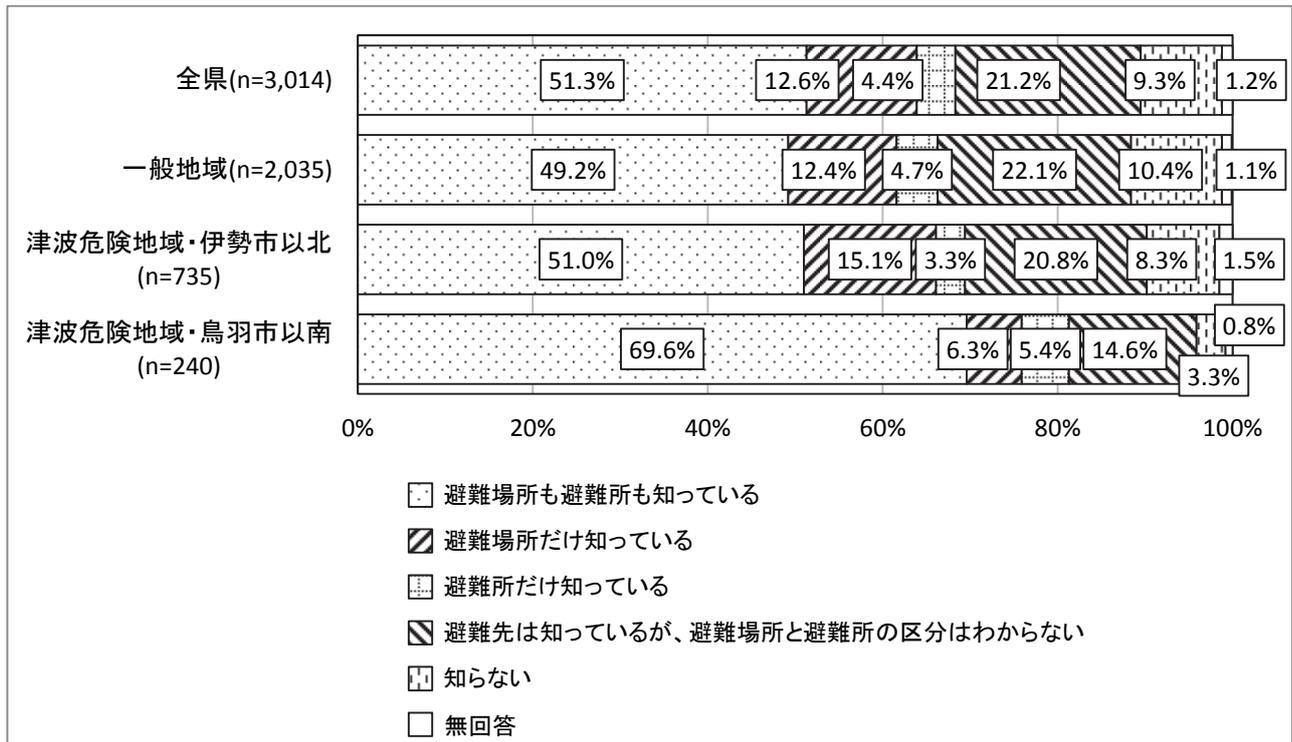
2.3.4 避難場所や避難所の認知度

あなたは、自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるかご存じですか。

(一つだけ〇) ※問 17

- | | | |
|---------------------------------|---|----------|
| 1. 避難場所も避難所も知っている | } | 問 17-1 へ |
| 2. 避難場所だけ知っている | | |
| 3. 避難所だけ知っている | | |
| 4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない | } | 問 18 へ |
| 5. 知らない | | |

図 2.3.4 避難場所や避難所の認知度 -全県及び地域別-



- 避難場所や避難所の認知度について、全県では 9 割近くの方が避難場所か避難所を知っていると回答しています。
- 地域別では、津波危険地域（鳥羽市以南）の「避難場所も避難所も知っている」が 69.6%と高くなっています。
- 津波や土砂災害などから緊急かつ一時的に避難するための避難場所、災害時に一定期間の避難生活を送るための避難所を事前に知っておくことはとても重要であるため、各家庭における災害発生時の避難計画の作成を促進する必要があります。

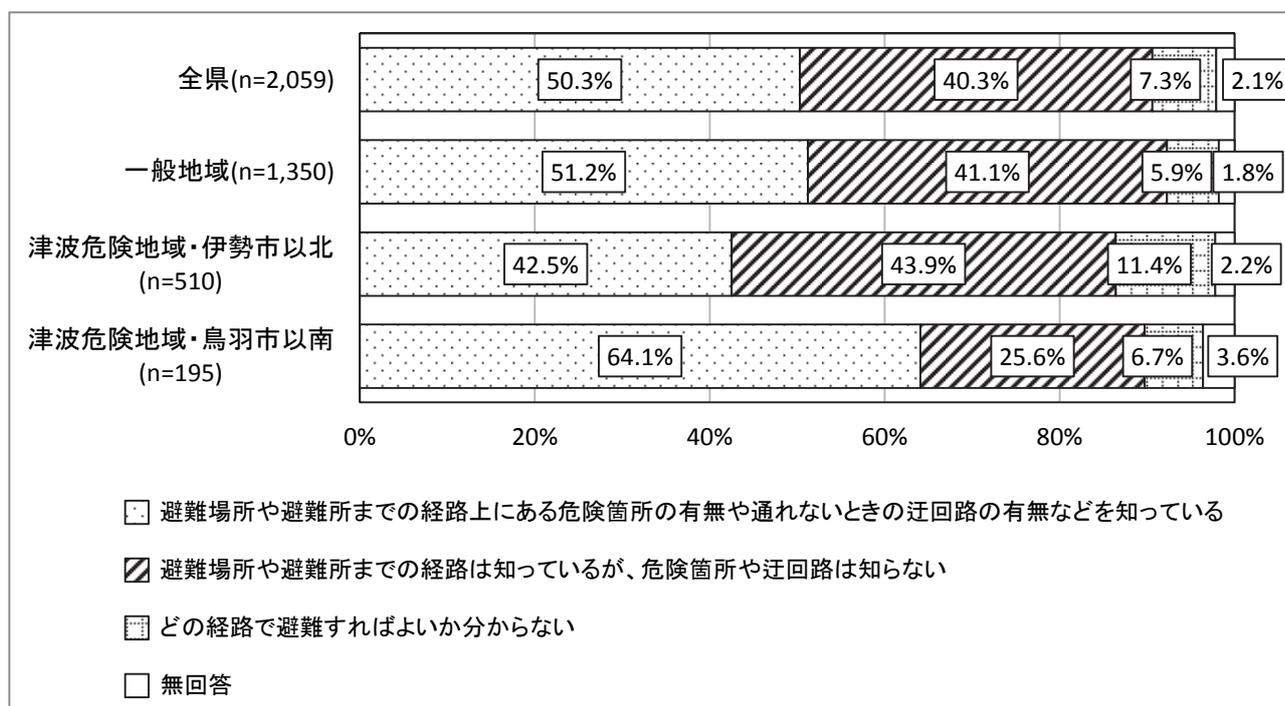
2.3.5 避難場所や避難所までの経路についての認知度

「1.避難場所も避難所も知っている」、「2.避難場所だけ知っている」、「3.避難所だけ知っている」と回答された方にお尋ねします。

あなたは、避難場所や避難所までの避難経路について、どの程度ご存知ですか。(一つだけ)
※問 17-1

1. 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や通れないときの迂回路の有無などを知っている
2. 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない
3. どの経路で避難すればよいか分からない

図 2.3.5 避難場所や避難所までの経路についての認知度 -全県及び地域別-



- 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や迂回路の有無などを知っている方は全県で約5割でした。
- 地域別では津波危険地域（鳥羽市以南）で64.1%と最も高い結果となりました。
- 実際の避難行動に役立つタウンウォッチングを取り入れた防災訓練で、安全な避難経路を知っておくなど、実際の避難行動に役立つ取組が各地域で進められることが重要です。

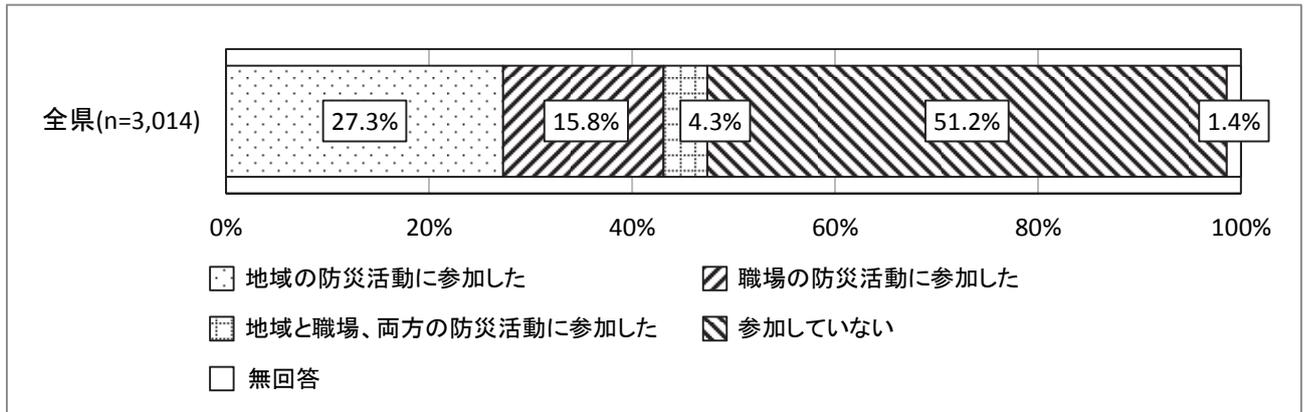
2.3.6 地域・職場での防災活動への参加経験

あなたは、過去1年間に、お住まいの地域や職場での防災活動（問19の選択肢参照）に参加したことがありますか。（一つだけ○）※問18

※今秋に開催される地域や職場の防災訓練等への参加予定がある場合は1～3に○を付けてください。

- | | | |
|-----------------------|---|------|
| 1. 地域の防災活動に参加した | } | 問19へ |
| 2. 職場の防災活動に参加した | | |
| 3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した | | |
| 4. 参加していない | → | 問20へ |

図 2.3.6 地域・職場での防災活動への参加経験 -全県-



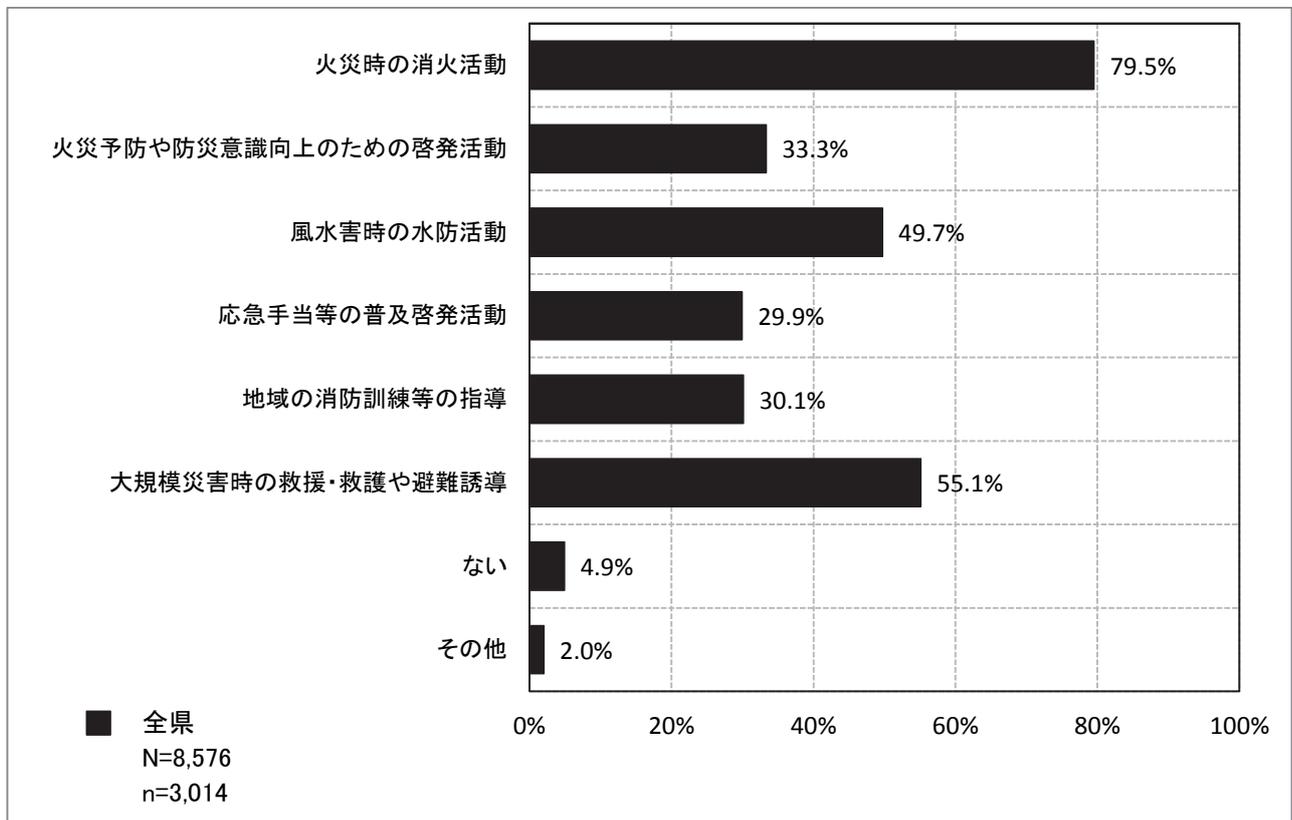
- 地域・職場での防災活動への参加経験について、いずれかの防災活動に「参加した」が47.4%、「参加していない」が51.2%となり、おおよそ半数ずつとなりました。
- 約5割の方が地域や職場の防災活動に参加していないと回答していることは問題です。練習で出来ないことは災害時にも出来ません。災害時に確実な防災活動が取れるよう、普段から様々な防災活動を体験し、これを繰り返し行うことが大切です。

2.3.7 地域の消防団に期待する活動内容

あなたがお住まいの地域の消防団に期待する活動はどのようなものがありますか。(いくつでも○) ※問 23

1. 火災時の消火活動
2. 火災予防や防災意識向上のための啓発活動
3. 風水害時の水防活動
4. 応急手当等の普及啓発活動
5. 地域の消防訓練等の指導
6. 大規模災害時の救援・救護や避難誘導
7. ない
8. その他 具体的に：

図 2.3.7 地域の消防団に期待する活動内容 -全県(複数回答)-



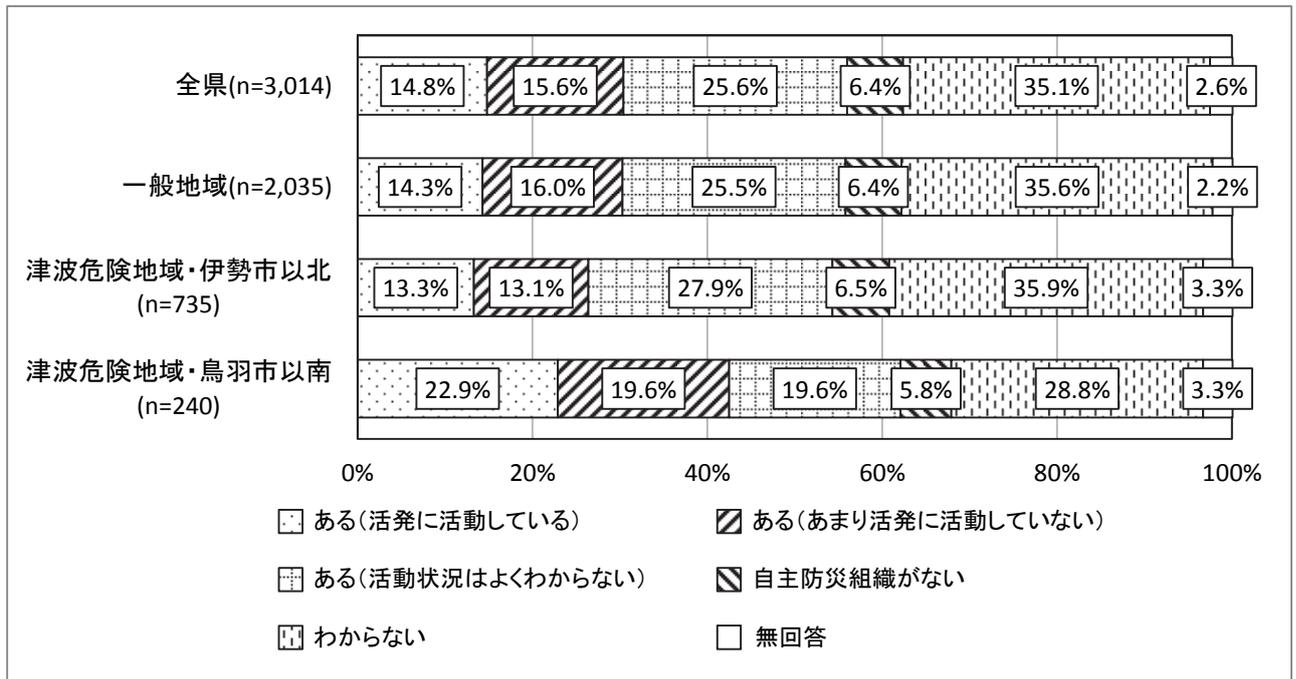
- 地域の消防団に期待する活動内容について、火災時の消火活動だけでなく、災害発生時の活動（救援・救護、避難誘導など）も高い期待が寄せられていることが分かりました。
- 地域防災の要となる消防団をより活性化させるための取組を一層強化していく。

2.3.8 自主防災組織の有無と活動状況

あなたのお住まいの地域は、自主防災組織（町内会・自治会などを母体とした地域の住民が防災活動をする組織）がありますか。また、活動状況はどうですか。（一つだけ〇）※問 24

1. ある（活発に活動している）
2. ある（あまり活発に活動していない）
3. ある（活動状況はよくわからない）
4. 自主防災組織がない
5. わからない

図 2.3.8 自主防災組織の有無と活動状況 -全県及び地域別-



- 全県では、14.8%の方がお住まいの地域の自主防災組織が活発に活動していると回答しています。なお、地域別では津波危険地域（鳥羽市以南）が他の地域と比べ、多くの自主防災組織が活発に活動していると回答しています。
- 三重県内の自主防災組織の組織率は約93.6%（平成27年4月1日現在）となっていますが、その一方で、35.1%の方がお住まいの地域に自主防災組織があるか分からないと回答しています。自主防災組織の普及が広がるために、一層の啓発活動が必要です。

2.3.9 学校の防災教育の家庭での認知度

三重県では、「防災ノート」等防災教育用の教材を作成・配布し、学校での活用を要請するなど、学校での防災教育の充実に取り組んでいます。

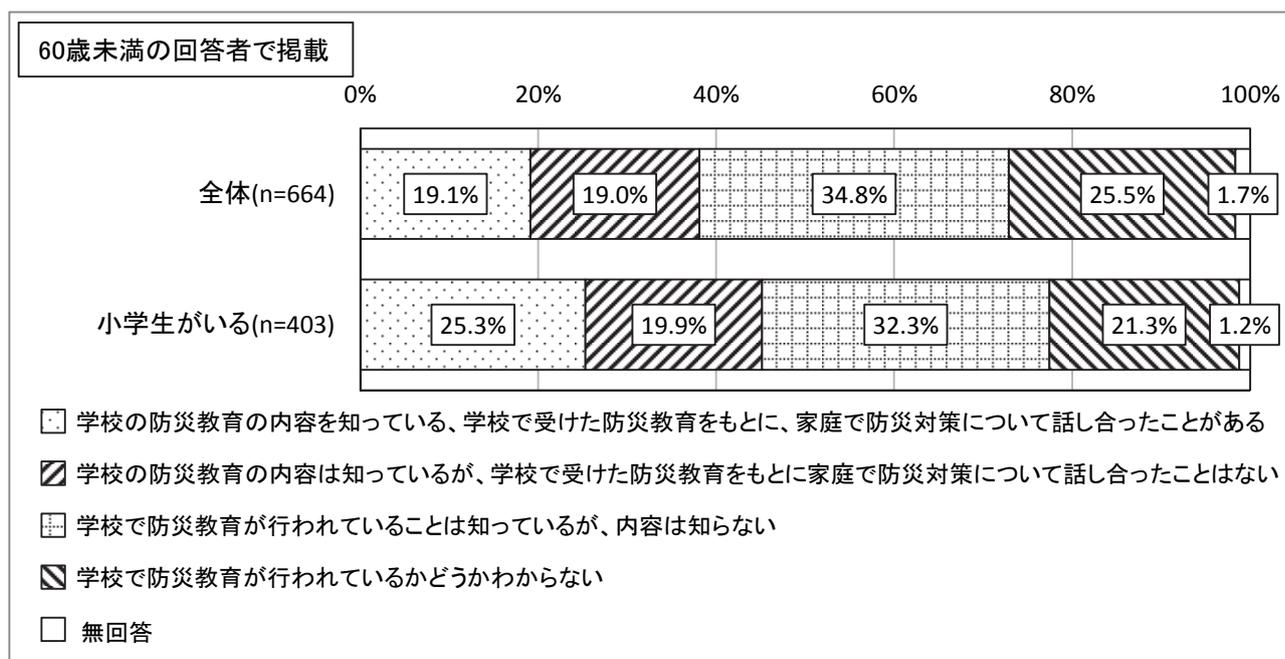
あなたは、お住まいの児童生徒が通っている学校の防災教育についてどの程度知っていますか。

(一つだけ○) ※問 25-1

※ 複数の児童生徒がいる場合は、一番年下の児童生徒が通っている学校についてお答えください。

1. 学校の防災教育の内容を知っている、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある
2. 学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない
3. 学校で防災教育が行われていることは知っているが、内容は知らない
4. 学校で防災教育が行われているかどうかわからない

図 2.3.9 学校の防災教育の家庭での認知度



- 小学生から高校性までの児童生徒が学校で受けた防災教育について、家庭で話し合ったり、内容を知っている家庭は全体では 38.1%、「小学生がいる」家庭では 45.2%となっています。
- 「防災ノート」をご家庭の防災対策にもお使いいただけるよう、さらなる啓発の取組を進めていく必要があります。

2.4 あなたのお住まいの耐震化について

2.4.1 耐震化に向けた補助制度の認知度

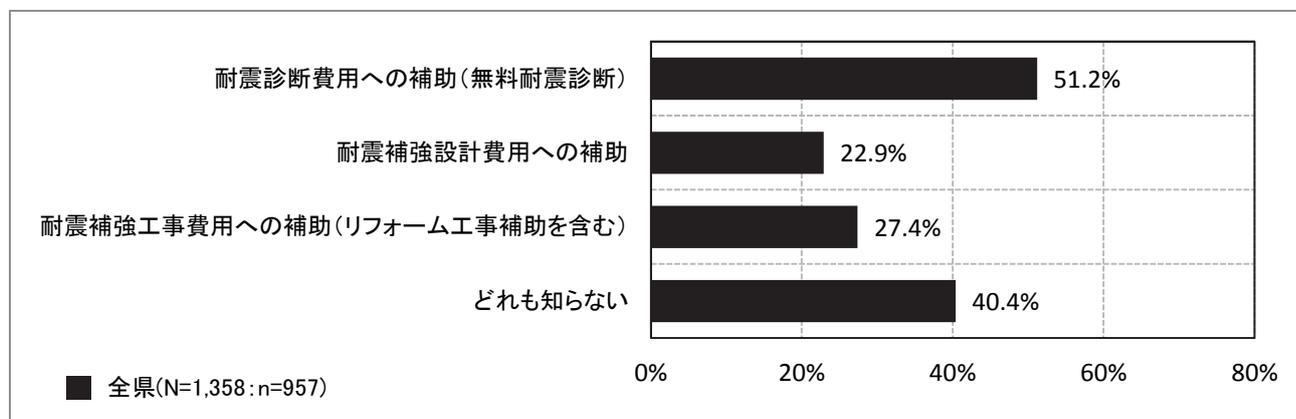
県及び市町では、昭和56年5月31日以前に建築された（着工を含む）木造住宅の耐震化に向けた補助等を行っています。

あなたは次の制度を知っていますか。

（いくつでも○）※問29

1. 耐震診断費用への補助（無料耐震診断）
2. 耐震補強設計費用への補助
3. 耐震補強工事費用への補助（リフォーム工事補助を含む）
4. どれも知らない

図 2.4.1 耐震化に向けた補助制度の認知度 -全県-（複数回答）



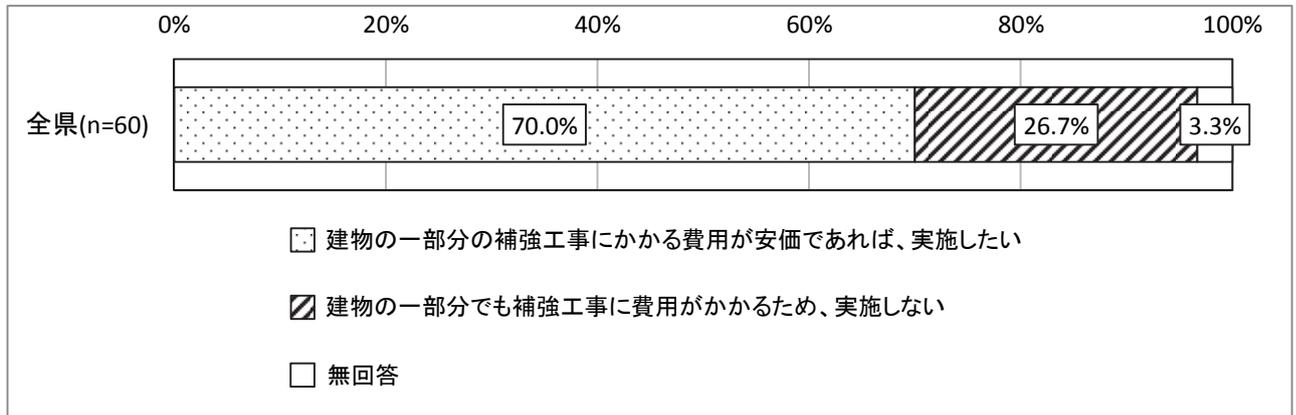
- 耐震化に向けた補助制度の認知度について、5割以上の方が「耐震診断費用への補助（無料耐震診断）」について知っている一方で、「どれも知らない」は40.4%となっています。
- 津波や火災等からの避難も、まずは“揺れ”から自宅を守ることが前提となることから、耐震診断の受診を促進し、住宅の安全確保を図る必要があります。

2.4.2 一部分のみの耐震補強工事

建物全体の安全性は劣るものの建物の一部分（例えば壁1枚のみ）を耐震補強することで少しでも安全性が向上するのであれば、補強したいと思いますか。（一つだけ〇）※問34

1. 建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば、実施したい →問35へ
2. 建物の一部分でも補強工事に費用がかかるため、実施しない →問36へ

図 2.4.2 一部分のみの耐震補強工事 -全県-



- 一部分のみの耐震補強工事については、「建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば、実施したい」と70.0%の方が回答されており、耐震対策ができていない方の部分補強へのニーズが高いことが明らかとなりました。
- 簡易耐震補強工事に対する補助制度を設けている市町もあることから、これら制度の活用を促進する必要があります。

第3章 調査結果

3.1 地震・津波対策について

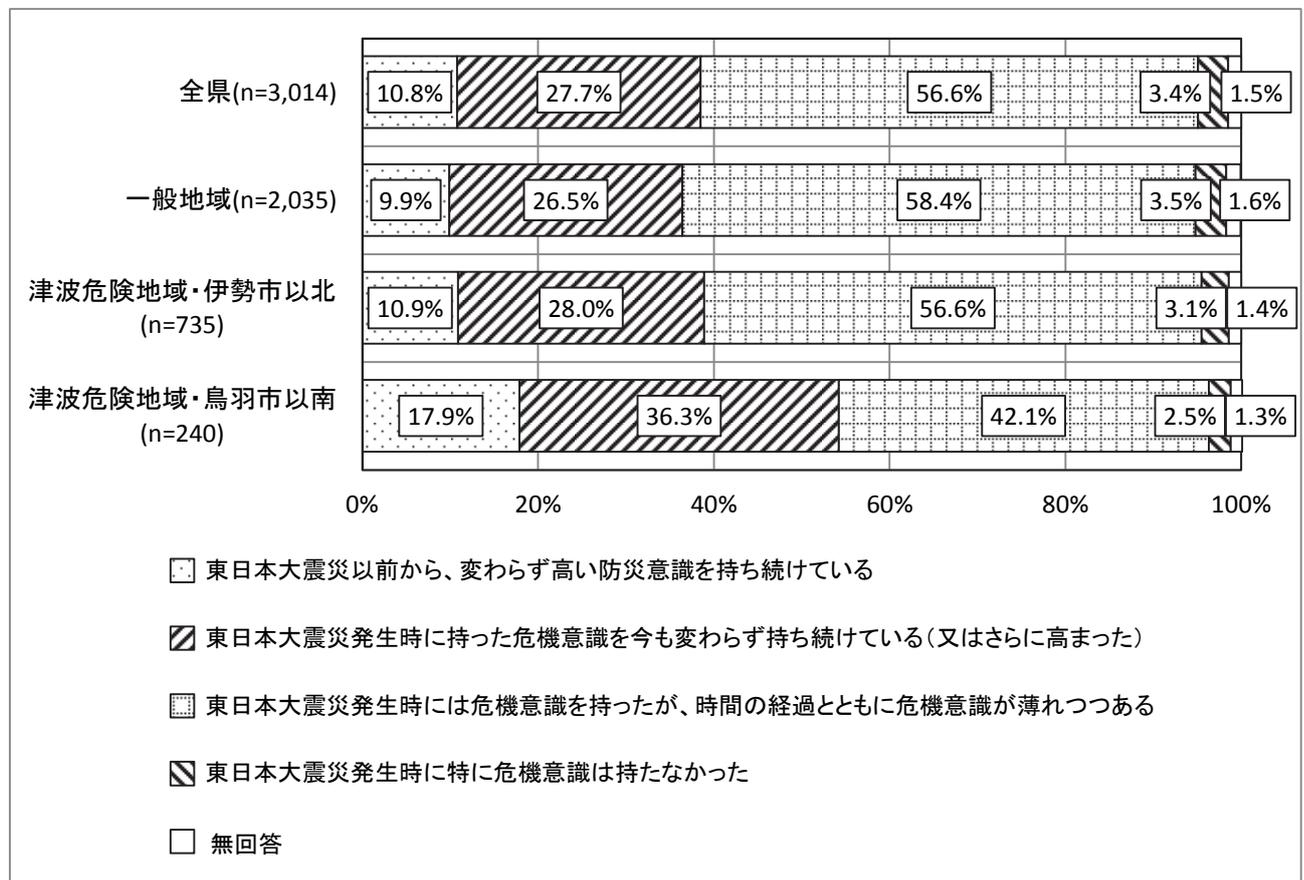
3.1.1 大震災発生後の防災意識の変化

【問 1】 東日本大震災の発生から 4 年半あまりが経過しました。発生時と比べてあなたの防災意識に変化はありますか。（一つだけ〇）

1. 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている
2. 東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている（又はさらに高まった）
3. 東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 東日本大震災発生時に特に危機意識は持たなかった

調査結果

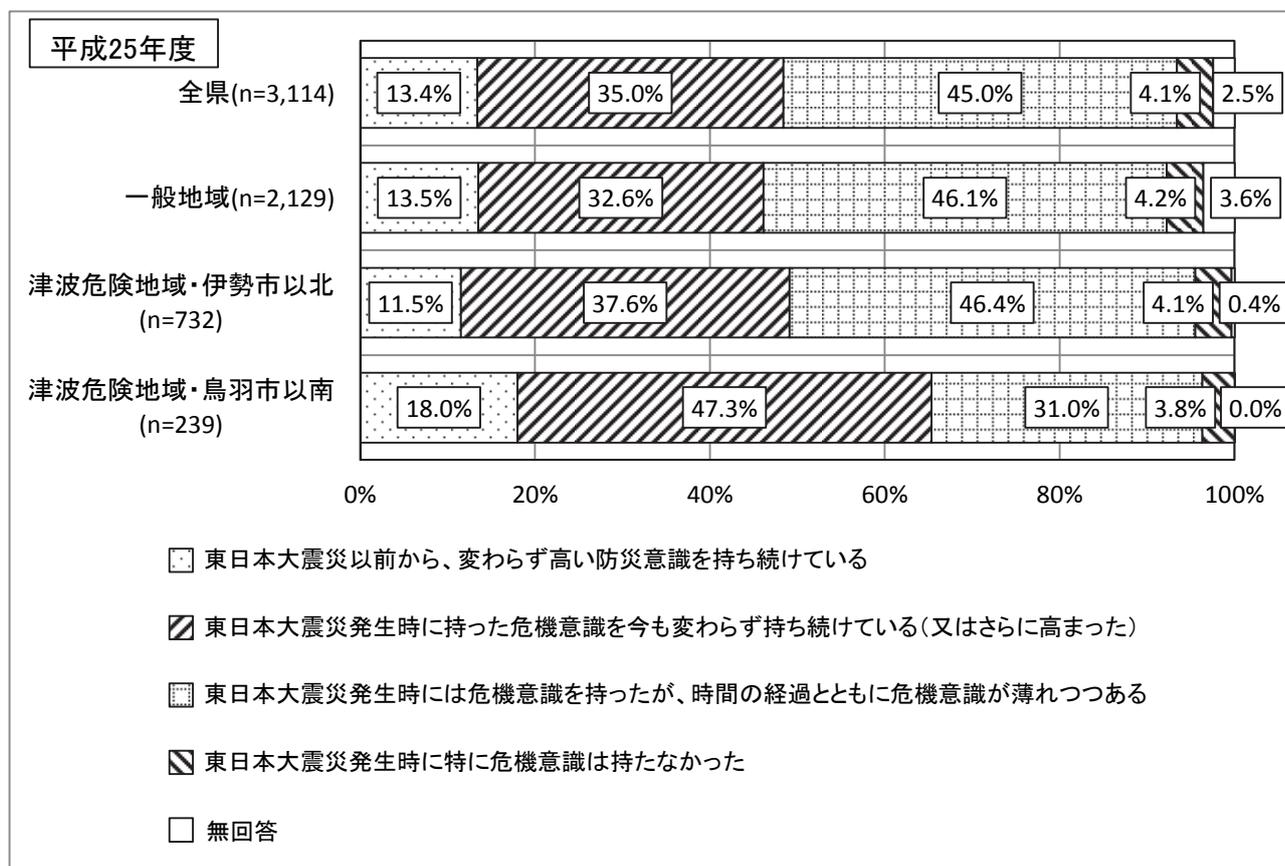
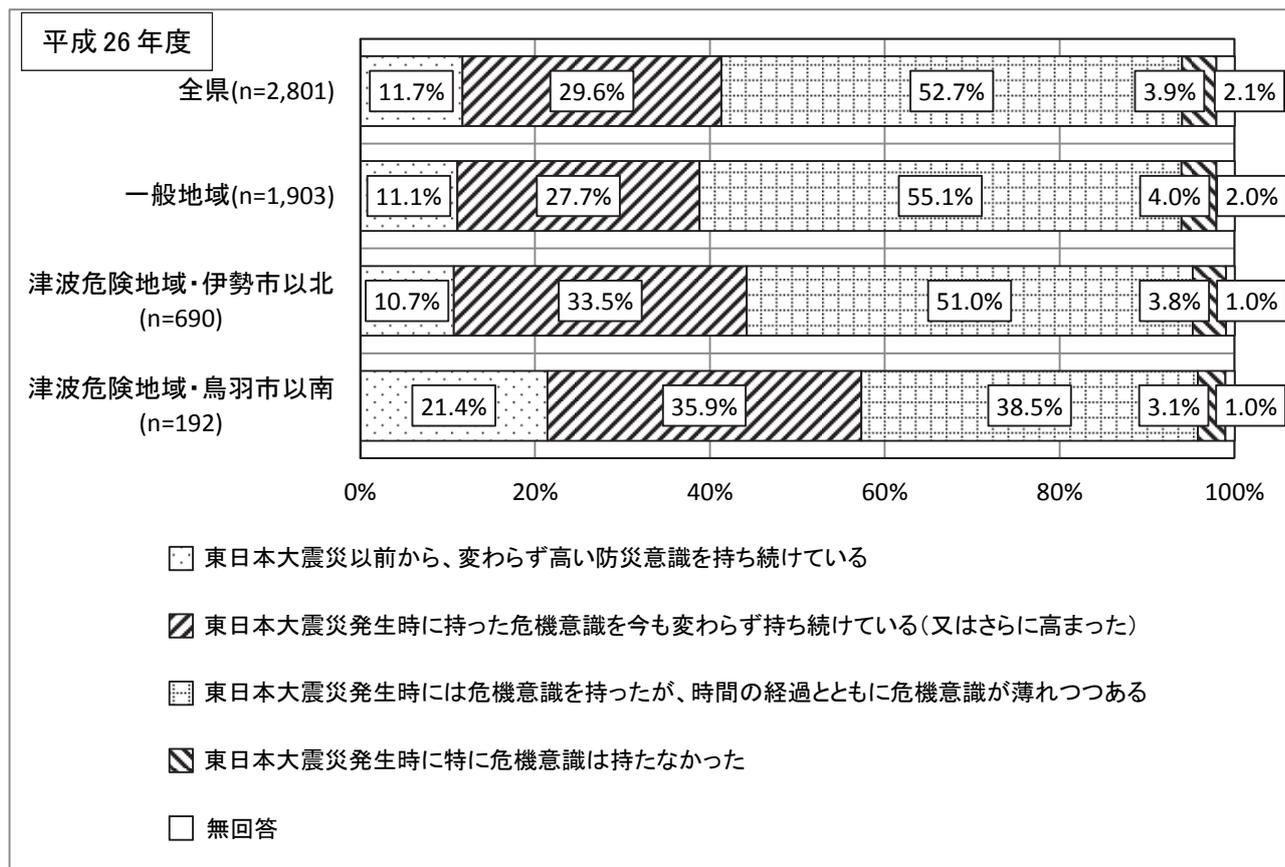
図 3.1.1 (1) 大震災発生後の防災意識の変化 -全県及び地域別-



「東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている」、「東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている（又はさらに高まった）」が全県で、38.5%（平成 26 年 41.3% (-2.8%)、平成 25 年 48.4% (-9.9%)) と年々減少しています。

津波危険地域（鳥羽市以南）においても、54.2%で昨年度と比べ 3.1%減少しています。

(参考) 図 3.1.1 (2) 平成26年度及び平成25年度の防災意識の経年変化



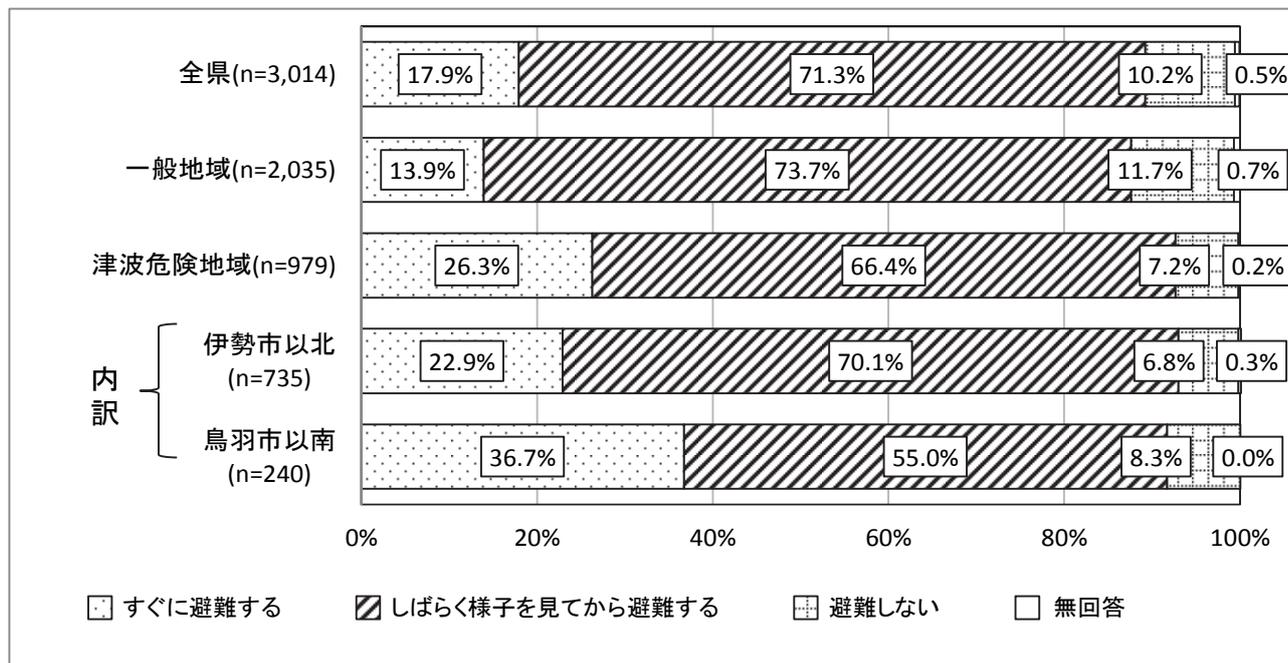
3.1.2 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動

【問 2】 夜遅くあなたがご自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上続き、停電もしています。揺れが収まった後、あなたは避難しますか。(一つだけ○)

- 1. すぐに避難する →問 2-1 へ
- 2. しばらく様子を見てから避難する →問 2-2 へ
- 3. 避難しない →問 2-3 へ

調査結果

図 3.1.2 (1) 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動 -全県及び地域別-

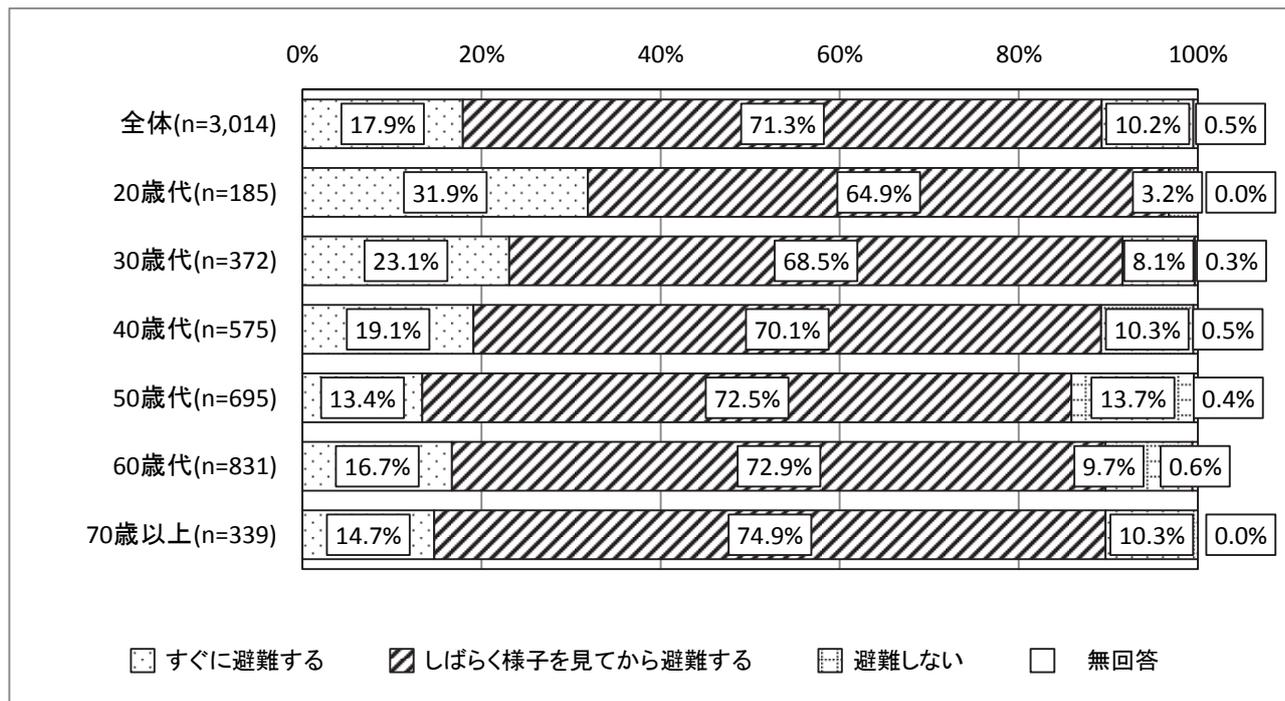


夜間の大地震に遭遇した際の避難行動について、全県でのデータを過年度と比較（P26 参照）すると、「すぐに避難する」が21.8%⇒19.6%⇒17.9%でH25年度から3.9ポイント低下し、「しばらく様子を見てから避難する」が64.7%⇒66.9%⇒71.3%でH25年度から6.6ポイント上昇しました。

地域別にみると、津波危険地域（鳥羽市以南）「すぐに避難する」が昨年より8.1ポイント低下し、36.7%となっています。

短時間で津波の到達が想定される県南部沿岸地域において、この結果は大きな課題と言えます。

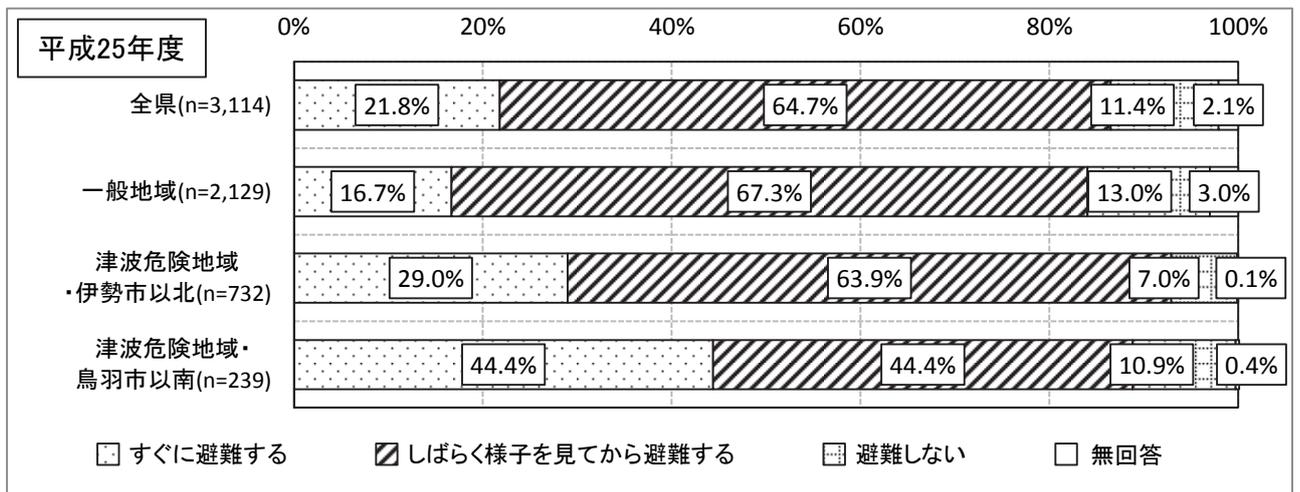
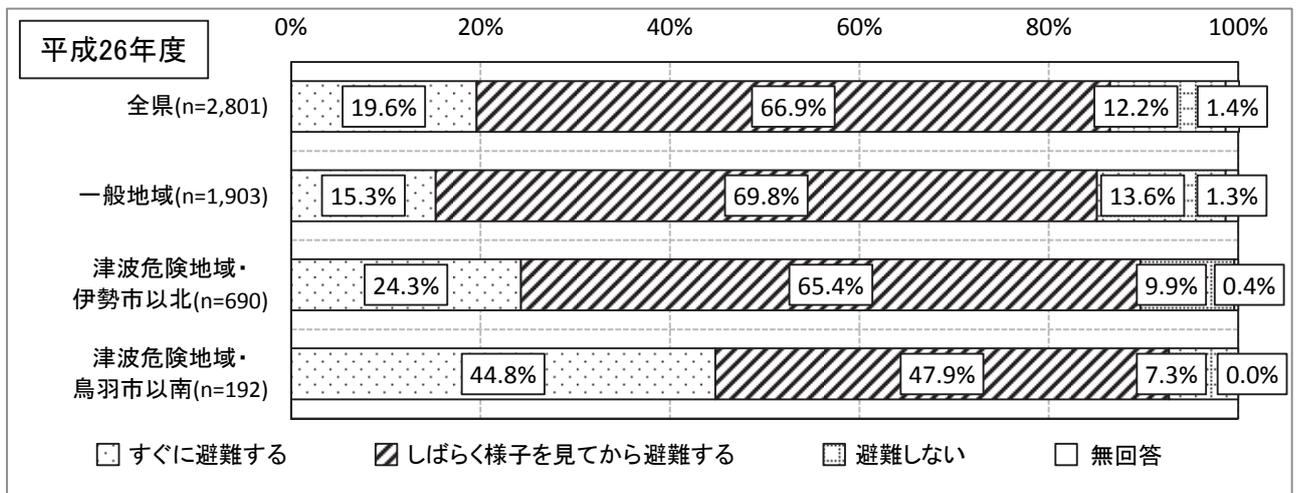
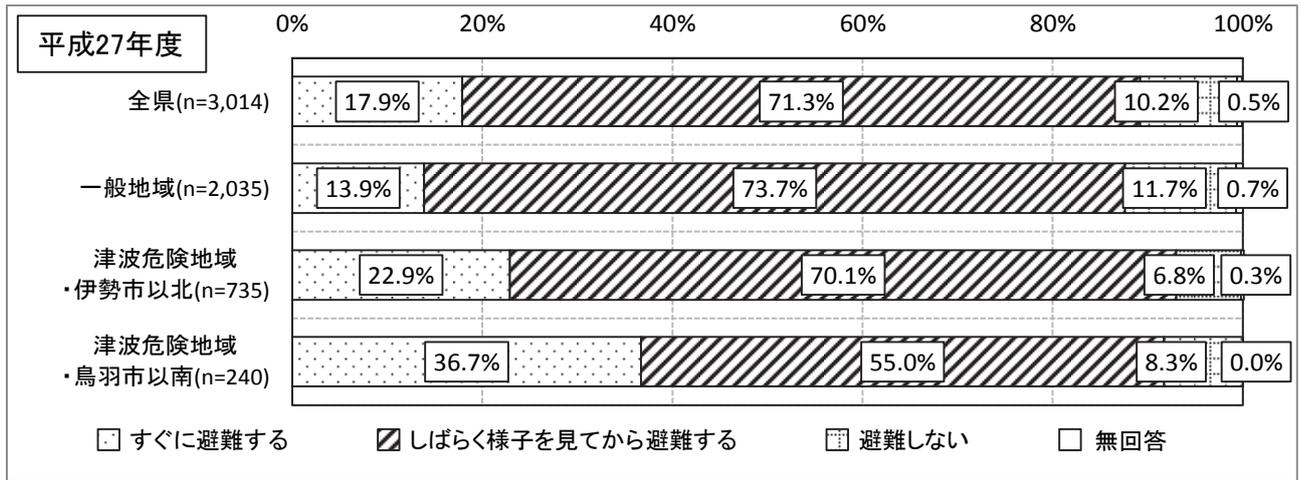
図 3.1.2 (2) 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動 -全体及び年代別-



年代別にみると、20歳代で「すぐに避難する」が31.9%と最も高くなりました。

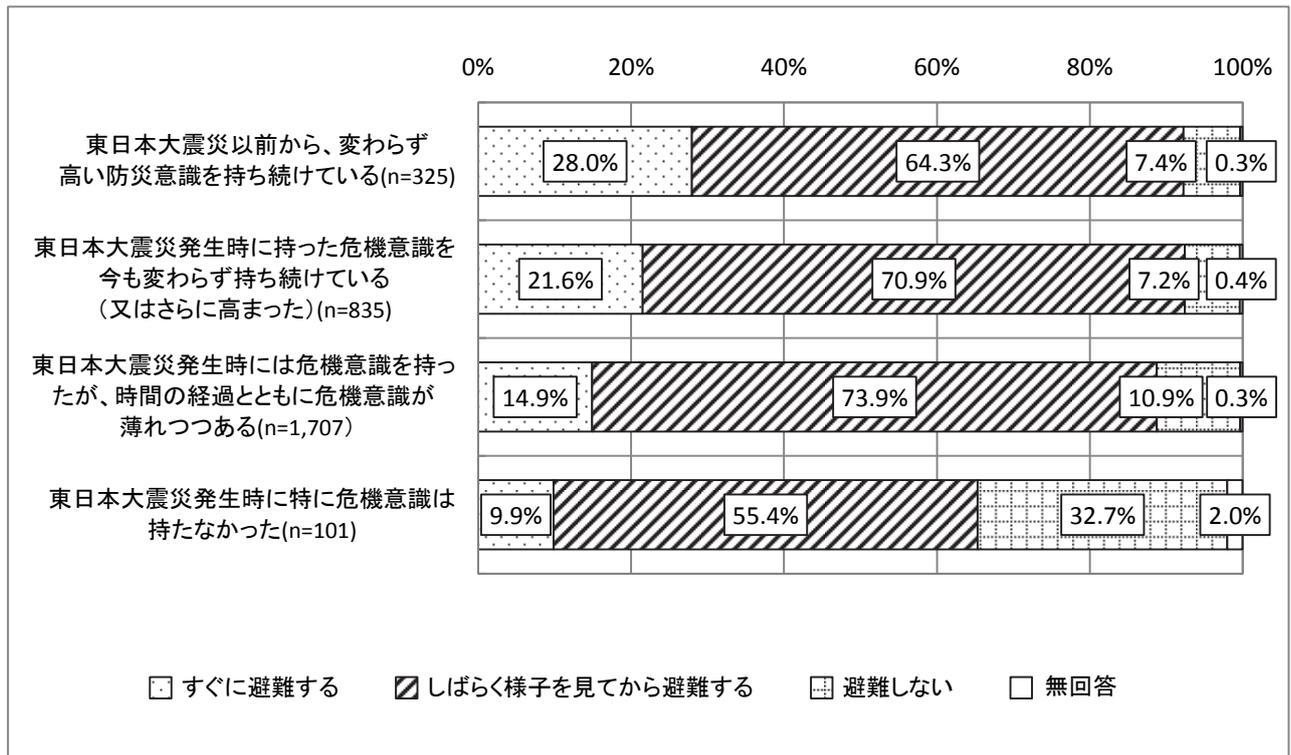
なお、「しばらく様子を見てから避難する」がすべての年代で多くなっていますが、年代別の顕著な違いはみられませんでした。

図 3.1.2 (3) 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動 - 全県及び地域別経年変化 -



今年度の調査結果を過去のデータと比べたところ、各地域すべてにおいて「すぐに避難する」が減少し「しばらく様子を見てから避難する」が多くなっています。

図 3.1.2 (4) 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動
-問 1 (大震災発生後の防災意識の変化) とのクロス集計-



問 1 (大震災発生後の防災意識の変化) とのクロス集計をみると、「変わらず高い防災意識を持ち続けている」、「又はさらに高まった」と回答された方が、「すぐに避難する」との回答が高い割合になっています。

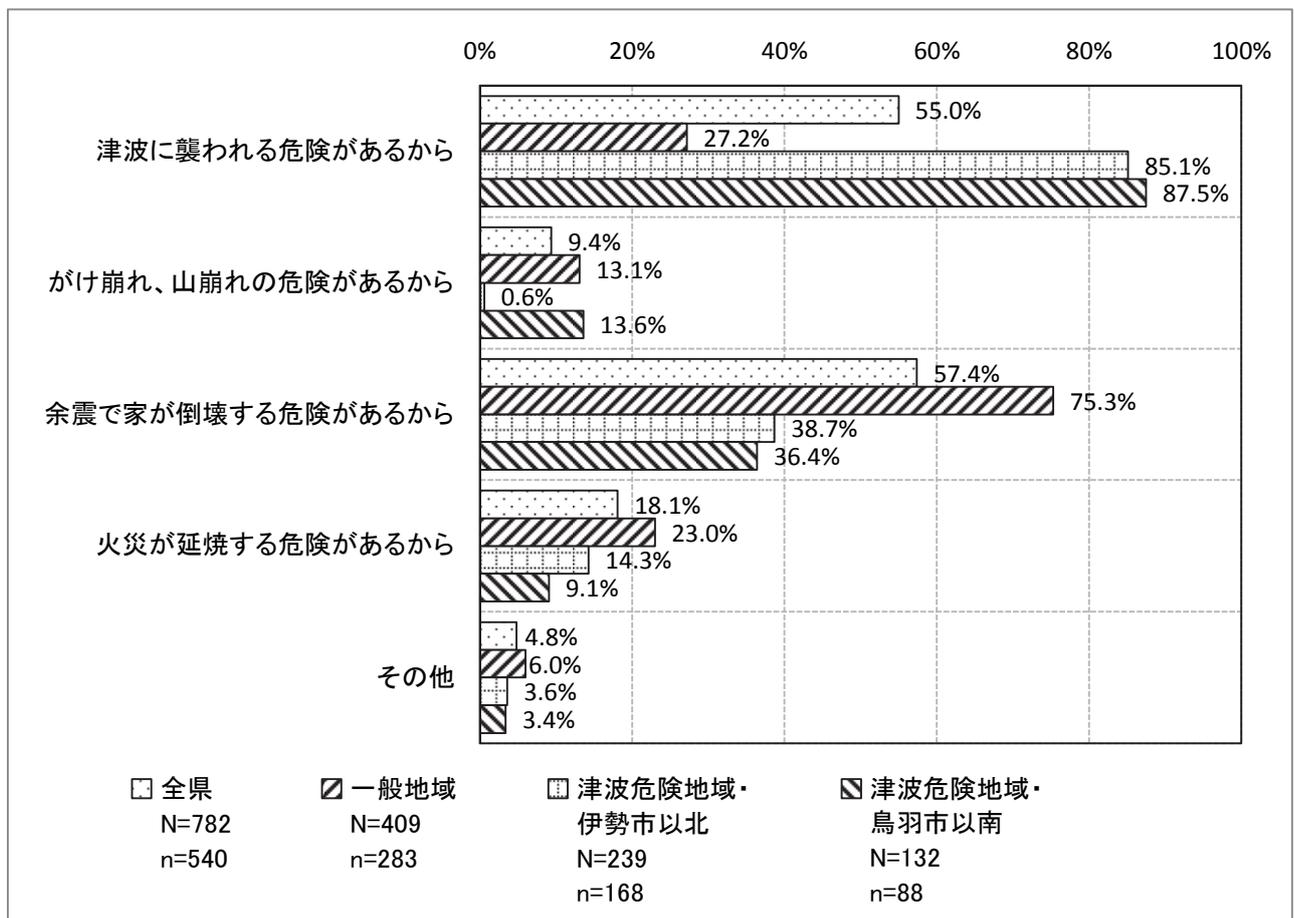
3.1.3 すぐに避難する理由

【問2-1】 問2で「1.すぐに避難する」と答えた方にお尋ねします。あなたが避難する主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 津波に襲われる危険があるから
2. がけ崩れ、山崩れの危険があるから
3. 余震で家が倒壊する危険があるから
4. 火災が延焼する危険があるから
5. その他 具体的に：

調査結果

図 3.1.3 すぐに避難する理由 -全県及び地域別- (複数回答)



すぐに避難する理由について、全県では「余震で家が倒壊する危険があるから」が最も多く 57.4%、次いで「津波に襲われる危険があるから」が 55.0%となっています。

地域別にみると、一般地域では「余震で家が倒壊する危険があるから」が最も多く 75.3%となっている一方、津波危険地域（伊勢市以北、鳥羽市以南）では、「津波に襲われる危険があるから」が 85.1%、87.5%と最も多くなっています。

「その他」の理由について、「避難所へ行った方が情報が得られる」、「多勢でいる事で、不安を軽減できる」、「人より行動がおそいので前もって行動する」等の記載がありました。

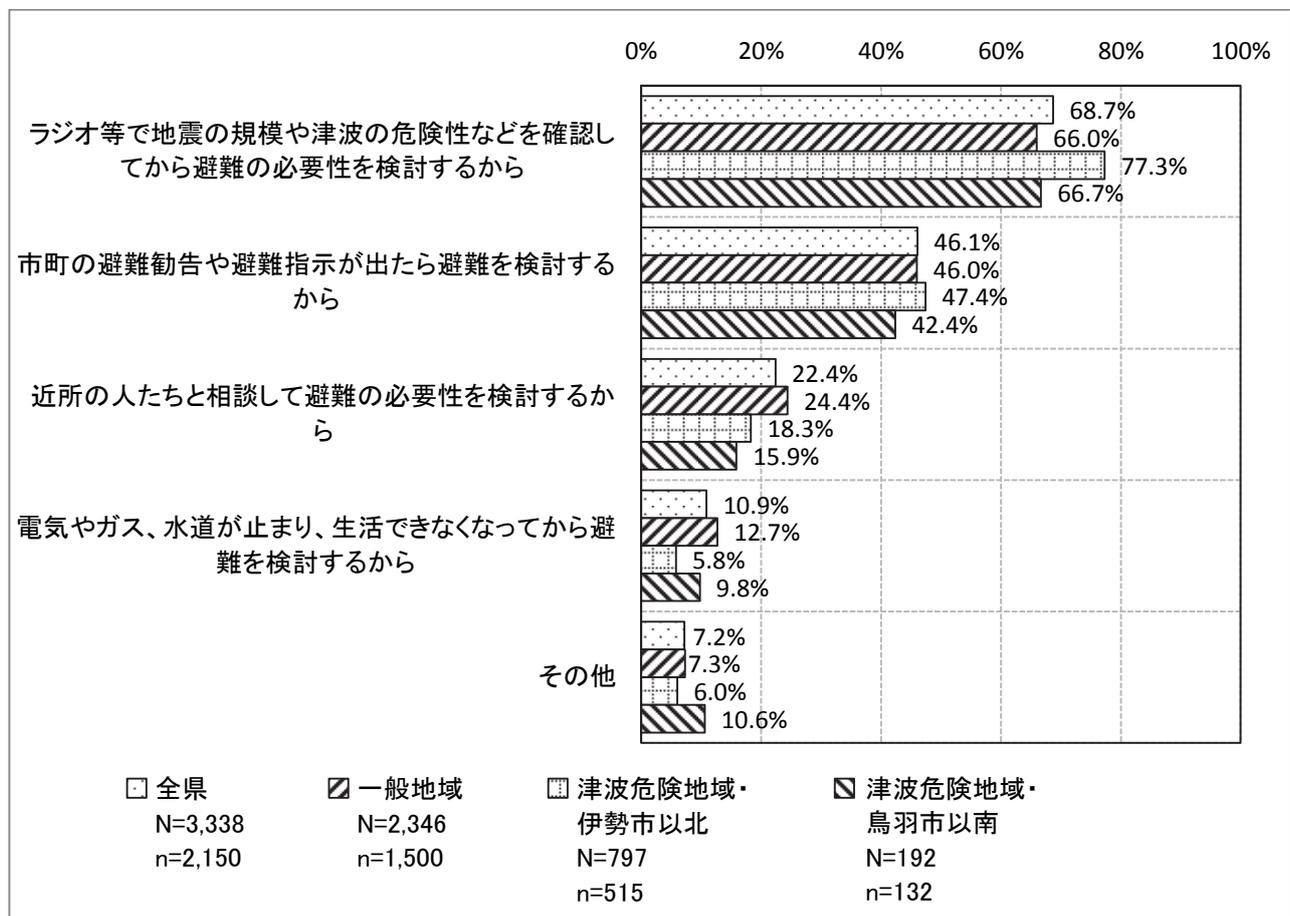
3.1.4 避難を遅らせる理由

【問 2-2】 問 2 で「2.しばらく様子を見てから避難する」と答えた方にお尋ねします。あなたが避難を遅らせる主な理由は何ですか。（いくつでも〇）

1. ラジオ等で地震の規模や津波の危険性などを確認してから避難の必要性を検討するから
2. 市町の避難勧告や避難指示が出たら避難を検討するから
3. 近所の人たちと相談して避難の必要性を検討するから
4. 電気やガス、水道が止まり、生活できなくなってから避難を検討するから
5. その他 具体的に：

調査結果

図 3.1.4 避難を遅らせる理由 -全県及び地域別-（複数回答）



避難を遅らせる理由について、「ラジオ等で地震の規模や津波の危険性などを確認してから避難の必要性を検討するから」が全県で最も多く 68.7%となっており、全ての地域で同様の傾向になっています。次いで「市町の避難勧告や避難指示が出たら避難を検討するから」が多くなっています。

「その他」の理由について、「夜遅く暗いので、様子を見て避難できると判断した時点で、すぐ避難する」、「小さな子供もいるし、その状況を判断してから避難する」、「被害状況を把握し、家族や親類の安否を出来る限り確認してからにする」等の記載がありました。

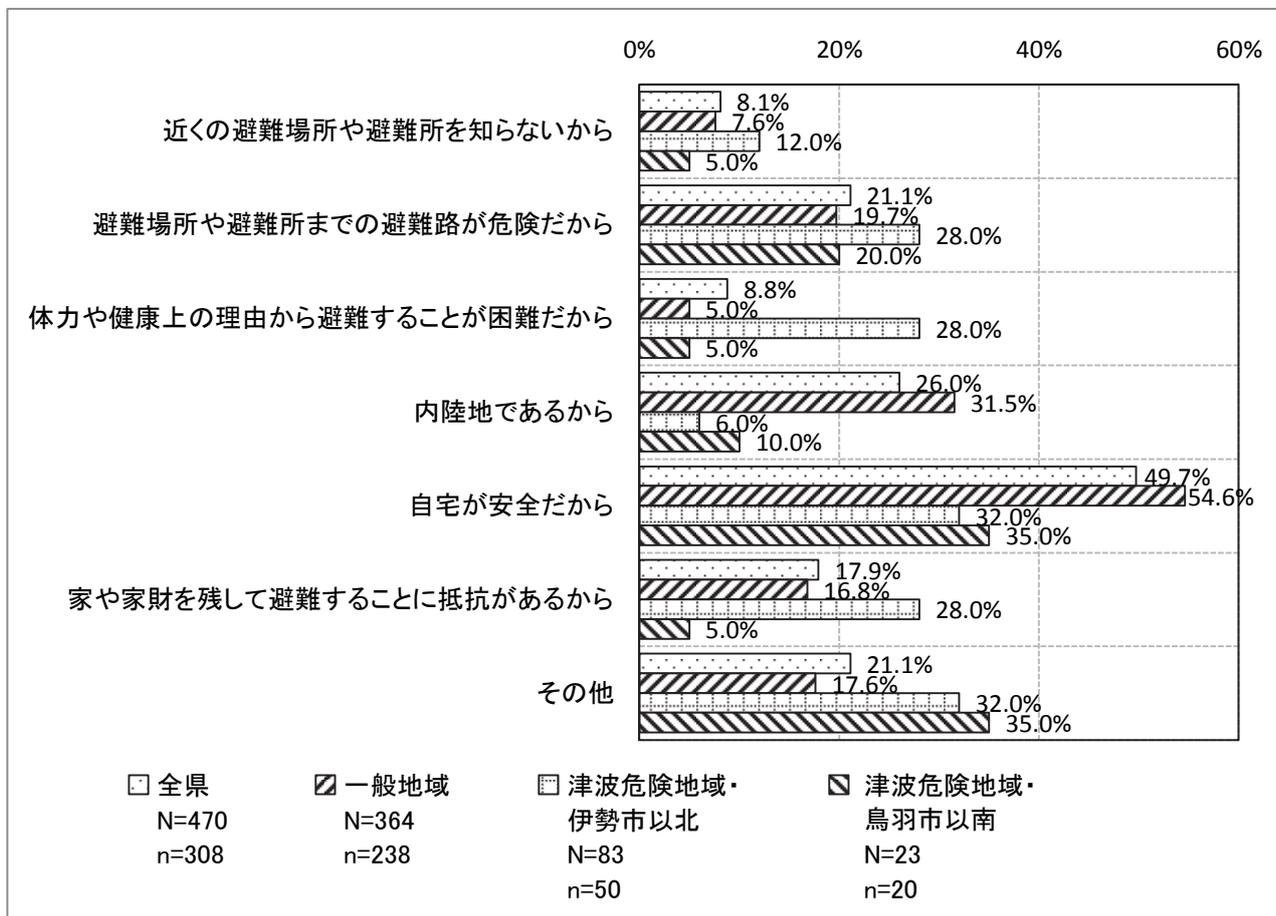
3.1.5 避難しない理由

【問 2-3】 問 2 で、「3.避難しない」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難しない理由として最もあてはまるものは次のうちどれですか。(いくつでも〇)

1. 近くの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 内陸地であるから
5. 自宅が安全だから
6. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
7. その他 具体的に：

調査結果

図 3.1.5 避難しない理由 -全県及び地域別- (複数回答)



避難しない理由について、全県では「自宅が安全だから」が49.7%と最も多くなっています。津波危険地域（伊勢市以北）では、28.0%の方が「家や家財を残して避難することに抵抗があるから」と回答しています。

「その他」の理由について、「夜中の移動は危険を伴うので、家に居られるならいる」、「年老いた親がいるから」、「ペットがいるから」等の記載がありました。

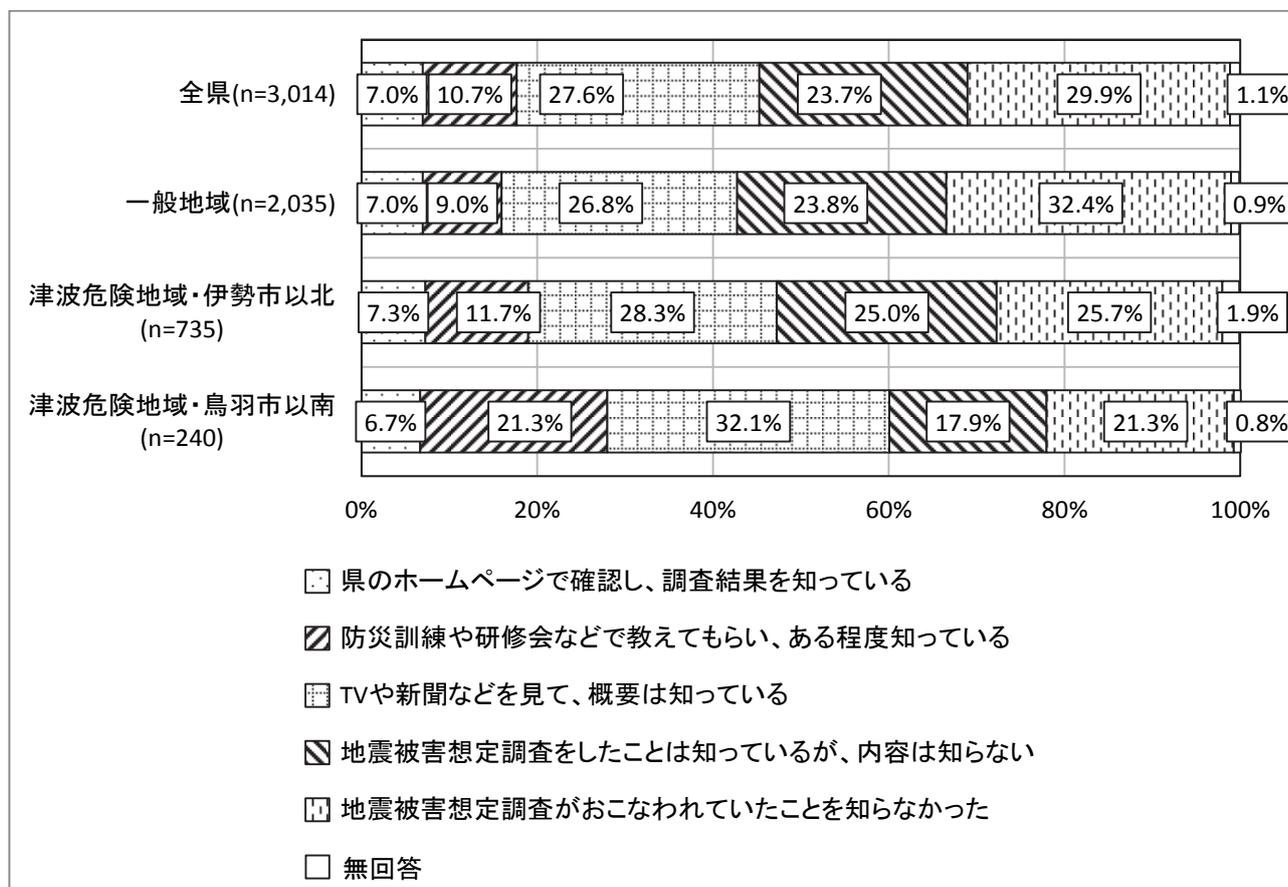
3.1.6 地震被害想定調査結果の認知度

【問 3】 三重県では、平成 26 年 3 月に三重県地震被害想定調査結果として、各地の震度予測や津波浸水予測などを公表しました。あなたは、この調査結果をご存知ですか。（一つだけ〇）

1. 県のホームページで確認し、調査結果を知っている
2. 防災訓練や研修会などで教えてもらい、ある程度知っている
3. TV や新聞などを見て、概要は知っている
4. 地震被害想定調査をしたことは知っているが、内容は知らない
5. 地震被害想定調査がおこなわれていたことを知らなかった

調査結果

図 3.1.6 地震被害想定調査結果の認知度 -全県及び地域別-



地震被害想定調査結果の認知度について、津波危険地域（鳥羽市以南）を除いた地域において「地震被害想定調査をしたことは知っているが、内容は知らない」と「地震被害想定調査がおこなわれていたことを知らなかった」を合わせると、半数以上の方が調査結果を知らないと回答しています。

3.1.7 浸水深 30cm到達時間予測図の認知度

【問 4】 問 3 の三重県地震被害想定調査結果では沿岸地域にある市町について、津波により浸水深 30 cm に到達するまでの時間予測図（*1）を公表しています。

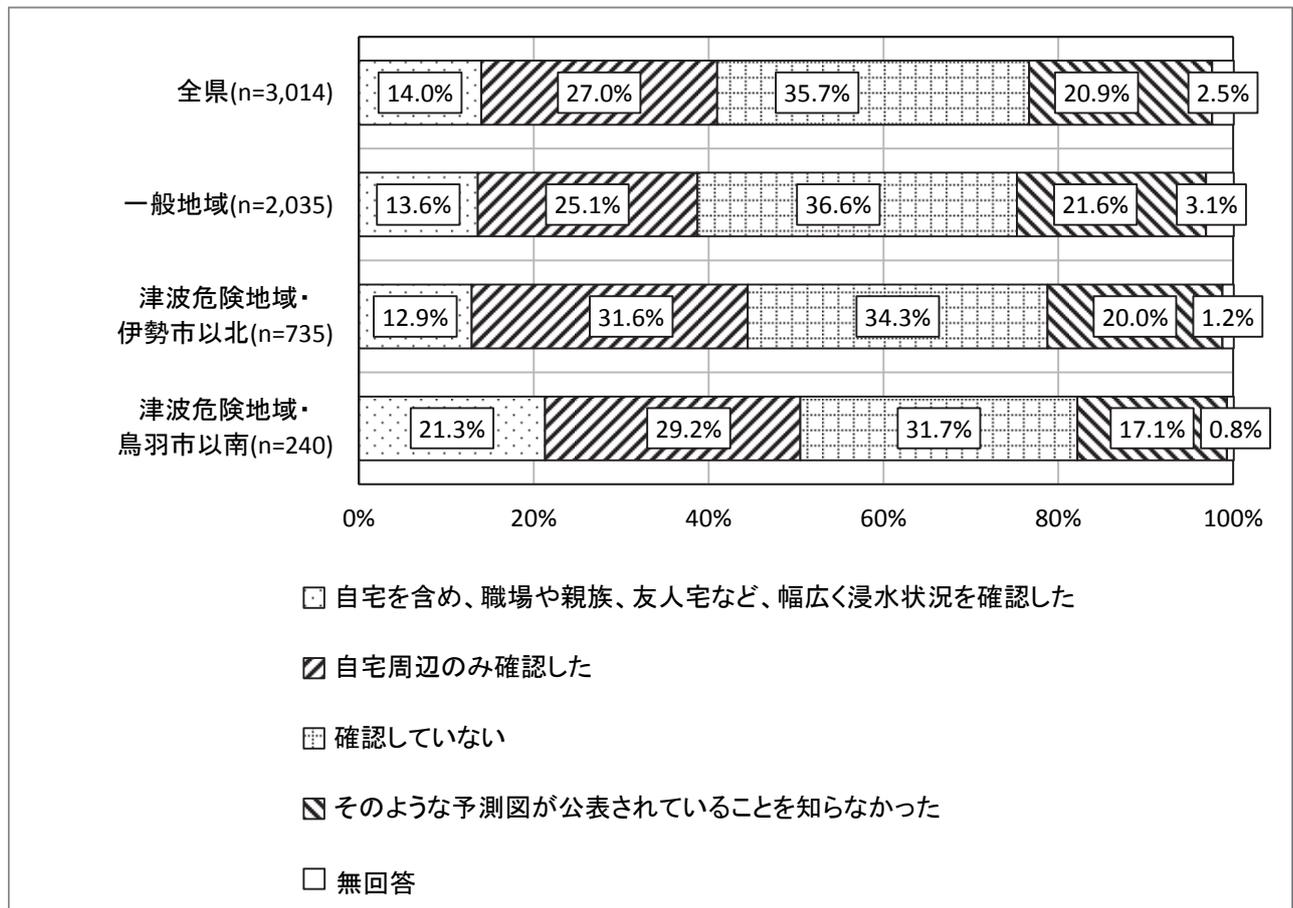
あなたは、ご自宅や職場、親族や友人の家などがどのように浸水するかを確認しましたか。（一つだけ〇）

1. 自宅を含め、職場や親族、友人宅など、幅広く浸水状況を確認した
2. 自宅周辺のみ確認した
3. 確認していない
4. そのような予測図が公表されていることを知らなかった

*1 浸水深 30 cm 時間予測図：津波からの避難行動がとれなく（動くことができなく）なる一つの目安とされている津波浸水深 30 cm に、どの場所がどのくらいの時間で達するかを時間に応じて色分けされた予測図です。

調査結果

図 3.1.7 浸水深 30 cm 到達時間予測図の認知度 - 全県及び地域別



浸水深 30 cm 到達時間予測図の認知度について、全県では「自宅周辺のみ確認した」、「自宅を含め、職場や親族、友人宅など、幅広く浸水状況を確認した」と回答された方が、41.0%となっています。

また、全ての地域において、約 5 人に 1 人が「そのような予測図が公表されていることを知らなかった」と回答しています。

3.2 風水害対策について

3.2.1 防災情報の認知度

【問5】 水害や土砂災害等の風水害が発生する危険性が高くなったときに出る防災情報のうち、あなたが既にご存知の情報はありますか。(いくつでも○)

1. 暴風警報
2. 大雨注意報や大雨警報
3. 洪水注意報や洪水警報
4. 高潮注意報や高潮警報
5. 土砂災害警戒情報
6. 竜巻注意情報
7. 水防警報
8. はん濫注意情報、はん濫警戒情報、はん濫危険情報
9. 避難準備（要援護者避難）情報
10. 避難勧告や避難指示

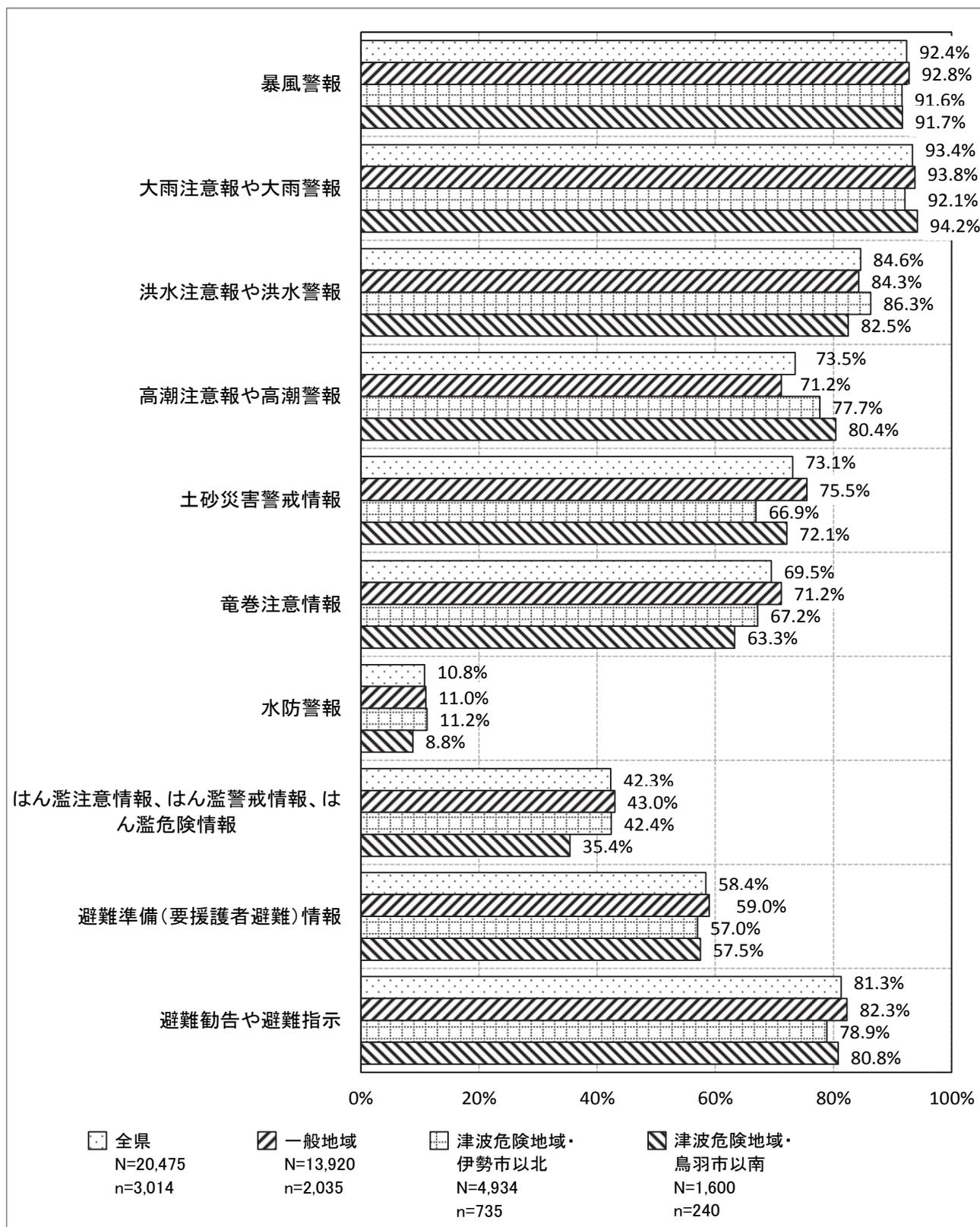
※避難準備（要援護者避難）情報：

「避難勧告」より前の段階で「人的被害の発生の可能性がある」と判断された時点で発令され、避難に時間を要する高齢者や障がい者等に避難開始を、その他の人々に避難準備を求めること

※避難勧告：対象地域の土地、建物などに被害発生する恐れのある場合に住民に対して行われる勧告

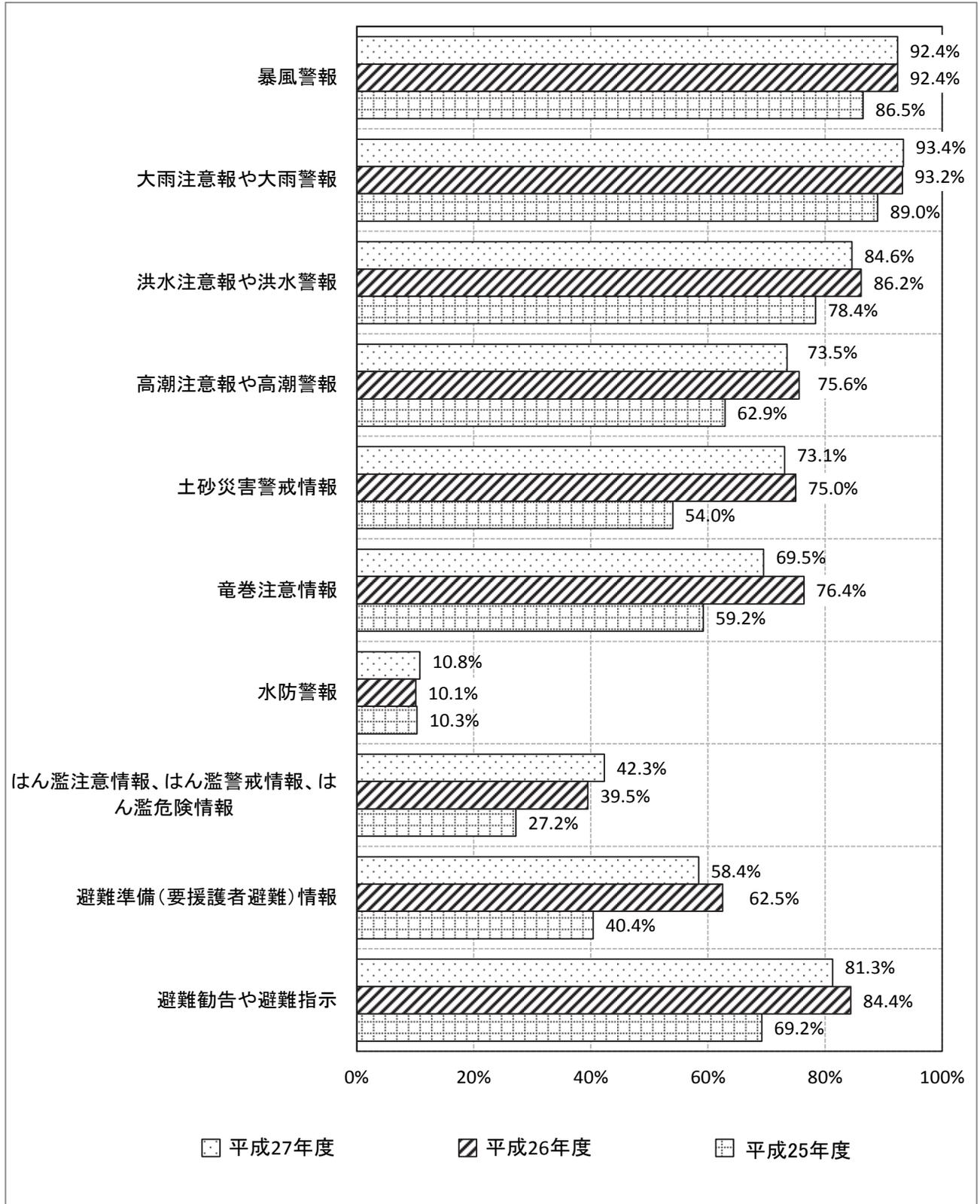
※避難指示：「避難勧告」よりも緊急度が高い災害等の場合に出される、さらに拘束力が強い指示

図 3.2.1 (1) 防災情報の認知度 -全県及び地域別- (複数回答)



防災情報の認知度を情報カテゴリで比較すると、「暴風警報」と「大雨注意報や大雨警報」の認知度がいずれの地域でも高く、9割を超える回答を得ています。次いで「洪水注意報や洪水警報」、「避難勧告や避難指示」が8割を超える結果となりました。

図 3.2.1 (2) 防災情報の認知度 -全県経年変化- (複数回答)



防災情報の認知度の経年変化を見ると、昨年度に概ね高まった防災情報の認知度が、今年度は逆に低下しています。

3.2.2 特別警報の理解度

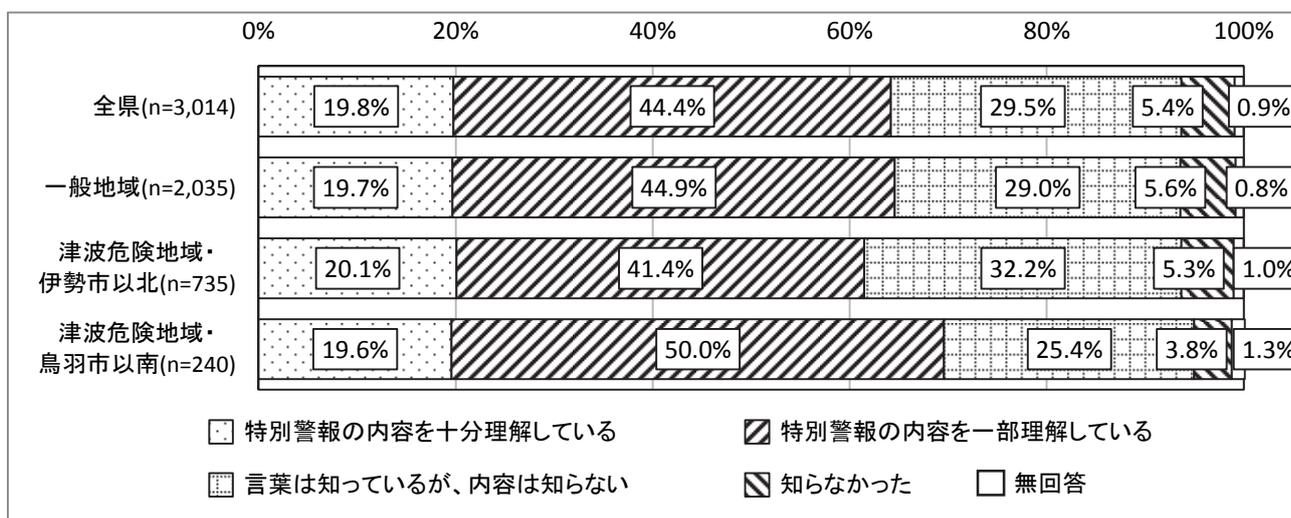
【問 5-1】 気象庁はこれまでの大雨、地震、高潮、津波などで発表していた警報に加え、平成25年8月30日から、これらの警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合に、新たに「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼び掛けることになりました。

あなたは、この特別警報について、どの程度ご存知ですか。(一つだけ〇)

1. 特別警報の内容を十分理解している
2. 特別警報の内容を一部理解している
3. 言葉は知っているが、内容は知らない
4. 知らなかった

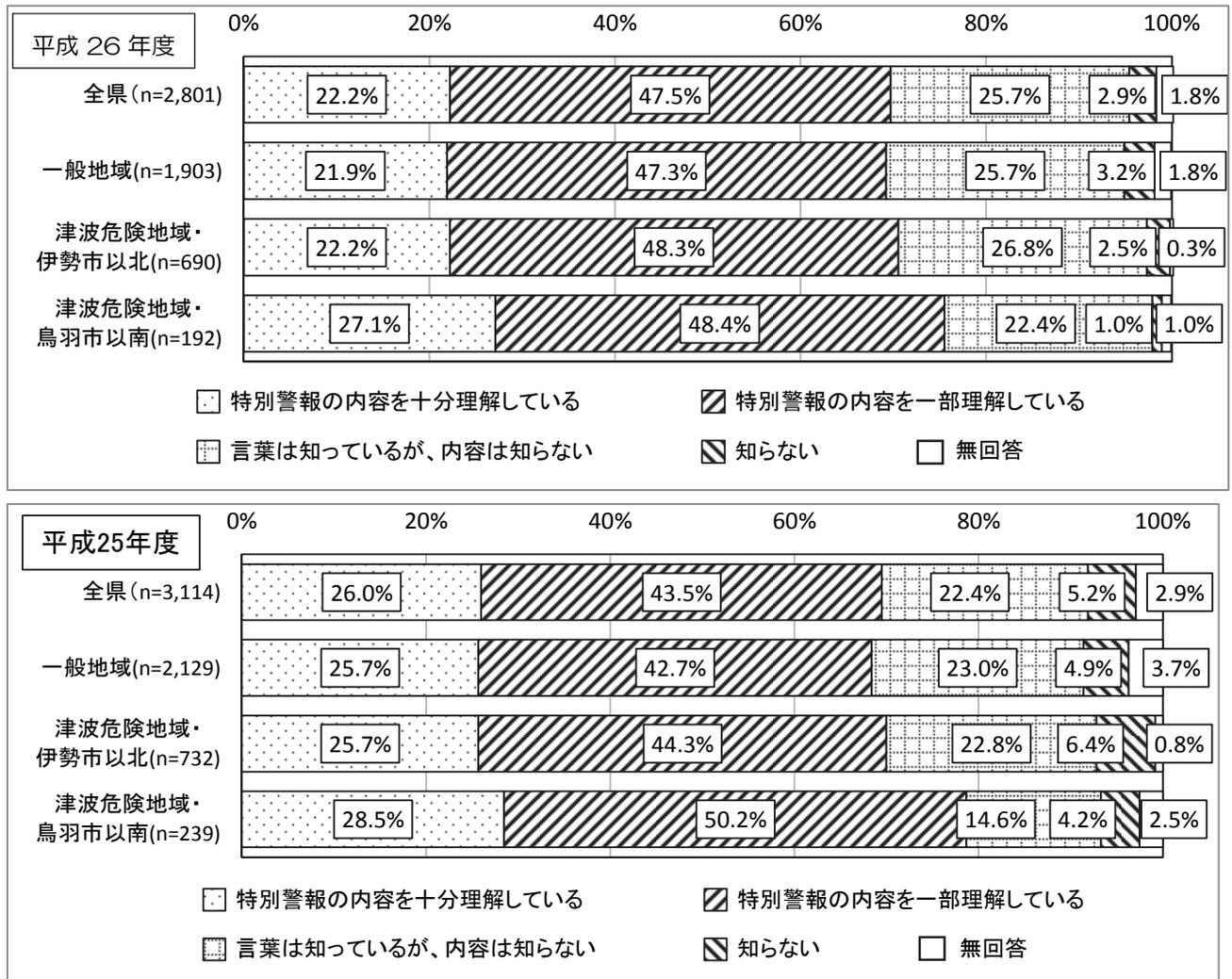
調査結果

図 3.2.2 (1) 特別警報の理解度 -全県及び地域別-



特別警報の理解度について、全県では「特別警報の内容を十分理解している」人が19.8%、「特別警報の内容を一部理解している」人が44.4%と、約7割の方が内容を理解されている一方、「言葉は知っているが、内容は知らない」や特別警報そのものを「知らなかった」と約3割の方が回答しています。

図 3.2.2 (2) 特別警報の理解度 -全県及び地域別経年変化-



経年変化を見ても理解度は減少傾向にあり、「言葉は知っているが、内容は知らない」・「知らない」人が増加傾向にあります。

3.2.3 風水害による危険性の認知度

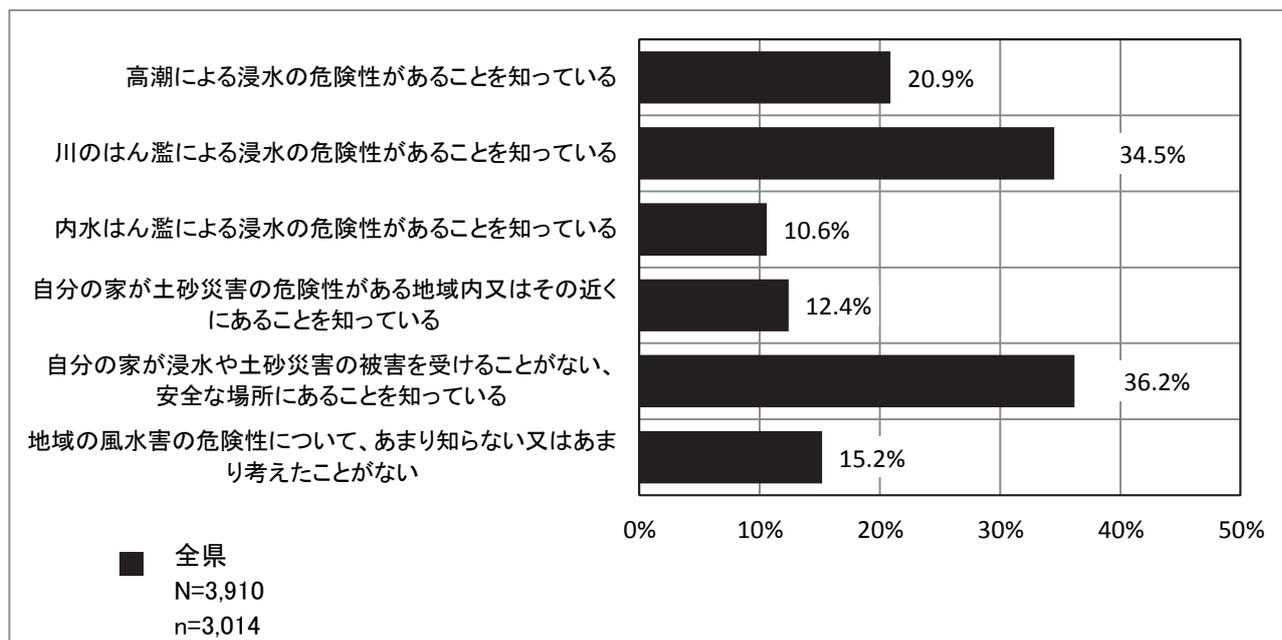
【問6】 あなたがお住まいの地域の風水害（高潮や川のはん濫、土石流、がけ崩れ、地すべりなど）の危険性について、どの程度ご存知ですか。（いくつでも○）

- 1. 高潮による浸水の危険性があることを知っている
 - 2. 川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている
 - 3. 内水はん濫による浸水の危険性があることを知っている
 - 4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内又はその近くにあることを知っている
 - 5. 自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあることを知っている
 - 6. 地域の風水害の危険性について、あまり知らない又はあまり考えたことがない
- 問6-1へ
→問6-1へ
→問7へ
→問7へ

※内水はん濫：局地的大雨などで下水道施設や小河川の水位が増加し、排水が間に合わずに溢れ出した水により、建物や土地、道路が浸水する風水害

調査結果

図 3.2.3 風水害による危険性の認知度 -全県-（複数回答）



風水害による危険性の認知度について、「地域の風水害の危険性について、あまり知らない又はあまり考えたことがない」と15.2%の方が回答しています。

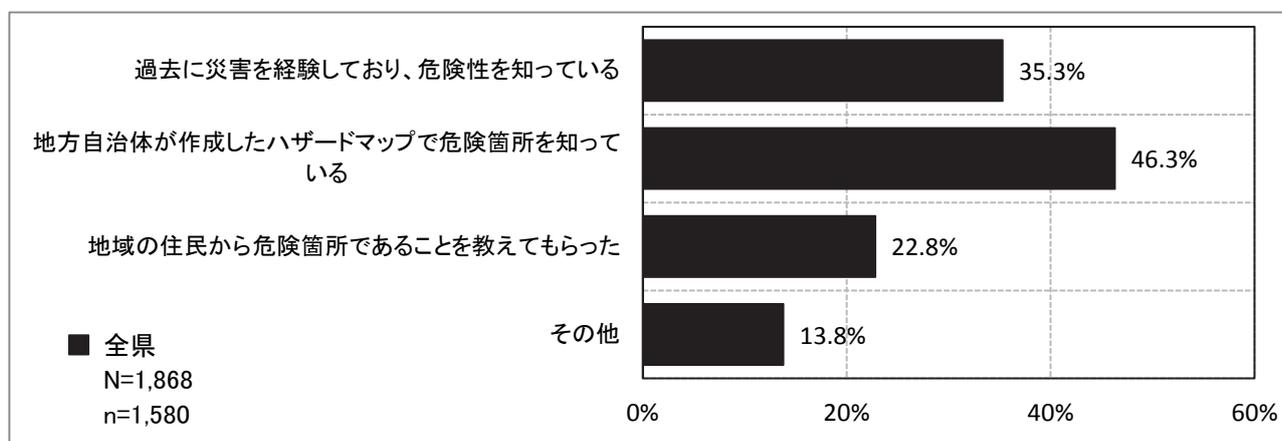
3.2.4 風水害の危険性の情報入手先

【問 6-1】 問 6 で、「1. 高潮による浸水の危険性があることを知っている」、「2. 川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」、「3. 内水はん濫による浸水の危険性があることを知っている」、「4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内又はその近くにあることを知っている」と回答された方にお尋ねします。あなたのお住まいの地域に危険があることを何でお知りになりましたか。(いくつでも○)

1. 過去に災害を経験しており、危険性を知っている
2. 地方自治体が作成したハザードマップで危険箇所を知っている
3. 地域の住民から危険箇所であることを教えてもらった
4. その他 具体的に：

調査結果

図 3.2.4 風水害の危険性の情報入手先 -全県-



風水害の危険性の情報入手先については、全県では、「地方自治体が作成したハザードマップで危険箇所を知っている」が46.3%と最も多くなっています。次いで「過去に災害を経験しており、危険性を知っている」が35.3%となっています。

3.2.5 局地的な大雨等からの避難

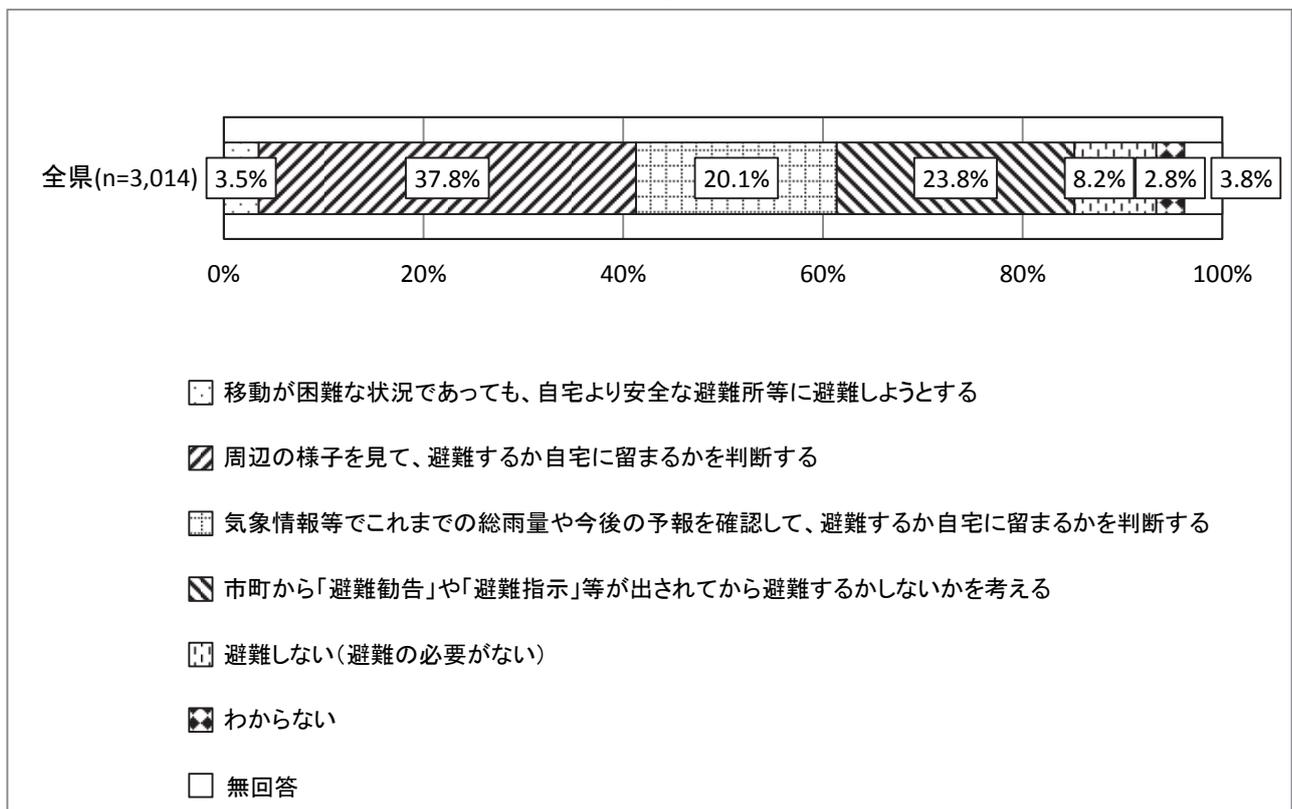
【問 7】 近年、国内では局地的な大雨が頻発し、甚大な浸水被害や土砂災害が発生しています。あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降り出し、降り続いたとします。あなたは、このような状況において、どのような避難行動を取りますか。

(一つだけ○)

1. 移動が困難な状況であっても、自宅より安全な避難所等に避難しようとする
2. 周辺の様子を見て、避難するか自宅に留まるかを判断する
3. 気象情報等でこれまでの総雨量や今後の予報を確認して、避難するか自宅に留まるかを判断する
4. 市町から「避難勧告」や「避難指示」等が出されてから避難するかしないかを考える
5. 避難しない(避難の必要がない)
6. わからない

調査結果

図 3.2.5 局地的な大雨等からの避難 -全県-



局地的な大雨等からの避難について、全県で37.8%の方が「周辺の様子を見て、避難するか自宅に留まるかを判断する」と回答しています。

3.2.6 台風時等の避難行動

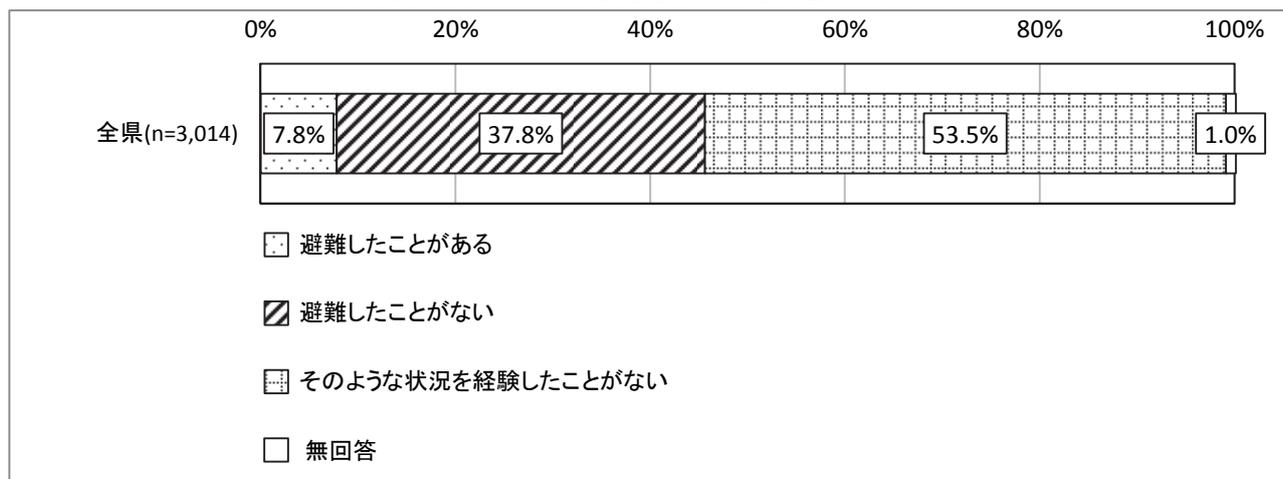
【問 8】 あなたは、台風や大雨などによる避難勧告等がお住まいの地域に発表されるなど身の回りに危険が近づいている状況で、自宅から離れた安全な場所に避難した経験がありますか。

(一つだけ〇) <見直し>

- 1. 避難したことがある →問 9 へ
- 2. 避難したことがない →問 8-1 へ
- 3. そのような状況を経験したことがない →問 9 へ

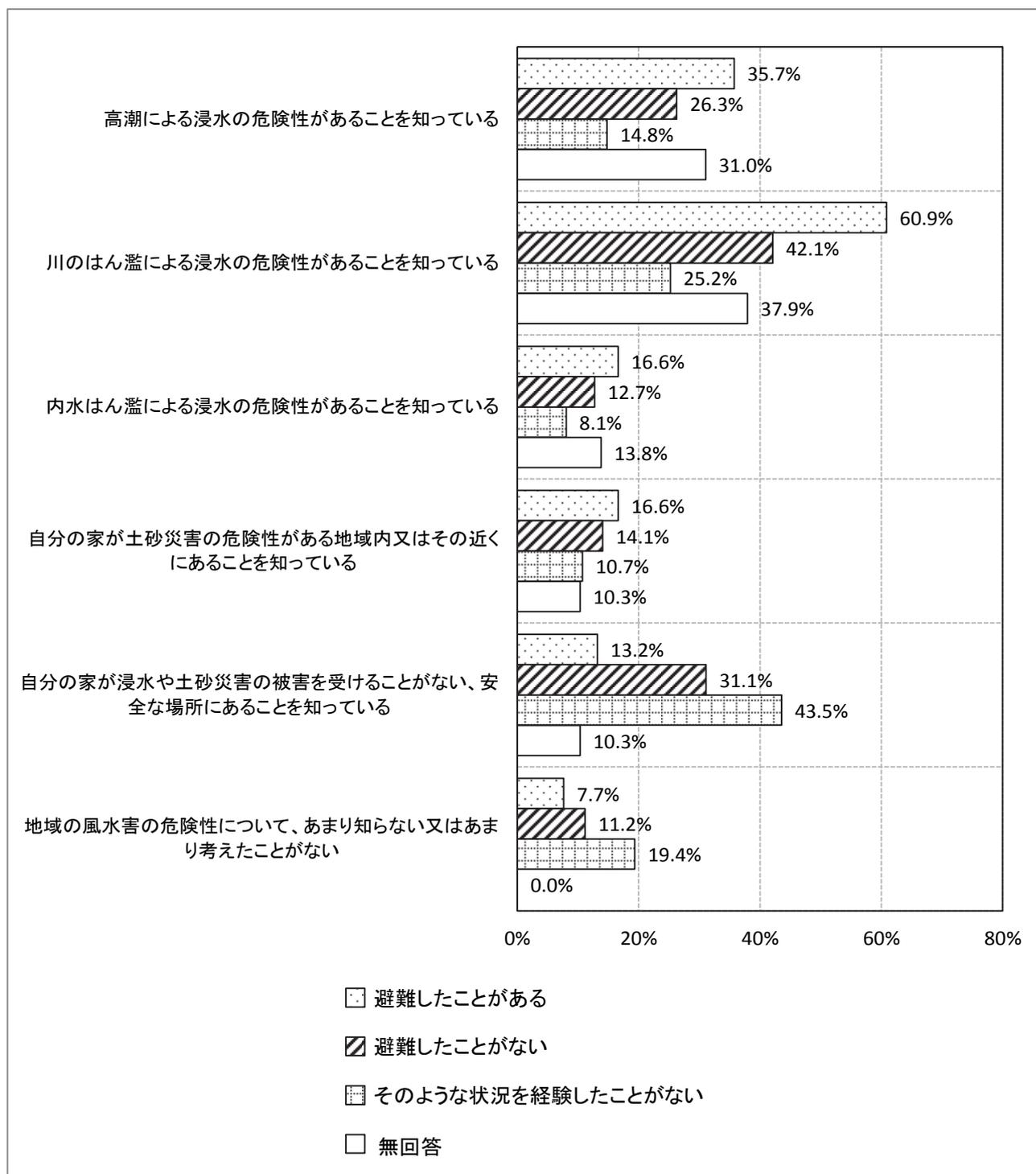
調査結果

図 3.2.6 (1) 台風時等の避難行動 -全県-



「台風時等の避難行動」については、全県では、避難勧告等を経験した人のうち約8割が避難したことがないと回答しています。(「避難したことがある」+「避難したことがない」と回答した人の割合を10とした場合)

図 3.2.6 (2) 台風等の避難行動
-問 6 (風水害の危険性の認知度) とのクロス集計-



台風時等の避難行動を問 6 (風水害による危険性の認知度) とのクロス集計でみると、避難勧告等が出されている状況で、お住まいの地域が「川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」方のうち、約 6 割が「避難したことがある」と回答しています。

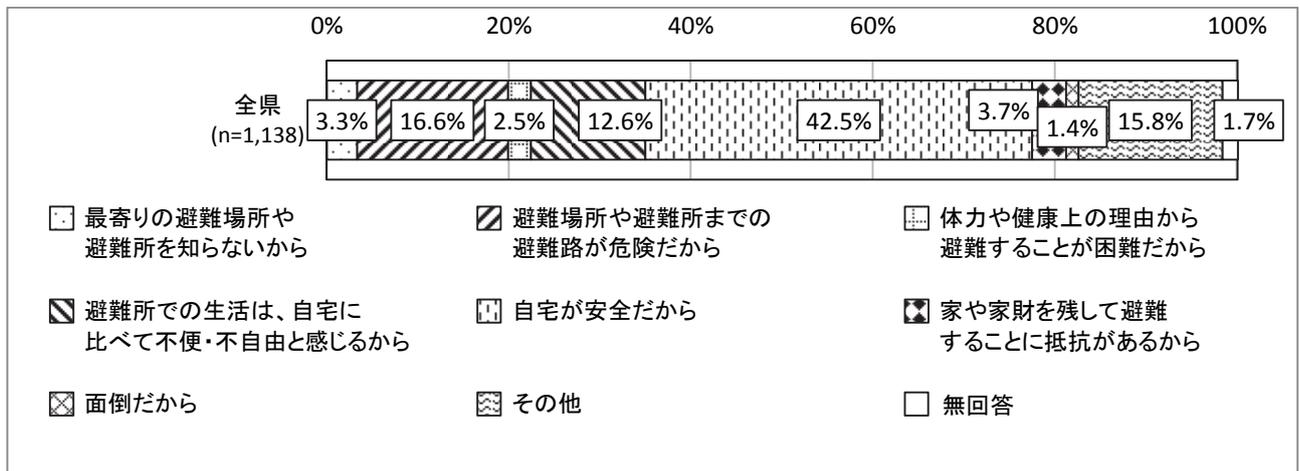
3.2.7 台風時等に避難しない理由

【問 8-1】 問 8 で、「2.避難したことがない」と回答された方にお尋ねします。あなたが台風時等に避難しない理由として最もあてはまるものは次のうちどれですか。(一つだけ〇)

1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由とを感じるから
5. 自宅が安全だから
6. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
7. 面倒だから
8. その他 具体的に：

調査結果

図 3.2.7 (1) 台風時等に避難しない理由 -全県-

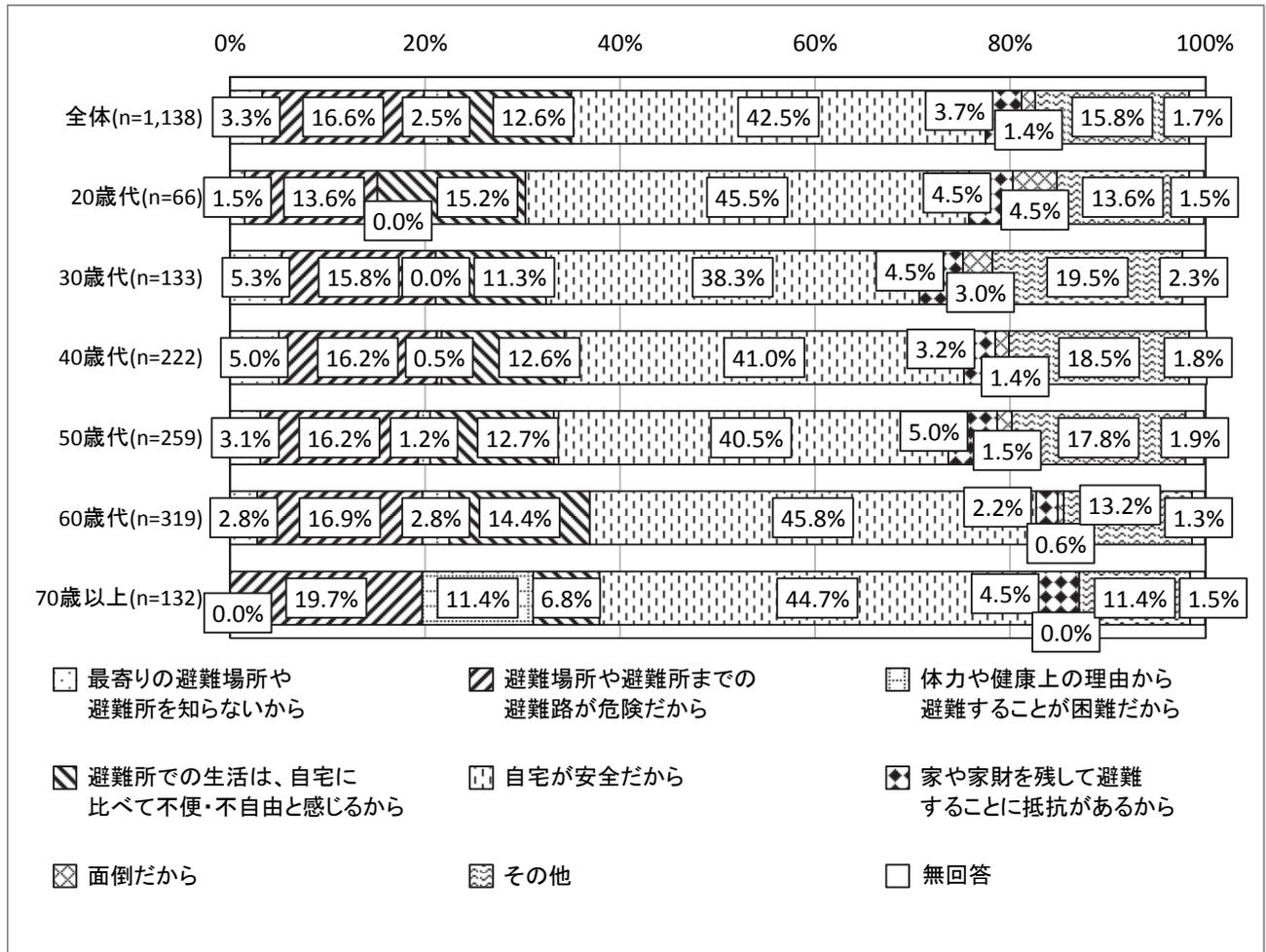


避難勧告等の時に避難しない理由については、「自宅が安全だから」が全ての地域で最も多くなっています。

「避難場所や避難所までの避難路が危険だから」と「避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由とを感じるから」も理由の一つとなっています。

「その他」の理由として、「避難の必要がないと感じたから」、「まあ、今回は大丈夫だと思ったから」、「犬や猫がいるので」などの記載がありました。

図 3.2.7 (2) 台風時等に避難しない理由 -全体及び年代別-



避難勧告等の時に避難しない理由について年代別にみると、「自宅が安全だから」が全ての年代で最も多くなっています。

なお、70歳以上で、「体力や健康上の理由から避難することが困難だから」が他の年代と比較して多くなっています。

3.2.8 「垂直避難などの避難行動」の認知度

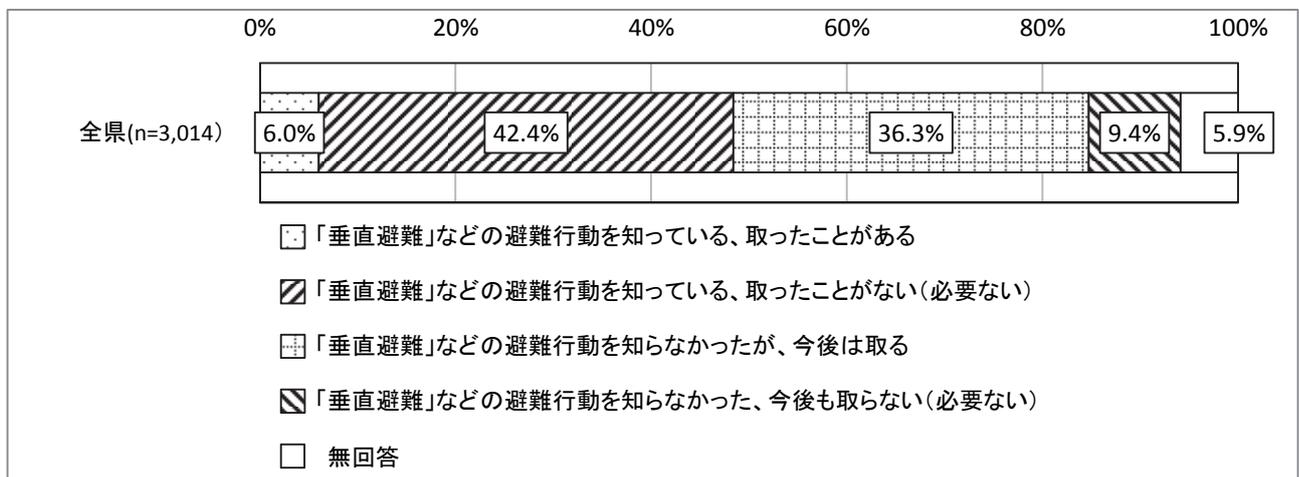
【問9】 局地的な大雨など、避難場所や避難所への移動がかえって危険を伴う場合、「垂直避難」などの行動を取ることが望まれますが、このような避難行動についてあなたの経験や考えにもっとも近いのは次のうちどれですか。(一つだけ〇) <新規>

1. 「垂直避難」などの避難行動を知っている、取ったことがある
2. 「垂直避難」などの避難行動を知っている、取ったことがない(必要ない)
3. 「垂直避難」などの避難行動を知らなかったが、今後は取る
4. 「垂直避難」などの避難行動を知らなかった、今後も取らない(必要ない)

※「垂直避難」：近隣のより安全な家や場所に移動し、2階建て以上の家の場合、浸水の危険がある場所では上層階の部屋、土砂災害の危険性がある場所では上層階の山と反対側の部屋といったより安全な部屋に移動することを言います。

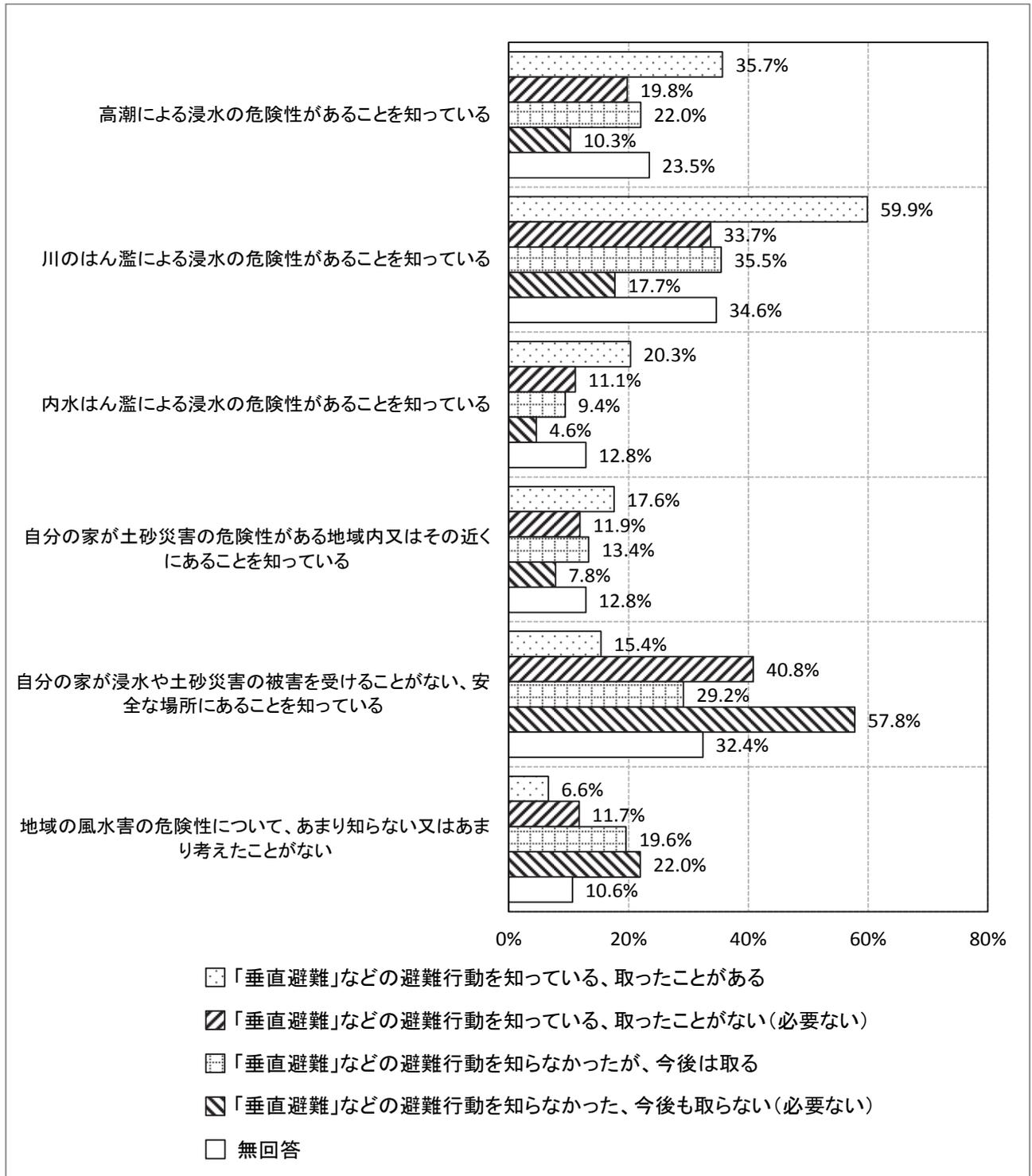
調査結果

図 3.2.8 (1) 「垂直避難などの避難行動」の認知度 -全県-



「垂直避難」などの避難行動の認知度については、「垂直避難」などの避難行動を知らなかったが、今後は取る」と回答した方が36.3%に達し、これら避難行動の周知を図る必要性が確認できました。さらに、「今後も取らない」方は約1割で、この対策の有効性は高いと言えます。

図 3.2.8 (2) 「垂直避難などの避難行動」の認知度
 -問 6 (風水害による危険性の認知度) とのクロス集計-



「垂直避難」などの避難行動の認知度を問 6 (風水害による危険性の認知度) とのクロス集計で見ると、お住まいの地域が「川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」方のうち、6 割が「垂直避難の行動を知っている、取ったことがある」と回答しています。

3.3 防災全般について

3.3.1 家庭での防災対策の状況

【問 10】 あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。

(いくつでも○)

1. 3日以上の飲料水を備蓄している（ご家族ひとり一日あたり3リットルとして計算してください）
2. 3日以上の食料を常に確保している
3. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
4. 災害が起きたとき避難する場所を決めている
5. 災害用伝言ダイヤル（171）や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用など、家族間の連絡方法を決めている
6. 家族がバラバラになったときの待ち合わせ場所を決めている
7. 携帯電話やスマートフォンの予備電源を確保している
8. 自家用車の燃料メーターが半分程度になった時点で、満タン給油している
9. お風呂にいつも水を入れてある
10. ガラスが壊れて飛び散らないよう防止対策をしている
11. 消火器を用意している
12. 懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている
13. 懐中電灯や携帯ラジオの電池交換など、こまめに点検している
14. 枕元にスリッパを置いている
15. いつも笛を身につけている
16. 本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
17. 寝室に転倒の危険性のある家具類などを置いていない
18. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
19. 風水害等に備えて土のう等を準備している
20. その他 具体的に：
21. 特に対策をとっていない

図 3.3.1 (1) ① 家庭での防災対策の状況 -全県及び地域別- (複数回答)

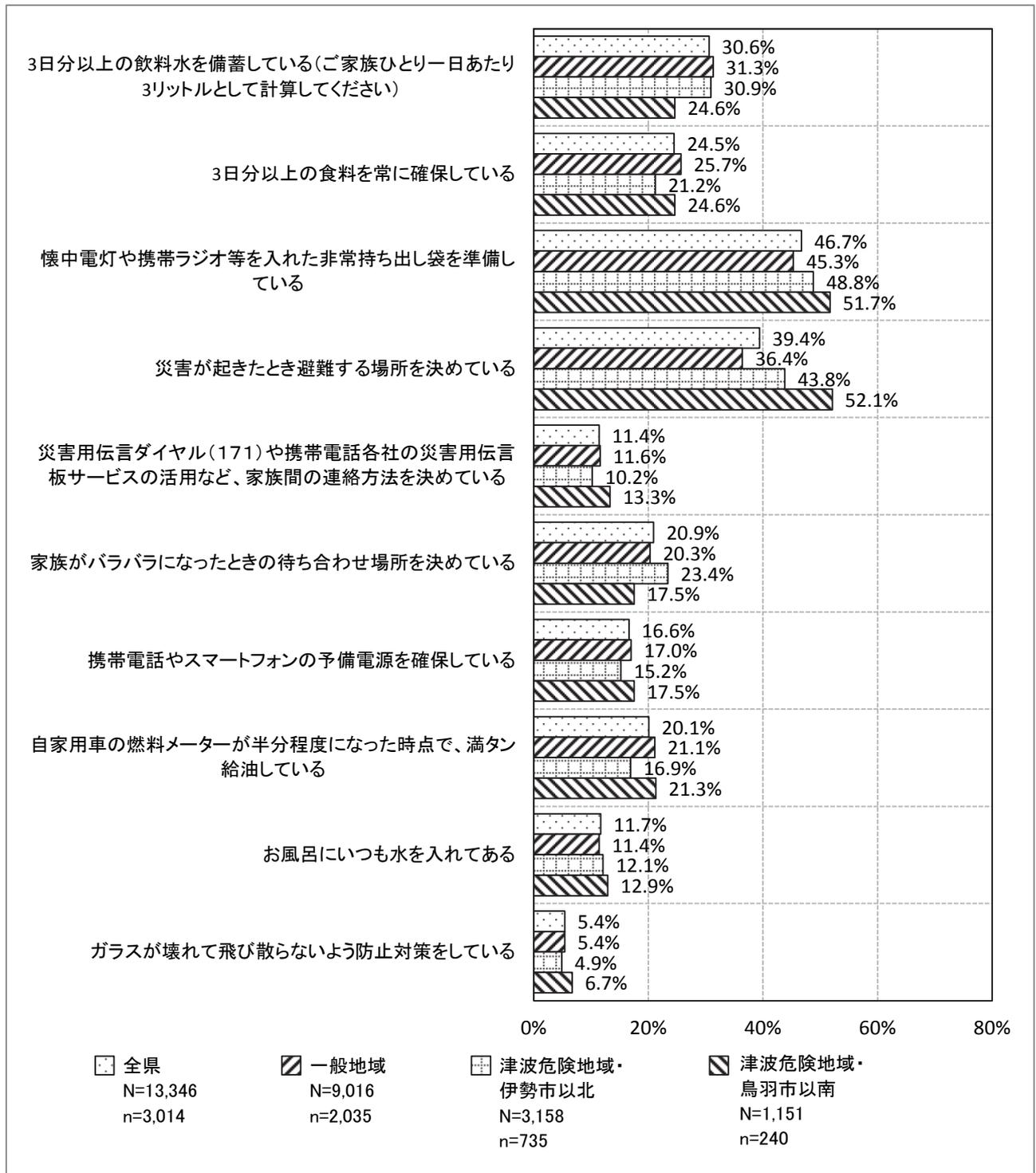
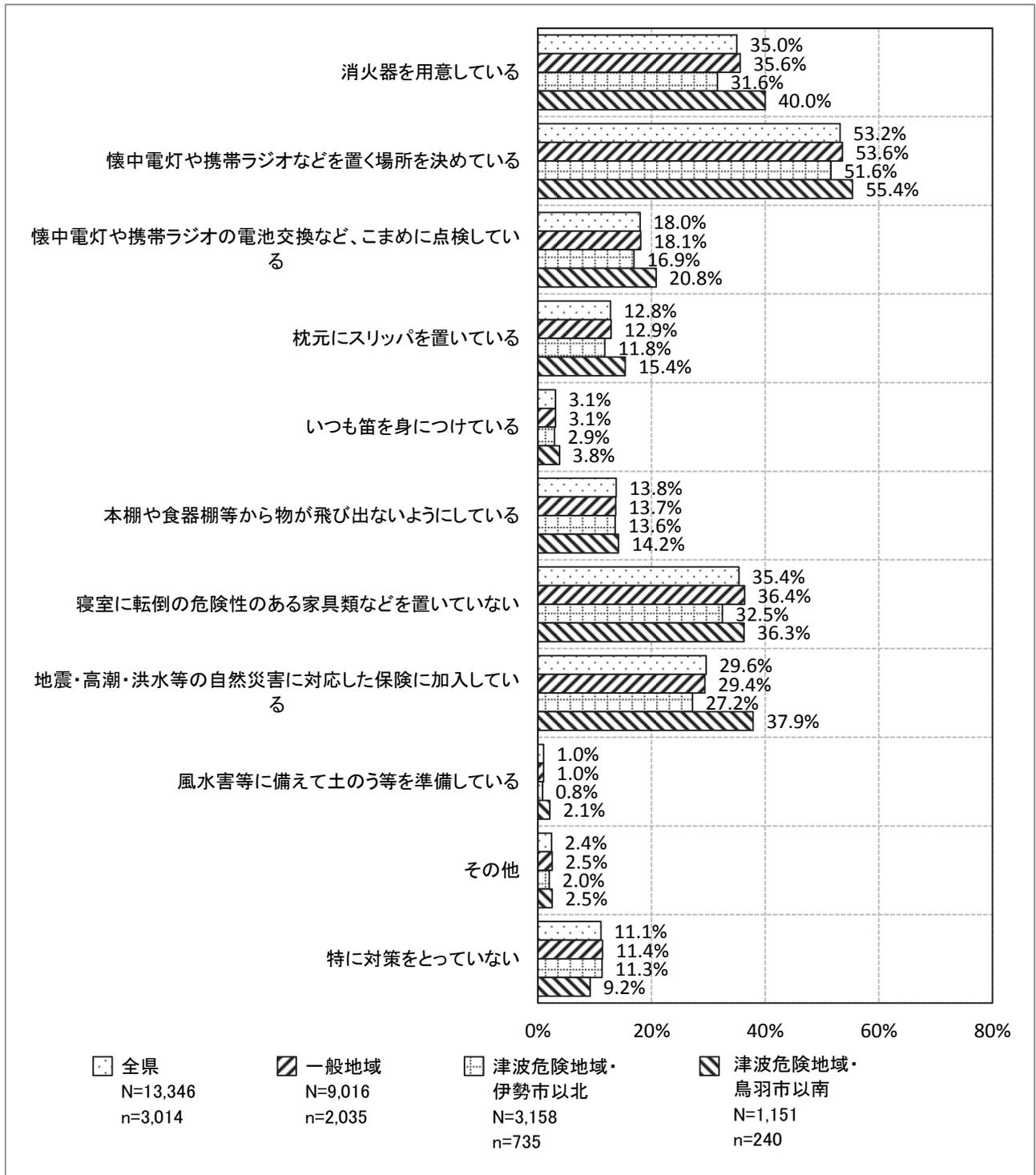


図 3.3.1 (1) ② 家庭での防災対策の状況 -全県及び地域別- (複数回答)



家庭での防災対策の状況について、全ての地域において「懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている」、「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」が多くなっています。

なお、津波危険地域（鳥羽市以南）を見ると、「災害が起きたとき避難する場所を決めている」が52.1%、「地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している」が37.9%と他の地域を大きく上回っています。

「その他」の防災対策について、「1～2日分位は非常食がある」「携帯電話を枕元に置いて寝る」「ガス卓上3本とガスコンロを用意している」「家族で定期的に災害について話し合いをする（こんな時にはどうするかなど、例を上げて）」「9月1日に非常時持ち出し袋の点検をする」などの記載がありました。

図 3.3.1 (2) ① 家庭での防災対策の状況 -全県経年変化- (複数回答)

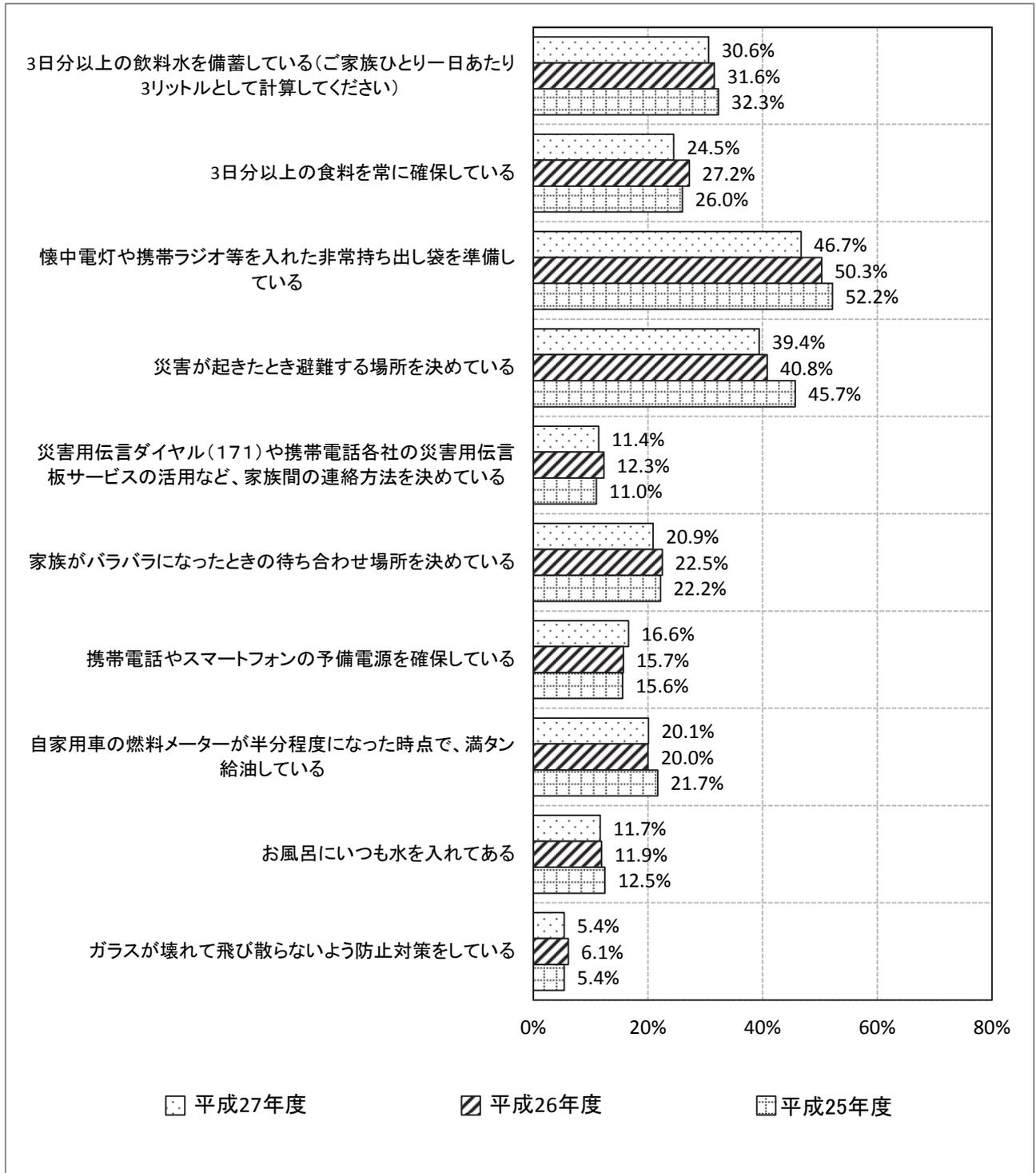
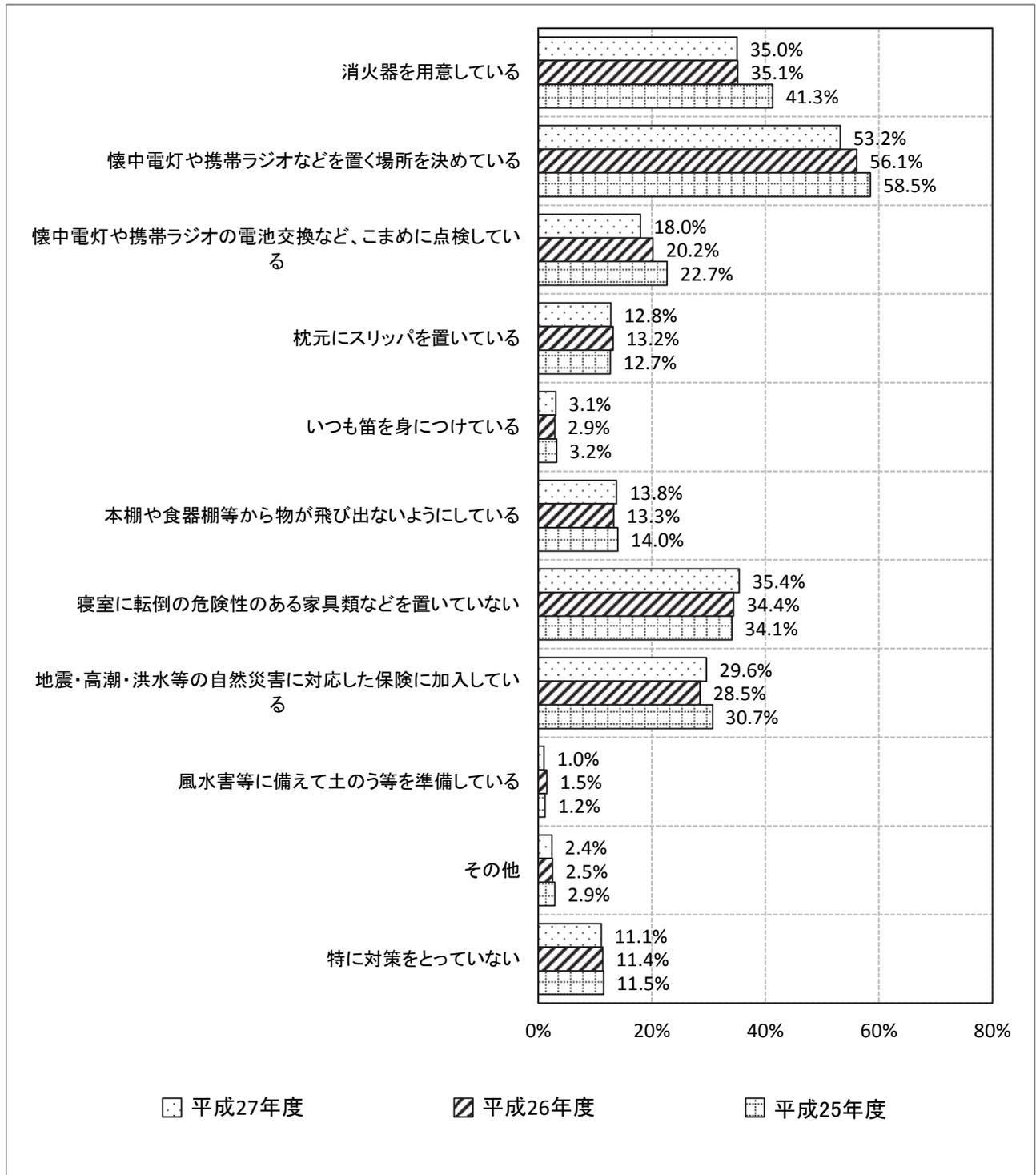
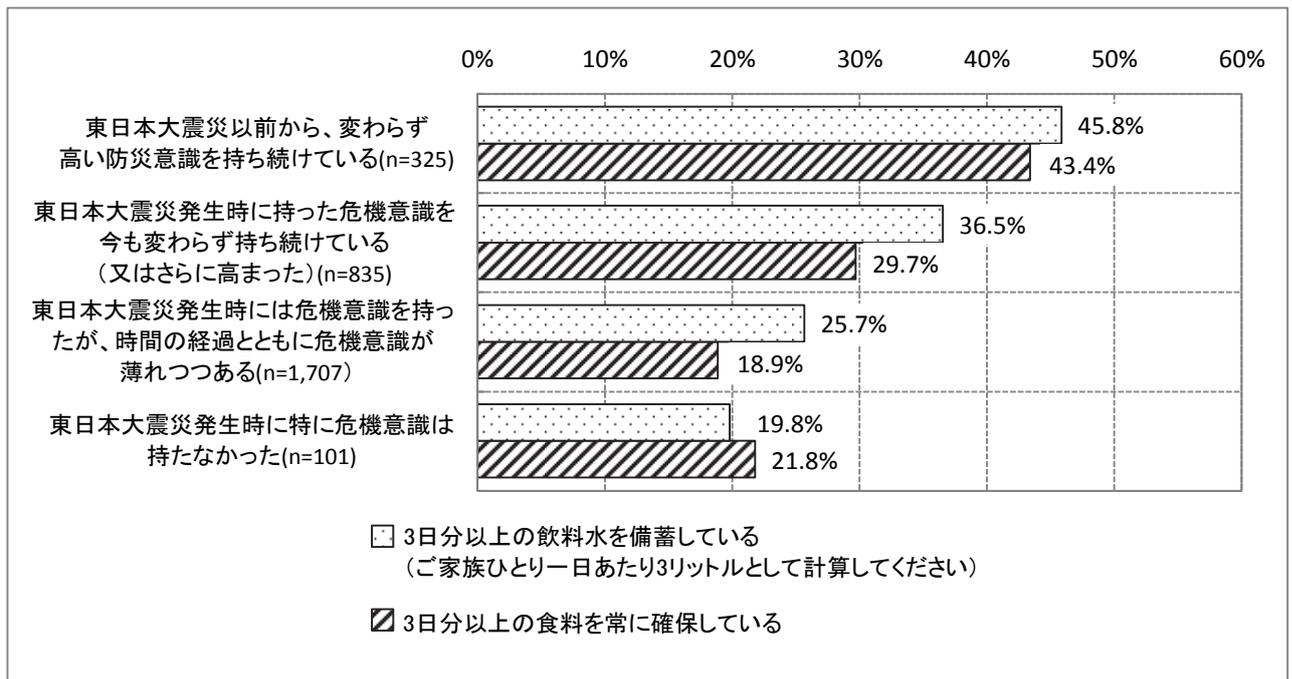


図 3.3.1 (2) ② 家庭での防災対策の状況 -全県経年変化- (複数回答)



家庭での防災対策の状況について、経年変化を取っても全般として顕著な変化はありませんが、減少傾向にある項目が多くなっています。

図 3.3.1 (3) 家庭での防災対策の状況
 -問 1 (大震災発生後の防災意識の変化) とのクロス集計-



問 1 (大震災発生後の防災意識の変化) とのクロス集計をみると、防災意識が高いほど、「3日以上の飲料水を備蓄している」方が多くなっています。

3.3.2 家具固定の不備による危険度

【問 11】 ご自宅では、家具類や冷蔵庫、テレビなどが転倒しないよう固定をしていますか。
(一つだけ〇)

1. 大部分固定している →問 12 へ

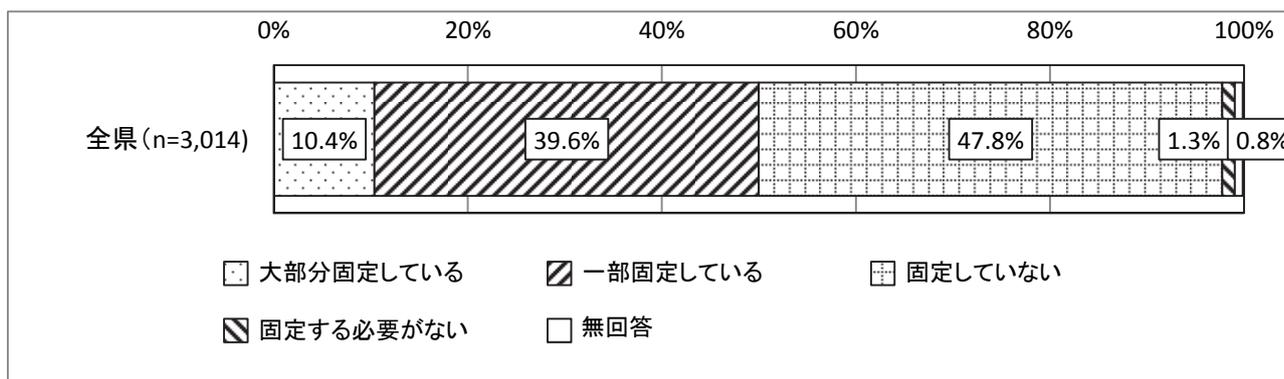
2. 一部固定している } →問 11-1 へ

3. 固定していない

4. 固定する必要がない

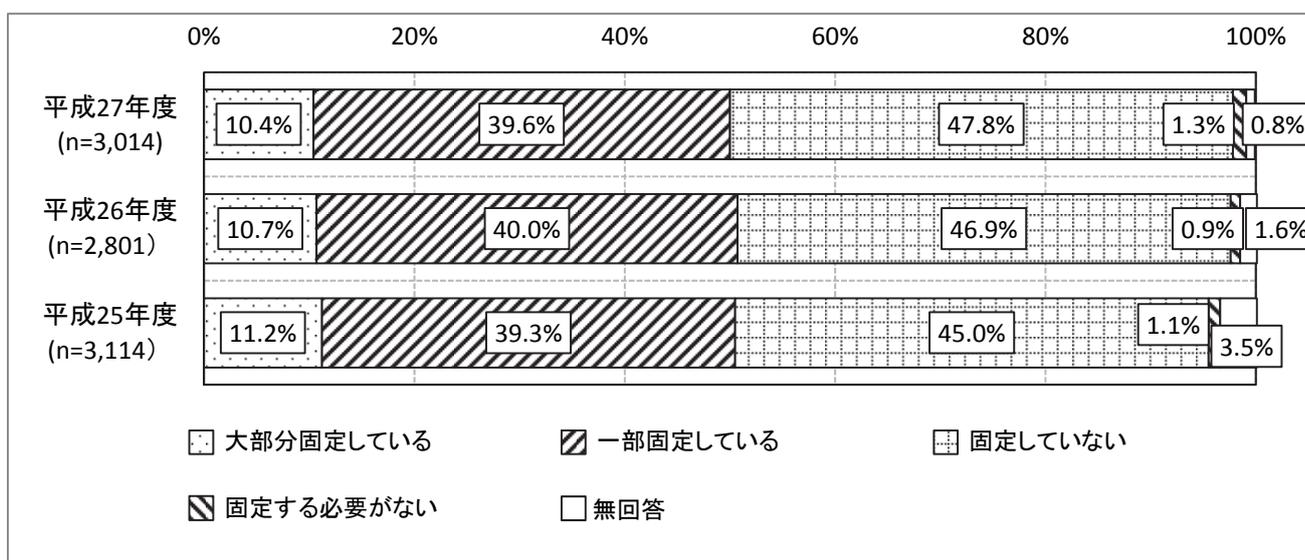
調査結果

図 3.3.2 (1) 家具固定の不備による危険度 -全県-



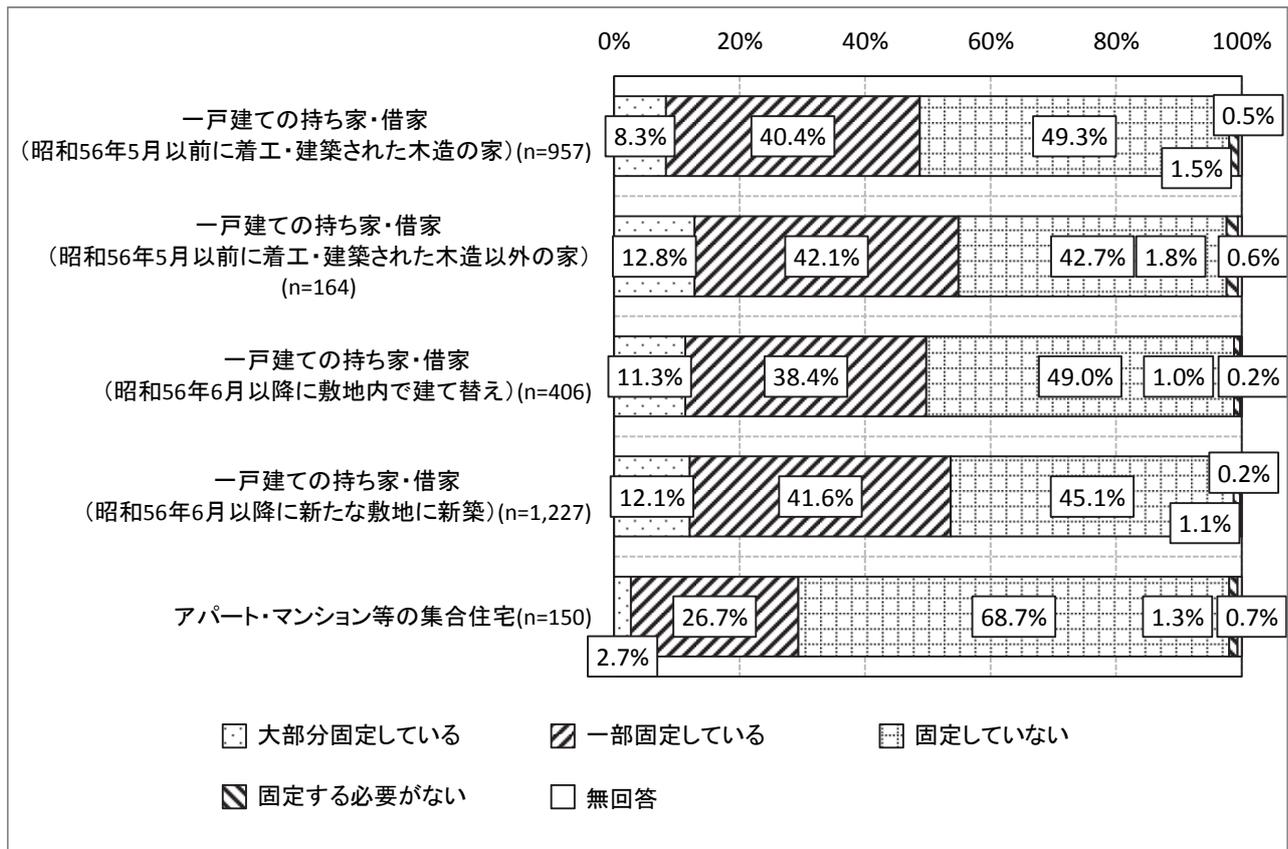
家具類の固定状況について、「固定していない」が47.8%と最も多く、次いで「一部固定している」は39.6%、「大部分固定している」は10.4%となっており、約半数近くの家庭において家具が固定されていない状況です。

図 3.3.2 (2) 家具固定の不備による危険度 -全県経年変化-



家具類の固定状況について、経年変化からも家庭における家具類の固定が進んでいない現状が明らかになっています。このような状況にありながら、家具固定が進まない現状は大きな課題と言えます。

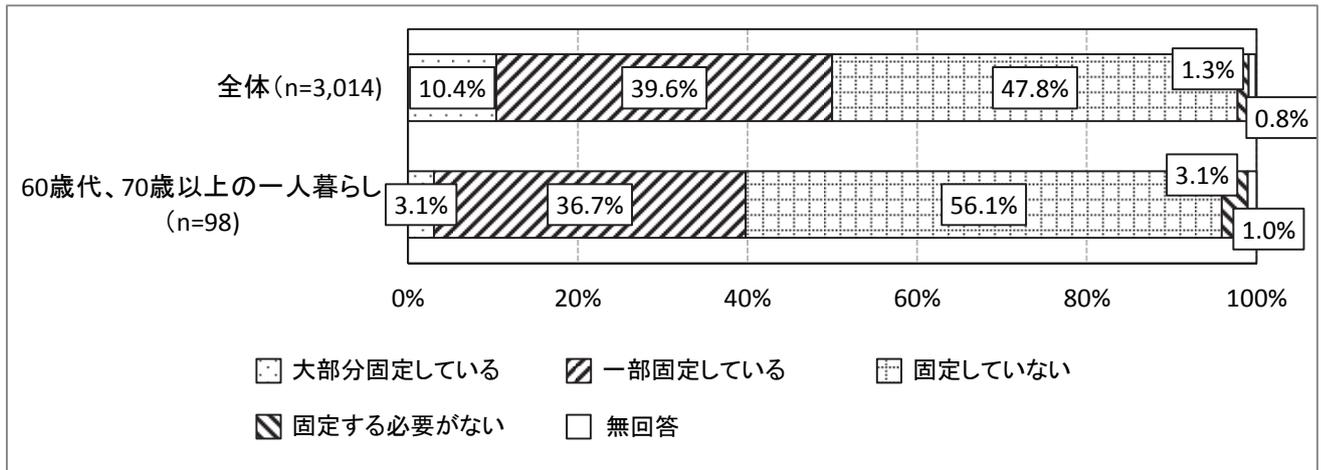
図 3.3.2 (3) 家具固定の不備による危険度
-問 28 (住まいの状況) とのクロス集計-



家具類の固定状況を問 28 (住まいの状況) とのクロス集計でみると、一戸建てについては建築年度等での大きな違いは見られず、45%前後の家庭が「固定していない」、40%前後の家庭が「一部固定している」となっています。

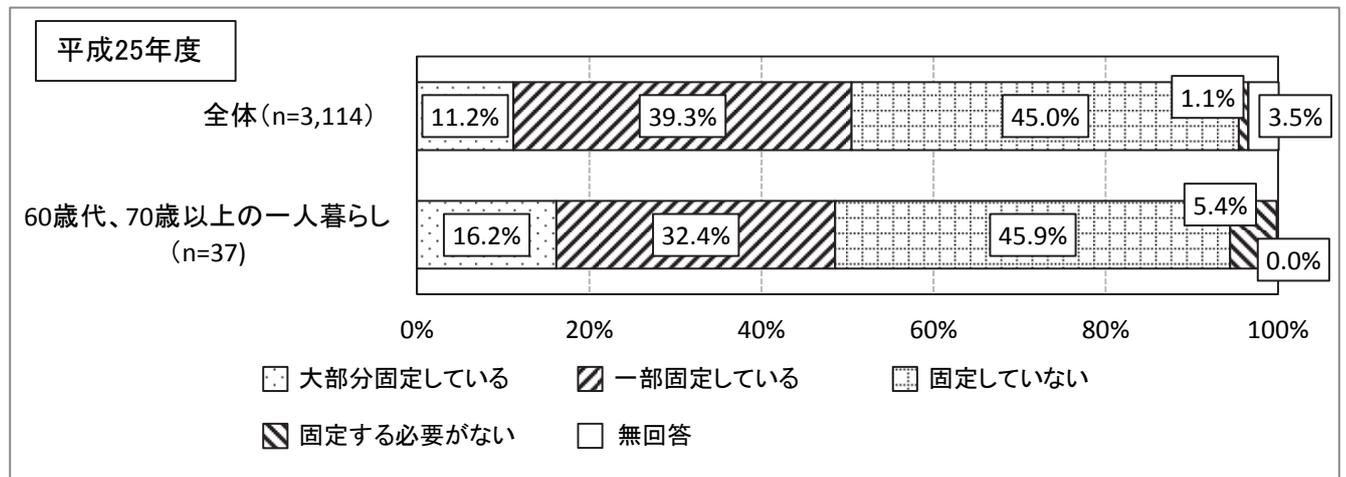
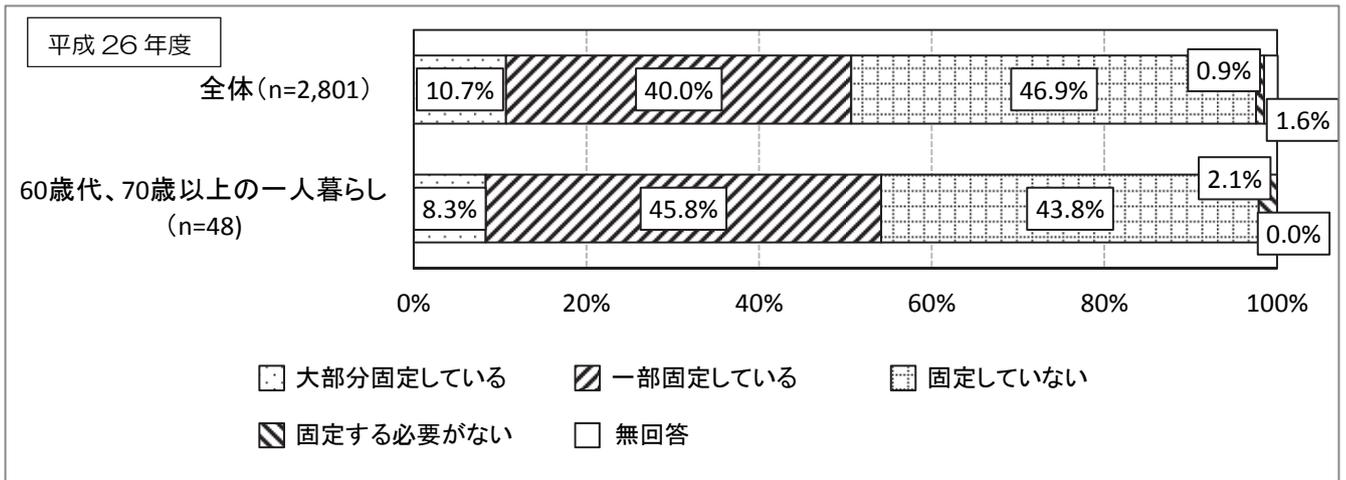
一方、「アパート・マンション等の集合住宅」では、「固定していない」が約7割になっており、一戸建て住宅と集合住宅の間には、家具類の固定状況において顕著な差が見られました。

図 3.3.2 (4) 家具固定の不備による危険度
-全体と 60 歳代、70 歳代の一人暮らしの方の比較-



家具類の固定状況について、全体と 60 歳代・70 歳以上の一人暮らしの方の経年変化でみると、昨年度まで改善傾向を見せていた家具の固定化が今年度では、「固定していない」人が増加傾向にあります。

(参考) 家具類の固定状況 平成26年度及び平成25年度との経年変化

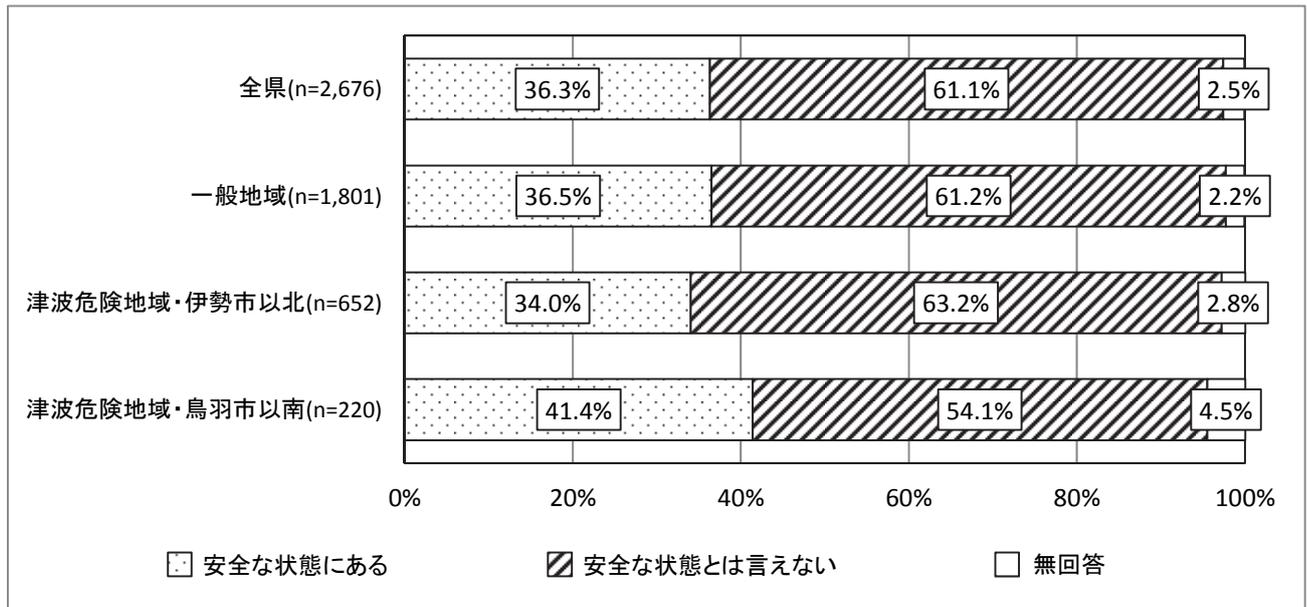


3.3.3 家屋からの脱出

【問 11-1】 問 11 で、「2.一部固定している」、「3.固定していない」、「4.固定する必要がない」と回答された方にお尋ねします。あなたのご自宅は、一部の家具固定や家具固定なしでも、ケガをしない、家屋から脱出できなくなることはない等、安全な状態にありますか。
(一つだけ○)

1. 安全な状態にある →問 12 へ
2. 安全な状態とは言えない →問 11-2 へ

図 3.3.3 家屋からの脱出 -全県及び地域別-



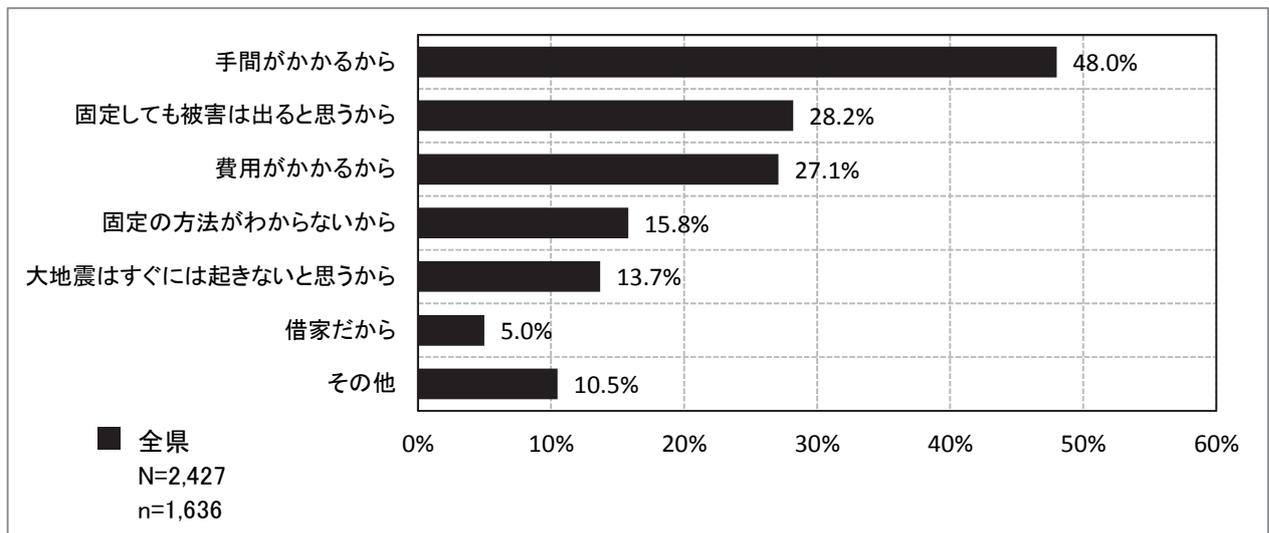
家屋からの脱出について、全県で「安全な状態にある」が 36.3%に対し、「安全な状態とは言えない」が 61.1%となっており、全ての地域で同様の傾向になっています。

3.3.4 安全ではないのに家具を固定しない理由

【問 11-2】 問 11-1 で、「2.安全な状態とは言えない」と回答された方にお尋ねします。家具類の固定をしない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 大地震はすぐには起きないと思うから
2. 手間がかかるから
3. 費用がかかるから
4. 固定しても被害は出ると思うから
5. 固定の方法がわからないから
6. 借家だから
7. その他 具体的に：

図 3.3.4 (1) 安全ではないのに家具を固定しない理由 -全県- (複数回答)

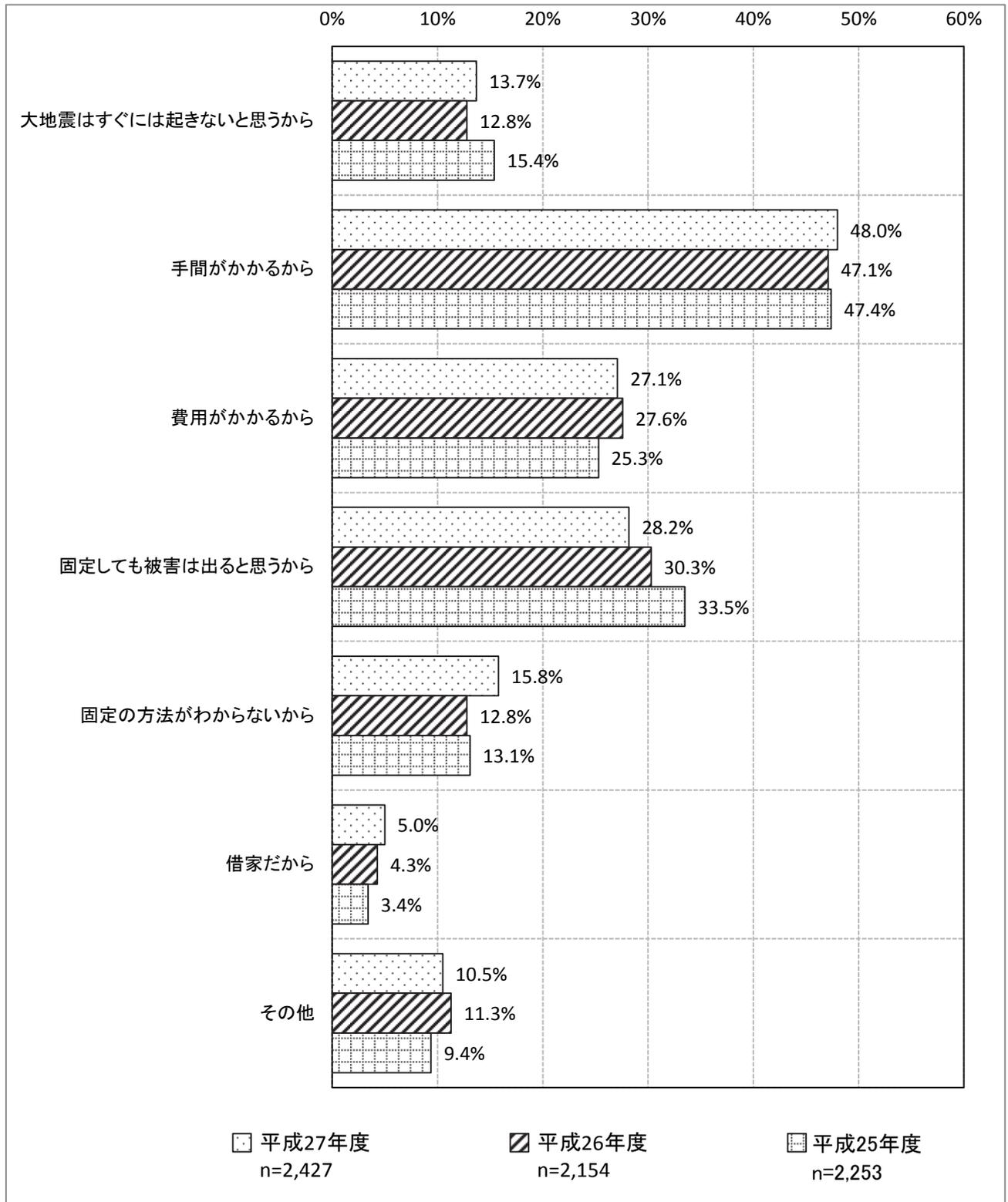


家具類の固定をしない理由について、「手間がかかるから」が半数近い 48.0%で最も多くなっています。

次に、「固定しても被害は出ると思うから」が 28.2%、「費用がかかるから」が 27.1%と続き、家具固定には、意識面からの課題が大きいことが明らかとなりました。

その他の意見として、「家具・壁に傷を付けたくない」「しないといけないと分かっているが、行動にうつせていない」「固定させる壁が頑丈でない」などの回答がありました。

図 3.3.4 (2) 安全ではないのに家具を固定しない理由 -全県経年変化- (複数回答)



家具類の固定をしない理由の経年変化について、全体的な傾向としては、大きな変化は見られません。

しかし、「固定しても被害は出ると思うから」が少しずつ減少しており、家具固定の有効性への理解が徐々に進んでいることが伺えます。

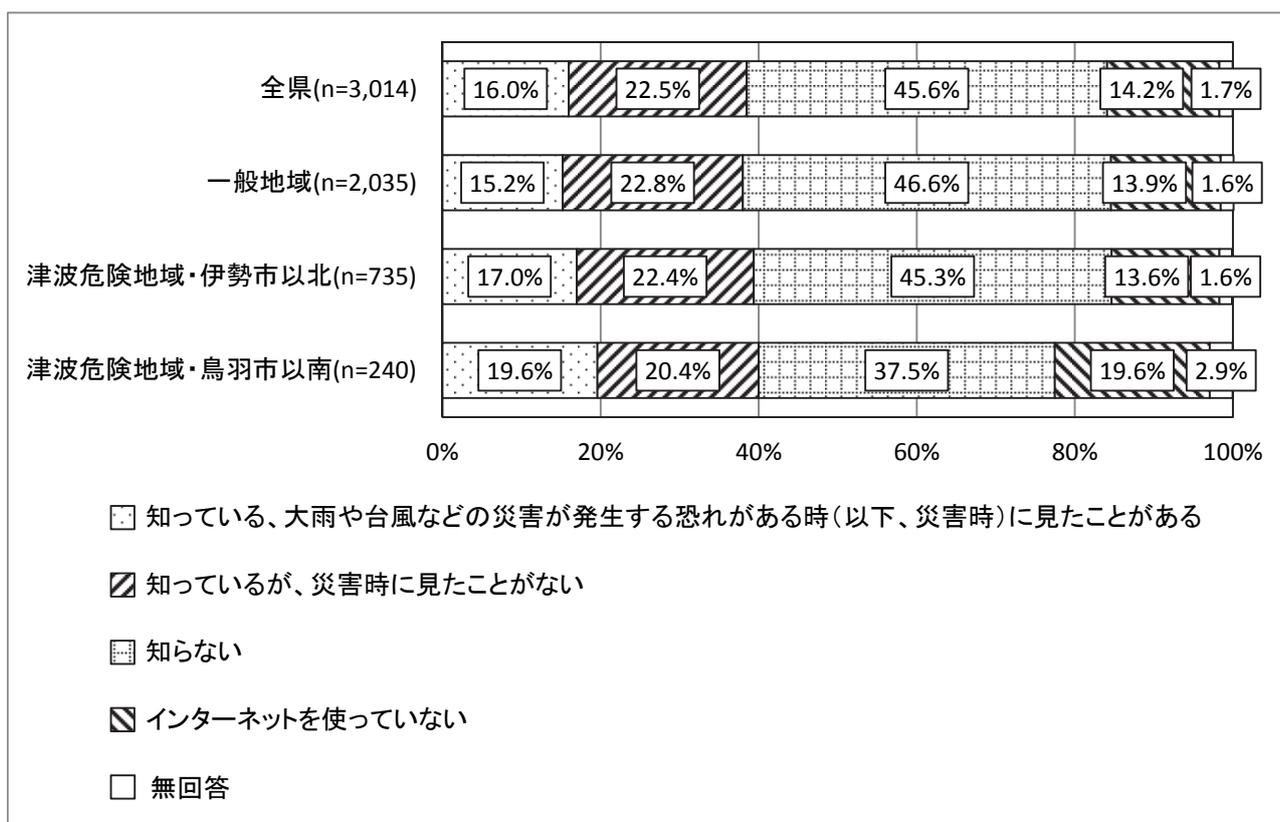
3.3.5 防災みえ.jp の認知度

【問 12】 防災みえ.jp ホームページをご存知ですか。(一つだけ〇) <新規>

1. 知っている、大雨や台風などの災害が発生する恐れがある時(以下、災害時)に見たことがある →問 13 へ
2. 知っているが、災害時に見たことがない →問 13-1 へ
3. 知らない →問 14 へ
4. インターネットを使っていない →問 14 へ

調査結果

図 3.3.5 防災みえ.jp の認知度 -全県及び地域別-

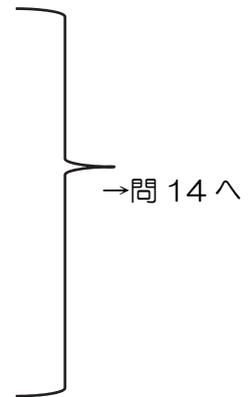


防災みえ.jp について、「知らない」人の割合が全県では、45.6%となっています。各地域においても、「知っている」方は、約 4 で地域間の差は見られませんでした。

3.3.6 防災みえ.jp のどのようなコンテンツを見たことがあるか

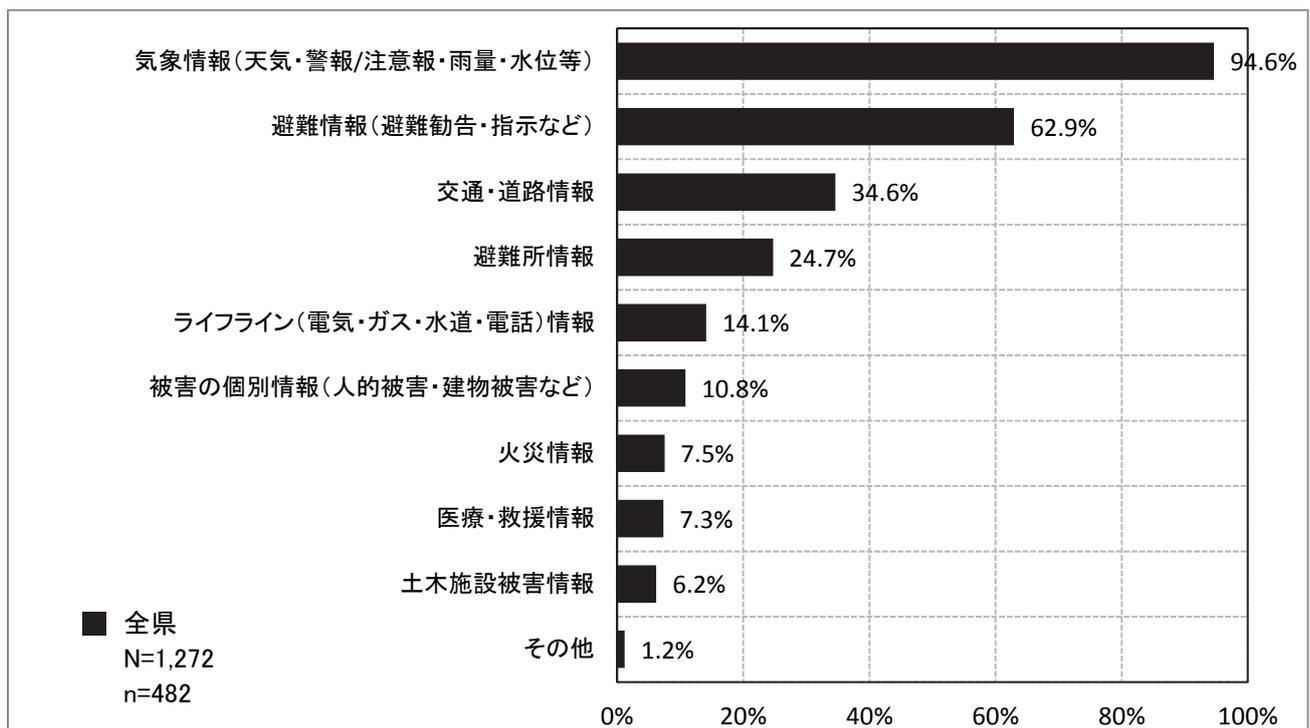
【問 13】 問 12 で「1. 災害時に見たことがある」と答えた方にお尋ねします。防災みえ.jp ホームページのどのようなコンテンツを見えていますか。(いくつでも○) <新規>

1. 気象情報（天気・警報/注意報・雨量・水位等）
2. 避難情報（避難勧告・指示など）
3. 避難所情報
4. 医療・救援情報
5. 交通・道路情報
6. ライフライン（電気・ガス・水道・電話）情報
7. 被害の個別情報（人的被害・建物被害など）
8. 火災情報
9. 土木施設被害情報
10. その他 具体的に：



調査結果

図 3.3.6 (1) 防災みえ.jp のどのようなコンテンツを見たことがあるか
-全県（多い順）-（複数回答）



防災みえ.jp の閲覧内容としては、「気象情報」が最も多く、94.6%とほとんどの方が閲覧しています。

続いて、「避難情報」62.9%、「交通・道路情報」34.6%となっています。

「その他」として、「防災メール」等の記載がありました。

3.3.7 防災みえ.jp を活用しない理由

【問 13-1】 問 12 で「2.知っているが、災害時に見たことがない」と答えた方にお尋ねします。

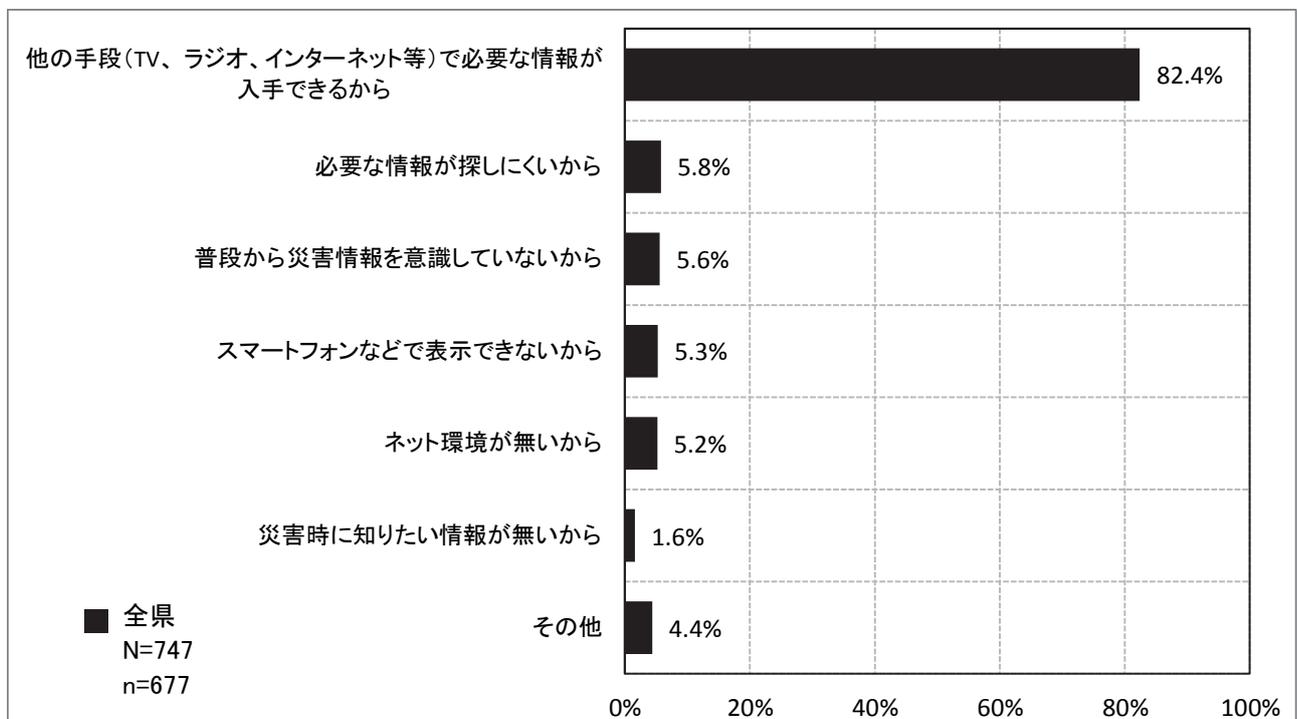
災害時に防災みえ.jp ホームページを活用しない理由をお聞かせください。

(いくつでも○) <新規>

1. 他の手段（TV、ラジオ、インターネット等）で必要な情報が入手できるから
2. 災害時に知りたい情報が無いから
3. 必要な情報が探しにくいから
4. スマートフォンなどで表示できないから
5. ネット環境が無いから
6. 普段から災害情報を意識していないから
7. その他 具体的に：

調査結果

図 3.3.7 防災みえ.jp を活用しない理由 -全県（多い順）-（複数回答）



防災みえ.jp の活用しない理由としては、「他の手段で必要な情報が入手できるから」が 82.4%と、ほとんどの方が回答しています。

「その他」としては、「パソコンを立ち上げて見るのに手間がかかるから」「情報が古い。一度報告したが更新が遅すぎ（3 日後に更新）」「その様な状況（災害）になった事がない」等の記載がありました。

3.3.8 災害時にインターネットで知りたい情報

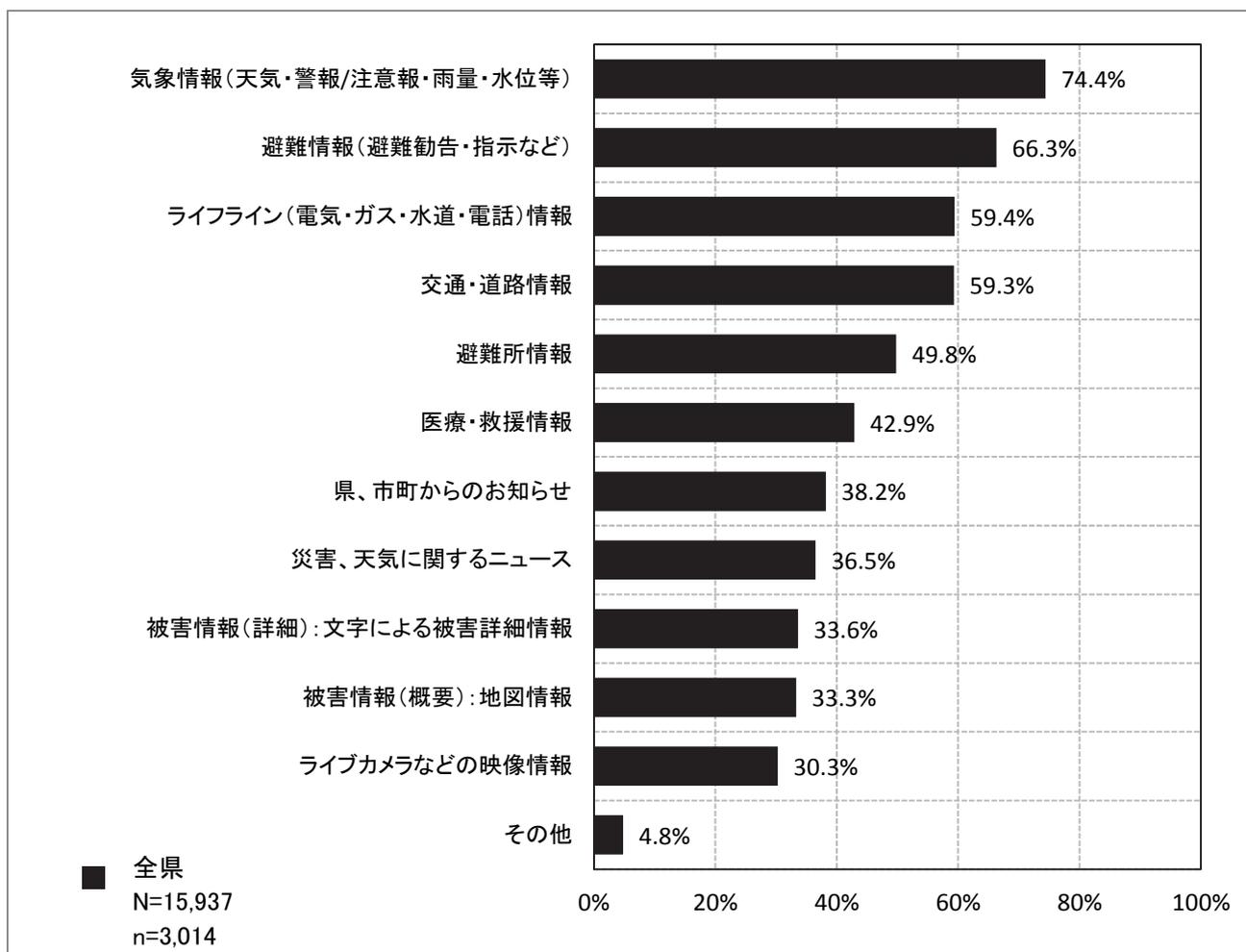
【問 14】 災害時にインターネットで、どのような情報を知りたいかお答えください。

(いくつでも○) <新規>

1. 気象情報 (天気・警報/注意報・雨量・水位等)
2. 避難情報 (避難勧告・指示など)
3. 避難所情報
4. 医療・救援情報
5. 交通・道路情報
6. ライフライン (電気・ガス・水道・電話) 情報
7. 被害情報 (詳細): 文字による被害詳細情報
8. 被害情報 (概要): 地図情報
9. ライブカメラなどの映像情報
10. 災害、天気に関するニュース
11. 県、市町からのお知らせ
12. その他 具体的に:

調査結果

図 3.3.8 災害時にインターネットで知りたい情報 - 全県 (多い順) - (複数回答)



災害時にインターネットで知りたい情報は、「気象情報」74.4%、「避難情報」66.3%、「ライフライン」59.4%、「交通・道路情報」59.3%等となっています。

「その他」としては、「インターネット使えない」「インターネット環境がないので情報はTV・新聞のみ」「音声で理解できるようにもして欲しい（視覚障害の友人がいる為）」「ペットの同行避難・ペットの医療等、ペットに関する情報全般」等の記載がありました。

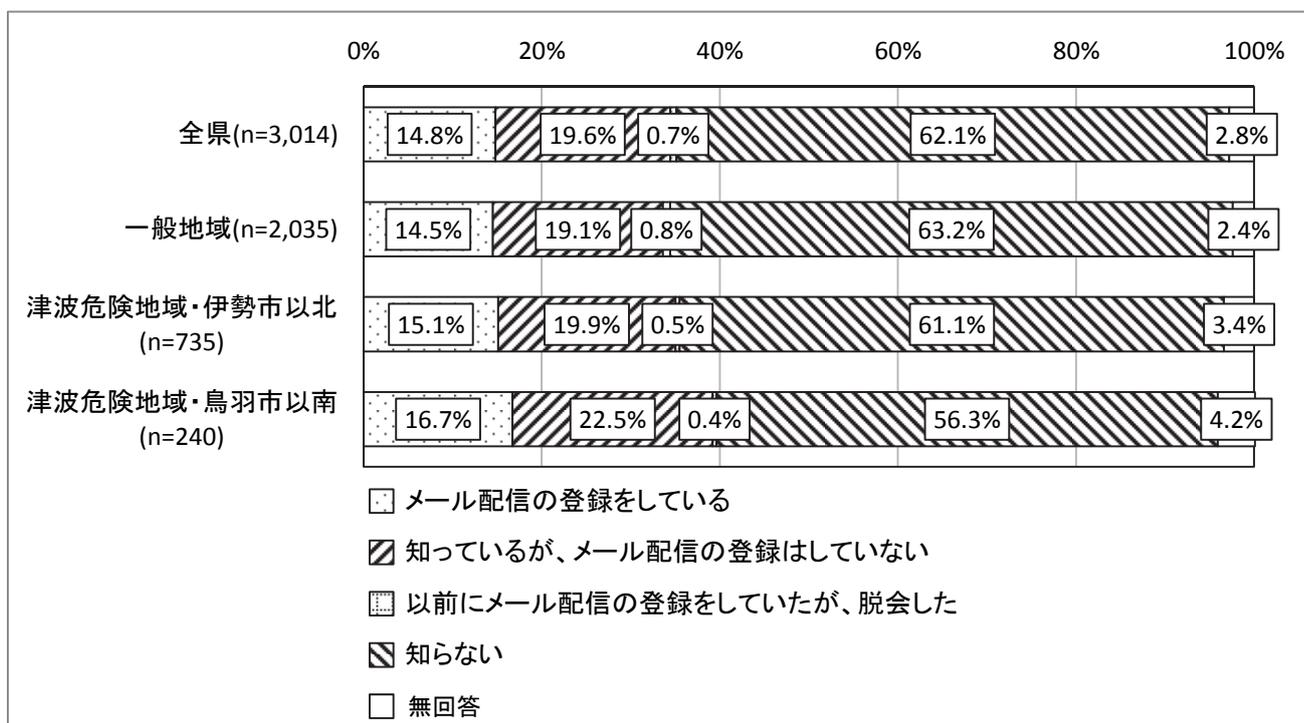
3.3.9 防災情報メール配信サービスの認知度

【問 15】 県では、大雨や洪水に関する注意報や警報発令などの気象情報や全国の地震情報などの防災情報を、「防災みえ.jp」のメール配信サービスで登録者にお知らせしています。あなたは、このことをご存じですか。（一つだけ○）

1. メール配信の登録をしている
2. 知っているが、メール配信の登録はしていない
3. 以前にメール配信の登録をしていたが、脱会した
4. 知らない

調査結果

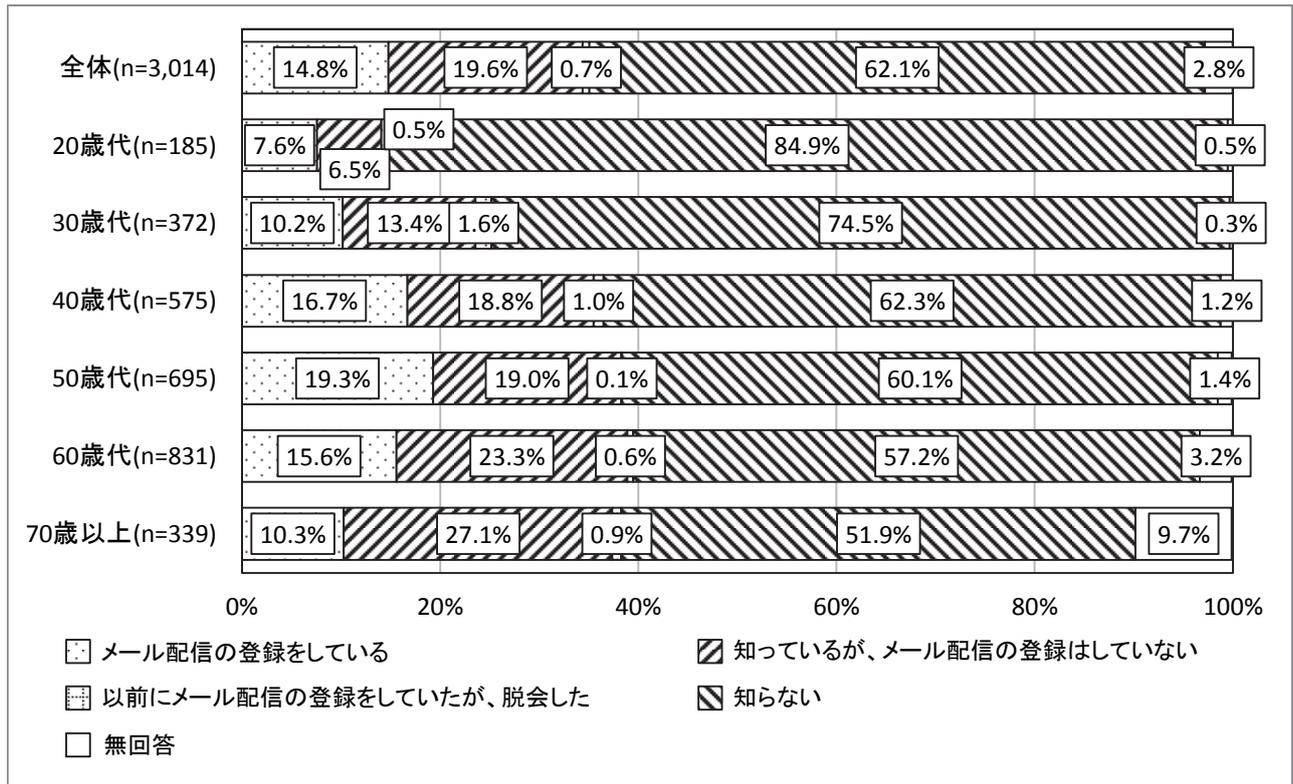
図 3.3.9 (1) 防災情報メール配信サービスの認知度 -全県及び地域別-



防災情報メール配信サービスについて、全県及び各地域で「知らない」が約 60%と最も多くなっています。「メール配信の登録をしている」では、全県及び各地域で 15%前後となっています。

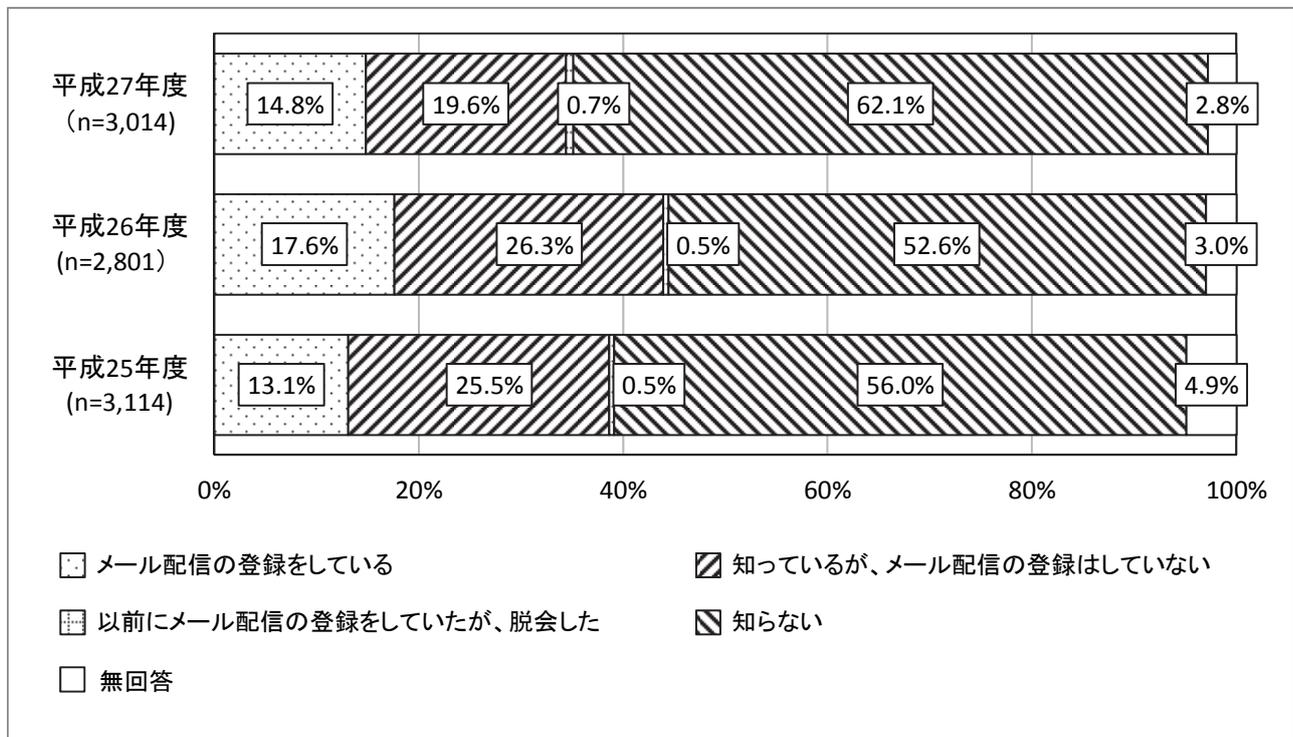
問 12 の防災みえ.jp を「知らない」「インターネットを使っていない」方と、「防災情報メール配信サービス」で「知らない」と回答した方の割合は、ほぼ同一となっています。

図 3.3.9 (2) 防災情報メール配信サービスの認知度 -全体及び年代別-



防災情報メール配信サービスの認知度について年代別にみると、20歳代で「メール配信の登録をしている」が7.6%と低く、メール配信サービスを「知らない」と84.9%の方が回答しています。

図 3.3.9 (3) 防災情報メール配信サービスの認知度 -全県経年変化-



防災情報メール配信サービスについて、経年変化をみると、平成26年度に大きく増加したメール配信の登録をしている」が減少に転じています。

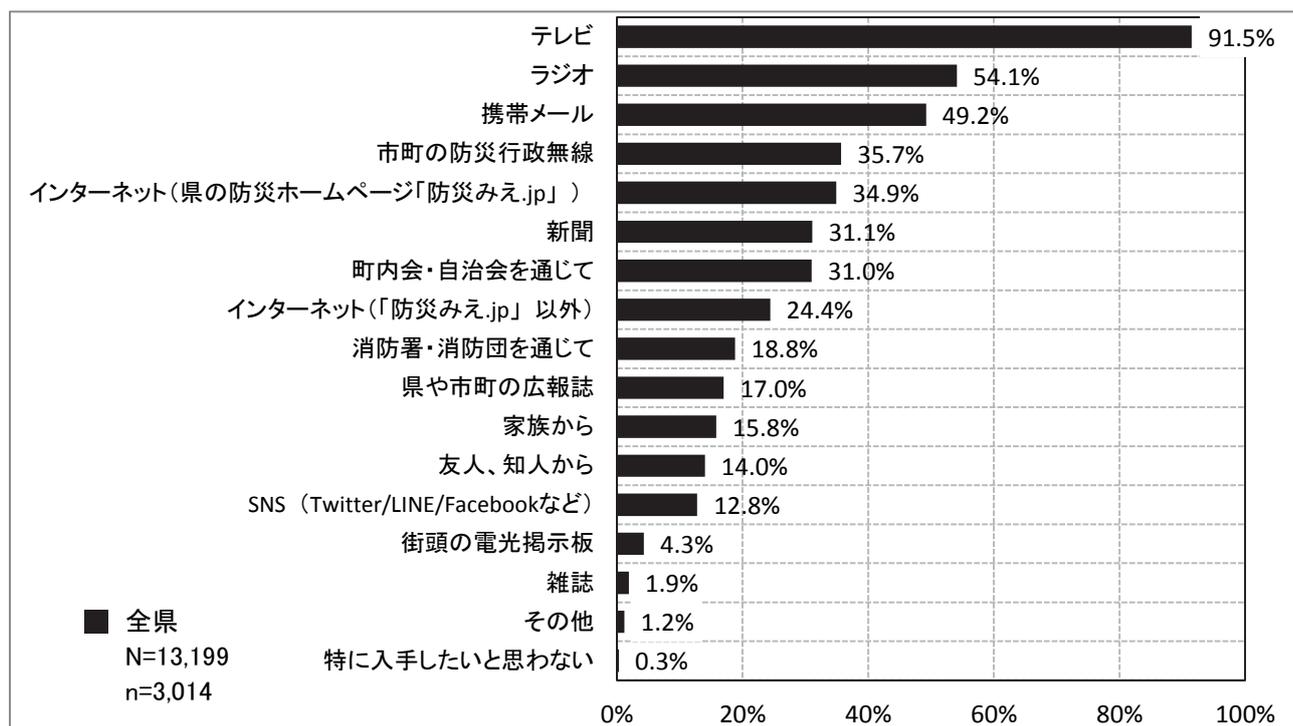
3.3.10 今後の気象や災害の情報の入手先

【問 16】 今後、気象や災害についての情報をどこから入手したいと考えますか。

(いくつでも○)

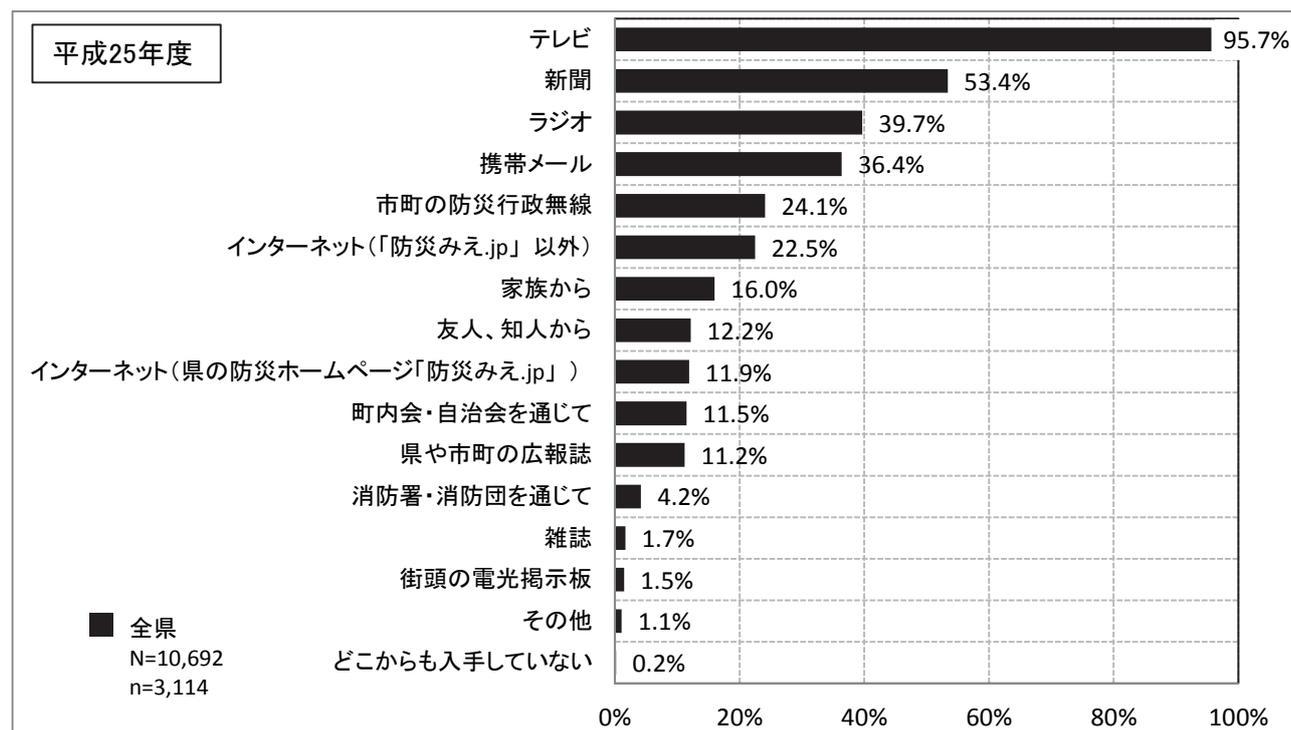
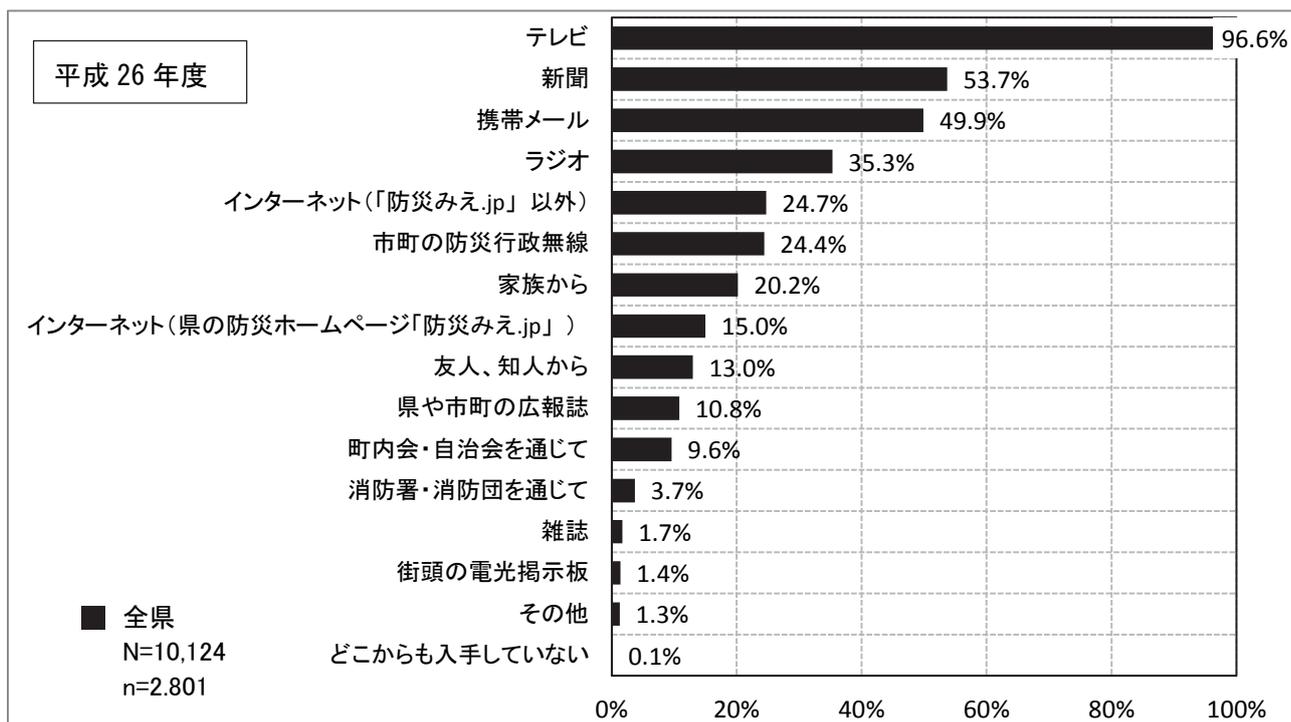
1. テレビ
2. ラジオ
3. 新聞
4. 雑誌
5. 市町の防災行政無線
6. 県や市町の広報誌
7. インターネット (県の防災ホームページ「防災みえ.jp」)
8. インターネット (「防災みえ.jp」以外)
9. 携帯メール
10. SNS (Twitter/LINE/Facebook など)
11. 街頭の電光掲示板
12. 家族から
13. 友人、知人から
14. 町内会・自治会を通じて
15. 消防署・消防団を通じて
16. その他 具体的に：
17. 特に入手したいと思わない

図 3.3.10 (1) 今後の気象や災害の情報の入手先 -全県(多い順) - (複数回答)



気象や災害の情報の入手先について、「テレビ」が91.5%で最も多くなっています。前年まで上位にあった「新聞」が31.1%と大きく減少し、代わりに「ラジオ」54.1%、「携帯メール」49.2%が上位となっています。

図 3.3.10 (2) 今後の気象や災害の情報の入手先 -全県経年変化- (複数回答)



過年度と比較すると「防災みえ.jp」から情報を入手される人の割合が増加しています。

図 3.3.10 (3) ① 今後の気象や災害の情報の入手先 -全体及び年代別- (複数回答)

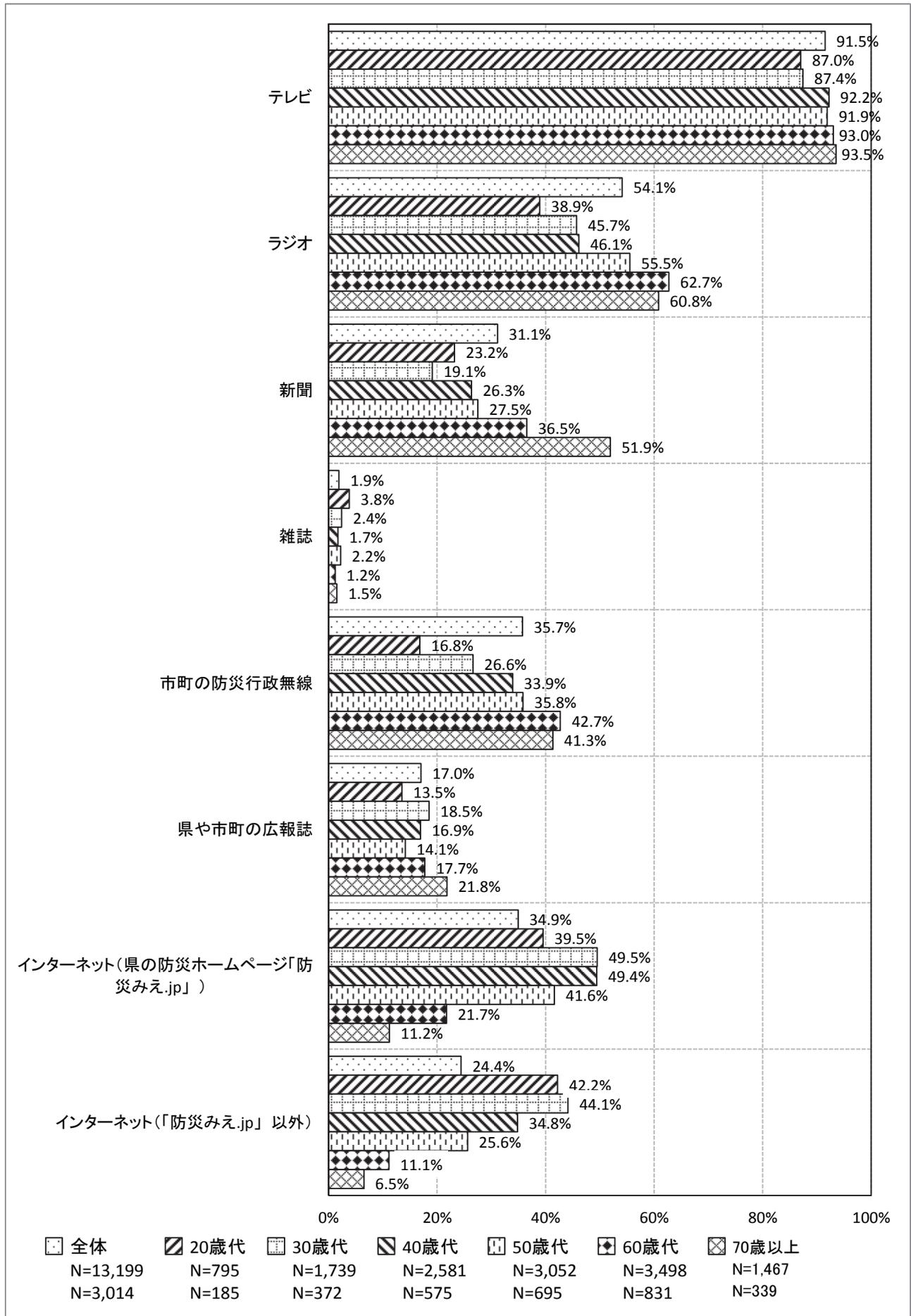
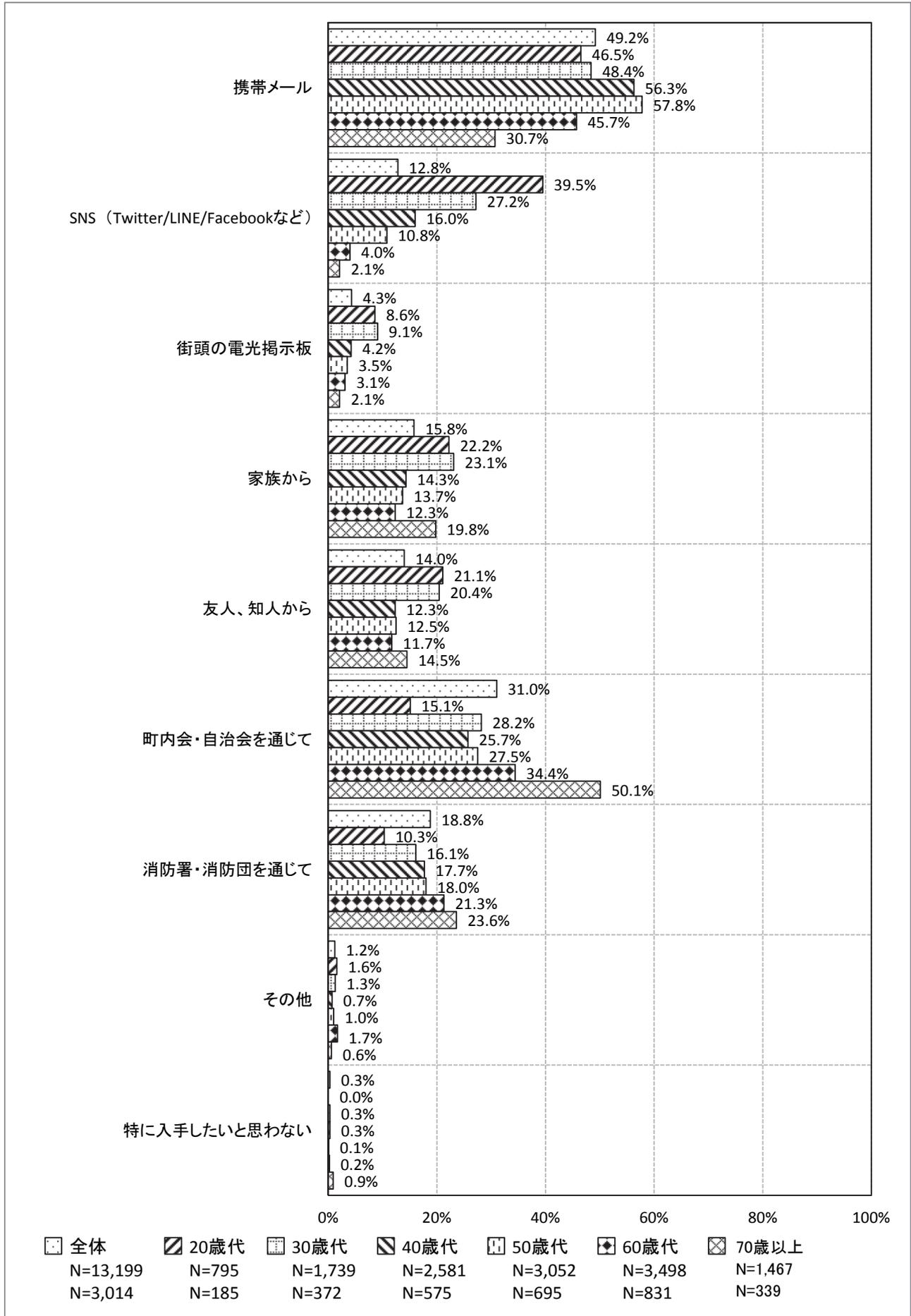


図 3.3.10 (3) ② 今後の気象や災害の情報の入手先 -全体及び年代別- (複数回答)



気象や災害の情報の入手先について、全体及び年代別で見ると、「テレビ」が各年代とも90%前後となっており最も多くなっています。これに次いで「ラジオ」、「携帯メール」が高い状況です。

20歳代は「SNS（Twitter/LINE/Facebookなど）」、70歳以上は「新聞」「町内会・自治会を通じて」の割合が多くなっていることが見られます。

「その他」として、「勤務先」等の記載がありました。

3.3.11 避難場所や避難所の認知度

【問 17】 あなたは、自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるかご存じですか。

(一つだけ○)

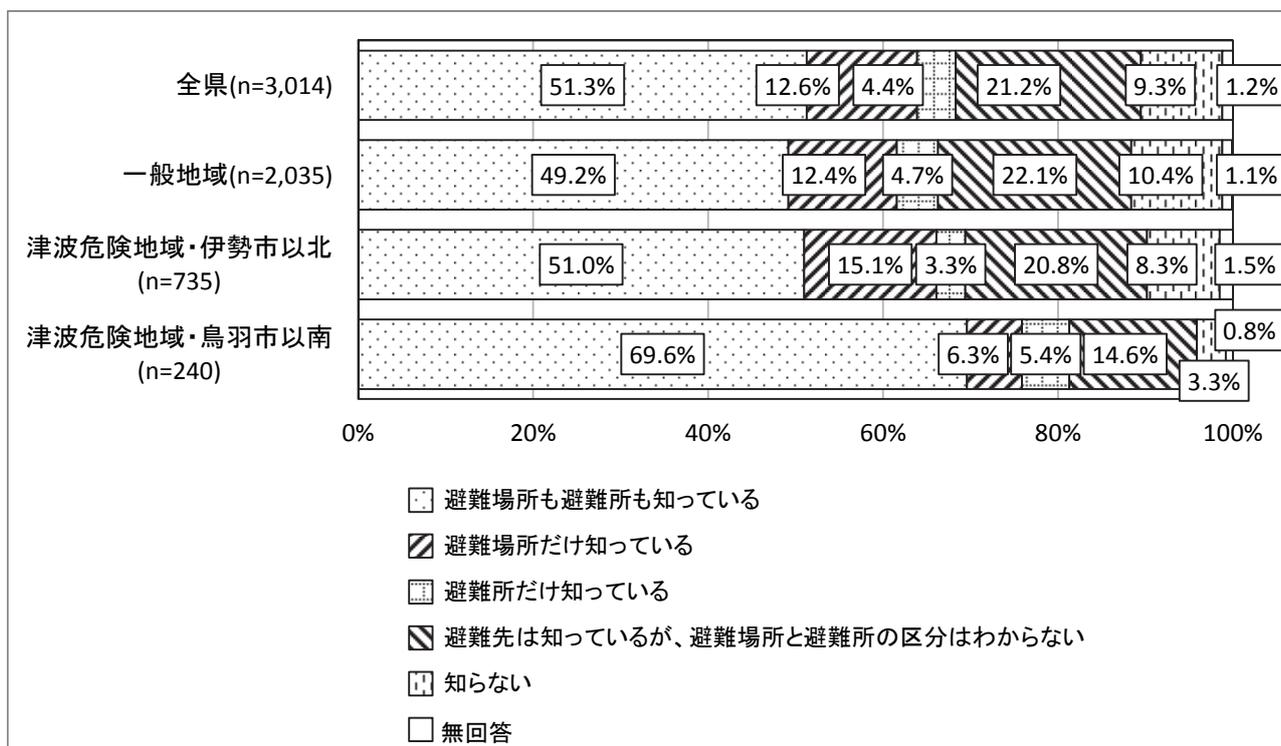
1. 避難場所も避難所も知っている
2. 避難場所だけ知っている
3. 避難所だけ知っている
4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない
5. 知らない

問 17-1 へ

問 18 へ

調査結果

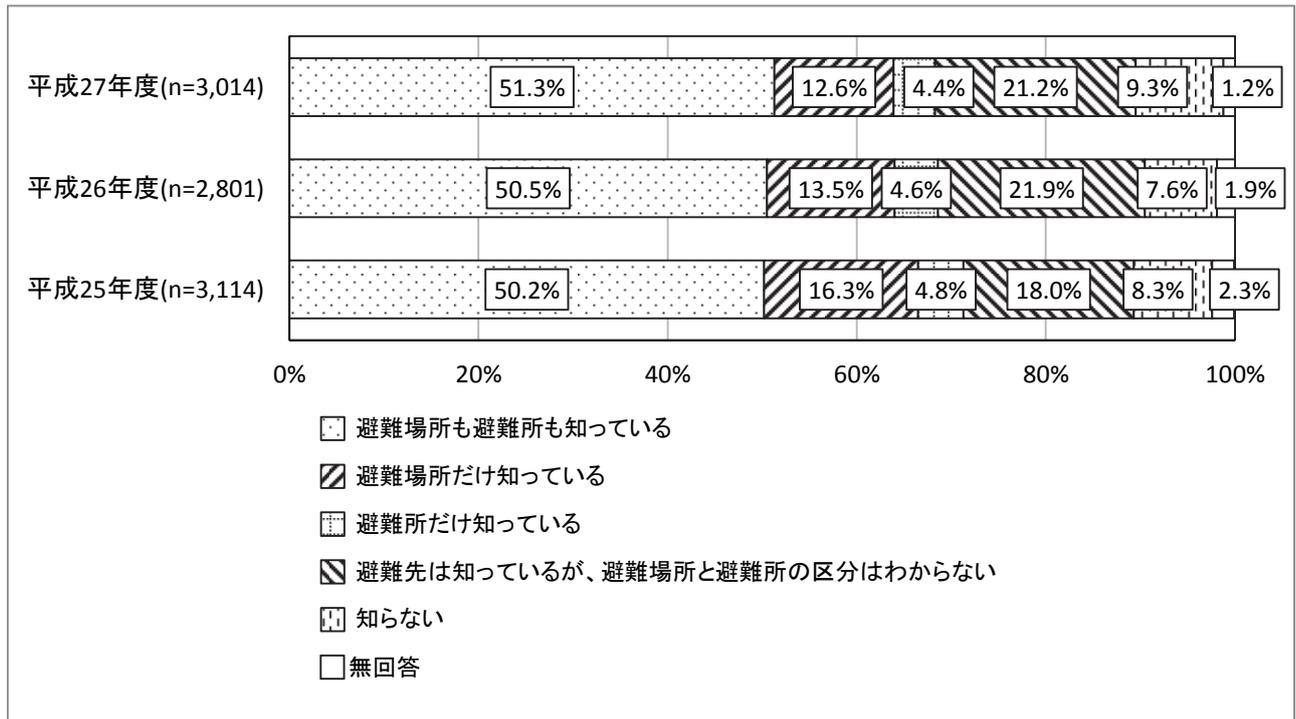
図 3.3.11 (1) 避難場所や避難所の認知度 -全県及び地域別-



避難場所や避難所の認知度について、全県では約 9 割の方が避難場所か避難所を知っていると回答しています。

地域別では、津波危険地域（鳥羽市以南）では 75.9%が避難場所を知っていると答えており、他の地域に比べて特に高くなっています。

図 3.3.11 (2) 避難場所や避難所の認知度 -全県経年変化-



自宅付近の避難所の認知度について、経年変化はさほどありません。しかし、「知らない」と回答した方が微増しています。

3.3.12 避難場所や避難所までの経路についての認知度

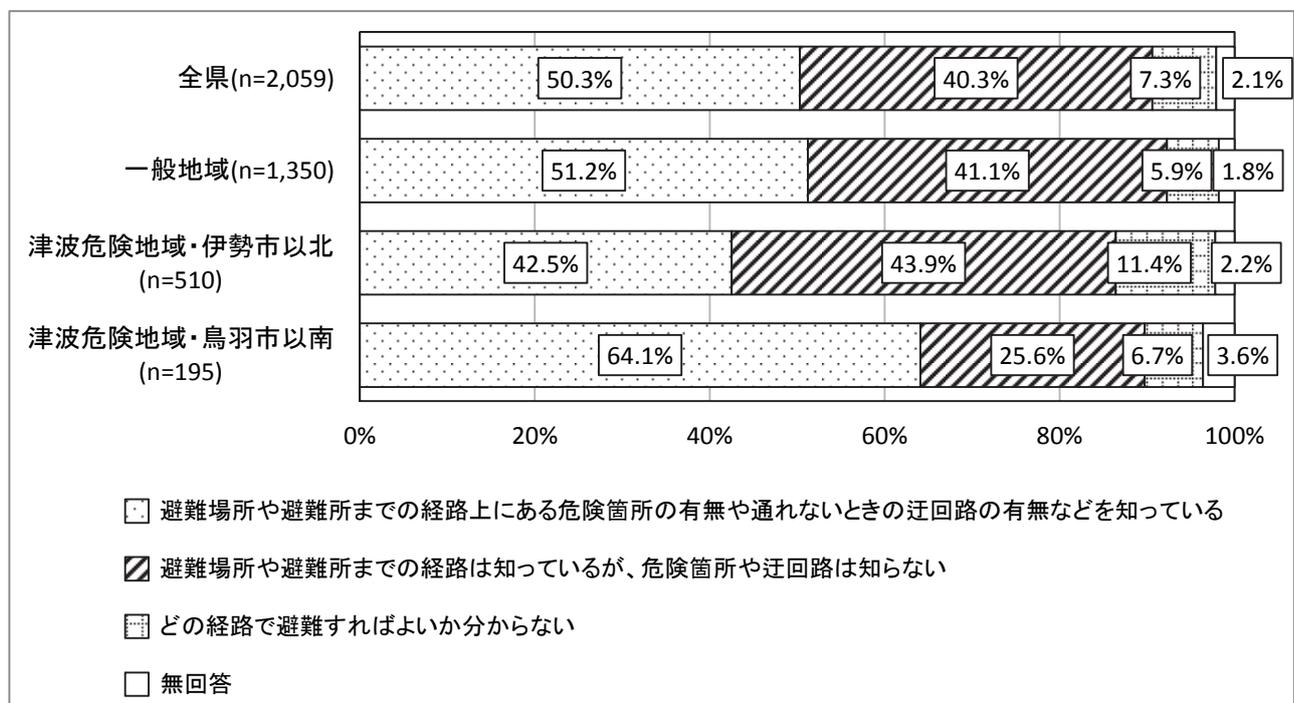
【問 17-1】 問 17 で「1.避難場所も避難所も知っている」、「2.避難場所だけ知っている」、「3.避難所だけ知っている」と回答された方にお尋ねします。

あなたは、避難場所や避難所までの避難経路について、どの程度ご存知ですか。
(一つだけ〇)

1. 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や通れないときの迂回路の有無などを知っている
2. 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない
3. どの経路で避難すればよいか分からない

調査結果

図 3.3.12 避難場所や避難所までの経路についての認知度 -全県及び地域別-



避難場所や避難所までの経路についての認知度については、全県で「避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や通れないときの迂回路の有無などを知っている」が 50.3%、「避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない」が 40.3%となっています。

地域別では、津波危険地域（鳥羽市以南）の「避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や通れないときの迂回路の有無などを知っている」が 64.1%と他の地域に比べて特に高くなっています。

3.3.13 地域・職場での防災活動への参加経験

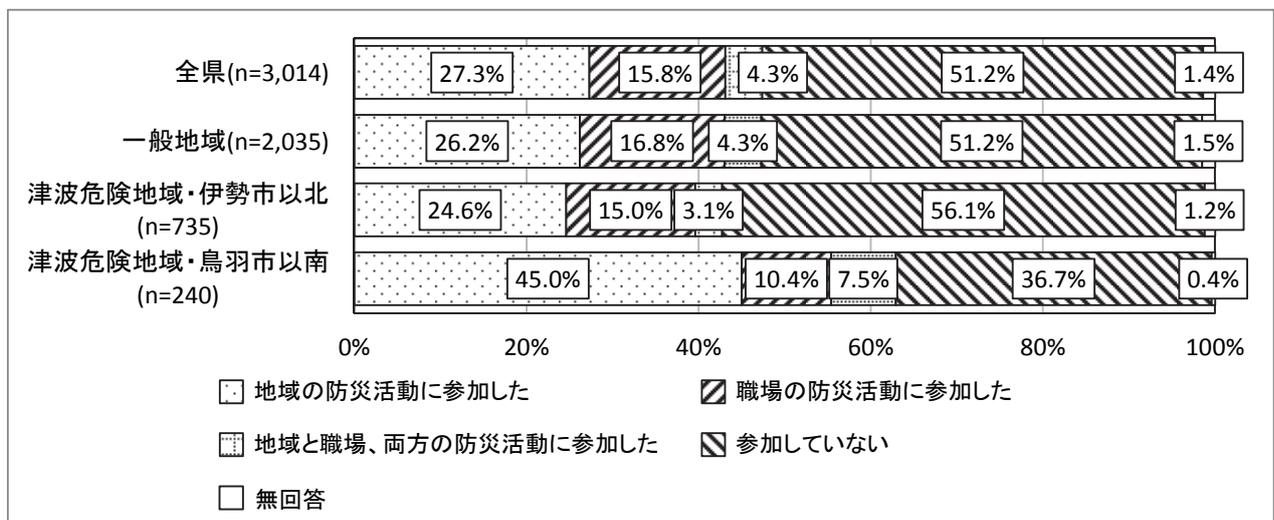
【問 18】 あなたは、過去 1 年間に、お住まいの地域や職場での防災活動（問 19 の選択肢参照）に参加したことがありますか。（一つだけ○）

※今秋に開催される地域や職場の防災訓練等への参加予定がある場合は 1～3 に○を付けてください。

- 1. 地域の防災活動に参加した →問 19 へ
- 2. 職場の防災活動に参加した →問 19 へ
- 3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した →問 19 へ
- 4. 参加していない →問 20 へ

調査結果

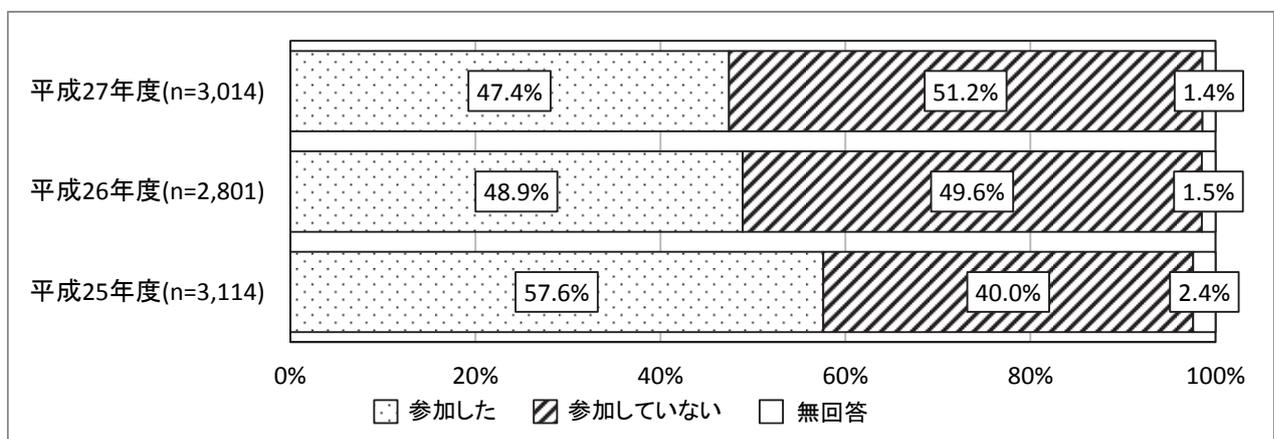
図 3.3.13 (1) 地域・職場での防災活動への参加経験 -全県及び地域別-



地域・職場での防災活動への参加経験について、全県ではいずれかの防災活動に「参加した」が 47.4%、「参加していない」が 51.2%となっています。

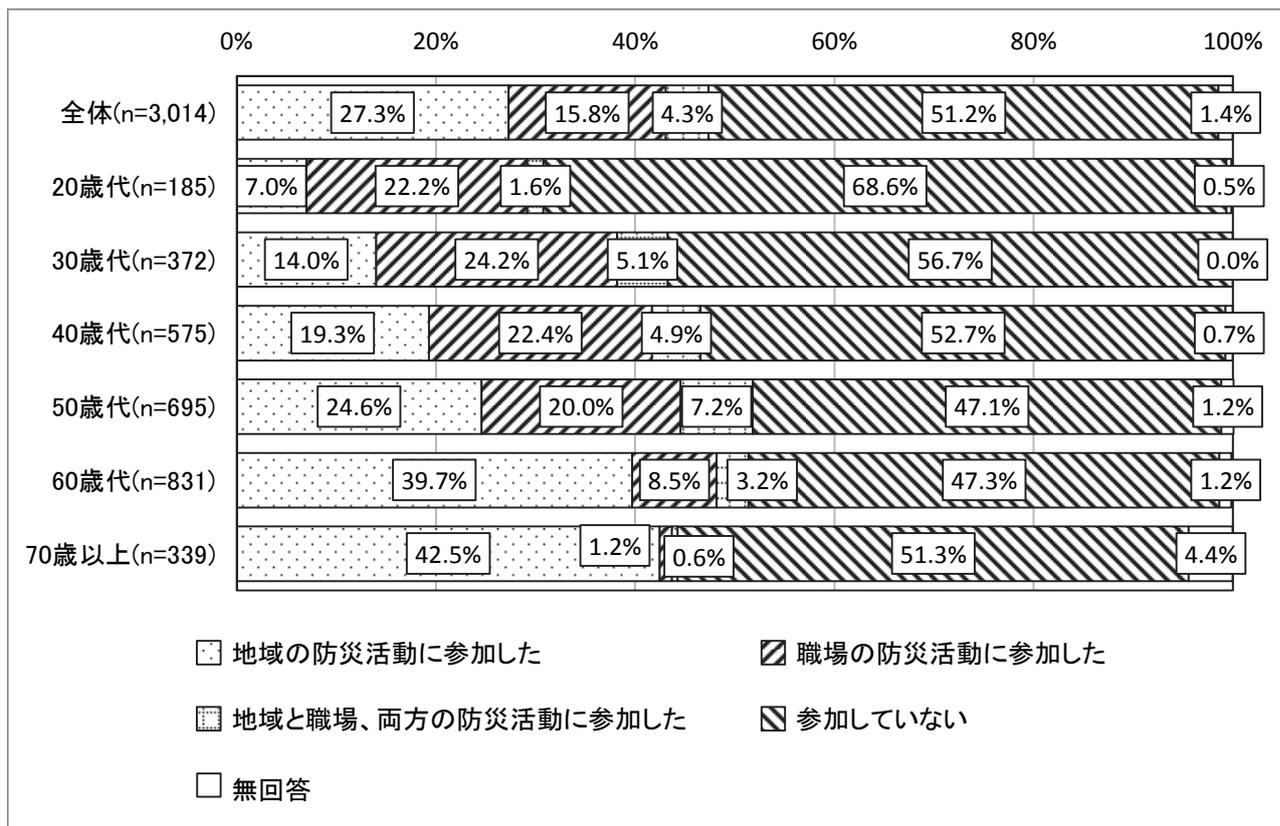
地域別では、津波危険地域（鳥羽市以南）で「地域の防災活動に参加した」「職場の防災活動に参加した」「地域と職場、両方の防災活動に参加した」の合計が 62.9%で他の地域に比べて高くなっています。

図 3.3.13 (2) 地域・職場での防災活動への参加経験 -全県経年変化-



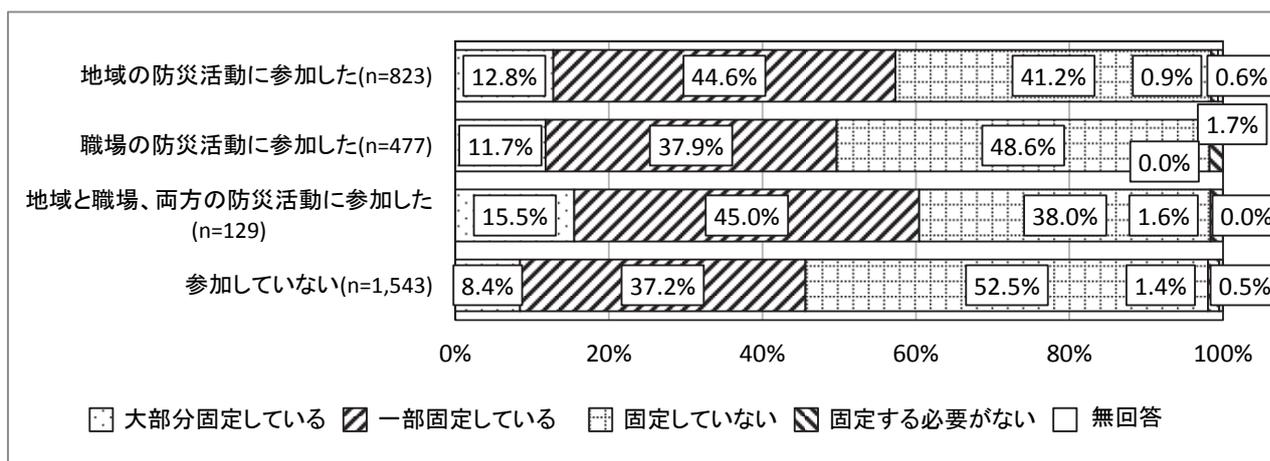
経年変化を見ると、「参加した」と回答された方が若干減少する結果となりました。

図 3.3.13 (3) 地域・職場での防災活動への参加経験 -全体及び年代別-



年代別の地域の防災活動へ参加状況をみると、70歳以上の42.5%が最も高く、年齢が若くなるにつれて参加率が低くなっていき、20歳代では7.0%と極端に低くなっています。

図 3.3.13 (4) 地域・職場での防災活動への参加経験
-問 11 (家具類の固定状況) のクロス集計-



問 11 (家具類の固定状況) とのクロス集計をみると、防災活動へ参加している人たちの家具の固定率が、参加していない人たちの家具の固定率を上回っており、防災活動への参加が個人の防災意識を高めていることが伺えます。

図 3.3.13 (5) ① 地域・職場での防災活動への参加経験

-問 10 (家庭での防災対策の状況) のクロス集計-

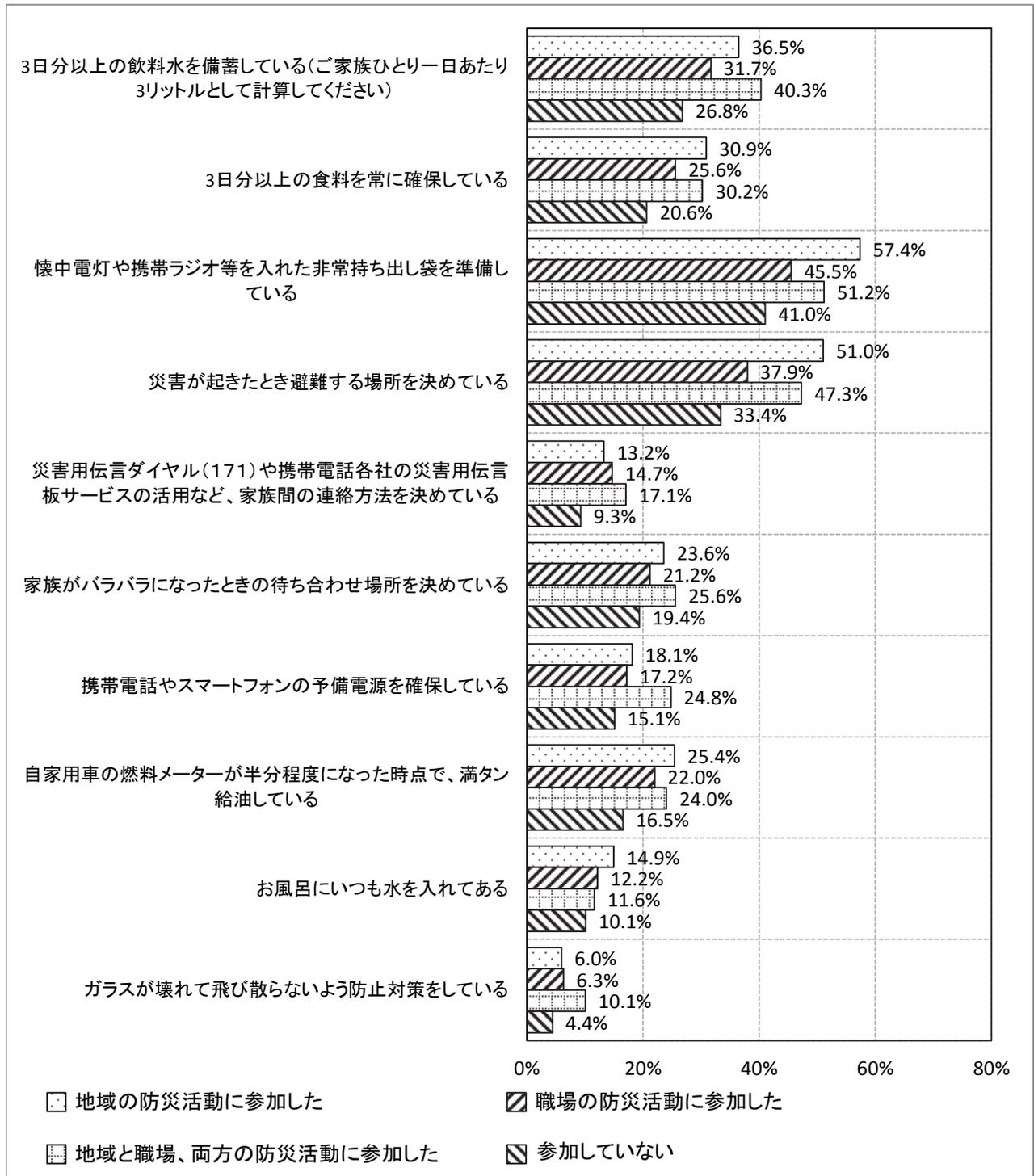
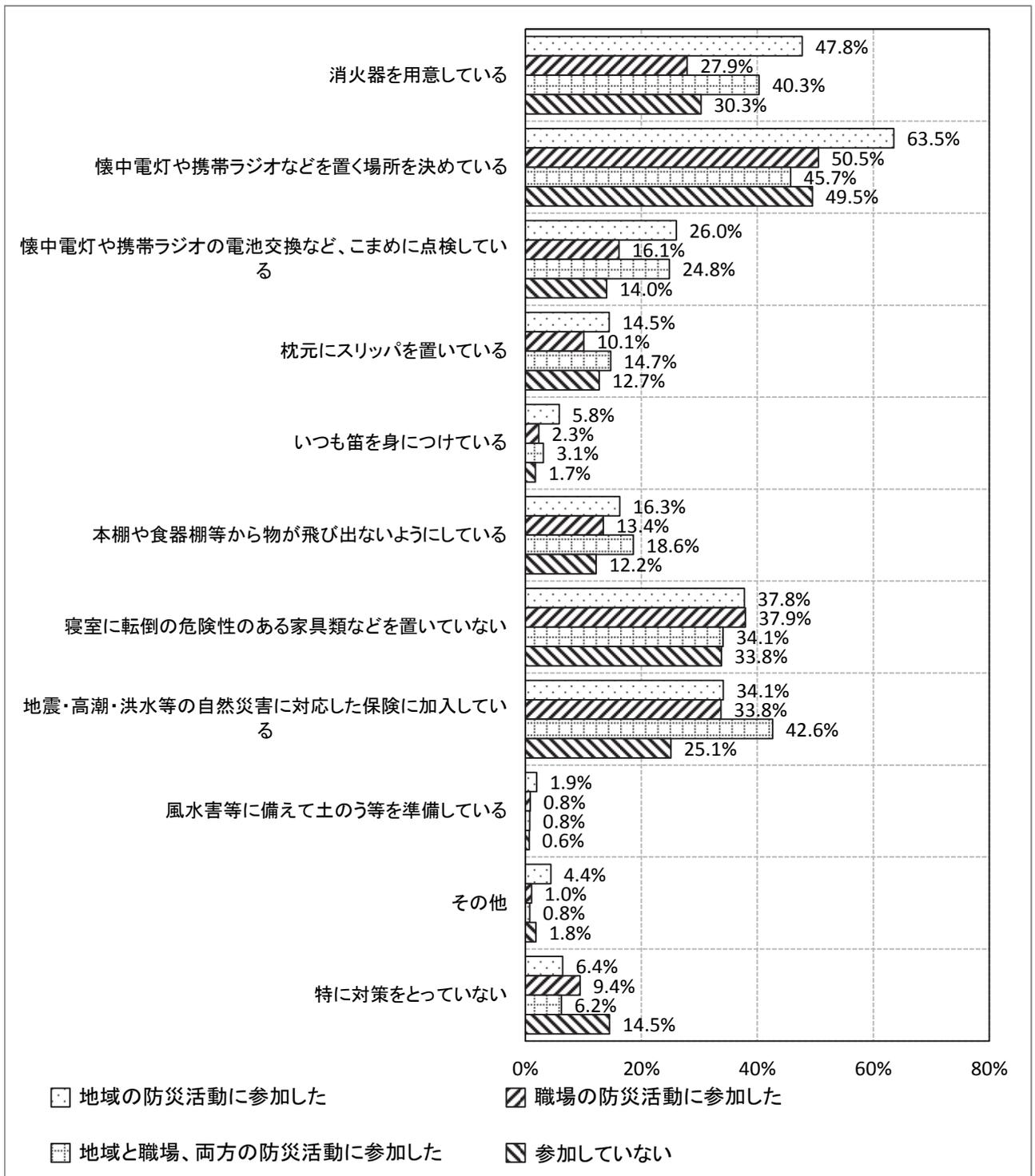


図 3.3.13 (5) ② 地域・職場での防災活動への参加経験
 -問 10 (家庭での防災対策の状況) のクロス集計-



問 10 (家庭での防災対策の状況) とのクロス集計をみると、防災活動への参加者の「災害時の備え」への取組状況が、参加していない人たちの取組状況を全般的に上回っています。

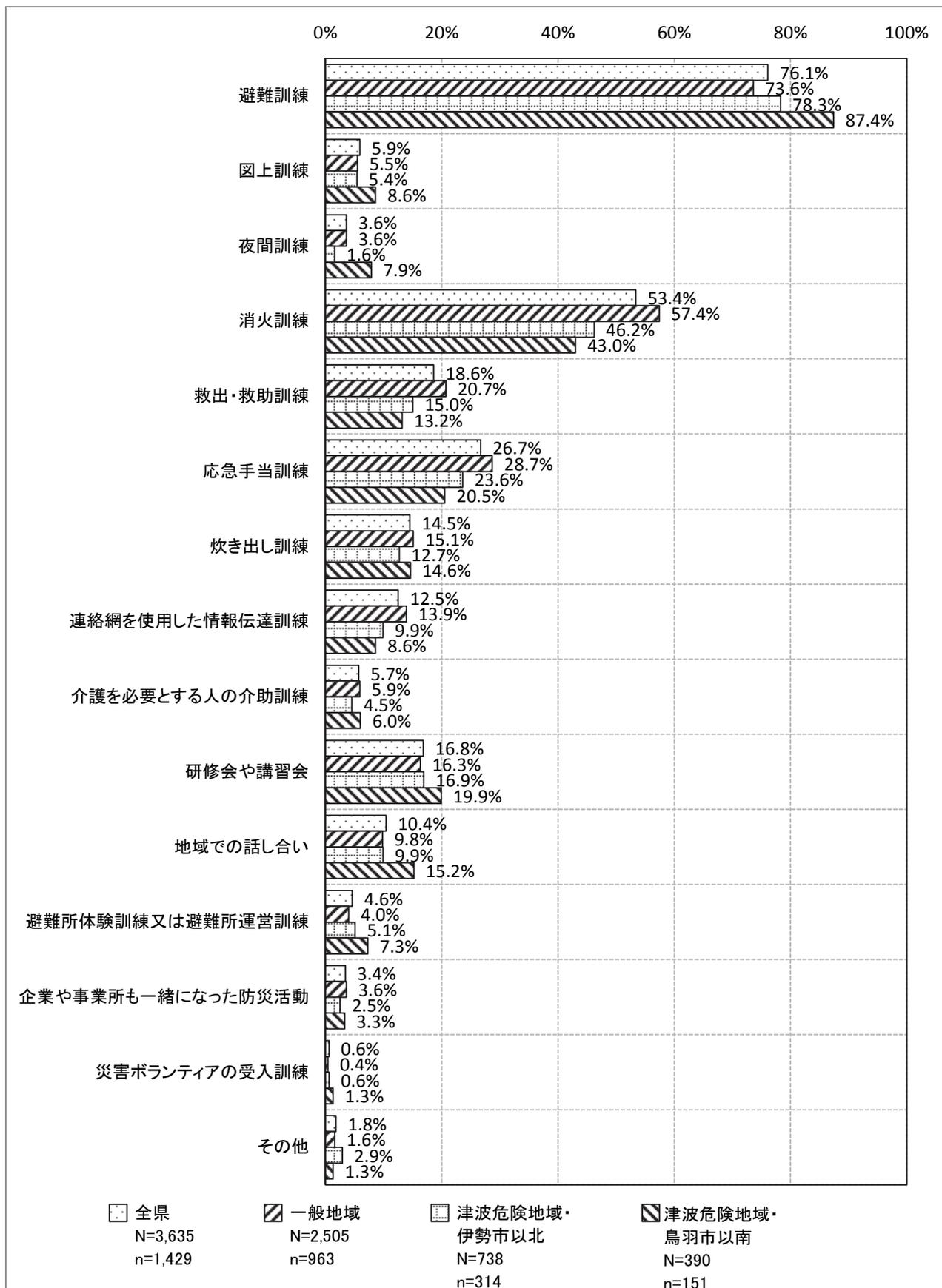
3.3.14 地域の防災活動に参加した内容

【問 19】 問 18 で「1.地域の防災活動に参加した」、「2.職場の防災活動に参加した」、「3.地域と職場、両方の防災活動に参加した」と答えた方にお尋ねします。あなたが参加した地域の防災活動は、どのようなものでしたか。(いくつでも○)

1. 避難訓練
2. 図上訓練
3. 夜間訓練
4. 消火訓練
5. 救出・救助訓練
6. 応急手当訓練
7. 炊き出し訓練
8. 連絡網を使用した情報伝達訓練
9. 介護を必要とする人の介助訓練
10. 研修会や講習会
11. 地域での話し合い
12. 避難所体験訓練又は避難所運営訓練
13. 企業や事業所も一緒になった防災活動
14. 災害ボランティアの受入訓練
15. その他 具体的に：

問19-1へ

図 3.3.14 地域の防災活動に参加した内容 -全県及び地域別- (複数回答)



地域の防災活動に参加した内容について、全県及び各地域で「避難訓練」が最も多く、次いで「消火訓練」となっています。

特に、津波危険地域（鳥羽市以南）では、「避難訓練」が約9割となり、他の地域より高くなっています。

「その他」の防災活動として、一般地域では「学校の引き渡し訓練をした」「自衛隊のヘリコプターによる防災訓練」、津波危険地域では、「初動対応訓練、BCP訓練」、「防災セミナーを主催」「地震体験車で震度7を体験」などの記載がありました。

3.3.15 地域や職場の防災活動に参加したことが役立ったか

【問 19-1】 あなたが参加した地域や職場の防災活動は、防災意識の向上に役立ちましたか。

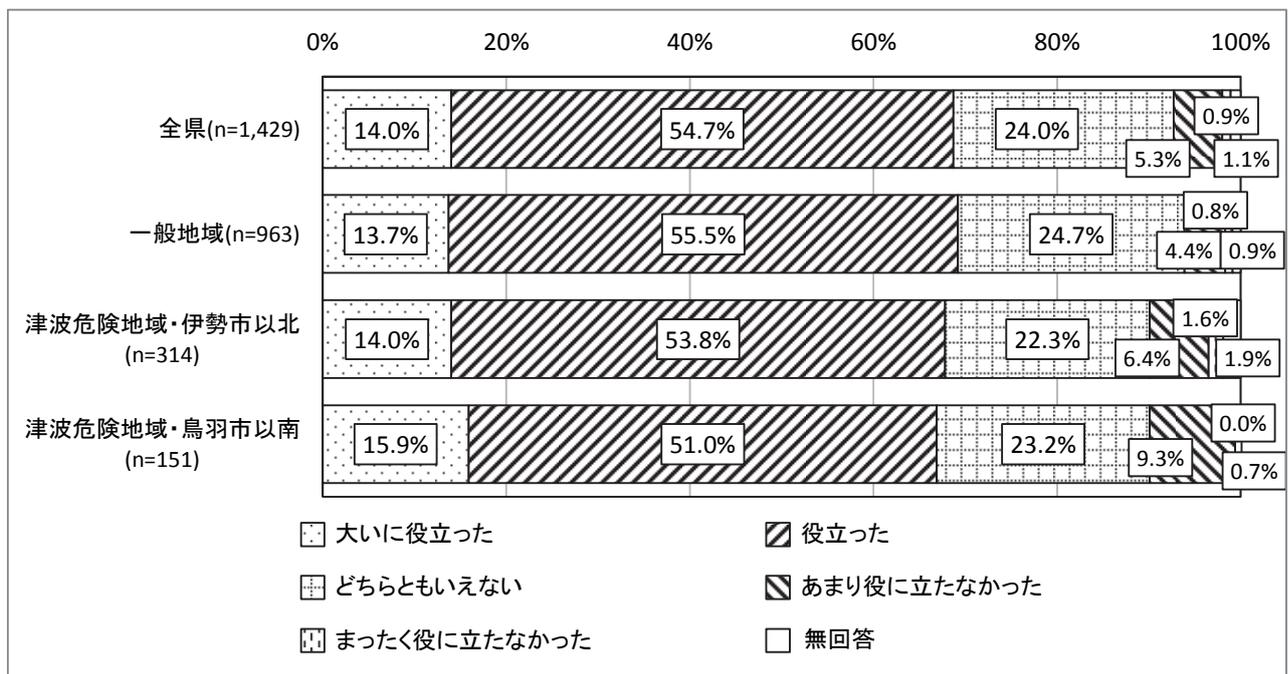
(一つだけ○)

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

} 問21へ

調査結果

図 3.3.15 地域や職場の防災活動に参加したことが役立ったか -全県及び地域別-



地域や職場の防災活動に参加したことが役立ったかについて、全県及び各地域で約7割の方が役立ったと回答しています。

3.3.16 防災活動に参加しなかった理由

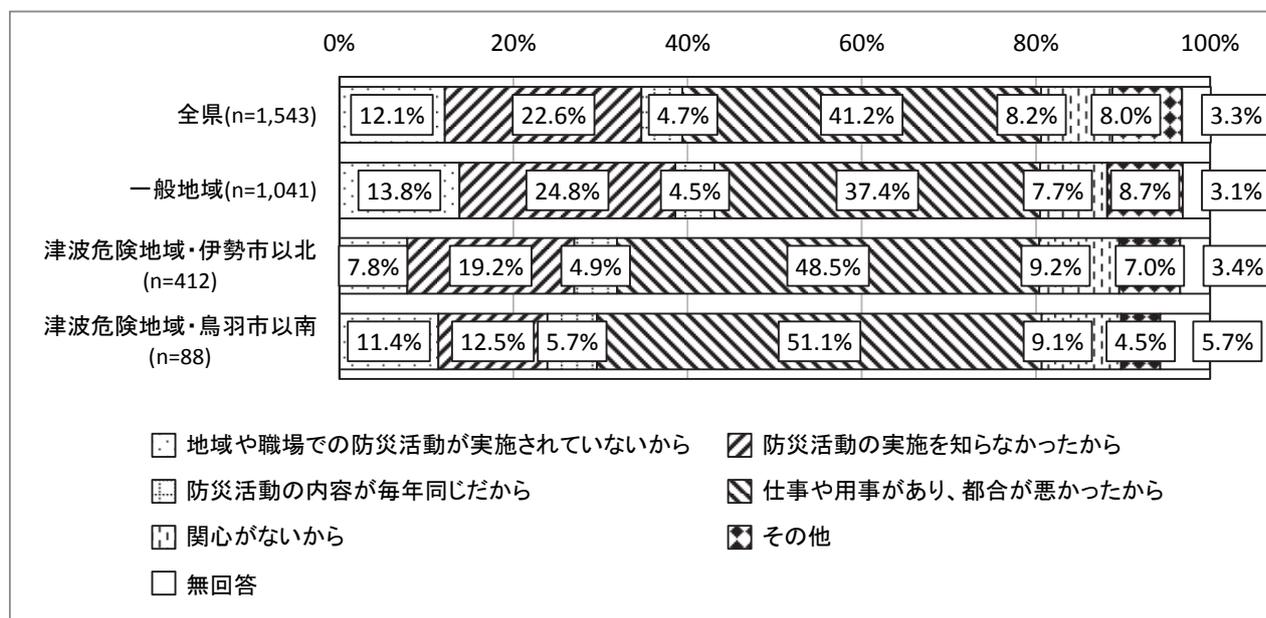
【問 20】 問 18 で、「4.参加していない」と回答された方にお尋ねします。あなたが防災活動に参加しなかった理由は何ですか。（一つだけ〇）

1. 地域や職場での防災活動が実施されていないから
2. 防災活動の実施を知らなかったから
3. 防災活動の内容が毎年同じだから
4. 仕事や用事があり、都合が悪かったから
5. 関心がないから
6. その他 具体的に：

} 問 20-1 へ

調査結果

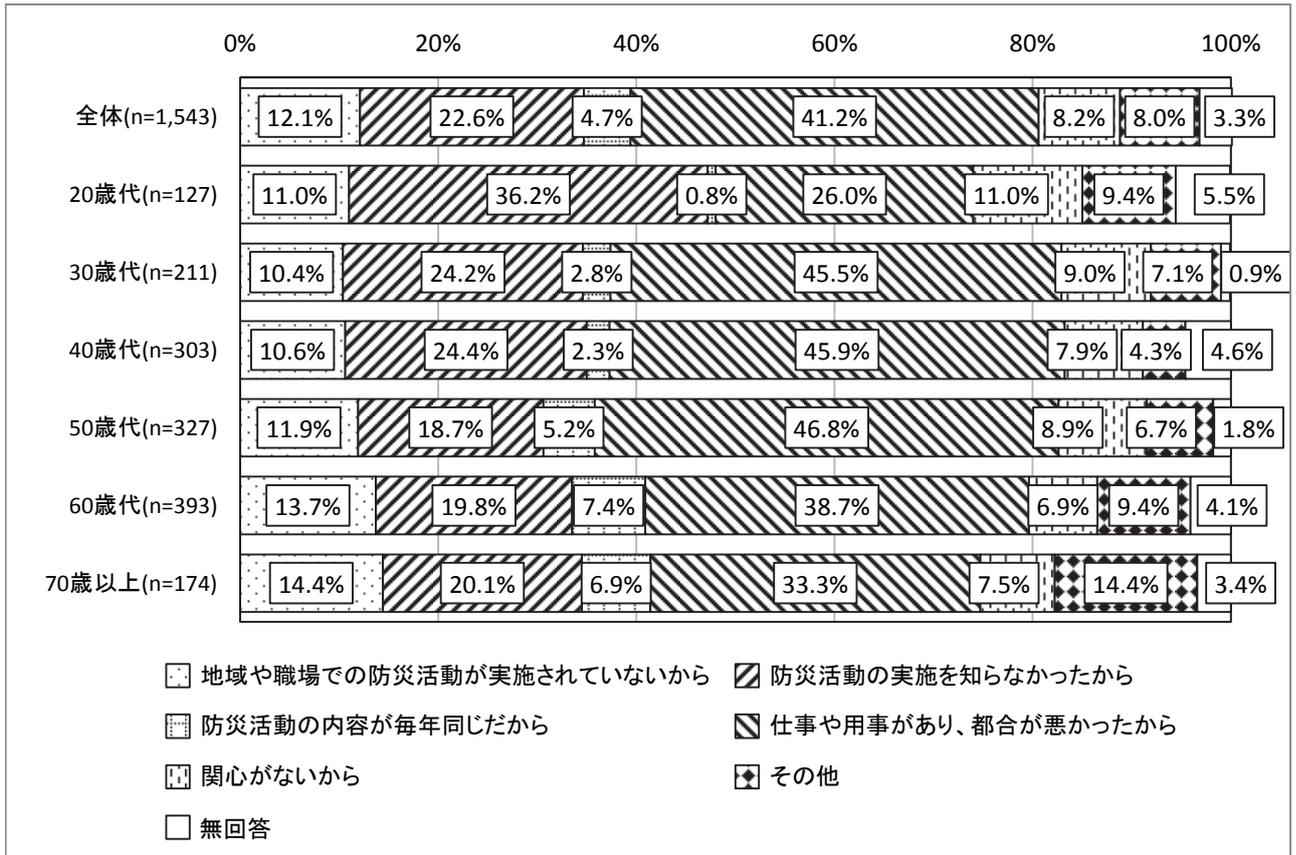
図 3.3.16 (1) 防災活動に参加しなかった理由 -全県及び地域別-



防災活動に参加しなかった理由について、全県及び各地域で「仕事や用事があり、都合が悪かったから」が最も多くなっています。また、鳥羽市以南を除く地域において2割以上の方が「防災活動の実施を知らなかったから」と回答しています。

「その他」の理由として、一般地域では「足・体が不自由な為」、「自治会に入っていない。子供が小さい」、などが、また、津波危険地域では「義務付けられていないので、つい行ってない」、「親の介護」「高齢で病弱であるため」などの記載がありました。

図 3.3.16 (2) 防災活動に参加しなかった理由 -全体及び年代別-



年代別にみると、30歳以上の年齢で「仕事や用事があり、都合が悪かったから」との回答が最も高くなりました。

また、「防災活動の実施を知らなかったから」は、全体では約2割、20歳代では約4割の方が回答しています。

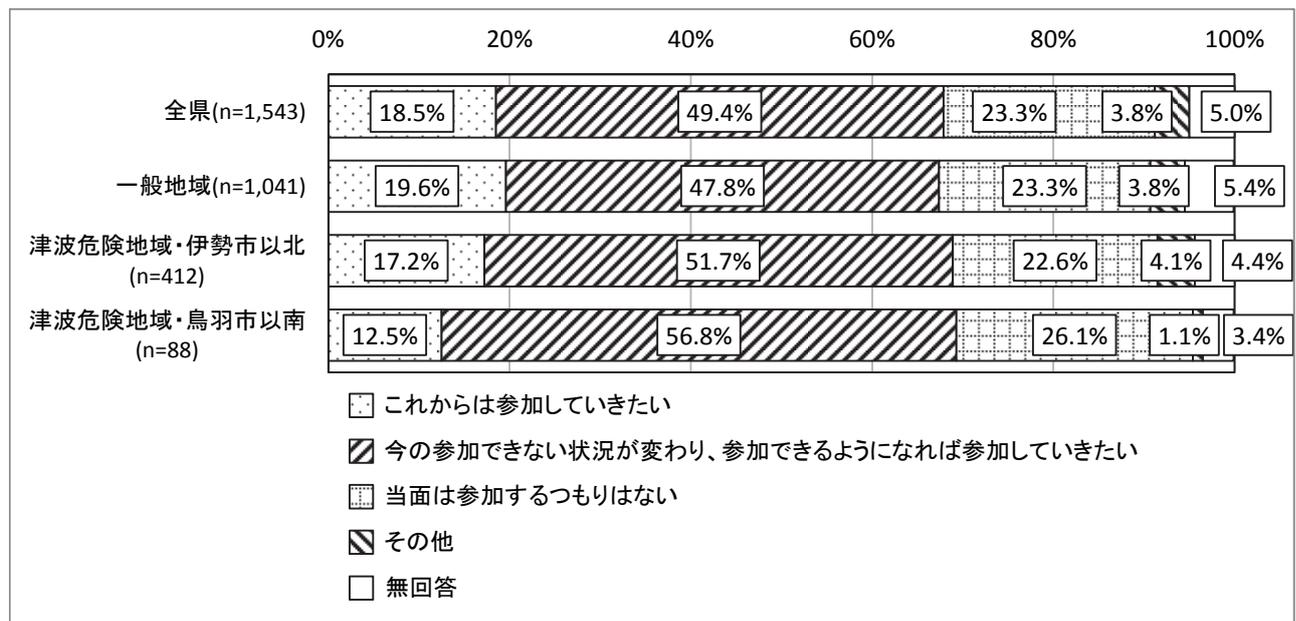
3.3.17 今後の地域の防災活動への参加

【問 20-1】 問 18 で、「4.参加していない」と回答された方にお尋ねします。今後の地域の防災活動への参加についてはどのように考えていますか。(一つだけ○)

1. これからは参加していきたい
2. 今の参加できない状況が変わり、参加できるようになれば参加していきたい
3. 当面は参加するつもりはない
4. その他 具体的に：

調査結果

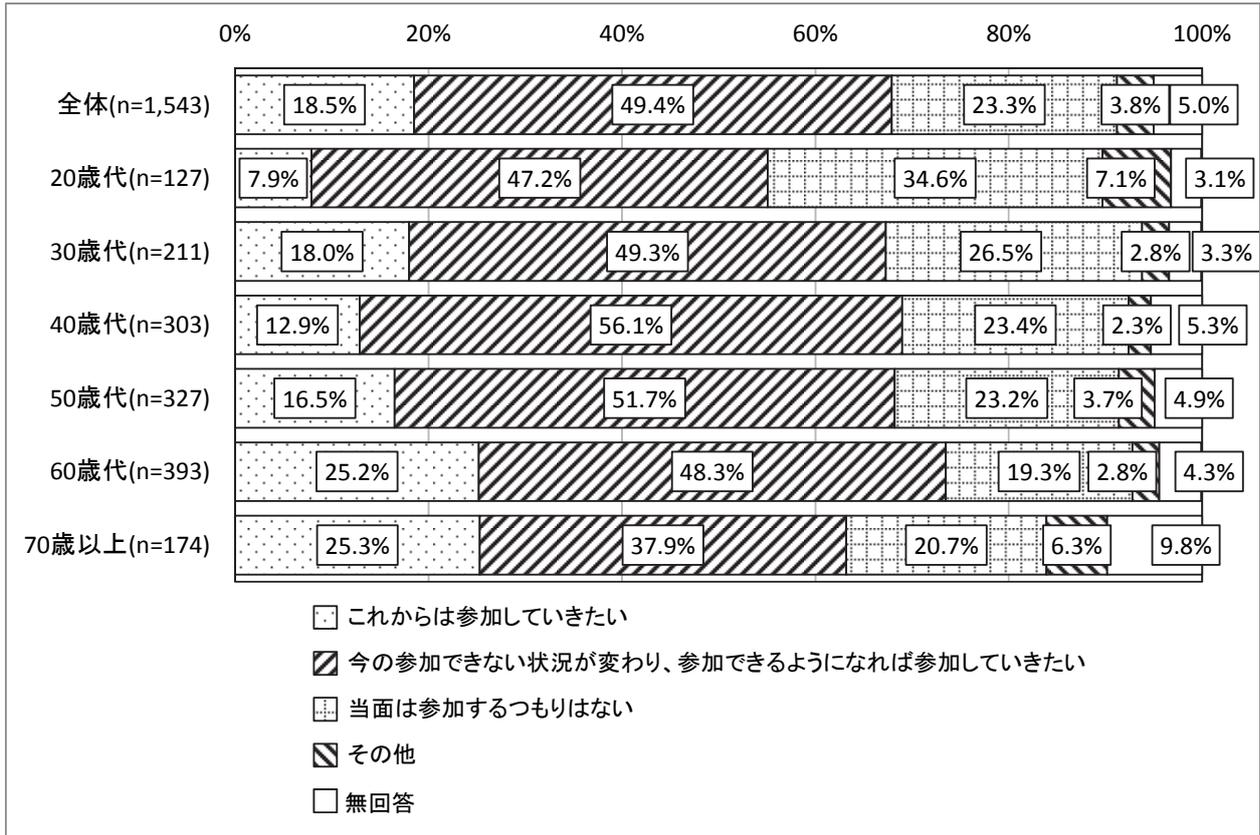
図 3.3.17 (1) 今後の地域の防災活動への参加 -全県及び地域別-



今後の地域の防災活動への参加について、全県及び各地域で約7割の方が参加意欲を示しており、中でも「今の参加できない状況が変わり、参加できるようになれば参加していきたい」と考えている方が多くなっています。

「その他」の回答について見ると、一般地域では「防災活動等の案内が来た事ありません」、「子どもが小さいうちは無理」「身体的に参加出来ない人々の対策がないのでは」など、また、津波危険地域では「参加する意識はあっても、市などから情報があまり伝わってこない。一部の人たちだけで形式だけの活動をしているのでは」、「地域ごとに(町内会)であれば参加するが、そういったものがない。それに若年者の参加がないので行きづらい」などの記載がありました。

図 3.3.17 (2) 今後の地域の防災活動への参加 -全体及び年代別-



年代別にみると、全ての年代で5割から7割の方が参加意欲を示しています。

但し、20歳代の方については、「これからは参加していきたい」が他の年代と比べ、低くなっています。

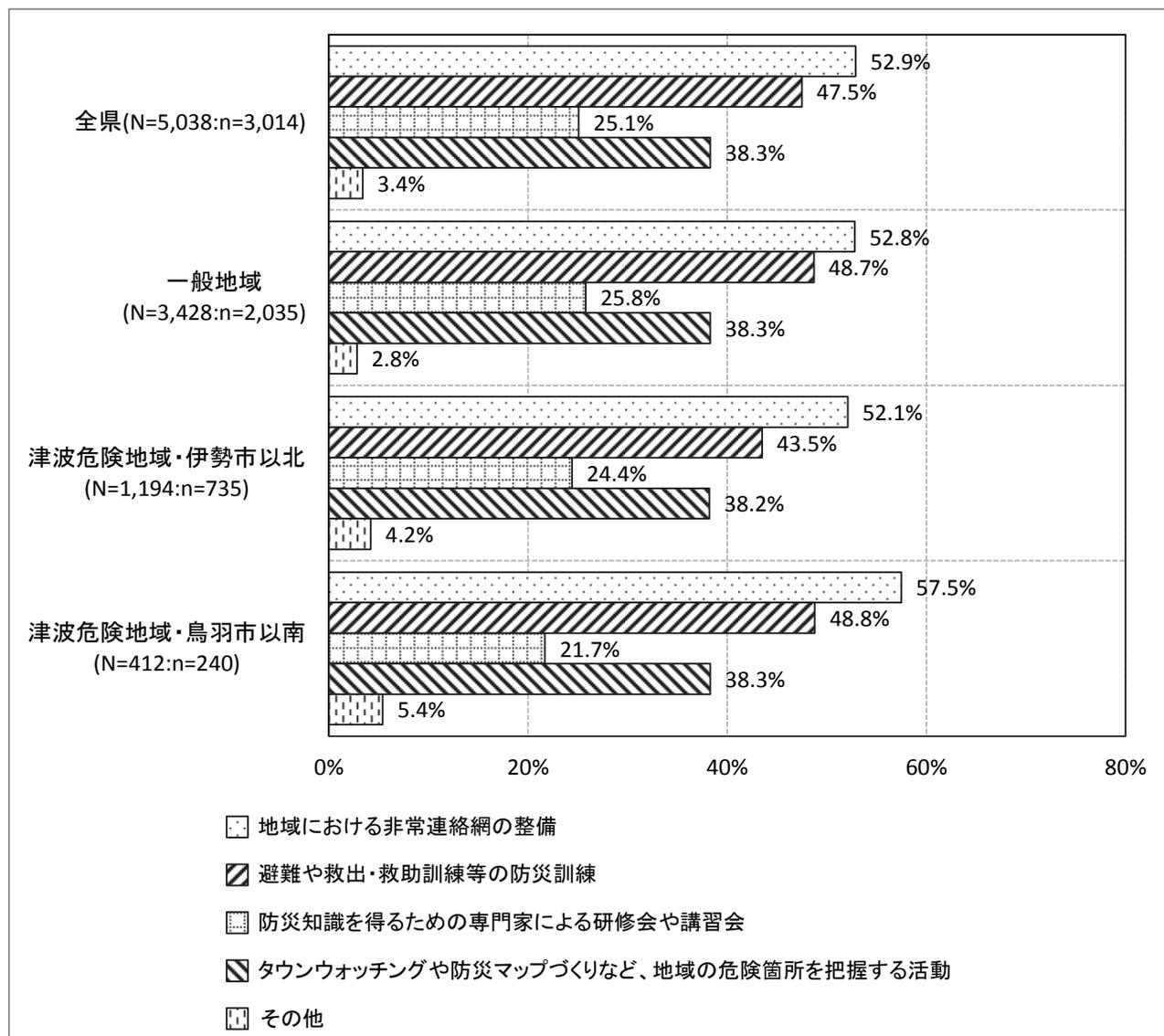
3.3.18 地域・職場で必要と思う防災活動

【問 21】 あなたは、こういった防災活動が地域や職場で実施されることが必要だと思いますか。
(いくつでも○)

1. 地域における非常連絡網の整備
2. 避難や救出・救助訓練等の防災訓練
3. 防災知識を得るための専門家による研修会や講習会
4. タウンウォッチングや防災マップづくりなど、地域の危険箇所を把握する活動
5. その他 具体的に：

調査結果

図 3.3.18 地域・職場で必要と思う防災活動 -全県及び地域別- (複数回答)



地域・職場で必要と思う防災活動について、全県及び各地域ともに「地域における非常連絡網の整備」が最も多く、次いで「避難や救出・救助訓練等の防災訓練」となっています。

「その他」の回答では、「要介助者の把握」「炊き出し訓練」「訓練は全然危機感がなくイベント化している」などの記載がありました。

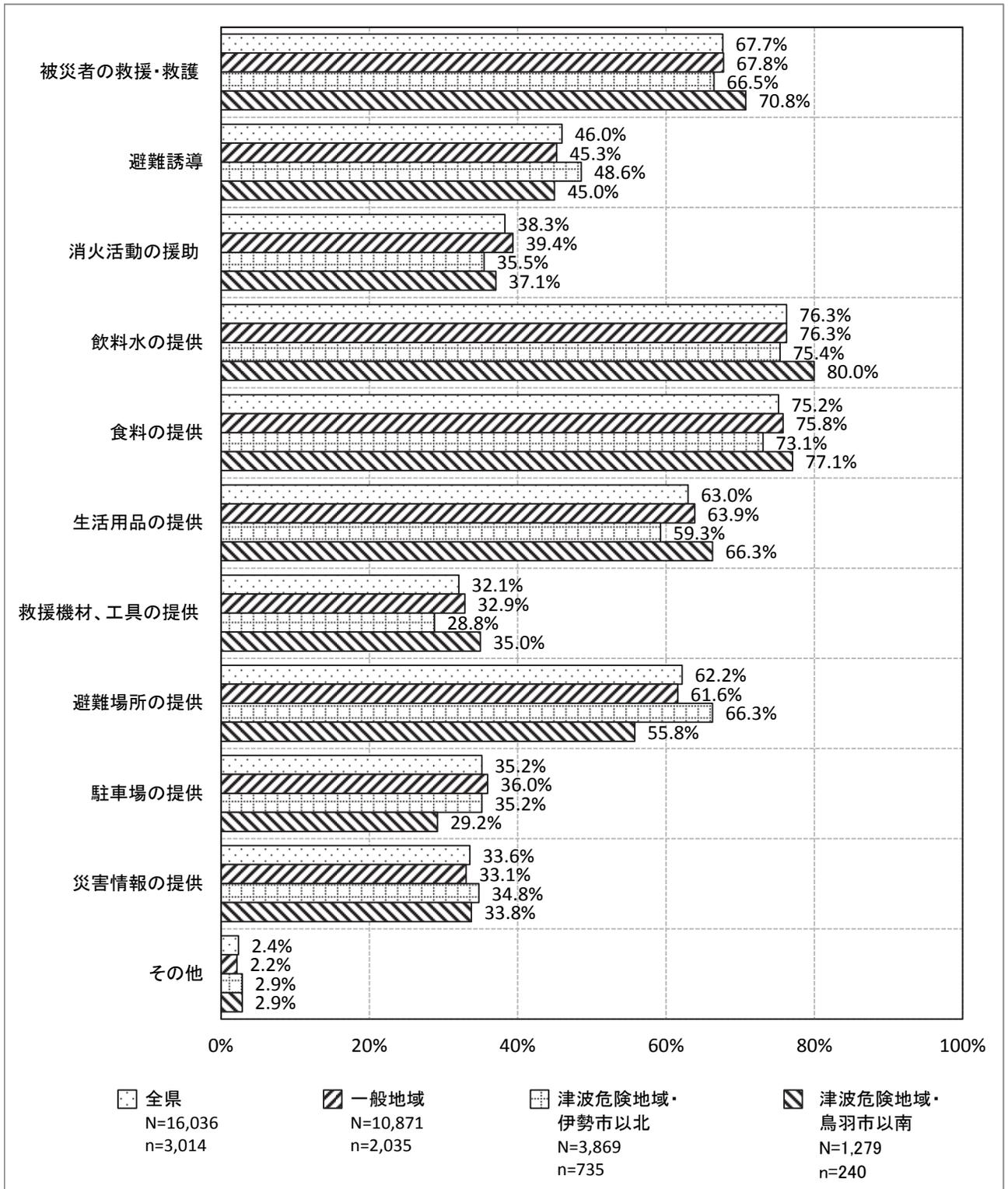
3.3.19 防災活動や防災対策で企業・事業所に期待すること

【問 22】 地域の防災活動や防災対策について、地域の企業・事業所に期待することは何ですか。

(いくつでも○)

1. 被災者の救援・救護
2. 避難誘導
3. 消火活動の援助
4. 飲料水の提供
5. 食料の提供
6. 生活用品の提供
7. 救援機材、工具の提供
8. 避難場所の提供
9. 駐車場の提供
10. 災害情報の提供
11. その他 具体的に：

図 3.3.19 防災活動や防災対策で企業・事業所に期待すること
-全県及び地域別（複数回答）-



防災活動や防災対策で企業・事業所に期待することについて、全ての地域で「飲料水の提供」と「食料の提供」が多くなっており、次いで、「被災者の救援・救護」、「避難場所の提供」が多くなっています。

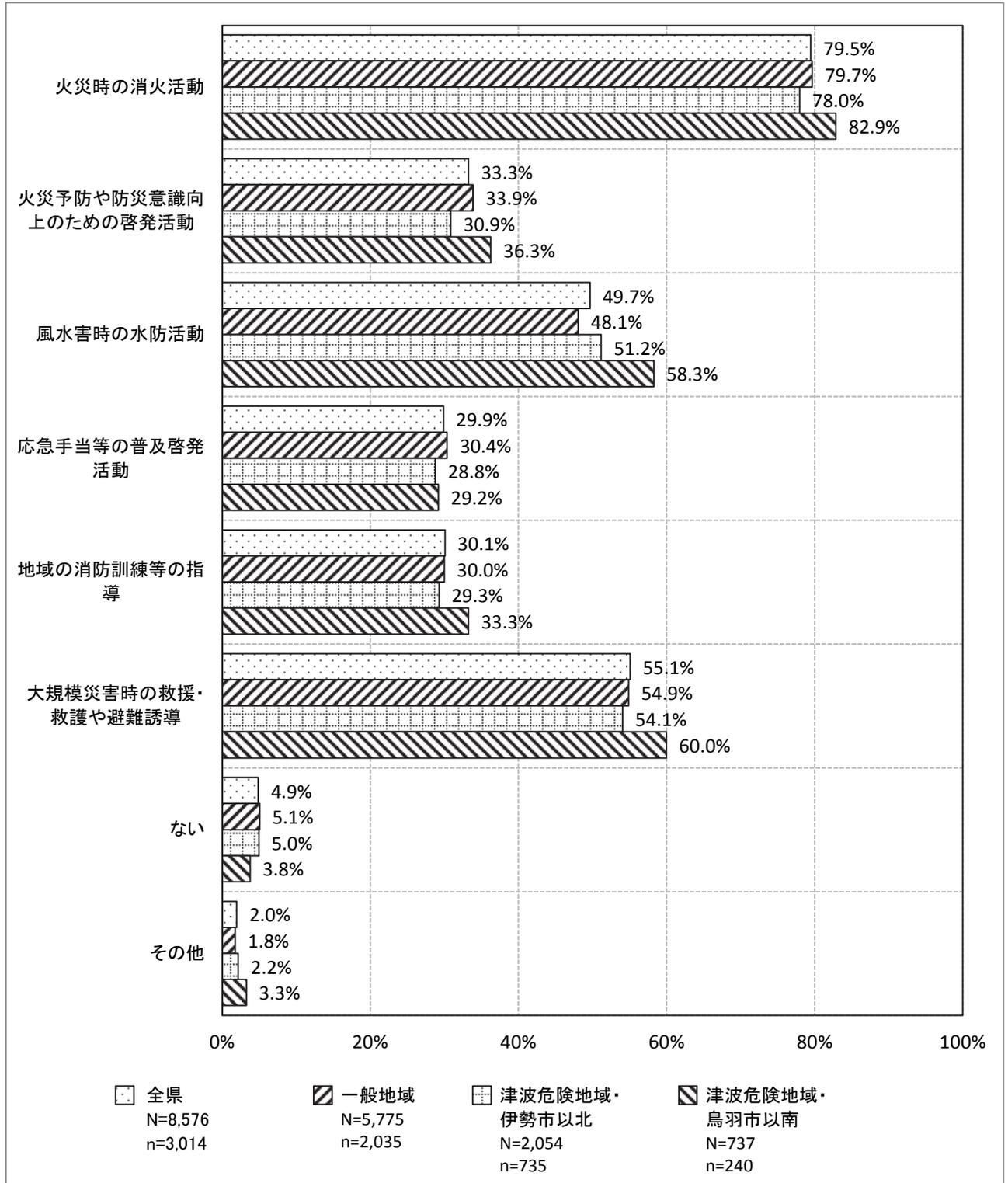
「その他」の回答では、「各企業・事業所が地震時などにできる事を、事前にホームページなどで宣言または紹介をして欲しい」、「避難させてほしい。一時的でも構わないので。事業所しか高い建物がありません」などの記載がありました。

3.3.20 地域の消防団に期待する活動内容

【問 23】 あなたがお住まいの地域の消防団に期待する活動はどのようなものがありますか。(いくつかでも○)

1. 火災時の消火活動
2. 火災予防や防災意識向上のための啓発活動
3. 風水害時の水防活動
4. 応急手当等の普及啓発活動
5. 地域の消防訓練等の指導
6. 大規模災害時の救援・救護や避難誘導
7. ない
8. その他 具体的に：

図 3.3.20 地域の消防団に期待する活動内容 -全県及び地域別- <複数回答>



地域の消防団に期待する活動内容について、全ての地域において「火災時の消火活動」に約 8 割の方が高い期待を持たれています。

また、消火活動以外にも「大規模災害時の救援・救護や避難誘導」、「風水害時の水防活動」など、災害発生時の活動について、消防団に対する期待が大きいことが伺えます。

3.3.21 自主防災組織の有無と活動状況

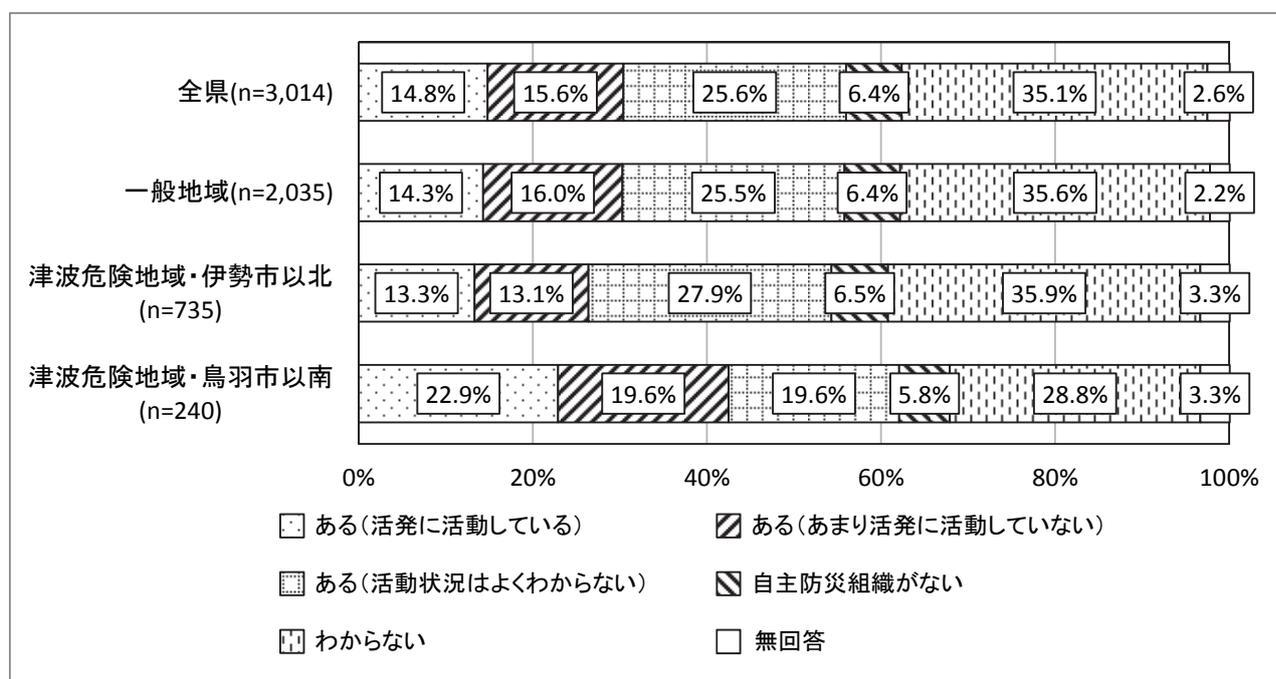
【問 24】 あなたのお住まいの地域は、自主防災組織（町内会・自治会などを母体とした地域の住民が防災活動をする組織）がありますか。また、活動状況はどうか。

（一つだけ○）

1. ある（活発に活動している）
2. ある（あまり活発に活動していない）
3. ある（活動状況はよくわからない）
4. 自主防災組織がない
5. わからない

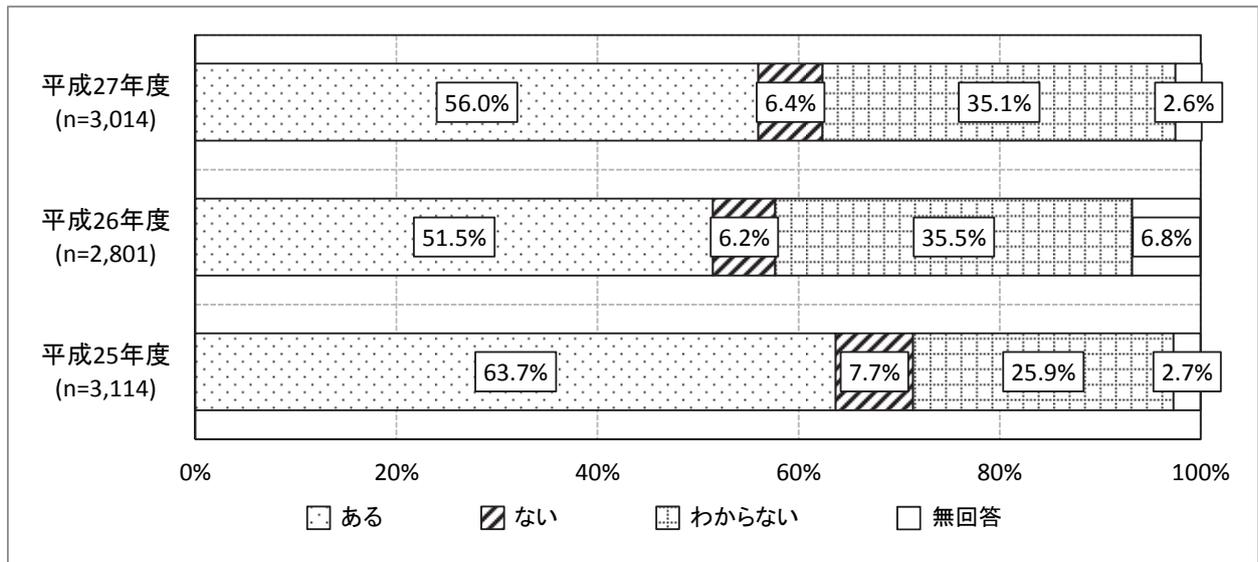
調査結果

図 3.3.21 (1) 自主防災組織の有無と活動状況 -全県及び地域別-



自主防災組織の有無と活動状況について、組織率 93%に対し、全県では「ある」が 56%となっています。また、自主防災組織の活動状況について、41.2%の方が「あまり活発に活動していない」、「活動状況はよくわからない」と回答しています。

図 3.3.21 (2) 自主防災組織の有無と活動状況 -全県経年変化-



経年変化でみると、自主防災組織が「ある」との回答が、昨年度と比べて 4.5 ポイント上昇し 56% となり、「わからない」が 0.4 ポイント下降し 35.1% でした。

昨年度低下した地域での自主防災組織の活動の認知率が、少し増加する結果となりました。

3.3.22 就学している児童生徒の有無

【問 25】 あなたのお住まいには、就学している児童生徒がいますか。(いくつでも○)

1. 小学生がいる } 問 25-1 へ

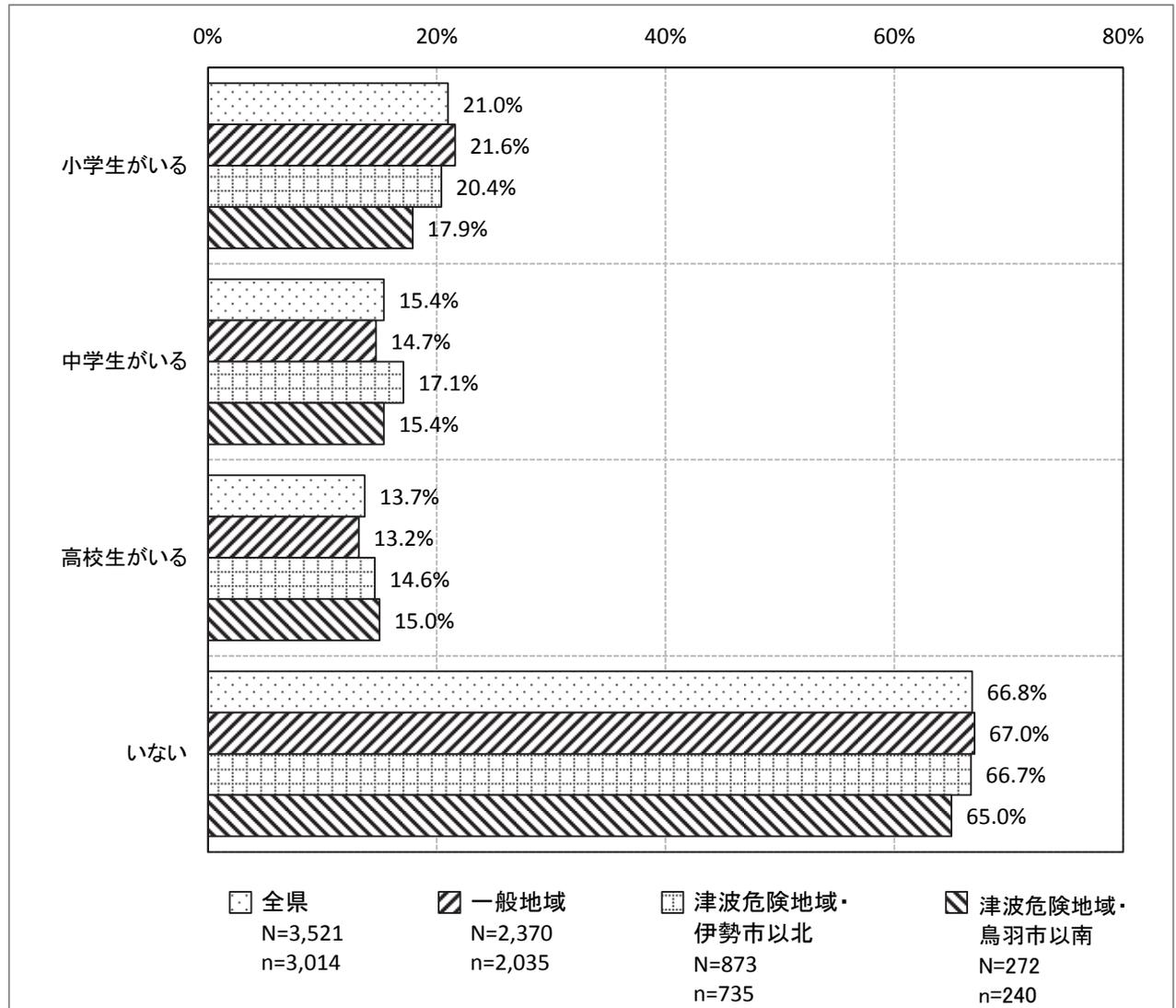
2. 中学生がいる }

3. 高校生がいる }

4. いない → 問 25-2 へ

調査結果

図 3.3.22 就学している児童生徒の有無 -全県及び地域別- <複数回答>



【問 25-1】 以下の学校の防災教育にかかる設問のための基礎データとして収集しました。

3.3.23 学校の防災教育の家庭での認知度

【問 25-1】 三重県では、「防災ノート」等防災教育用の教材を作成・配布し、学校での活用を要請するなど、学校での防災教育の充実に取り組んでいます。あなたは、お住まいの児童生徒が通っている学校の防災教育についてどの程度知っていますか。

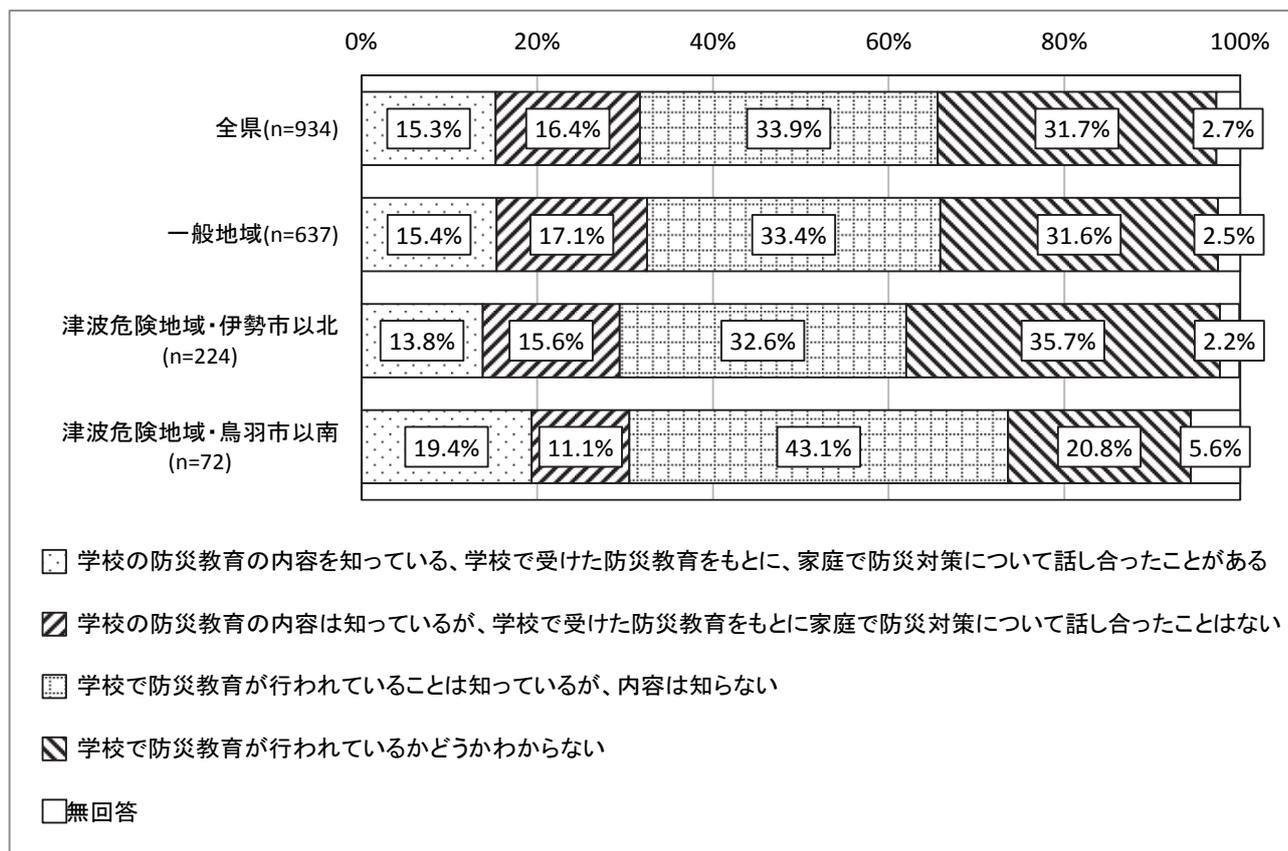
(一つだけ〇)

※複数の児童生徒がいる場合は、一番年下の児童生徒が通っている学校についてお答えください。

1. 学校の防災教育の内容を知っている、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある
2. 学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない
3. 学校で防災教育が行われていることは知っているが、内容は知らない
4. 学校で防災教育が行われているかどうか分からない

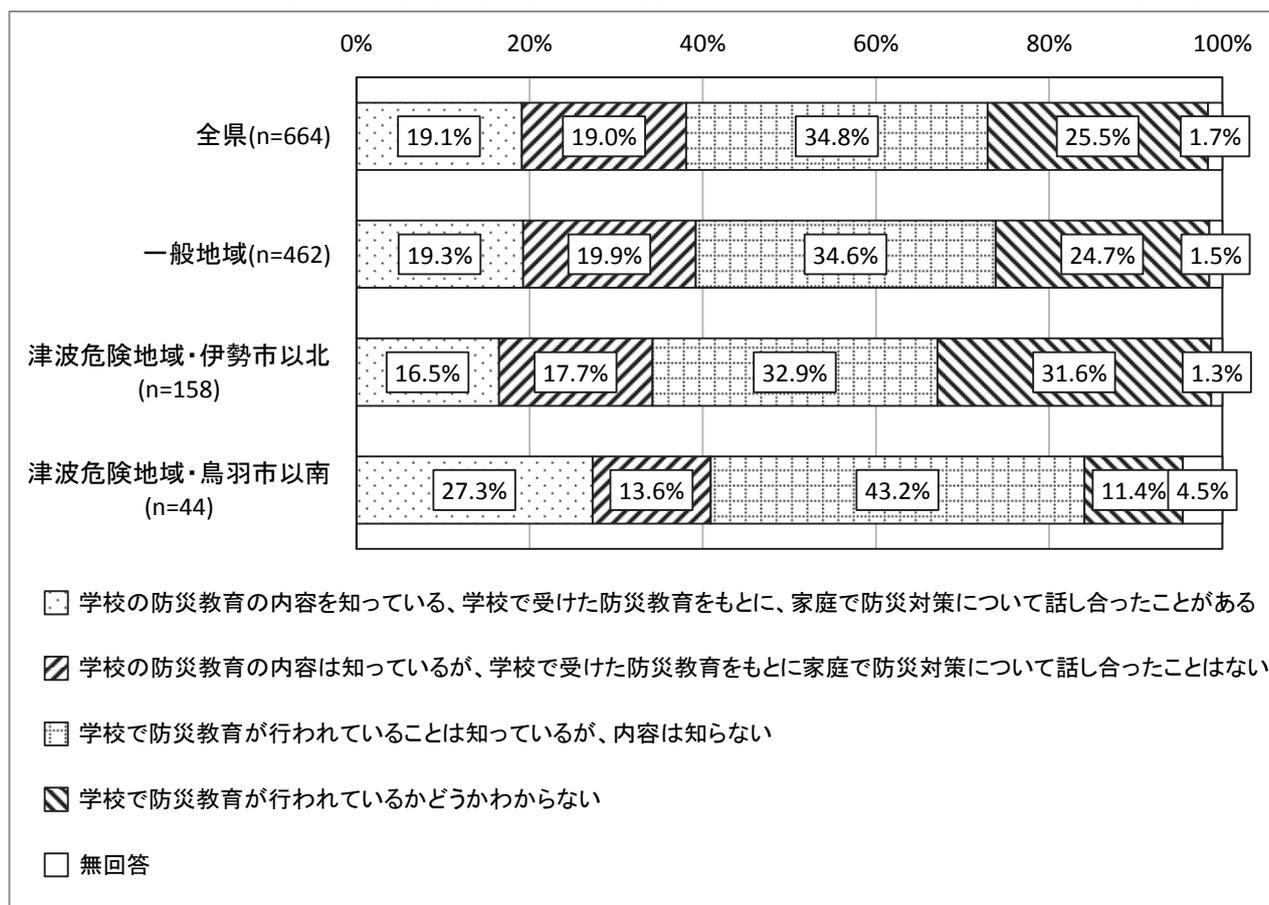
調査結果

図 3.3.23 (1) 学校の防災教育の家庭での認知度 -全県及び地域別-



小学生から高校生までの児童生徒がいる家庭の方に聞いたところ、学校の防災教育の認知度について、「学校の防災教育の内容を知っている、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」、「学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない」が31.7%となっていますが、同率の31.7%が「学校で防災教育が行われているかどうか分からない」と回答しています。

図 3.3.23 (2) 学校の防災教育の家庭での認知度 - 全県及び地域別 (60 歳未満の方) -

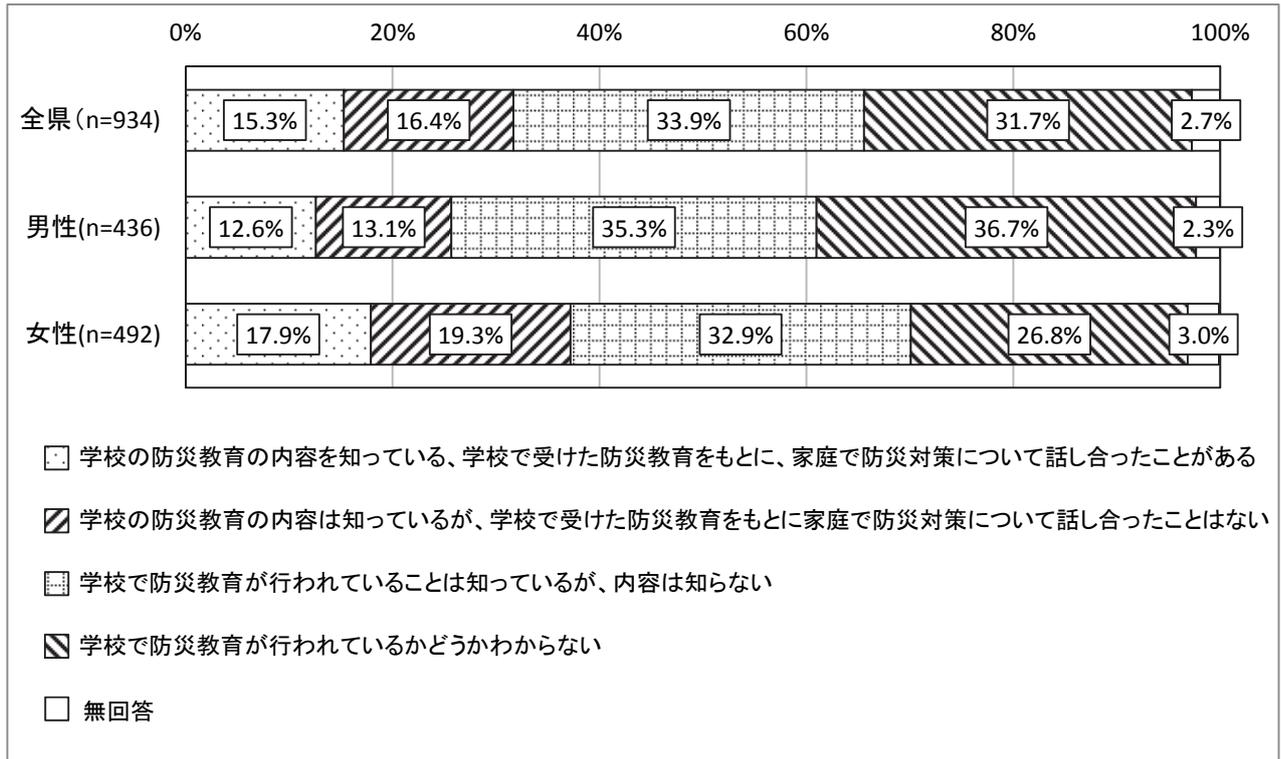


学校の防災教育の家庭での認知度について、保護者である可能性が高い 60 歳未満の方でみると、「学校で防災教育の内容を知っている」の割合は 38.1% に高まります。しかしながら、4 人に 1 人以上の方が「学校で防災教育が行われているかどうかわからない」と回答しています。

地域別にみると、津波危険地域（鳥羽市以南）で 27.3% が「学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」と回答しており、他の地域よりも高くなっています。

学校での防災教育を家庭で活かしていくためにも、「防災ノート」等防災教育用の教材のさらなる浸透が必要です。

図 3.3.23 (3) 学校の防災教育の家庭での認知度 -全県及び性別-



性別で見ると、「学校の防災教育の内容を知っている」割合は、男性が25.7%、女性が37.2%となっています。

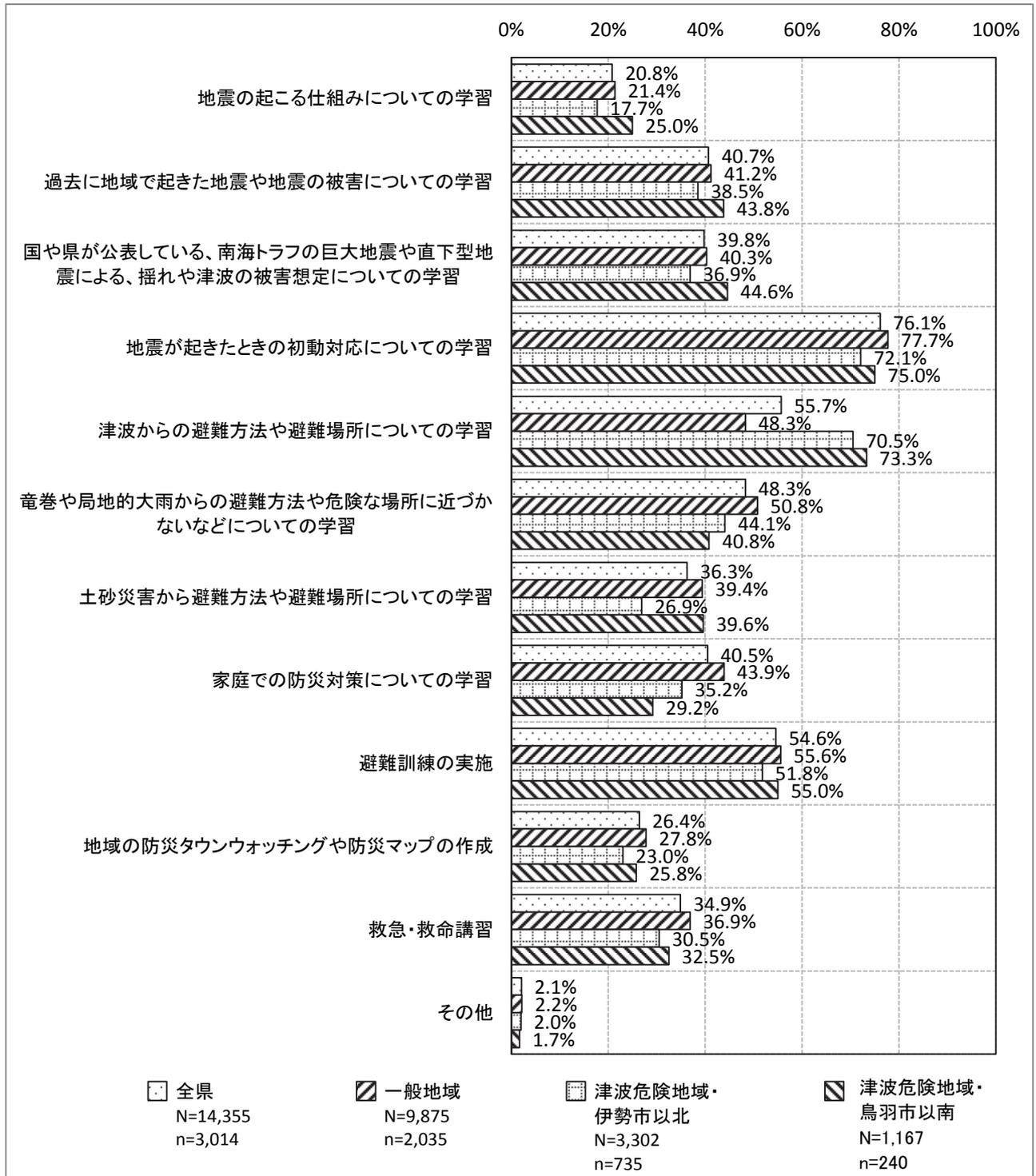
また、「学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」では、男性が12.6%、女性が17.9%となっており、いずれも女性が高くなっています。

3.3.24 防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの

【問 25-2】 防災教育で、学校に特に力を入れて取り組んでほしいものは何ですか。(いくつでも
○)

1. 地震の起こる仕組みについての学習
2. 過去に地域で起きた地震や地震の被害についての学習
3. 国や県が公表している、南海トラフの巨大地震や直下型地震による、揺れや津波の被害想定についての学習
4. 地震が起きたときの初動対応についての学習
5. 津波からの避難方法や避難場所についての学習
6. 竜巻や局地的大雨からの避難方法や危険な場所に近づかないなどについての学習
7. 土砂災害から避難方法や避難場所についての学習
8. 家庭での防災対策についての学習
9. 避難訓練の実施
10. 地域の防災タウンウォッチングや防災マップの作成
11. 救急・救命講習
12. その他 具体的に：

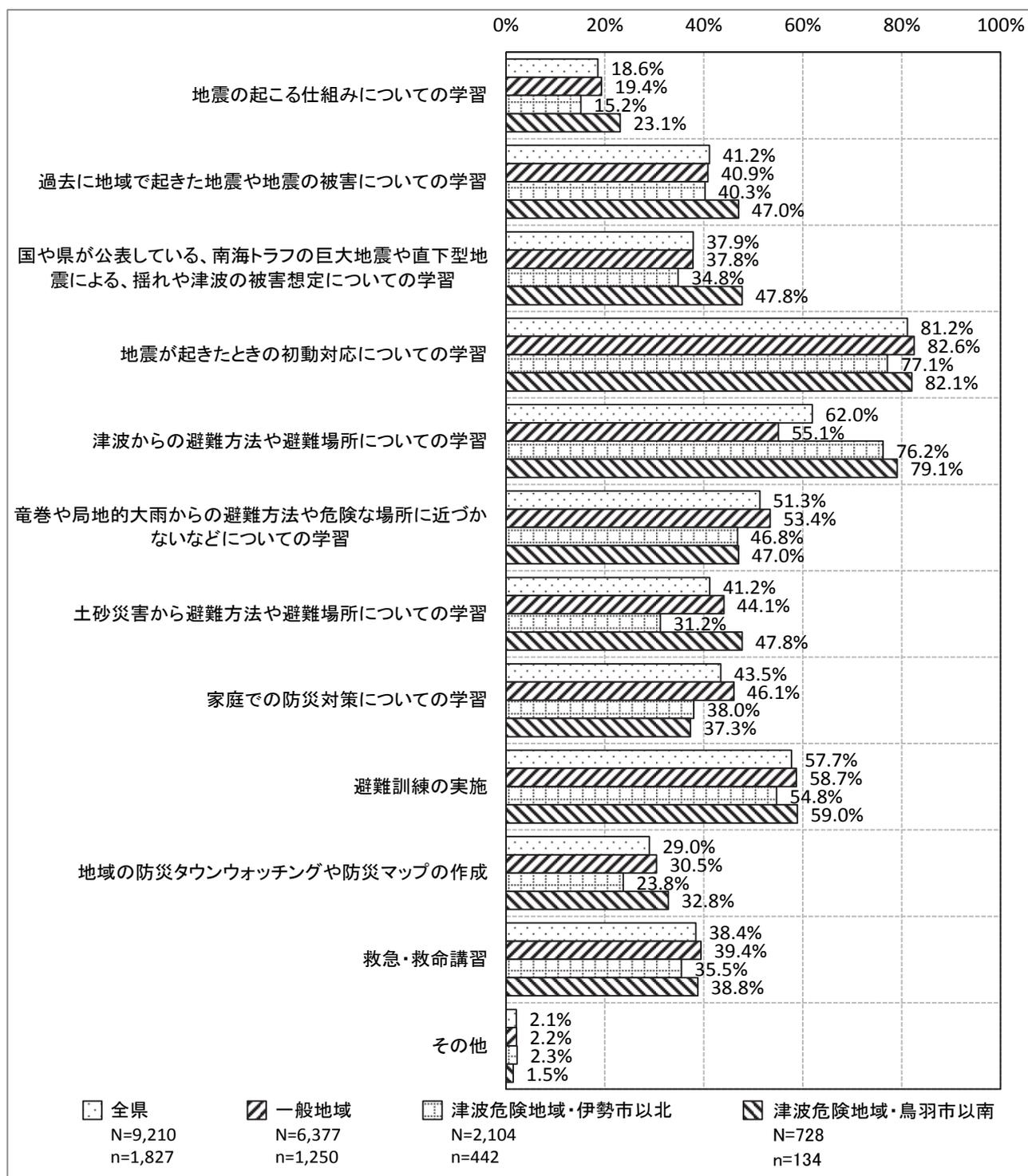
図 3.3.24 (1) 防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの
-全県及び地域別- (複数回答)



防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいものについて、「地震が起きたときの初動対応についての学習」が全ての地域で70%以上と多くなっています。津波危険地域では「津波からの避難方法や避難場所についての学習」についても同様に多くなっています。また、全ての地域で過半数の方が「避難訓練の実施」を希望しています。

「その他」の回答では、「自分で自分の生命を守る意識」、「伊勢湾台風の被害者の実話」「自助・共助の重要性についての学習」等がありました。

図 3.3.24 (2) 防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの
-全県及び地域別（60歳未満の方）-



防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいものについて、60歳未満の方でも、全県、一般及び津波危険の各地域で「地震が起きたときの初動対応についての学習」、「津波からの避難方法や避難場所についての学習」、「避難訓練の実施」を希望している傾向は、年齢を限定しないケース（前ページの調査結果）と同様です。

3.3.25 防災に関する啓発活動等の認知度

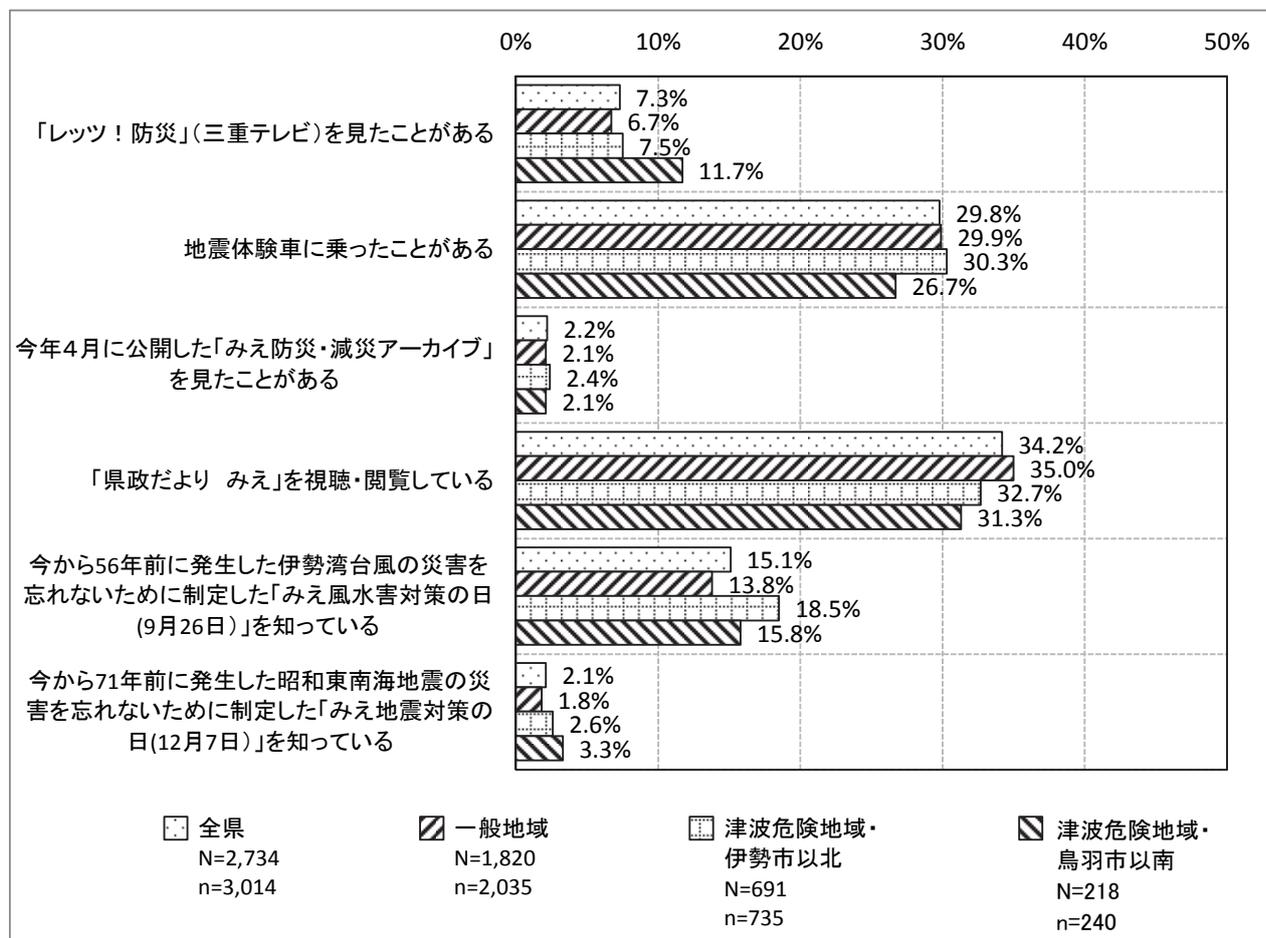
【問 26】 三重県が取り組んでいる防災に関する啓発活動等についてどの程度ご存じですか。

(いくつでも○)

- | | | |
|--|---|----------|
| 1. 「レッツ！防災」（三重テレビ）を見たことがある | } | 問 26-1 へ |
| 2. 地震体験車に乗ったことがある | | |
| 3. 今年 4 月に公開した「みえ防災・減災アーカイブ」を見たことがある | | →問 27 へ |
| 4. 「県政だより みえ」を視聴・閲覧している | | →問 27 へ |
| 5. 今から 56 年前に発生した伊勢湾台風の災害を忘れないために制定した「みえ風水害対策の日（9月26日）」を知っている | | →問 27 へ |
| 6. 今から 71 年前に発生した昭和東南海地震の災害を忘れないために制定した「みえ地震対策の日（12月7日）」を知っている | | →問 27 へ |

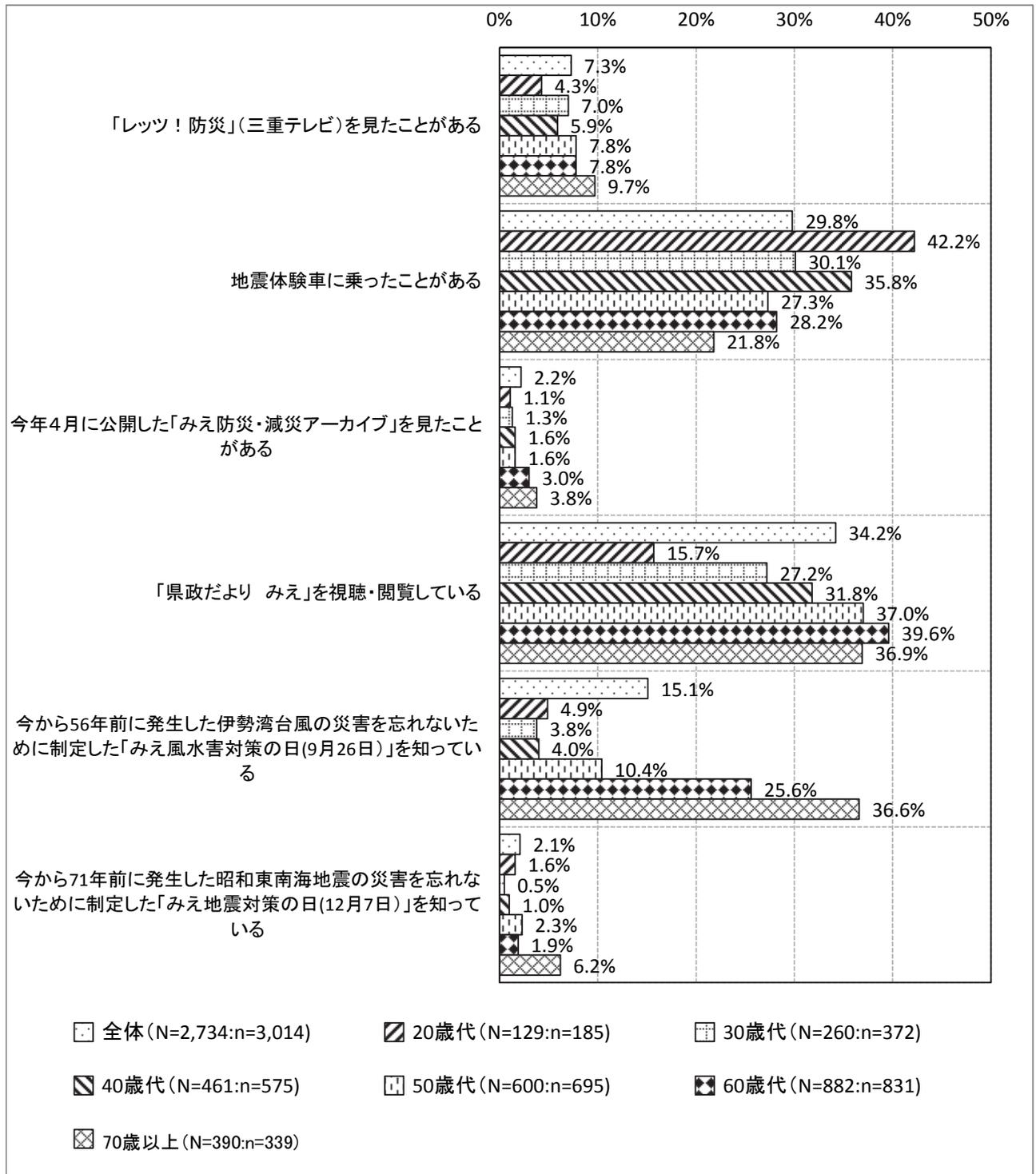
調査結果

図 3.3.25 (1) 防災に関する啓発活動等の認知度 -全県及び地域別- (複数回答)



防災に関する啓発活動等の認知度について、全般的に「「県政だより みえ」を視聴・閲覧している」が最も多く、次いで「地震体験車に乗ったことがある」が多くなっています。

図 3.3.25 (2) 防災に関する啓発活動等の認知度 -全体及び年代別-



年代別でみると、「県政だより みえ」を視聴・閲覧している」が50歳代から70歳以上で高くなっている一方、20歳代による視聴・閲覧が低くなっています。

「みえ風水害対策の日(9月26日)を知っている」と回答された方は50歳代以下が低くなっています。

3.3.26 啓発活動は防災意識の向上に役立ったか

【問 26-1】 問 26 で 1～2 に○を一つ以上付けられた方にお尋ねします。これら防災に関する啓発活動は、あなたの防災意識の向上に役立ちましたか。

(該当する活動ごとに○)

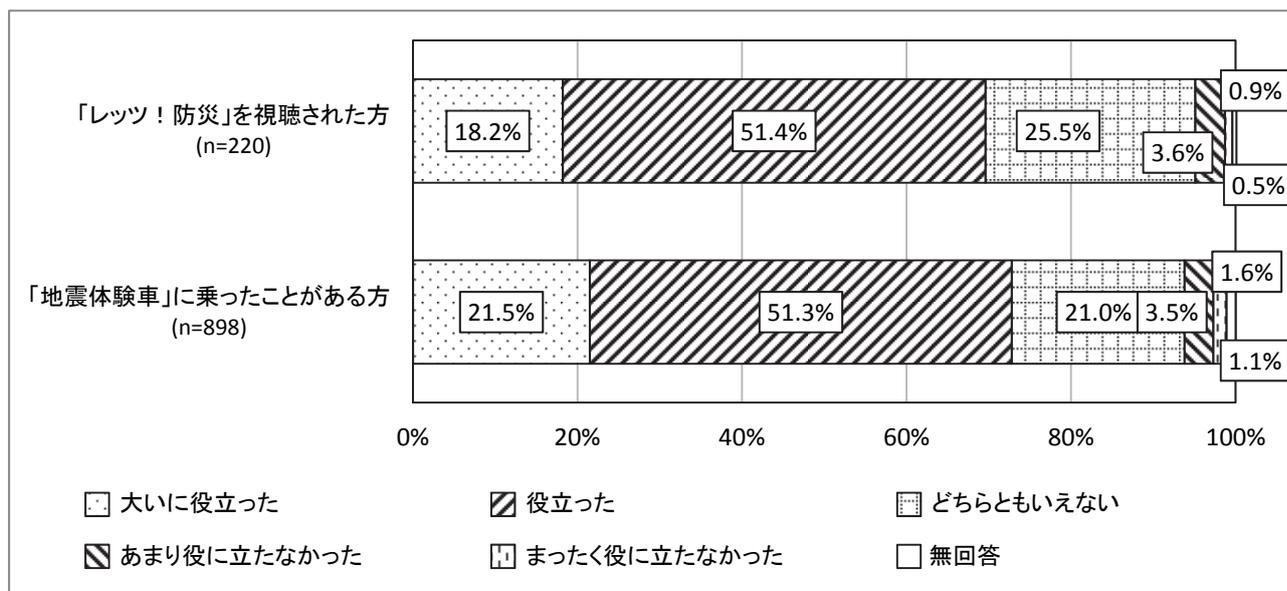
啓発活動

- * 「レッツ！防災」を視聴された方
- * 「地震体験車」に乗ったことがある方

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

調査結果

図 3.3.26 啓発活動は防災意識の向上に役立ったか -全県-



啓発活動は防災意識の向上に役立ったかについて、「役立った（大いに役立った＋役立った）」は、「レッツ！防災」を視聴された方が69.6%、「地震体験車」に乗ったことがある方が72.8%となっています。

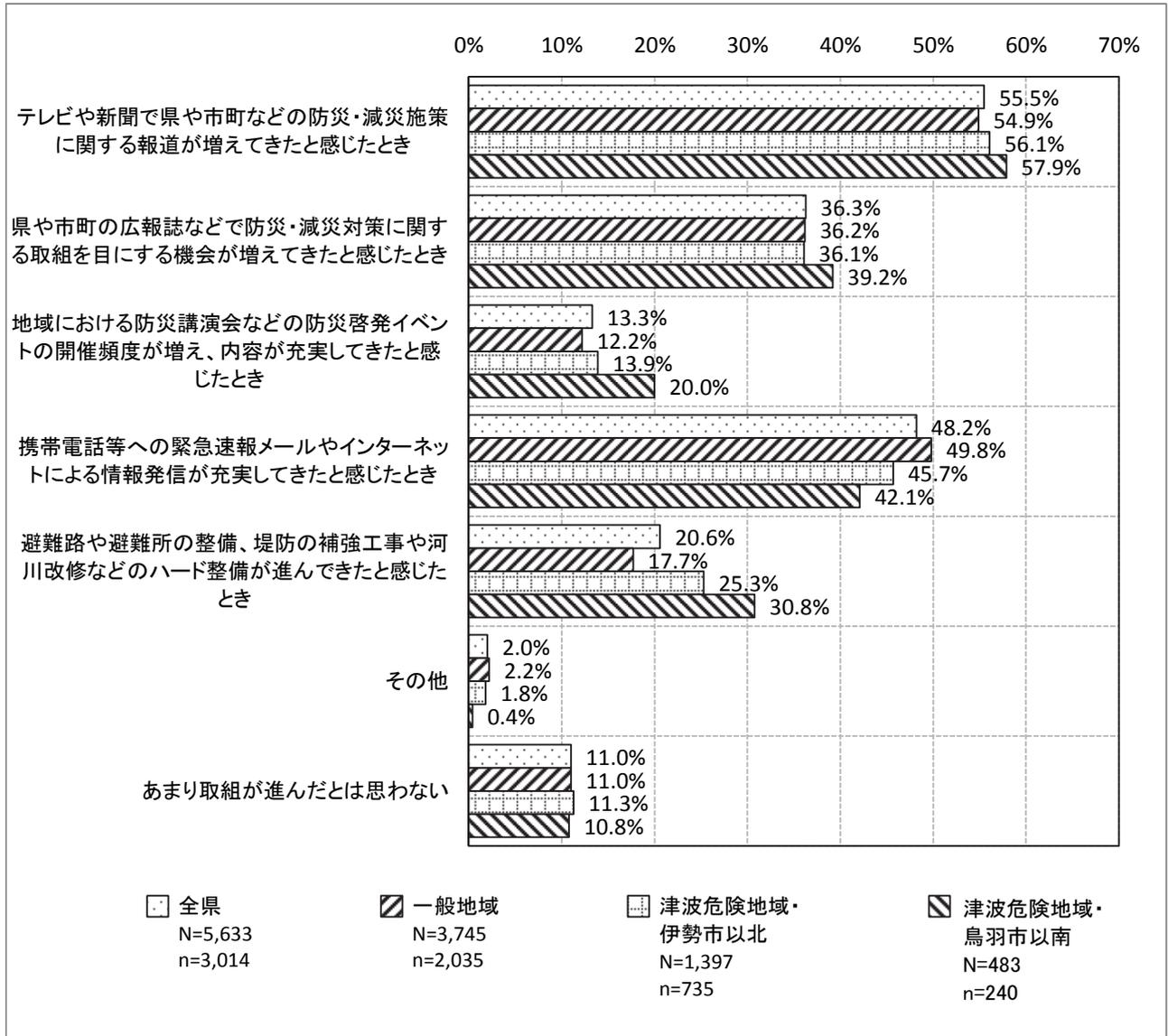
3.3.27 「公助」による防災・減災の取組

【問 27】 東日本大震災や紀伊半島大水害の発生を受け、三重県では防災・減災対策を県政の最重要課題に掲げて、国や市町など関係機関と連携しながら様々な取組を進めているところです。

あなたは、どのようなときに、以前よりも防災・減災の取組が進んできたと実感しましたか。(いくつでも○) <新規>

1. テレビや新聞で県や市町などの防災・減災施策に関する報道が増えてきたと感じたとき
2. 県や市町の広報誌などで防災・減災対策に関する取組を目にする機会が増えてきたと感じたとき
3. 地域における防災講演会などの防災啓発イベントの開催頻度が増え、内容が充実してきたと感じたとき
4. 携帯電話等への緊急速報メールやインターネットによる情報発信が充実してきたと感じたとき
5. 避難路や避難所の整備、堤防の補強工事や河川改修などのハード整備が進んできたと感じたとき
6. その他 具体的に：
7. あまり取組が進んだとは思わない

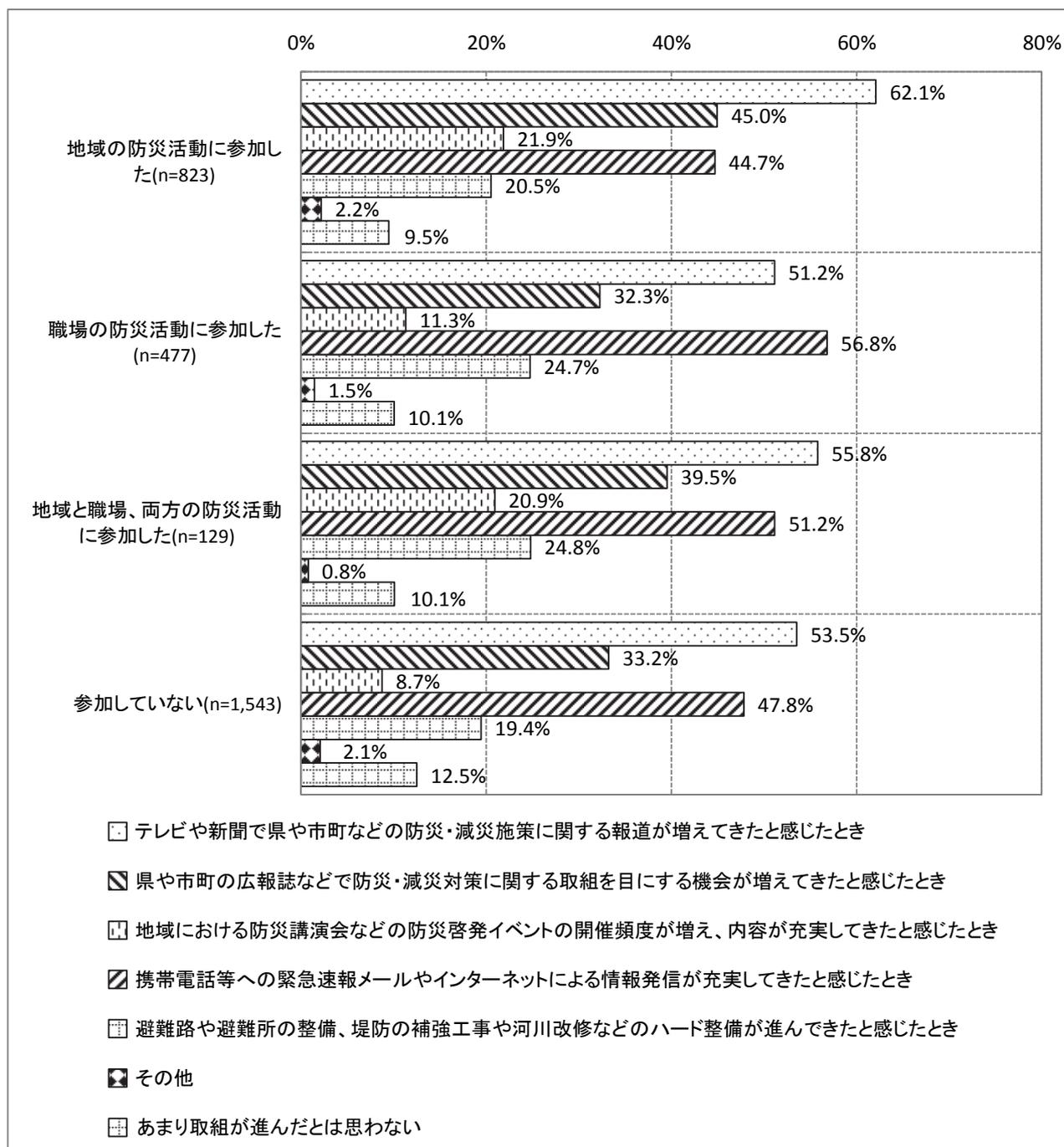
図 3.3.27 (1) 「公助」による防災・減災の取組 -全県及び地域別-



「公助」による防災・減災の取組について、全県および各地域で「テレビや新聞で県や市町などの防災・減災施策に関する報道が増えてきたと感じたとき」や、「携帯電話等への緊急速報メールやインターネットによる情報発信が充実してきたと感じたとき」が多くなっています。

「その他」の回答では、「勤め先の防災用品が水・食品だけでなく、トイレ用品や寝袋など種類が増えてきた時」「海抜看板をいろんな所で見かけるようになった」等がありました。

図 3.3.27 (2) 「公助」による防災・減災の取組
 -問 18 (地域・職場での防災活動への参加経験) とのクロス集計-



問 18 (地域・職場での防災活動への参加経験) とのクロス集計をみると、「地域の防災活動に参加した」と答えられた方は「テレビや新聞で県や市町などの防災・減災施策に関する報道が増えてきたと感じたとき」との回答が多く、「職場の防災活動に参加した」と答えられた方は「携帯電話等への緊急速報メールやインターネットによる情報発信が充実してきたと感じたとき」との回答が多くなっています。

3.4 あなたのお住まいの耐震化について

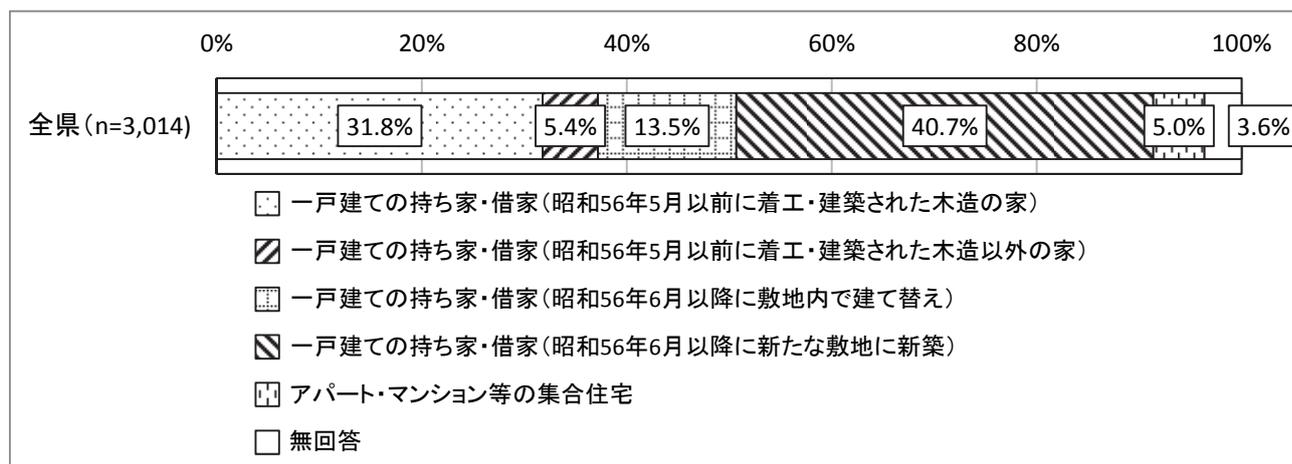
3.4.1 住まいの状況

【問 28】 あなたのお住まいは次のうちのどれにあたりますか。(一つだけ○)
 ※増築等がある場合は、一番古い建物でお答えください。

1. 一戸建ての持ち家・借家 （昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）	→問 29 へ
2. 一戸建ての持ち家・借家 （昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造以外の家）	→問 30 へ
3. 一戸建ての持ち家・借家 （昭和 56 年 6 月以降に敷地内で建て替え）	→問 30 へ
4. 一戸建ての持ち家・借家 （昭和 56 年 6 月以降に新たな敷地に新築）	→問 36 へ
5. アパート・マンション等の集合住宅	→問 36 へ

調査結果

図 3.4.1 住まいの状況 -全県-



【問 29】 以下の設問のための基礎データとして収集しました。

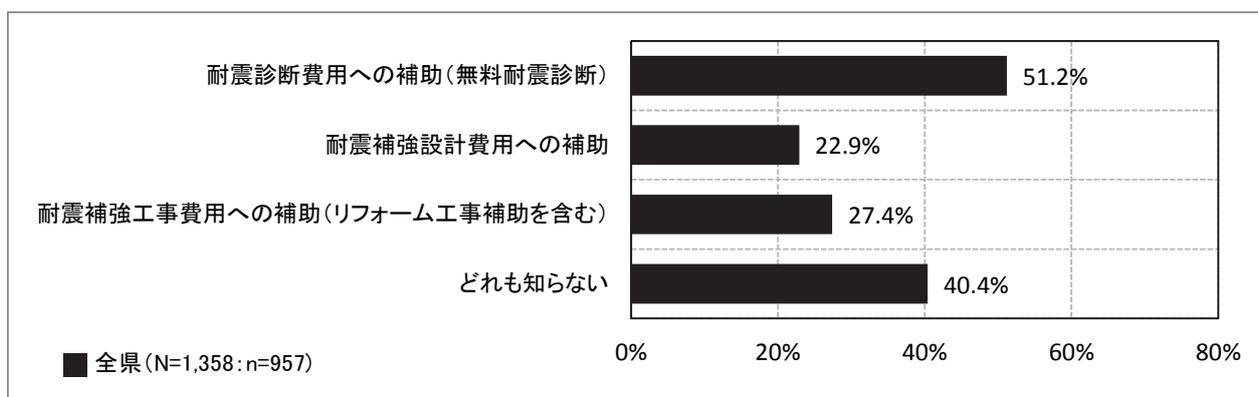
3.4.2 耐震化に向けた補助制度の認知度

【問 29】 県及び市町では、昭和 56 年 5 月 31 日以前に建築された（着工を含む）木造住宅の耐震化に向けた補助等を行っています。あなたは次の制度を知っていますか。
（いくつでも○）

1. 耐震診断費用への補助（無料耐震診断）
2. 耐震補強設計費用への補助
3. 耐震補強工事費用への補助（リフォーム工事補助を含む）
4. どれも知らない

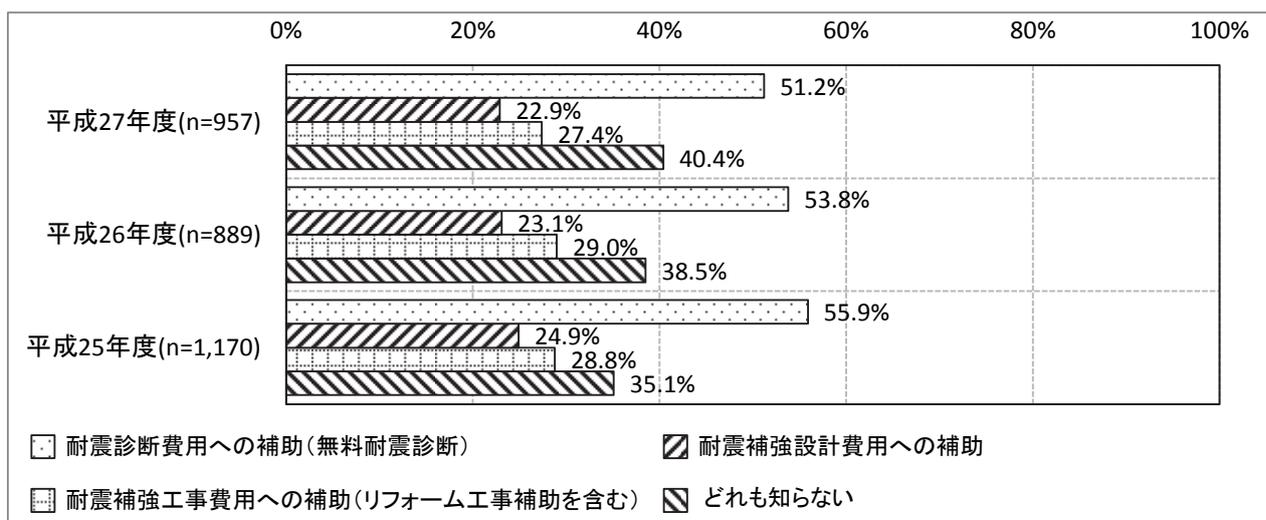
調査結果

図 3.4.2 (1) 耐震化に向けた補助制度の認知度 -全県-〈複数回答〉



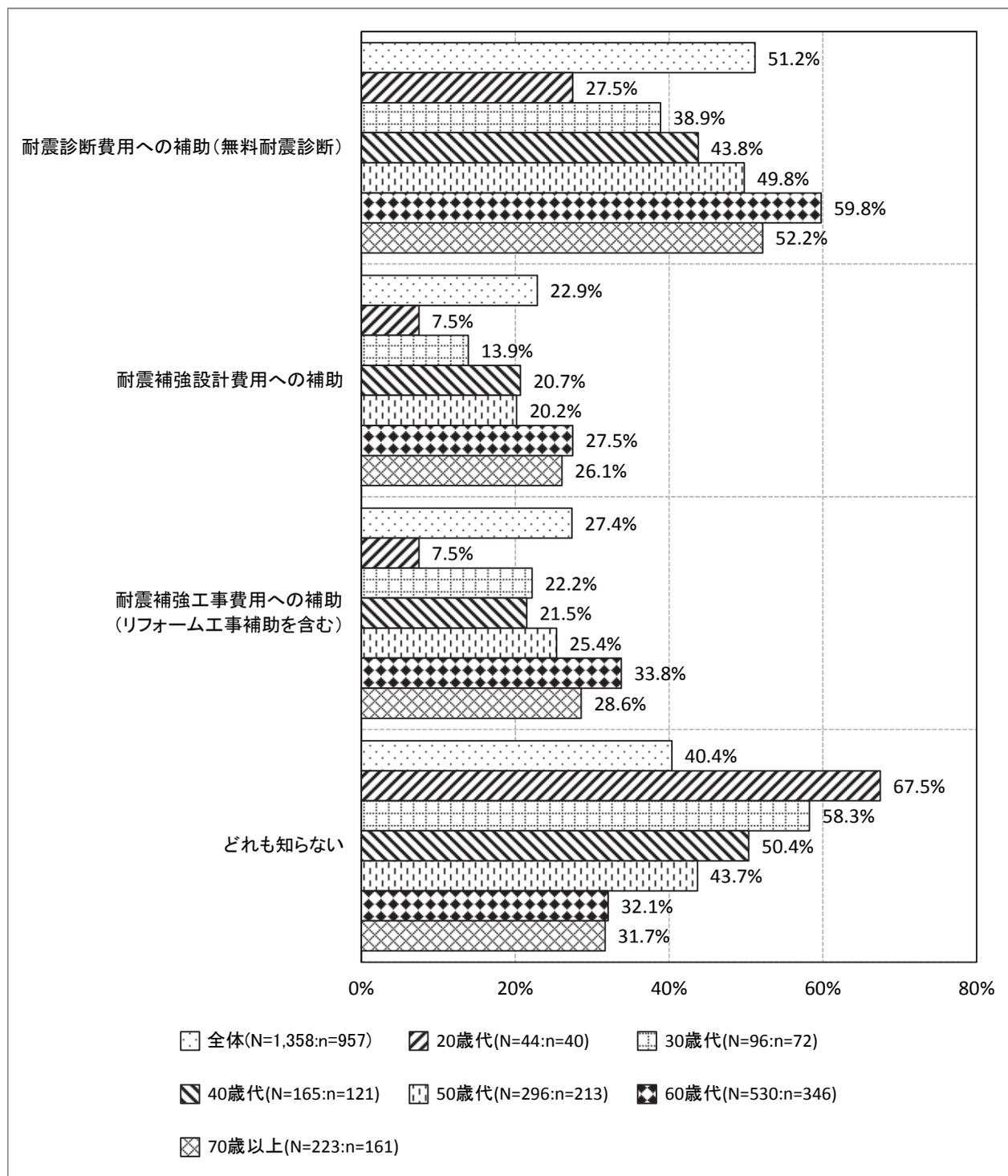
耐震化に向けた補助制度の認知度について、「耐震診断費用への補助（無料耐震診断）」が 51.2% と最も多くなっていますが、「どれも知らない」と回答した方も 40.4% となりました。

図 3.4.2 (2) 耐震化に向けた補助制度の認知度
木造住宅耐震診断費用補助制度の認知度 -経年変化-



木造住宅耐震診断費用補助制度の認知度を経年変化でも、いずれの補助の認知度及び「どれも知らない」との回答とも、ほぼ同様で、著しい変化はありませんでした。

図 3.4.2 (3) 耐震化に向けた補助制度の認知度 -全体及び年代別- <複数回答>



年代別にみると、20歳代で「どれも知らない」が7割近い回答になっています。「耐震診断費用への補助(無料耐震診断)」の認知度が、60歳代、70歳以上で5割を超えています。

3.4.3 耐震診断の受診の有無と診断結果

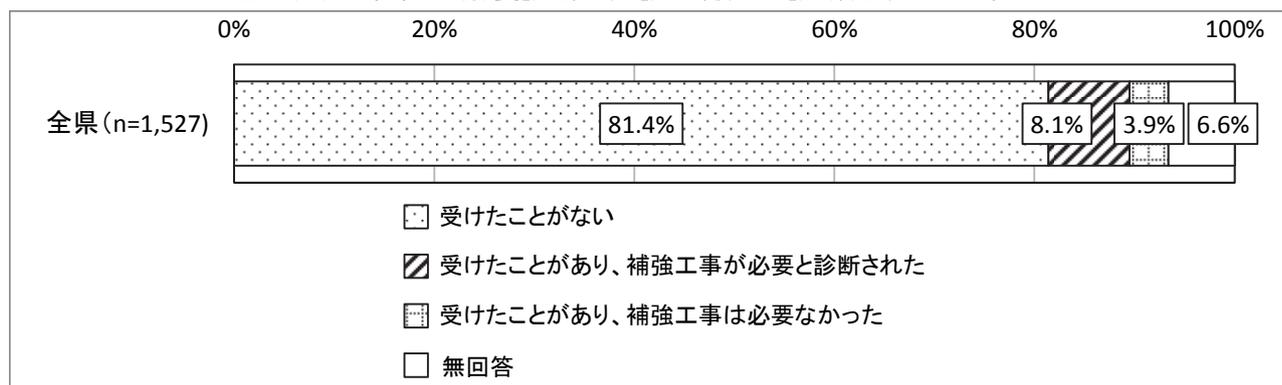
【問 30】 あなたのご自宅（同じ敷地内で建替えを行った場合、建替え前の住宅を含む、借家も含む）は、耐震診断を受けたことがありますか。

受けたことがある場合は、診断結果はどうでしたか。（一つだけ〇）

- 1. 受けたことがない →問 30-1 へ
- 2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された →問 30-2 へ
- 3. 受けたことがあり、補強工事は必要なかった →問 36 へ

調査結果

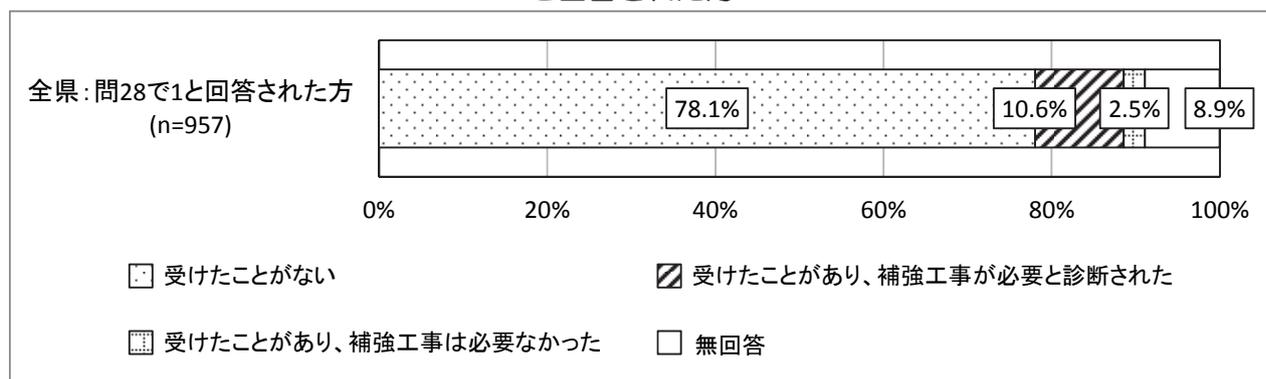
図 3.4.3 (1) 耐震診断の受診の有無と診断結果 -全県-



耐震診断の受診の有無と診断結果について、「受けたことがない」が81.4%で最も多くなっています。

図 3.4.3 (2) 耐震診断の受診の有無と診断結果

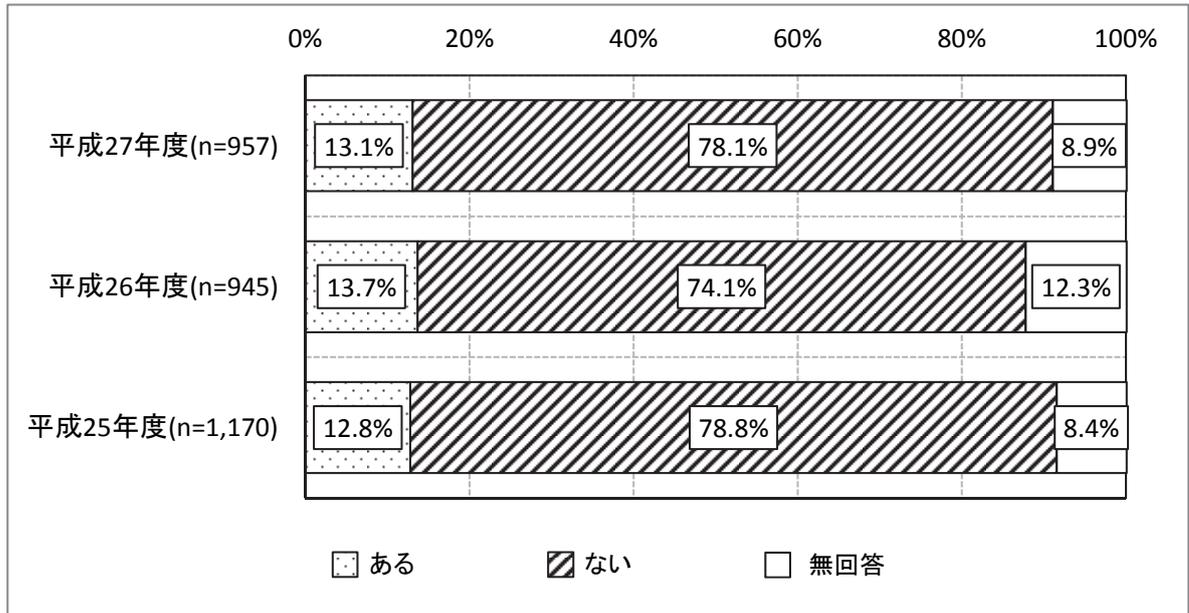
問 28 で 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と回答された方



「耐震診断の受診の有無と診断結果」について、問 28 の 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」の方の状況を見ると、78.1%が「受けたことがない」と回答しています。「受けたことがある」は 13.1%で、全県の 12.0%と大きな違いは見られませんでした。

図 3.4.3 (3) 耐震診断の受診の有無と診断結果

問 28 で 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」
と回答された方 -経年変化-



「耐震診断の受診の有無と診断結果」について、問 28 で 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と回答された方の経年変化をみると、顕著な変化はありませんでした。

3.4.4 耐震診断を受けない理由

【問 30-1】 問 30 で、「1. (耐震診断を) 受けたことがない」と回答された方にお尋ねします。

耐震診断を受けない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 近く建て替える予定だから(予定だったから)
2. 耐震化しても大地震の被害は避けられないと思うから
3. 診断を受けなくても地震に弱いことがわかっているから
4. 診断を受けなくても地震に強いことがわかっているから
5. 手間がかかるから
6. 部屋の中を見られるのがいやだから
7. 診断費用がかかるから
8. 診断の結果、補強が必要になっても費用が出せないから
9. 当分のあいだ大地震は起きないと思うから
10. 診断の受け方がわからないから
11. 借家だから
12. 耐震診断を受けずに補強工事を行ったから
13. その他 具体的に：

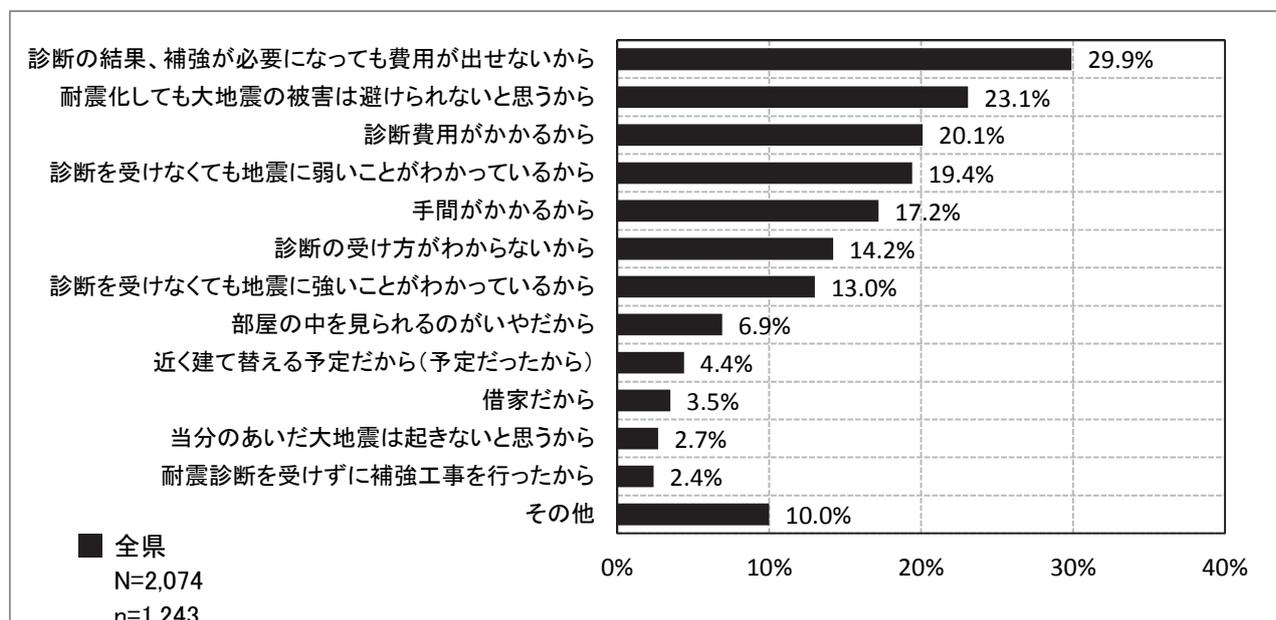
→問 36 へ

→問 31-1、問 31-2 へ

→問 36 へ

調査結果

図 3.4.4 耐震診断を受けない理由 -全県- <複数回答>回答の多い順



耐震診断を受けない理由について、「診断の結果、補強が必要になっても費用が出せないから」が 29.9%で最も多く、次いで「耐震化しても大地震の被害は避けられないと思うから」が 23.1%となっています。

「その他」の回答について見ると、一般地域では「耐震性のある住宅を新築したから」、「築 200 年の古民家なので、耐震補強工事を受けると景観に悪い影響を与えるから」「たまされそうだから」など、津波危険地域では「耐震診断は木造の建物のみとっていました」「必要性が分からなかった」などの記載がありました。

3.4.5 補強工事を行ったか

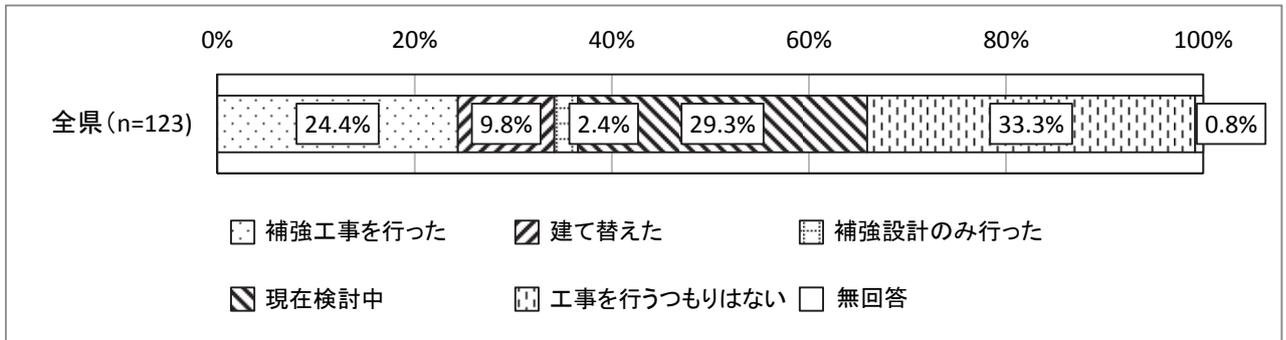
【問 30-2】 問 30 で「2.受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」と回答された方にお尋ねします。

耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。(一つだけ〇)

- 1. 補強工事を行った →問 31 へ
- 2. 建て替えた →問 36 へ
- 3. 補強設計のみ行った →問 36 へ
- 4. 現在検討中 →問 32 へ
- 5. 工事を行うつもりはない →問 32 へ

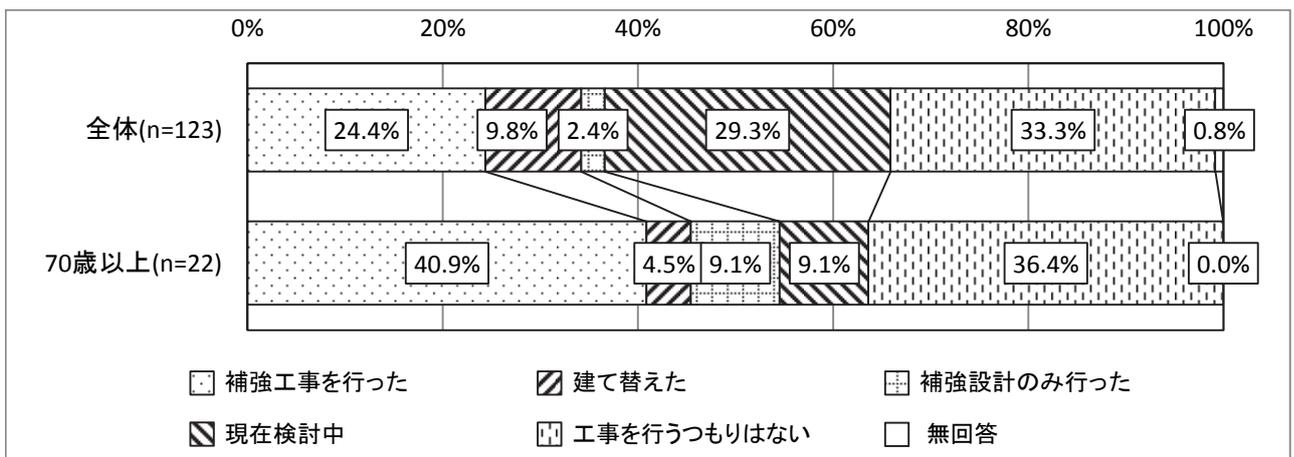
調査結果

図 3.4.5 (1) 補強工事を行ったか -全県- (すべての一戸建て)



「補強工事を行ったか」について、「工事を行うつもりはない」が 33.3%で最も多く、次いで「現在検討中」が 29.3%でした。

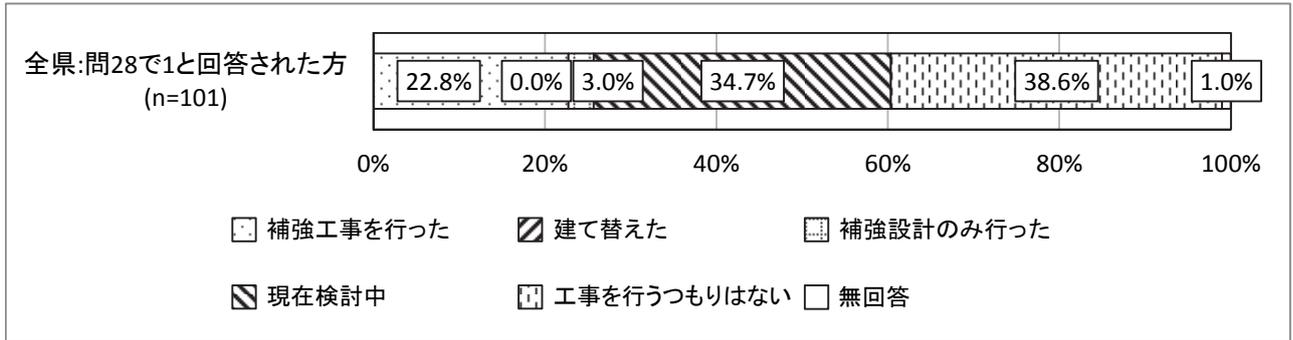
図 3.4.5 (2) 補強工事を行ったか -全体及び 70 歳以上-



「補強工事を行ったか」について、70 歳以上の方が、「補強工事を行った」と「建て替えた」と「補強設計のみ行った」を回答した方の合計が全体と比べて 17.9%高い結果となりました。

図 3.4.5 (3) 補強工事を行ったか -全県-

問 28 で 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」
と回答された方 -全県-



問 28 で 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と回答された方が「補強工事を行ったか」については、「工事を行うつもりはない」が 38.6%で最も多く、次いで「現在検討中」34.7%、「補強工事を行った」22.8%で、全県の「工事を行うつもりはない」33.3%、「現在検討中」29.3%、「補強工事を行った」24.4%、と大きな違いは見られませんでした。

3.4.6 耐震補強工事の補助制度を利用したか

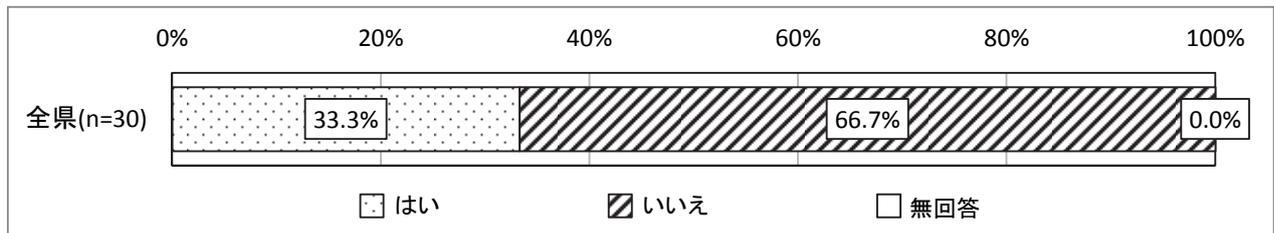
【問 31】 問 30-2 で、「1.補強工事を行った」と回答された方にお尋ねします。

耐震補強工事に対する行政の補助制度を利用されましたか。（一つだけ〇）

- 1. はい →問 36 へ
- 2. いいえ →問 31-1 へ

調査結果

図 3.4.6 耐震補強工事の補助制度を利用したか -全県-



補強工事を行った方で耐震補強工事の補助制度を利用したかについては、「はい」が 33.3%、「いいえ」が 66.7%となっています。

3.4.7 どのような補強工事を行ったか

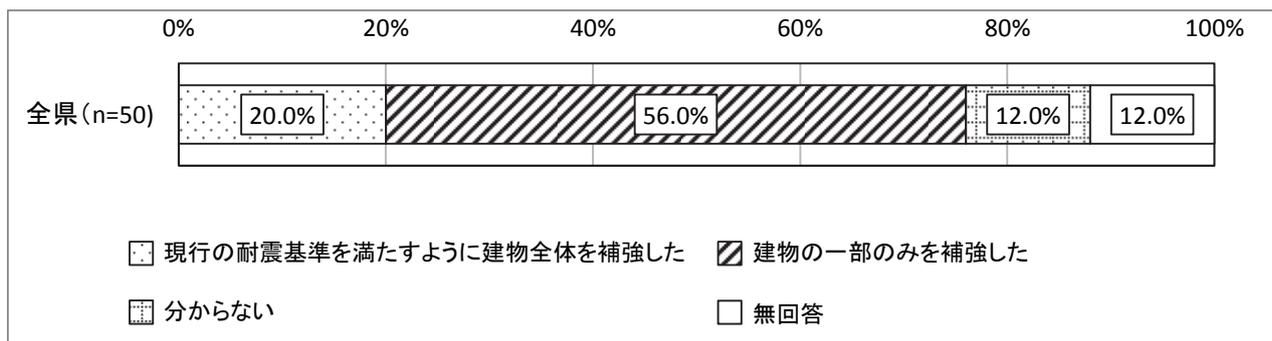
【問 31-1】 問 30-1 で「12.耐震診断を受けずに補強工事を行った」、問 31 で、「2.いいえ」と回答された方にお尋ねします。どのような耐震補強工事を行いましたか。
(一つだけ〇)

1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した
2. 建物の一部のみを補強した
3. 分からない

} 問 31-2 へ
→問 36 へ

調査結果

図 3.4.7 どのような補強工事を行ったか -全県-



問 30-1 で「12.耐震診断を受けずに補強工事を行った」、問 31 で、「2.いいえ」と回答された方がどのような補強工事を行ったかについては、「建物の一部のみを補強した」が 56.0%、「現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」が 20.0%となっています。

3.4.8 耐震補強を行った時の工事費

【問 31-2】 問 30-1 で「12.耐震診断を受けずに補強工事を行った」、問 31-1 で、「1.現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」、「2.建物の一部のみを補強した」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事費はいくら位かかりましたか。

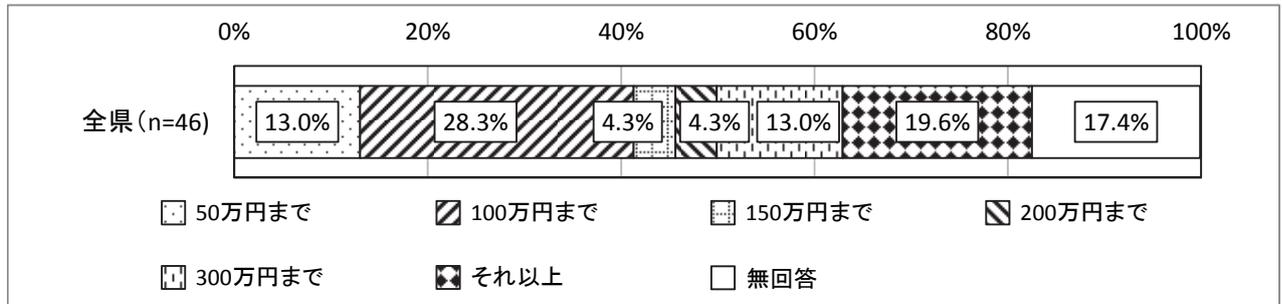
(一つだけ〇)

1. 50万円まで
2. 100万円まで
3. 150万円まで
4. 200万円まで
5. 300万円まで
6. それ以上 () 万円位

問 36 へ

調査結果

図 3.4.8 耐震補強を行った時の工事費 -全県-



問 30-1 で「12.耐震診断を受けずに補強工事を行った」、問 31-1 で、「1.現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」「2.建物の一部のみを補強した」と回答された方の耐震補工事費については、「100万円まで」が28.3%で最も多くなりました。

「それ以上」の回答では、「600万円位」が1件、「800万円位」が1件、「1,500万円位」が1件、「4,000万円位」が1件ありました。

3.4.9 耐震補強をしない理由

【問 32】 問 30-2 で「4.現在検討中」、「5.工事を行うつもりはない」と答えた方にお尋ねします。耐震補強の決心がつかない、耐震補強をしない理由は何ですか。

(いくつでも○)

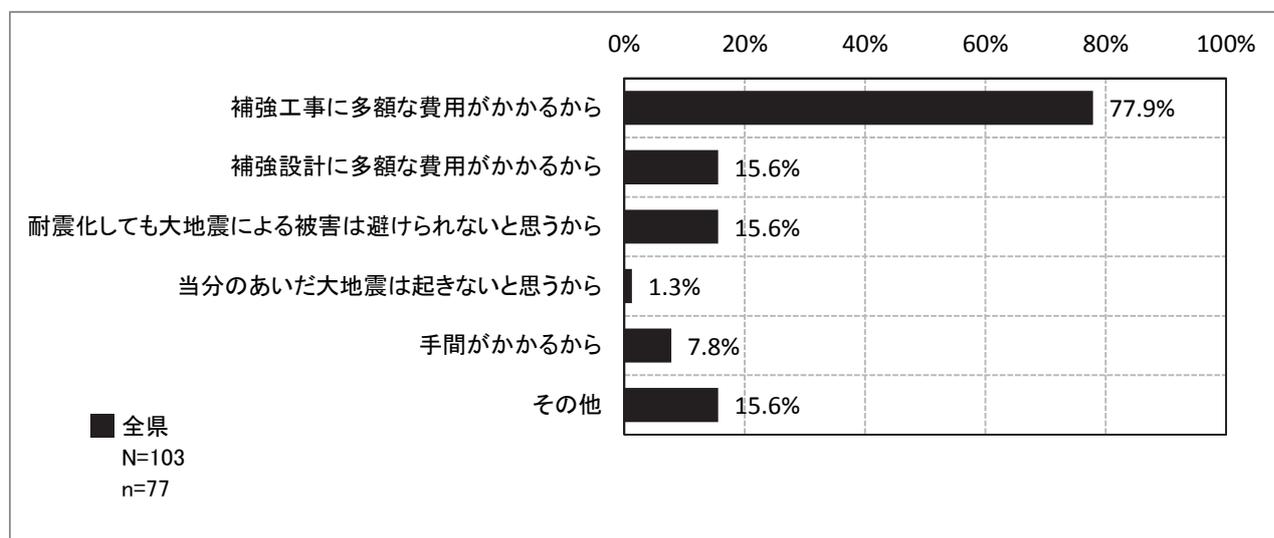
1. 補強工事に多額な費用がかかるから
2. 補強設計に多額な費用がかかるから
3. 耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから
4. 当分のあいだ大地震は起きないと思うから
5. 手間がかかるから
6. その他 具体的に：

→問 33、問 34 へ

問 36 へ

調査結果

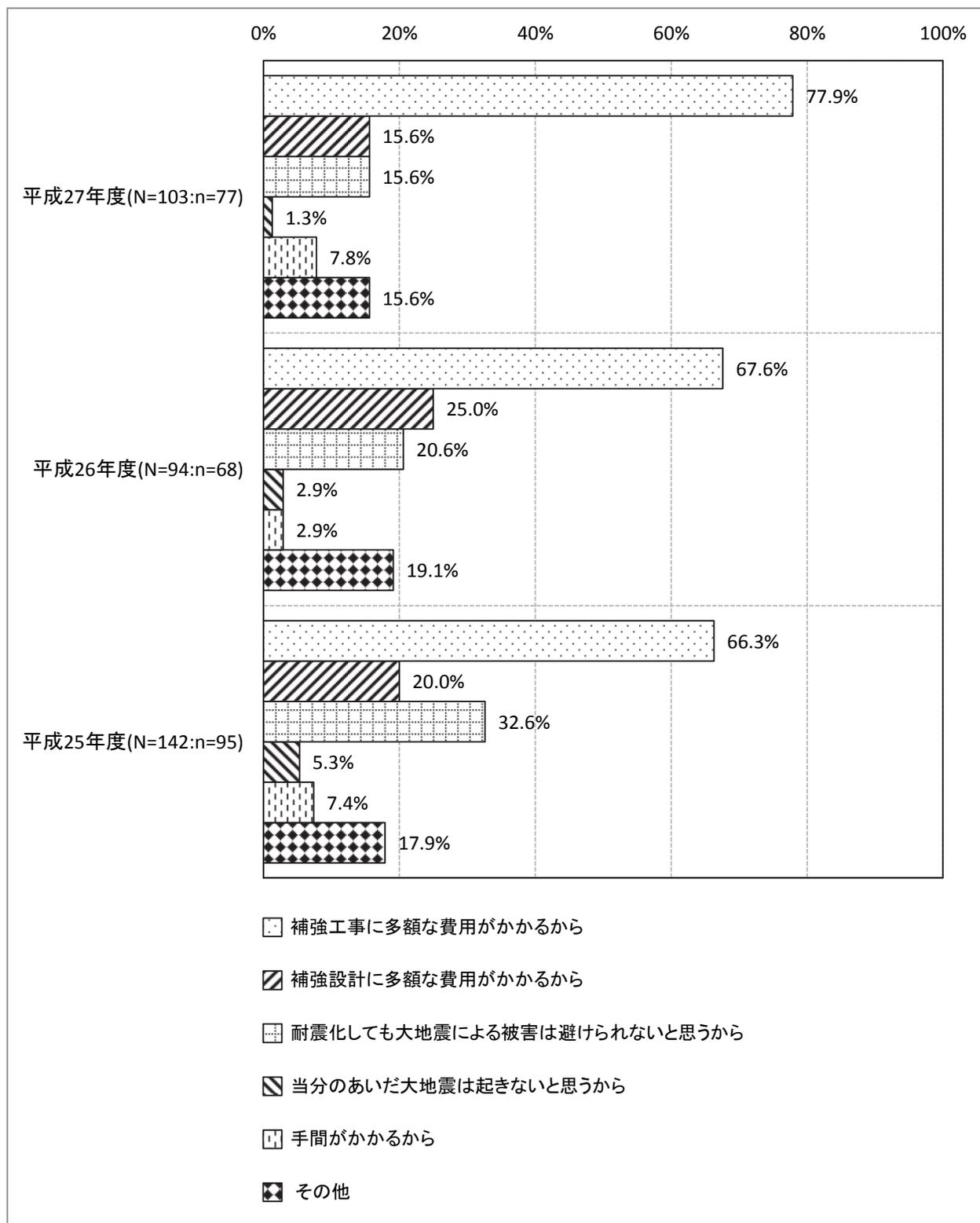
図 3.4.9 (1) 耐震補強をしない理由 -全県- <複数回答>



問 30-2 で「4.現在検討中」、「5.工事を行うつもりはない」と答えた方の「耐震補強をしない理由」については、「補強工事に多額な費用がかかるから」が 77.9%で最も多く、次いで「補強設計に多額な費用がかかるから」「耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから」が共に 15.6%でした。

「その他」の理由について、一般地域では「文化財に指定された建物で、安易に個人で補強出来る状況ではないから」、「耐震補強すると家の中が暗くなるし、外見も悪い」など、津波危険地域では「家が昭和 39 年頃であり、建て替えが必要である」、「老朽化して、いずれ住まなくなるから」などの記載がありました。

図 3.4.9 (2) 耐震補強をしない理由 -全県経年変化- <複数回答>



耐震補強をしない理由の経年変化をみると、各年度で「補強工事に多額な費用がかかるから」が最も多くなっています。

一方で、「耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから」、「当分のあいだ大地震は起きないと思うから」が平成25年度以降減少しています。

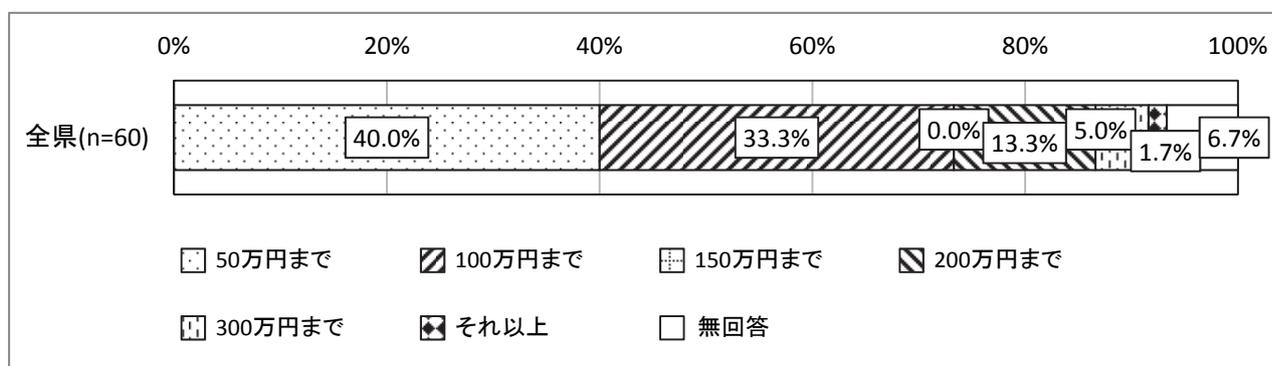
3.4.10 耐震補強工事費の許容自己負担額（要補強工事）

【問 33】 問 32 で、「1.補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方にお尋ねします。自己負担がいくら位までならご自宅の耐震補強を行いますか。（一つだけ○）

1. 50万円まで
2. 100万円まで
3. 150万円まで
4. 200万円まで
5. 300万円まで
6. それ以上（ ）万円位

調査結果

図 3.4.10 耐震補強工事費の許容自己負担額（要補強工事） -全県-



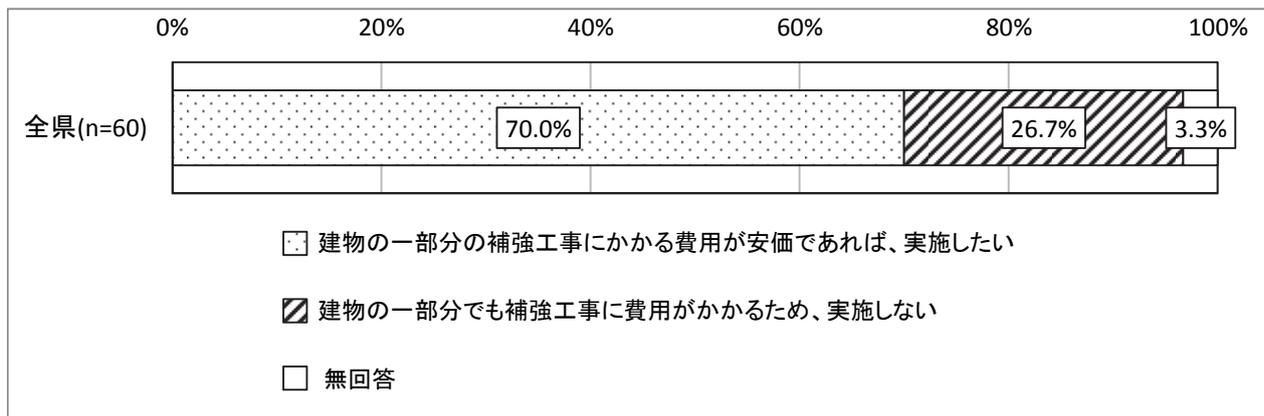
耐震補強工事費の許容自己負担額（要補強工事）については、「50万円まで」と「100万円まで」を回答した方が73.3%と3分の2以上を占めています。

3.4.11 一部分のみの耐震補強工事

【問 34】 問 32 で、「1.補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方にお尋ねします。建物全体の安全性は劣るものの建物の一部分（例えば壁1枚のみ）を耐震補強することで少しでも安全性が向上するのであれば、補強したいと思いますか。（一つだけ○）

1. 建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば、実施したい →問 35 へ
2. 建物の一部分でも補強工事に費用がかかるため、実施しない →問 36 へ

図 3.4.11 一部分のみの耐震補強工事 -全県-



問 32 で、「1.補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方の一部分のみの耐震補強工事の実施に関する意見については、「建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば、実施したい」と考えている方が全体の 70.0%になっています。

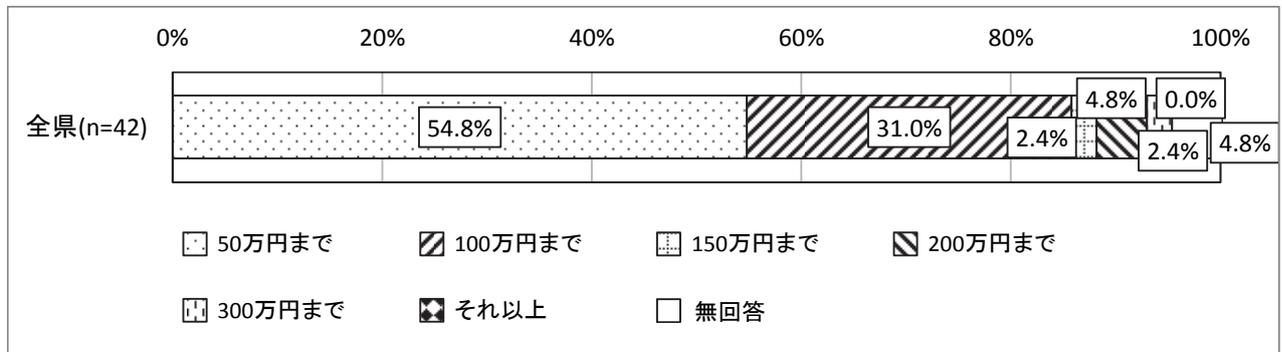
3.4.12 耐震補強工事費の許容自己負担額（一部分のみ）

【問 35】 問 34 で、「1. 建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば実施したい」と回答された方にお尋ねします。自己負担がいくら位までならご自宅の耐震補強工事を行いますか。（一つだけ○）

1. 50万円まで
2. 100万円まで
3. 150万円まで
4. 200万円まで
5. 300万円まで
6. それ以上（ ）万円位

調査結果

図 3.4.12 耐震補強工事費の許容自己負担額 -全県-



問 34 で、「1. 建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば、実施したい」と回答された方の耐震補強工事費の許容自己負担額については、「50万円まで」が54.8%で最も多く、次いで「100万円まで」が31.0%となっています。

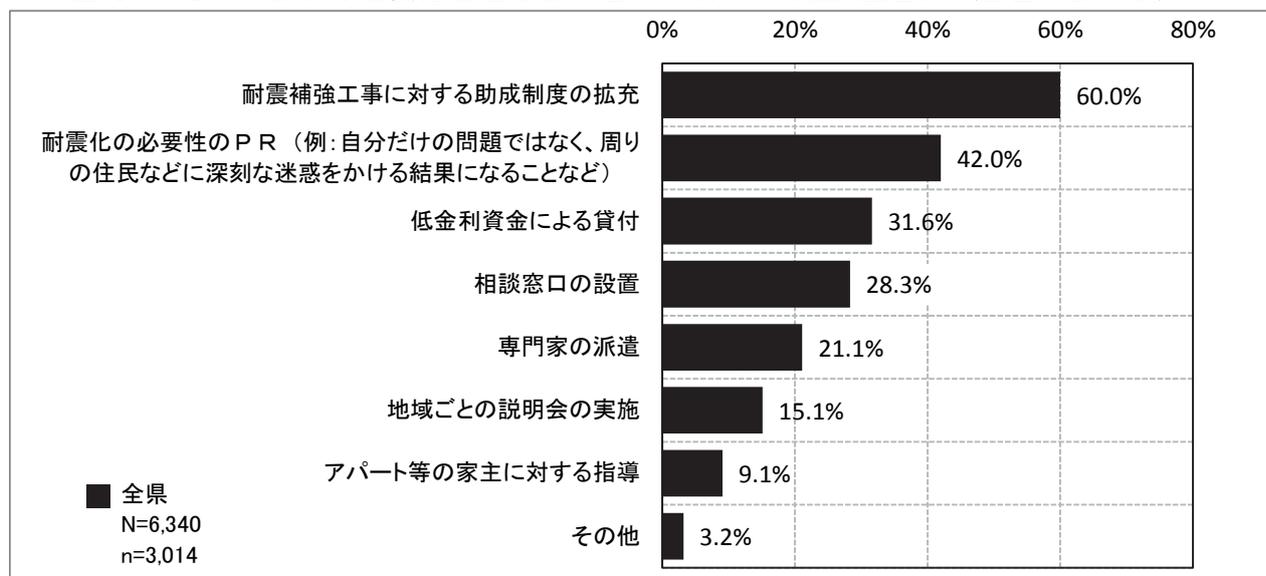
3.4.13 住まいの耐震化を進める取組

【問 36】 あなたは、どのような取組が住まいの耐震化を進めるにあたって効果が大きいと思いますか。(いくつでも○)

1. 耐震化の必要性のPR (例: 自分だけの問題ではなく、周りの住民などに深刻な迷惑をかける結果になることなど)
2. 低金利資金による貸付
3. 専門家の派遣
4. 相談窓口の設置
5. 耐震補強工事に対する助成制度の拡充
6. アパート等の家主に対する指導
7. 地域ごとの説明会の実施
8. その他 具体的に:

調査結果

図 3.4.13 住まいの耐震化を進める取組 -全県- <複数回答> (回答の多い順)



住まいの耐震化を進める取組について、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」が 60.0%で最も多く、次いで「耐震化の必要性のPR (例: 自分だけの問題ではなく、周りの住民などに深刻な迷惑をかける結果になることなど)」が 42.0%となっています。

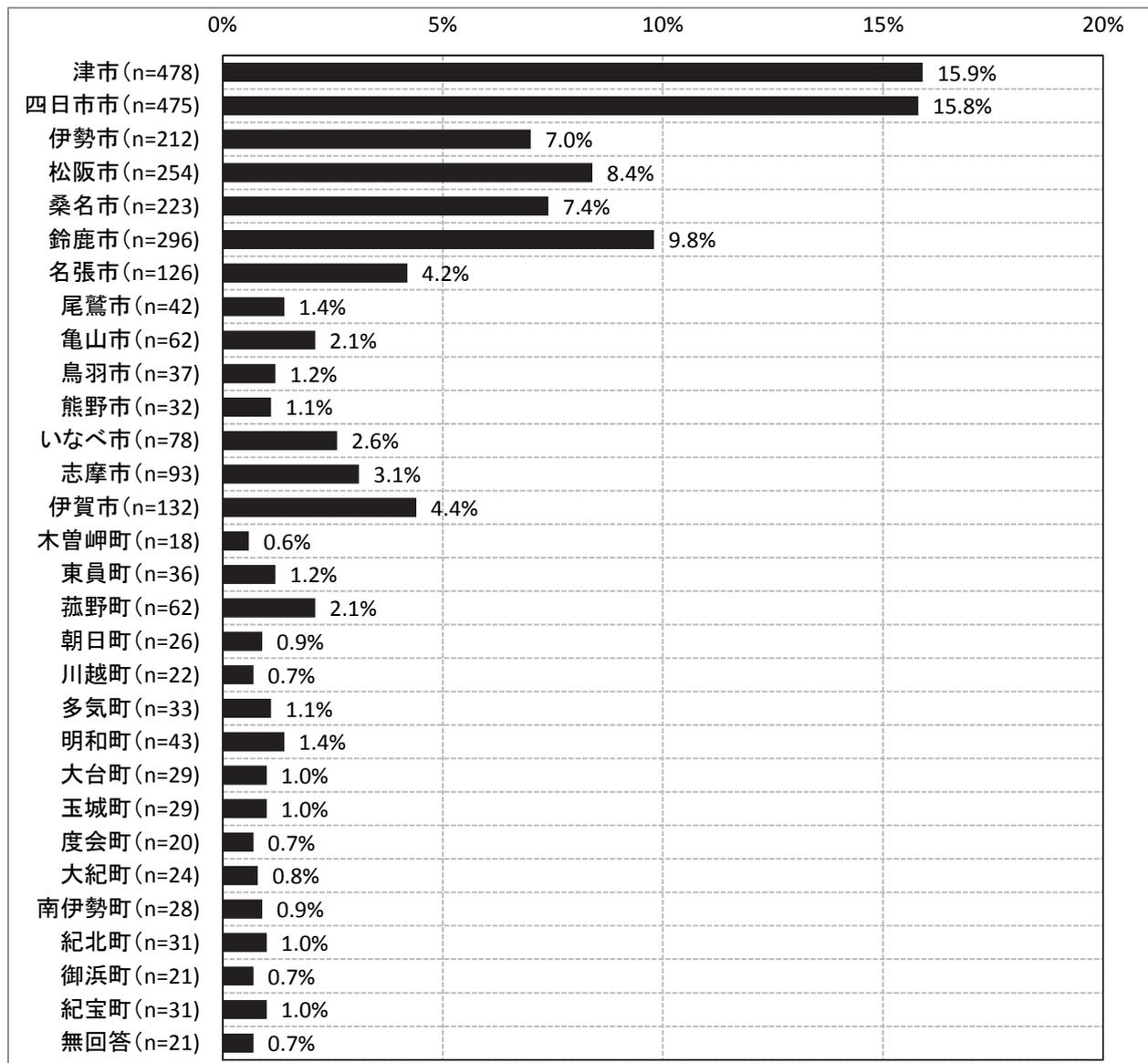
「その他」の回答は、「構造による対象物件を除外していることをやめる」、「耐震化の必要性のPRのみでなく、補助制度、窓口等のPR」、「良心的な業者の導入」、「理想は理解できても、根本的に財力の問題なので、難しいと思います」などの記載がありました。

3.5.3 住所

【F3】 ご自宅のある市町は

市町名 ()

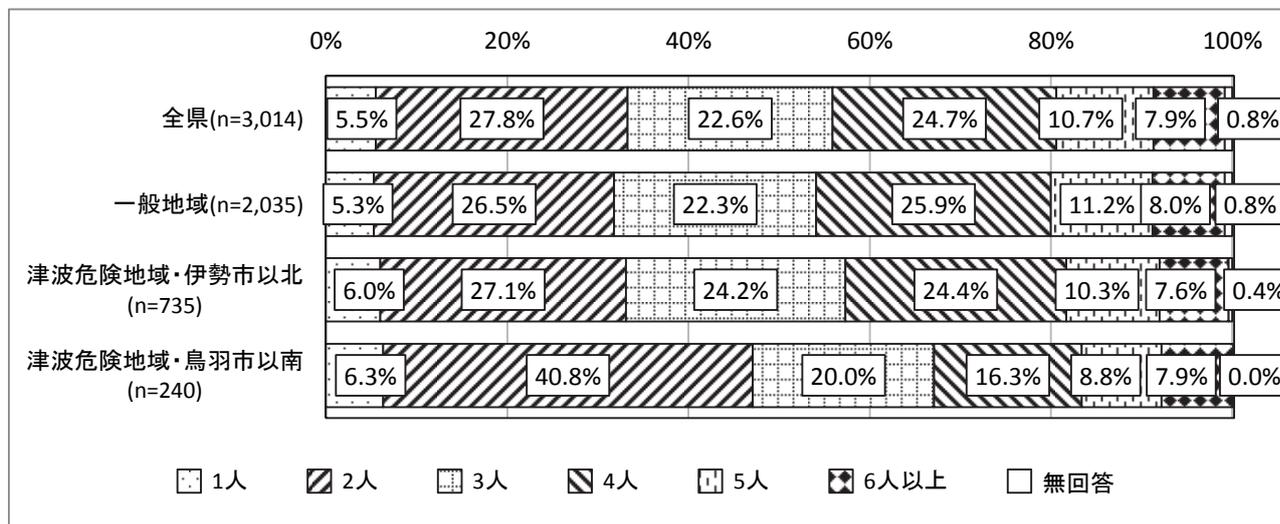
図 3.5.3 住所



3.5.4 家族人員

【F4】 何人家族ですか					
1. 1人	2. 2人	3. 3人			
4. 4人	5. 5人	6. 6人以上			

図 3.5.4 家族人員



資 料

- 津波危険地域一覧
- 使用した調査票

○津波危険地域一覽

以下の「対象町名」は、三重県が平成24年3月に公表した予測において浸水が想定される町名（部分的な浸水を含む）で、平成24年度の調査の際に各市町確認の上で分類し、「津波危険地域」として統計しました。

市町名	対象町名
津市	白塚町、栗真小川町、栗真中山町、栗真町屋町、一身田中野、一身田豊野、一身田平野、栄町、桜橋、上浜町、江戸橋、島崎町、港町、海岸町、末広町、高洲町、住吉町、藤枝町、津興、藤方、高茶屋小森町、高茶屋小森上野町、雲出本郷町、雲出長常町、雲出伊倉津町、雲出鋼管町、河芸町中別保、河芸町一色、河芸町影重、河芸町上野、河芸町東千里、河芸町中瀬、香良洲町
四日市市	稲葉町、大協町1丁目、大協町2丁目、高砂町、尾上町、千歳町、末広町、東邦町、塩浜町、石原町、三田町、川合町、天力須賀1丁目、天力須賀2丁目、天力須賀3丁目、天力須賀4丁目、天力須賀5丁目、住吉町、平町、松原町、富州原町、富田一色町、天力須賀新町、富双1丁目、富双2丁目、東富田町、富田1丁目、富田2丁目、富田3丁目、富田4丁目、南富田町、茂福町、東茂福町、富田浜元町、富田浜町、浜園町、霞1丁目、霞2丁目、大字茂福、羽津町、午起3丁目、三郎町、楠町南五味塚、楠町北五味塚、楠町吉崎、楠町小倉
伊勢市	楠部町、下野町、竹ヶ鼻町、神社港、馬瀬町、大湊町、朝熊町、東豊浜町、榎原町、西豊浜町、磯町、有滝町、村松町、東大湊町、二見町松下、二見町江、二見町茶屋、二見町三津、二見町山田原、二見町溝口、二見町荘、二見町西、二見町今一色、二見町光の街、御園町上條、御園町小林、御園町新開
松阪市	大口町、東久保町、新松ヶ島町、町平尾町、獺師町、松崎浦町、松ヶ島町、六軒町、西黒部町、松名瀬町、高須町、東黒部町、柿木原町、土古路町、出間町、大垣内町、蓮花寺町、神守町、牛草町、垣内田町、乙部町、市場庄町、曾原町、中道町、小津町、喜多村新田町、笠松町、皇合町、五主町
桑名市	吉之丸、三之丸、片町、江戸町、川口町、船馬町、清水町、宝殿町、春日町、風呂町、本町、北魚町、三崎通、相生町、殿町、田町、南魚町、油町、職人町、宮通、京町、吉津屋町、鍛冶町、入江葎町、紺屋町、内堀、伊賀町、柳原、新屋敷、八幡町、外堀、萱町、伝馬町、新町、一色町、矢田磧、西鍋屋町、北鍋屋町、東鍋屋町、南寺町、北寺町、今片町、堤原、今中町、今北町、太一丸、住吉町、大字赤須賀、大字江場、掛樋、大字大福、大字桑名、大中央町、中央町一丁目、中央町三丁目、中央町四丁目、中央町五丁目、新築町、常盤町、京橋町、三栄町、八間通、寿町一丁目、寿町二丁目、寿町三丁目、末広町、桑栄町、有楽町、駅元町、参宮通、蓮見町、福島新町、大字東方、大字播磨、大字東汰上、大字蠣塚新田、大字福島、大字上之輪、大字上深谷部、大字今島、大字安永、大字和泉、大字小泉、大字大貝須、大字小貝須、大字福地、大字福江、大字地蔵、大字東野、大字萱町、大字立田町、大字太平町、大字福岡町、長島町長島菅町、長島町長島中町、長島町長島下町、長島町又木、長島町源部外面、長島町殿名、長島町東殿名、長島町押付、長島町小島、長島町大倉、長島町出口、長島町間々、長島町高座、長島町中川、長島町平方、長島町西外面、長島町十日外面、長島町大島、長島町駒江、長島町松ヶ島、長島町千倉、長島町下坂手、長島町上坂手、長島町杉江、長島町松之木、長島町新所、長島町西川、長島町鎌ヶ地、長島町葎ヶ須、長島町赤地、長島町福豊、長島町福吉、長島町白鷄、長島町横満蔵、長島町松蔭、長島町浦安、長島町老松
鈴鹿市	寺家町、寺家1丁目、寺家2丁目、寺家3丁目、寺家4丁目、白子1丁目、白子本町、江島本町、東江島町、南長太町、長太新町3丁目、長太新町4丁目、長太旭町6丁目、長太栄町4丁目、長太栄町5丁目、中箕田町、北堀江町、下箕田町、下箕田1丁目、下箕田2丁目、下箕田3丁目、南若松町、北若松町、若松中1丁目、若松東1丁目、若松東2丁目、若松東3丁目、若松北3丁目、磯山町、東磯山1丁目、東磯山2丁目、東磯山3丁目、東磯山4丁目、磯山1丁目、磯山2丁目、磯山3丁目

市町名	対象町名
尾鷲市	林町、中央町、朝日町、港町、中井町、栄町、中村町、野地町、坂場町、宮ノ上町、北浦町、大字天満浦、大字向井、大字大曾根浦、大字行野浦、須賀利町、九鬼町、早田町、三木里町、名柄町、小脇町、三木浦町、古江町、賀田町、曾根町、梶賀町、小川東町、瀬木山町、中川、矢浜1丁目、矢浜3丁目、矢浜4丁目、北浦西町、北浦東町、矢浜大道、国市松泉町
鳥羽市	鳥羽1丁目、鳥羽2丁目、鳥羽3丁目、鳥羽4丁目、鳥羽5丁目、小浜町、堅神町、池上町、安楽島町、大明東町、大明西町、船津町、相差町、国崎町、畔蛸町、千賀町、堅子町、石鏡町、浦村町、桃取町、答志町、菅島町、神島町、坂手町
熊野市	須野町、甫母町、二木島里町、二木島町、遊木町、新鹿町、波田須町、磯崎町、大泊町、木本町、井戸町、有馬町、久生屋町
志摩市	阿児町鶴方、阿児町神明、阿児町立神、阿児町志島、阿児町甲賀、阿児町国府、阿児町安乗、浜島町浜島、浜島町南張、浜島町檜山路、浜島町塩屋、浜島町迫子、大王町波切、大王町船越、大王町畔名、大王町名田、志摩町片田、志摩町布施田、志摩町和具、志摩町越賀、志摩町御座、磯部町下之郷、磯部町飯浜、磯部町穴川、磯部町坂崎、磯部町の矢、磯部町三ヶ所、磯部町渡鹿野
桑名郡木曾岬町	全域
三重郡朝日町	大字縄生、大字小向、大字柿
三重郡川越町	全域
多気郡明和町	大字川尻、大字北藤原、大字浜田、大字八木戸、大字根倉、大字養川、大字中村、大字南藤原、大字内座、大字大堀川新田、大字大淀甲、大字大淀乙、大字山大淀、大字大淀
度会郡大紀町	錦
度会郡南伊勢町	五ヶ所浦、船越、中津浜浦、飯満、内瀬、伊勢路、迫間浦、磯浦、相賀浦、田曾浦、宿浦、泉、神津佐、下津浦、木谷、棚橋竈、新桑竈、古和浦、栃木竈、小方竈、方座浦、神前浦、村山、河内、東宮、奈屋浦、贄浦、慥柄浦、道方、大江、道行竈、阿曾浦、大方竈
北牟婁郡紀北町	三浦、道瀬、海野、長島、東長島、大字相賀、大字引本浦、大字矢口浦、大字白浦、大字島勝浦、古里
南牟婁郡御浜町	大字阿田和、大字下市木、大字志原
南牟婁郡紀宝町	井田、鶴殿、北檜杖、成川、鮎田

—ご記入にあたってのお願い—

1. この調査は、できるだけだけあて名にある「ご本人」がお答えください。(※)
(※) ご本人様による回答が難しい場合は、ご家族やお知り合いの方等がご自身の立場で
ご記入いただきますよう協力をお願いします。
2. ご回答は、直接、調査票にご記入ください。
3. 選択肢の中から当てはまるものを選び、その番号を○で囲んでください。
また、「その他（ ）」に当てはまる場合には、ご面倒でも詳しく
ご記入ください。
4. ご回答によっては、次の質問を飛ばしていくところがありますので、ご注
意ください。
5. ご回答いただいた調査票は、誠に恐縮ですが、10月23日(金)までに同
封の返信用封筒に入れ、**切手を貼らず**に郵便ポストへ投函してください。
6. この調査に関するご質問は、表紙に記載の調査機関までお問い合わせいた
だきますようお願いいたします。

～あなた自身とご家族について～

回答を統計的に分析するために、あなたご自身とご家族についてお尋ねしま
す。それぞれにあてはまる番号に○を付けてください（F3については市町名
をご記入ください）。

F1 性別は

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

F2 お年は

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| 1. 20 歳代 | 2. 30 歳代 | 3. 40 歳代 |
| 4. 50 歳代 | 5. 60 歳代 | 6. 70 歳以上 |

F3 ご自宅のある市町は

市町名 ()

F4 何人家族ですか

- | | | |
|-------|-------|---------|
| 1. 1人 | 2. 2人 | 3. 3人 |
| 4. 4人 | 5. 5人 | 6. 6人以上 |

防災に関する県民意識調査票

調査目的

このたび、この調査票をお受け取りいただいたあなたに、今年度の「防災に
関する県民意識調査」への協力をお願いすることになりました。

この調査は、県民5,000人の方を市町の選挙人名簿から無作為に選ばせてい
ただき、防災に関する県民のみなさまの意識や行動の実態を把握して、今後
の三重県の防災対策に活かそうとするものです。

東北地方を始めとする多数の県に甚大な被害をもたらした平成23年3月発
生の東日本大震災や今年、過去最速のペースで発生し、各地に被害をもたらし
ている台風のように、地震や台風、集中豪雨などの自然災害は、我々が生きて
いく上において逃れようのないものです。

このような大規模な災害による被害を最小限に抑えるためには、常日頃から
の“備え”が重要で、県民一人ひとり、自主防災組織、事業者、行政の各主体
が、各々の自助・共助・公助の責務と役割を理解し、互いに連携して有事に備
えることが大切です。

このことから、三重県においては防災対策を県政の最重要課題に掲げ、今世紀
前半の発生が懸念される南海トラフ地震や各地に甚大な被害をもたらしてい
る風水害への“備え”を重点的に進めているところです。

この調査は、今後の三重県の防災施策を適切に進めるにあたっての重要な
基礎データとなるものです。お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査にご協力
いただきますようお願いいたします。

なお、ご回答いただいた内容は、防災に関する県民意識の調査のみを目的に、
個人を特定しない統計的情報として利用するものであることを申し添えます。

平成27年10月

三重県防災対策部

調査機関 (お問い合わせ先)	三重県防災対策部 防災企画・地域支援課 防災企画班
	電話 059-224-2184 ファクス 059-224-2199 e-mail bosai@pref.mie.jp



～地震・津波対策について～

【問 1】 東日本大震災の発生から 4 年半あまりが経過しました。発生時と比べてあなたの防災意識に変化はありますか。(一つだけ○)

1. 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている
2. 東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている(又はさらに高まった)
3. 東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 東日本大震災発生時に特に危機意識は持たなかった

【問 2】 夜遅くあなたが自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが 1 分以上続き、停電もしています。揺れが収まった後、あなたは避難しますか。(一つだけ○)

1. すぐに避難する →問 2-1 へ
2. しばらく様子を見てから避難する →問 2-2 へ
3. 避難しない →問 2-3 へ

【問 2-1】 問 2 で「1. すぐに避難する」と答えた方にお尋ねします。あなたが避難する主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 津波に襲われる危険があるから
2. がけ崩れ、山崩れの危険があるから
3. 余震で家が倒壊する危険があるから
4. 火災が延焼する危険があるから
5. その他 [具体的に:]

→問 3 へ

【問 2-2】 問 2 で「2. しばらく様子を見てから避難する」と答えた方にお尋ねします。あなたが避難を運らせる主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1. ラジオ等で地震の規模や津波の危険性などを確認してから避難の必要性を検討するから
2. 市町の避難勧告や避難指示が出たら避難を検討するから
3. 近所の人たちと相談して避難の必要性を検討するから
4. 電気やガス、水道が止まり、生活できなくなっってから避難を検討するから
5. その他 [具体的に:]

→問 3 へ

【問 2-3】 問 2 で、「3. 避難しない」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難しない理由として最もあてはまるものは次のうちどれですか。(いくつでも○)

1. 近くの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 内陸地であるから
5. 自宅が安全だから
6. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
7. その他 [具体的に:]

→問 3 へ

このアンケートでは、避難場所と避難所の用語について、次のとおり使い分けています。

※避難場所：津波や大規模火災等から緊急かつ一時的に避難するための場所

※避難所：災害により短期間の避難生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う建物(避難所が避難場所を兼ねている場合もあります。)

【問 3】 三重県では、平成 26 年 3 月に三重県地震被害想定調査結果として、各地の震度予測や津波浸水予測などを公表しました。あなたは、この調査結果をご存知ですか。(一つだけ○)

1. 県のホームページで確認し、調査結果を知っている
2. 防災訓練や研修などで教えてもらい、ある程度知っている
3. TV や新聞などを見て、概要は知っている
4. 地震被害想定調査をしたことは知っているが、内容は知らない
5. 地震被害想定調査がおこなわれていたことを知らなかった

【問 4】 問 3 の三重県地震被害想定調査結果では沿岸地域にある市町について、津波により浸水深 30cm に到達するまでの時間予測図(*1)を公表しています。

あなたは、ご自宅や職場、親族や友人の家などがどのような浸水するかを確認しましたか。(一つだけ○)

1. 自宅を含め、職場や親族、友人宅など、幅広く浸水状況を確認した
2. 自宅周辺のみ確認した
3. 確認していない
4. そのような予測図が公表されていることを知らなかった

*1 浸水深 30cm 時間予測図：津波からの避難行動がとれなく(動くことができなく)なる一つの目安とされている浸水深 30cm に、どの場所がどのくらいの時間で達するかを時間に応じて色分けされた予測図です。

～風水害対策について～

【問 5】 水害や土砂災害等の風水害が発生する危険性が高くなったときに出る防災情報のうち、あなたが既にご存知の情報はありますか。(いくつでも○)

- | |
|----------------------------|
| 1. 暴風警報 |
| 2. 大雨注意報や大雨警報 |
| 3. 洪水注意報や洪水警報 |
| 4. 高潮注意報や高潮警報 |
| 5. 土砂災害警戒情報 |
| 6. 竜巻注意情報 |
| 7. 水防警報 |
| 8. はん濇注意情報、はん濇警戒情報、はん濇危険情報 |
| 9. 避難準備(要援護者避難)情報 |
| 10. 避難勧告や避難指示 |

※避難準備(要援護者避難)情報：
「避難勧告」より前の段階で「人的被害の発生の可能性がある」と判断された時点で発令され、避難に時間を要する高齢者や障がい者等に避難開始を、その他の人々に避難準備を求めること
※避難勧告：対象地域の土地、建物などに被害が発生する恐れのある場合に住民に対して行われる勧告
※避難指示：「避難勧告」よりも緊急度が高い災害等の場合に出される、さらに拘束力が強い指示

【問 5-1】 気象庁はこれまでの大雨、地震、高潮、津波などで発表していた警報に加え、平成25年8月30日から、これらの警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合に、新たに「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼び掛けることになりました。

- あなたは、この特別警報について、どの程度ご存知ですか。(一つだけ○)
- | |
|----------------------|
| 1. 特別警報の内容を十分理解している |
| 2. 特別警報の内容を一部理解している |
| 3. 言葉は知っているが、内容は知らない |
| 4. 知らない |

※特別警報：平成25年8月に創設され、これまでにない危険が迫っている自然現象から直ちに命を守る行動をとるための注意喚起として、気象庁が発表する警報

【問 6】 あなたがお住まいの地域の風水害(高潮や川のはん濇、土石流、がけ崩れ、地すべりなど)の危険性について、どの程度ご存知ですか。(いくつでも○)

- | |
|--|
| 1. 高潮による浸水の危険性があることを知っている |
| 2. 川のはん濇による浸水の危険性があることを知っている |
| 3. 内水はん濇による浸水の危険性があることを知っている |
| 4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域の近くにあることを知っている |
| 5. 自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあることを知っている |
| 6. 地域の風水害の危険性について、あまり知らない又はあまり考えたくない |

※内水はん濇：局地的大雨などで下水道施設や小河川の水位が増加し、排水が間に合わずに溢れ出した水により、建物や土地、道路などが浸水する風水害

【問 6-1】 問 6 で、「1. 高潮による浸水の危険性があることを知っている」、「2. 川のはん濇による浸水の危険性があることを知っている」、「3. 内水はん濇による浸水の危険性があることを知っている」、「4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内又はその近くにあることを知っている」と回答された方にお尋ねします。あなたのお住まいの地域に危険があることを何でお知りになりましたか。(いくつでも○)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 過去に災害を経験しており、危険性を知っている |
| 2. 地方自治体で作成したハザードマップで危険箇所を知っている |
| 3. 地域の住民から危険箇所であることを教えてもらった |
| 4. その他(具体的に：) |

【問 7】 近年、国内では局地的な大雨が頻発し、甚大な浸水被害や土砂災害が発生しています。あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降り出し、降り続いたとします。あなたは、このような状況において、どのような避難行動を取りますか。(一つだけ○)

- | |
|--|
| 1. 移動が困難な状況であっても、自宅より安全な避難所等に避難しようとする |
| 2. 周辺の様子を見て、避難するか自宅に留まるかを判断する |
| 3. 気象情報等でこれまでの降雨量や今後の予報を確認して、避難するか自宅に留まるかを判断する |
| 4. 市町から「避難勧告」や「避難指示」等が出されてから避難するかしないかを考える |
| 5. 避難しない(避難の必要がない) |
| 6. わからない |

【問 8】 あなたは、台風や大雨などによる避難勧告等がお住まいの地域に発表されるなど身の回りに危険が近づいている状況で、自宅から離れた安全な場所に避難した経験がありますか。(一つだけ○)

- | | |
|----------------------|---------|
| 1. 避難したことがある | →問 9へ |
| 2. 避難したことがない | →問 8-1へ |
| 3. そのような状況を経験したことがない | →問 9へ |

【問 8-1】 問 8 で、「2. 避難したことがない」と回答された方にお尋ねします。あなたが台風時等に避難しない理由として最もあてはまるものは次のうちどれですか。(一つだけ○)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから |
| 2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから |
| 3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから |
| 4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから |
| 5. 自宅が安全だから |
| 6. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから |
| 7. 面倒だから |
| 8. その他(具体的に：) |

【問9】 局地的な大雨など、避難場所や避難所への移動がかえって危険を伴う場合、「垂直避難」などの行動を取ることが望めますが、このような避難行動についてあなたの経験や考えにもっとも近いのは次のうちどれですか。(一つだけ○)

1. 「垂直避難」などの避難行動を知っている、取ったことがある
2. 「垂直避難」などの避難行動を知っている、取ったことがない (必要ない)
3. 「垂直避難」などの避難行動を知らなかったが、今後は取る
4. 「垂直避難」などの避難行動を知らなかった、今後も取らない (必要ない)

※「垂直避難」：近隣のより安全な家や場所に移動し、2階建て以上の家の場合、洪水の危険がある場所では上層階の部屋、土砂災害の危険性がある場所では上層階の山と反対側の部屋といったより安全な部屋に移動することを言います。

～防災全般について～

★日頃の防災対策についてお尋ねします。

【問10】 あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。(いくつでも○)

1. 3日以上の飲料水を備蓄している (ご家族ひとり一日あたり3リットルとして計算してください)
2. 3日以上の食料を常に確保している
3. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
4. 災害が起きたとき避難する場所を決めている
5. 災害用伝言ダイヤル(171)や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用など、家族間の連絡方法を決めている
6. 家族がバラバラになったときの待ち合わせ場所を決めている
7. 携帯電話やスマートフォンの予備電源を確保している
8. 自家用車の燃料メーターが半分程度になった時点で、満タン給油している
9. お風呂にいつも水を入れてある
10. ガラスが壊れて飛び散らないよう防止対策をしている
11. 消火器を用意している
12. 懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている
13. 懐中電灯や携帯ラジオの電池交換など、こまめに点検している
14. 枕元にスリッパを置いている
15. いつも笛を身につけている
16. 本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
17. 寝室に転倒の危険性のある家具類などを置いていない
18. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
19. 風水害等に備えて土のう等を準備している
20. その他 (具体的に：)
21. 特に対策をとっていない

【問11】 ご自宅では、家具類や冷蔵庫、テレビなどが転倒しないよう固定をしていますか。(一つだけ○)

1. 大部分固定している →問12へ
2. 一部固定している
3. 固定していない →問11-1へ
4. 固定する必要がない

【問 11-1】 問 11 で、「2. 一部固定している」、「3. 固定していない」、「4. 固定する必要がある」と回答された方にお尋ねします。あなたのご自宅は、一部の家具固定や家具固定なしでも、ケガをしない、家屋から脱出できなくなることがない等、安全な状態にありますか。(一つだけ○)

1. 安全な状態にある →問 12へ
2. 安全な状態とは言えない →問 11-2へ

【問 11-2】 問 11-1 で「2. 安全な状態とは言えない」と回答された方にお尋ねします。家具類の固定をしない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 大地震はすぐには起きないと思うから
2. 手間がかかるから
3. 費用がかかるから
4. 固定しても被害は出ると思うから
5. 固定の方法がわからないから
6. 借家だから
7. その他【具体的に：】

★防災情報の発信についてお尋ねします。

【問 12】 防災みえ.jp ホームページをご存知ですか。(一つだけ○)

1. 知っている、大雨や台風などの災害が発生する恐れがある時(以下、災害時)に見たことがある →問 13へ
2. 知っているが、災害時に見たことがない →問 13-1へ
3. 知らない →問 14へ
4. インターネットを使っていない →問 14へ

【問 13】 問 12 で「1. 災害時に見たことがある」と答えた方にお尋ねします。防災みえ.jp ホームページのどのようなコンテンツを見ていますか。(いくつでも○)

1. 気象情報(天気・警報/注意報・雨量・水位等)
2. 避難情報(避難勧告・指示など)
3. 避難所情報
4. 医療・救済情報
5. 交通・道路情報
6. ライフライン(電気・ガス・水道・電話)情報
7. 被害の個別情報(人的被害・建物被害など)
8. 火災情報
9. 土木施設被害情報
10. その他【具体的に：】

【問 13-1】 問 12 で「2. 知っているが、災害時に見たことがない」と答えた方にお尋ねします。災害時に防災みえ.jp ホームページを活用しない理由をお聞かせください。(いくつでも○)

1. 他の手段(TV、ラジオ、インターネット等)で必要な情報が入手できるから
 2. 災害時に知りたい情報が無いから
 3. 必要な情報が探しにくいから
 4. スマートフォンなどで表示できないから
 5. ネット環境が無いから
 6. 普段から災害情報を意識していないから
 7. その他【具体的に：】
- 問 14へ

【問 14】 災害時にインターネットで、どのような情報を知りたいかお答えください。(いくつでも○)

1. 気象情報(天気・警報/注意報・雨量・水位等)
2. 避難情報(避難勧告・指示など)
3. 避難所情報
4. 医療・救済情報
5. 交通・道路情報
6. ライフライン(電気・ガス・水道・電話)情報
7. 被害情報(詳細):文字による被害詳細情報
8. 被害情報(概要):地図情報
9. ライブカメラなどの映像情報
10. 災害、天気に関するニュース
11. 県、市町村からのお知らせ
12. その他【具体的に：】

【問 15】 県では、大雨や洪水に関する注意報や警報発令などの気象情報や全国の地震情報などの防災情報を、「防災みえ.jp」のメール配信サービスで登録者にお知らせしています。あなたは、このことをご存じですか。(一つだけ○)

1. メール配信の登録をしている
2. 知っているが、メール配信の登録はしていない
3. 以前にメール配信の登録をしていたが、脱会した
4. 知らない

【問 16】 今後、気象や災害についての情報をどこから入手したいと考えますか。
(いくつでも○)

1. テレビ
2. ラジオ
3. 新聞
4. 雑誌
5. 市町の防災行政無線
6. 県や市町の広報誌
7. インターネット (県の防災ホームページ「防災みえ.jp」)
8. インターネット (「防災みえ.jp」以外)
9. 携帯メール
10. SNS (Twitter/LINE/Facebook など)
11. 街頭の電光掲示板
12. 家族から
13. 友人、知人から
14. 町内会・自治会を通じて
15. 消防署・消防団を通じて
16. その他【具体的に：
特に入手したいと思わない
- 17.

★避難場所・避難所についてお尋ねします。

【問 17】 あなたは、自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるかご存じですか。

1. 避難場所も避難所も知っている
 2. 避難場所だけ知っている
 3. 避難所だけ知っている
 4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない
 5. 知らない
- 問 17-1へ
→問 18へ

【問 17-1】 問 17で「1. 避難場所も避難所も知っている」、「2. 避難場所だけ知っている」、「3. 避難所だけ知っている」と回答された方にお尋ねします。
あなたは、避難場所や避難所までの避難経路について、どの程度ご存知ですか。
(一つだけ○)

1. 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や通れないときの迂回路の有無などを知っている
2. 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない
3. どの経路で避難すればよいか分からない

★地域・職場での防災活動についてお尋ねします。

【問 18】 あなたは、過去 1 年間に、お住まいの地域や職場での防災活動 (問 19 の選択肢参照) に参加したことがありますか。(一つだけ○)

※今秋に開催される地域や職場の防災訓練等への参加予定がある場合は 1～3 に○を付けてください。

1. 地域の防災活動に参加した
 2. 職場の防災活動に参加した
 3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した
 4. 参加していない
- 問 19へ
→問 20へ

【問 19】 問 18で「1. 地域の防災活動に参加した」、「2. 職場の防災活動に参加した」、「3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した」と答えた方にお尋ねします。あなたが参加した地域の防災活動は、どのようなものでしたか。(いくつでも○)

1. 避難訓練
 2. 図上訓練
 3. 夜間訓練
 4. 消火訓練
 5. 救出・救助訓練
 6. 応急手当訓練
 7. 炊き出し訓練
 8. 連絡網を使用した情報伝達訓練
 9. 介護を必要とする人の介助訓練
 10. 研修会や講習会
 11. 地域での話し合い
 12. 避難所体験訓練又は避難所運営訓練
 13. 企業や事業所も一緒になった防災活動
 14. 災害ボランティアの受入訓練
 15. その他【具体的に：
]
- 問 19-1へ

【問 19-1】 あなたが参加した地域や職場の防災活動は、防災意識の向上に役立ちましたか。(一つだけ○)

1. 大いに役立った
 2. 役立った
 3. どちらともいえない
 4. あまり役に立たなかった
 5. まったく役に立たなかった
- 問 21へ

【問20】 問18で、「4.参加していない」と回答された方にお尋ねします。あなたが防災活動に参加しなかった理由は何ですか。(一つだけ○)

1. 地域や職場での防災活動が実施されていないから
 2. 防災活動の実施を知らなかったから
 3. 防災活動の内容が毎年同じだから
 4. 仕事や用事があり、都合が悪かったから
 5. 関心がないから
 6. その他【具体的に：】

→問 20-1へ

【問20-1】 問18で、「4.参加していない」と回答された方にお尋ねします。今後の地域の防災活動への参加についてはどのように考えていますか。(一つだけ○)

1. これからは参加していきたい
 2. 今の参加できない状況が変わり、参加できるようになれば参加していきたい
 3. 当面は参加するつもりはない
 4. その他【具体的に：】

【問21】 あなたは、どのような防災活動が地域や職場で実施されることが必要だと思いますか。(いくつでも○)

1. 地域における非常連絡網の整備
 2. 避難や救出・救助訓練等の防災訓練
 3. 防災知識を得るための専門家による研修会や講習会
 4. タウンウォッチングや防災マップづくりなど、地域の危険箇所を把握する活動
 5. その他【具体的に：】

【問22】 地域の防災活動や防災対策について、地域の企業・事業所に期待することは何ですか。(いくつでも○)

1. 被災者の救援・救護
 2. 避難誘導
 3. 消火活動の援助
 4. 飲料水の提供
 5. 食料の提供
 6. 生活用品の提供
 7. 救援機材、工具の提供
 8. 避難場所の提供
 9. 駐車場の提供
 10. 災害情報の提供
 11. その他【具体的に：】

【問23】 あなたがお住まいの地域の消防団に期待する活動はどのようなものがありますか。(いくつでも○)

1. 火災時の消火活動
 2. 火災予防や防災意識向上のための啓発活動
 3. 風水害時の水防活動
 4. 応急手当等の普及啓発活動
 5. 地域の消防訓練等の指導
 6. 大規模災害時の救援・救護や避難誘導
 7. ない
 8. その他【具体的に：】

【問24】 あなたがお住まいの地域は、自主防災組織(町内会・自治会などを母体とした地域の住民が防災活動をする組織)がありますか。また、活動状況はどうですか。(一つだけ○)

1. ある(活発に活動している)
 2. ある(あまり活発に活動していない)
 3. ある(活動状況はよくわからない)
 4. 自主防災組織がない
 5. わからない

★学校の防災教育についてお尋ねします。

【問25】 あなたのお住まいには、就学している児童生徒がいますか。(いくつでも○)

1. 小学生がいる →問 25-1へ
 2. 中学生がいる
 3. 高校生がいる →問 25-2へ
 4. いない

【問25-1】 三重県では、「防災ノート」等防災教育用の教材を作成・配布し、学校での活用を要請するなど、学校での防災教育の充実に取り組んでいます。あなたは、お住まいの児童生徒が通っている学校の防災教育についての程度知っていますか。(一つだけ○)
 ※複数の児童生徒がいる場合は、一番年下の児童生徒が通っている学校についてお答えください。

1. 学校の防災教育の内容を知っている、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある
 2. 学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない
 3. 学校で防災教育が行われていることは知っているが、内容は知らない
 4. 学校で防災教育が行われているかどうかわからない →問 25-2へ

【問 25-2】 防災教育で、学校に特に力を入れて取り組んでほしいものは何ですか。
(いくつでも○)

1. 地震の起こる仕組みについての学習
2. 過去に地域で起きた地震や地震の被害についての学習
3. 国や県が公表している、南海トラフの巨大地震や直下型地震による、揺れや津波の被害想定についての学習
4. 地震が起きたときの初動対応についての学習
5. 津波からの避難方法や避難場所についての学習
6. 竜巻や局地的大雨からの避難方法や危険な場所に近づかないなどについての学習
7. 土砂災害から避難方法や避難場所についての学習
8. 家庭での防災対策についての学習
9. 避難訓練の実施
10. 地域の防災タウンウォッチングや防災マップの作成
11. 救急・救命講習
12. その他 [具体的に:]

★防災啓発についてお尋ねします。

【問 26】 三重県が取り組んでいる防災に関する啓発活動等についてどの程度ご存じですか。(いくつでも○)

1. 「レッツ！防災」（三重テレビ）を見たことがある →問 26-1 へ
2. 地震体験車に乗ったことがある
3. 今年 4 月に公開した「みえ防災・減災ア－カイブ」を見たことがある
4. 「県政だより みえ」を視聴・閲覧している
5. 今から 56 年前に発生した伊勢湾台風の災害を忘れないために制定した「みえ風水害対策の日（9 月 26 日）」を知っている
6. 今から 71 年前に発生した昭和東南海地震の災害を忘れないために制定した「みえ地震対策の日（12 月 7 日）」を知っている →問 27 へ

【問 26-1】 問 26 で 1～2 に○を一つ以上付けられた方にお尋ねします。これら防災に関する啓発活動は、あなたの防災意識の向上に役立ちましたか。
(該当する活動ごとに○)

- 「レッツ！防災」を視聴された方
1. 大いに役立った
 2. 役立った
 3. どちらともいえない
 4. あまり役に立たなかった
 5. まったく役に立たなかった

「地震体験車」に乗ったことがある方

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

★防災・減災の取組についてお尋ねします。

【問 27】 東日本大震災や紀伊半島大水害の発生を受け、三重県では防災・減災対策を県の最重要課題に掲げて、国や市町など関係機関と連携しながら様々な取組を進めているところです。

あなたは、どのようなときに、以前よりも防災・減災の取組が進んできたと感じましたか。(いくつでも○)

1. テレビや新聞で県や市町などの防災・減災施策に関する報道が増えたと感じたと
2. 県や市町の広報誌などで防災・減災対策に関する取組を目にする機会が増えてきたと感じたとき
3. 地域における防災講演会などの防災啓発イベントの開催頻度が増え、内容が充実してきたと感じたとき
4. 携帯電話等への緊急速報メールやインターネットによる情報発信が充実してきたと感じたとき
5. 避難路や避難所の整備、提防の補修工事や河川改修などのハード整備が進んできたと感じたとき
6. その他 [具体的に:]
7. あまり取組が進んだとは思わない

～あなたのお住まいの耐震化について～

【問 28】 あなたのお住まいは次のうちのどれにあたりますか。(一つだけ○)

- ※増築等がある場合は、一番古い建物でお答えください。
1. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家) →問 29 へ
 2. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造以外の家) →問 30 へ
 3. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 6 月以降に敷地内で建て替え) →問 36 へ
 4. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 6 月以降に新たな敷地に新築)
 5. アパート・マンション等の集合住宅

【問 29】 県及び市町では、昭和 56 年 5 月 31 日以前に建築された (着工を含む) 木造住宅の耐震化に向けた補助等を行っています。あなたは次の制度を知っていますか。(いくつでも○)

1. 耐震診断費用への補助 (無料耐震診断)
2. 耐震補強設計費用への補助
3. 耐震補強工事費用への補助 (リフォーム工事補助を含む)
4. どれも知らない

【問 30】 あなたのご自宅 (同じ敷地内で建替えを行った場合、建替え前の住宅を含む、借家も含む) は、耐震診断を受けたことがありますか。受けたことがある場合は、診断結果はどうでしたか。(一つだけ○)

1. 受けたことがない →問 30-1 へ
2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された →問 30-2 へ
3. 受けたことがあり、補強工事は必要なかった →問 36 へ

【問 30-1】 問 30 で、「1. (耐震診断を) 受けたことがない」と回答された方にお尋ねします。耐震診断を受けない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 近く建て替える予定だから (予定だったから)
2. 耐震化しても大地震の被害は避けられないと思うから
3. 診断を受けなくても地震に弱いことがわかっているから
4. 診断を受けなくても地震に強いことがわかっているから
5. 手間がかかるから
6. 部屋の中を見られるのがいやだから
7. 診断費用がかかるから
8. 診断の結果、補強が必要になっても費用が出せないから
9. 自分のあいだ大地震は起きないと思うから
10. 診断の受け方がわからないから
11. 借家だから
12. 耐震診断を受けずに補強工事を行ったから
13. その他 (具体的に：)

→問 36 へ

→問 31-1、問 31-2 へ

→問 36 へ

【問 30-2】 問 30 で「2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」と回答された方にお尋ねします。耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。(一つだけ○)

1. 補強工事を行った →問 31 へ
2. 建て替えた →問 36 へ
3. 補強設計のみ行った
4. 現在検討中
5. 工事を行うつもりはない →問 32 へ

【問 31】 問 30-2 で、「1. 補強工事を行った」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事に対する行政の補助制度を利用されましたか。(一つだけ○)

1. はい →問 36 へ
2. いいえ →問 31-1 へ

【問 31-1】 問 30-1 で「12. 耐震診断を受けずに補強工事を行った」、問 31 で、「2. いいえ」と回答された方にお尋ねします。どのような耐震補強工事を行いましたか。(一つだけ○)

1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した →問 31-2 へ
2. 建物の一部のみを補強した
3. 分からない →問 36 へ

【問 31-2】 問 30-1 で「12. 耐震診断を受けずに補強工事を行った」、問 31-1 で、「1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」、「2. 建物の一部のみを補強した」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事費はいくら位かかりましたか。(一つだけ○)

1. 50 万円まで
2. 100 万円まで
3. 150 万円まで
4. 200 万円まで
5. 300 万円まで
6. それ以上 () 万円位 →問 36 へ

【問 32】 問 30-2 で「4. 現在検討中」、「5. 工事をを行うつもりはない」と答えた方にお尋ねします。耐震補強の決心がつかない、耐震補強をしない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 補強工事に多額な費用がかかるから
2. 補強設計に多額な費用がかかるから
3. 耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから
4. 自分のあいだ大地震は起きないと思うから
5. 手間がかかるから
6. その他 (具体的に：)

→問 33、問 34 へ

→問 36 へ

報告書名 平成 27 年度 防災に関する県民意識調査報告書

発行年月 平成 28 年 3 月

発行者 三重県防災対策部 防災企画・地域支援課

〒514-8570 津市広明町 13 番地

TEL 059-224-2184

FAX 059-224-2199

e-mail bosai@pref.mie.jp